

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第23集

泉坂下遺跡Ⅳ

保存整備事業に伴う第3次確認調査報告

平成27年7月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第23集

いずみ さか した い せき
泉 坂 下 遺 跡 IV

保存整備事業に伴う第3次確認調査報告

平成27年7月

常陸大宮市教育委員会



S K 26遺物出土状況（西から）



S K 117確認状況（北東から）



調査区全景（南西から、久慈川・男体山を望む）



S K 23・24・26・30確認状況（北東から）



調査区中心部（鉛直、上が北）

ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、県都水戸市から北約20kmの、平成の大合併で誕生した人口約4万2千人の市です。

市域の北側には八溝・久慈山系からなる山地が連なり、南西端を那珂川が、東側を南北に縦断する久慈川が流れる景勝の地です。また、市域の中央は久慈川の支流玉川と那珂川の支流緒川が南北に流れ、高度に応じた緑豊かな丘陵・台地・低地を形成し、原始・古代からの重要な遺跡が多く残されています。

那珂川左岸の段丘上にある小野天神前遺跡では、昭和51年に茨城県歴史館が行った発掘調査の際、弥生時代中期に東日本に分布する再葬墓であることが判明し、また1遺跡から3個もの人面付壺形土器が発見されるという初めての事例となりました。

一方、昭和55年頃に久慈川右岸の泉地区字坂下で水田耕作をしていた菊池榮一氏は、偶然2個の弥生土器を発見し、大宮町歴史民俗資料館(当時)に寄贈されました。このことを発端として、平成18年に鈴木素行氏による学術調査が行われ、再葬墓遺構が確認されるとともに国内最大の人面付壺形土器が出土しました。その調査成果の一部は、平成22年1月に市文化センターで発表され、多くの考古学関係者や市民の注目するところとなりました。この時に出土した遺物は、平成26年1月27日付けで茨城県指定有形文化財に指定を受けています。

市といたしましては、この貴重な遺跡を未来永劫に引き継ぐためには国史跡の指定を受けることが肝要との考えから、平成22年10月に常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会を立ち上げ、保護・保存策についてご検討をお願いしました。そして、遺跡の性格等を明らかにするための確認調査を行う運びとなり、平成24年度に第1次、翌25年度に第2次の調査を実施し、それぞれ報告書を刊行しております。

この調査報告書は、平成26年9月から11月にかけて実施した第3次調査の成果をまとめたものです。第3次調査についても、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて実施しており、泉坂下遺跡の重要性を世に伝えるとともに、これからの整備計画の基本資料として活用されるものと固く信じているところです。

また、今回の調査に合わせて、市歴史民俗資料館では企画展「ミッション!東日本の弥生時代を解明せよ!〜ここまでわかった泉坂下遺跡〜」を、また現地説明会と同日には泉坂下遺跡シンポジウムを開催いたしましたところ、市内外から多数のご参加をいただき、その注目度はますますの高まりを見せているものと存じます。

最後になりますが、発掘調査にあたりご指導いただきました文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、泉坂下遺跡保存委員会委員の皆様、全般にわたりご協力いただきました地元の皆様及びその他ご指導・ご協力いただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

平成27年7月

常陸大宮市教育委員会
教育長 上久保 洋一

例 言

- 1 本書は、国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、常陸大宮市教育委員会が実施した、泉坂下遺跡の第3次確認調査の報告書である。
- 2 泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。
- 3 この調査は、泉坂下遺跡の将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とした確認調査である。今回は4次にわたり計画している確認調査の第3次調査であり、主目的は再葬墓遺構分布範囲の確認である。区域内に12か所のトレンチ等を設定して調査を行い、すべて人力により掘削した。調査対象面積は7,697㎡、実際の調査面積は263㎡である。
- 4 現地調査及び整理期間は以下のとおりである。

現地調査 平成26（2014）年9月1日～同年12月17日
整理作業 平成26（2014）年12月18日～平成27年（2015）7月31日
- 5 現地調査及び整理は、常陸大宮市教育委員会生涯学習課主幹（平成27年4月1日から同係長）後藤俊一、同嘱託職員萩野谷悟、同嘱託職員（平成27年4月1日から同主事）中林香澄が担当した。本書の執筆は、本文を後藤、図・表を萩野谷と中林が担当した。また調査に関する当市教育委員会の組織は以下のとおりである。

【平成26年度】 上久保洋一（教育長）、皆川清貴（教育部長）、木村雅之（次長）、山本洋一（生涯学習課長）、笠井慎二（同副参事）、山田聡（同社会教育主事）、井坂仁（同主幹）、武藤由香里（同主幹）
【平成27年度】 上久保洋一（教育長）、木村雅之（教育部長）、山本洋一（次長兼生涯学習課長）、笠井慎二（同課長補佐）、山田聡（同社会教育主事）、井坂仁（同係長）、武藤由香里（同主幹）
- 6 自然科学分析については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託して実施し、本文第3章第4節を執筆いただいた。

管理：赤堀岳人
花粉分析、微細物分析及び土壌理化学分析
担当：田中義文 分析：田中義文、芝口恰、松本美由紀
弥生土器の圧痕分析
担当・分析 松本美由紀
土器附着炭化物の放射性炭素年代測定
担当・分析 田中義文
- 7 再葬墓等の三次元計測については、有限会社三井考測に委託して実施した。
- 8 調査にあたっては、地権者である菊池榮一、菊池清、菊池隆広の各氏から多大なる御理解と御協力をいただいた。
- 9 調査は、文化庁文化財部記念物課榎宜田佳男主任文化財調査官、茨城県教育庁文化課、常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会から全般にわたり御指導をいただきながら実施した。なお、泉坂下遺跡保存委員会を構成する委員は、以下の各氏である。

川崎純徳（座長）、相田美樹男、石川日出志、鈴木素行（以上、平成22年10月1日から）、谷口陽子（平成24年7月27日から）
調査は、以下の方々の御協力のもと実施した。

相田尚人、小野千里、川又恵美子、久米美夏、篠原とよ子、須藤公子、中村美肖、樋口正子（以上、現地調査及び整理作業）、井坂桂一、尾崎裕紀、西條つや子、佐藤里香、柴田忠良、関根史比古、高橋宏昂、土井翔平、野本雄太、橋本洋一郎、檜山博、廣水一真（以上、現地調査）、河西恵子、関根さとみ（以上、整理作業）

- 10 現地調査及び整理作業にあたっては、以下の方々から種々御教示や御協力をいただいた（敬称略）。

荒蒔克一郎、飯島一生、石井聖子、石井實、稲田健一、井上慎也、植木雅博、植田雄己、梅澤重昭、梅田由子、海老原四郎、大金祐介、太田有里乃、大塚初重、小川貴行、岡田利美、小澤重雄、鴨志田篤二、川又清明、川井正一、瓦吹堅、菊池健一、菊地弘、菊池芳文、古田土正、小玉秀也、後藤一成、後藤孝行、小林青樹、齋藤弘道、清水健一、白石哲也、杉山祐一、関根慎二、田中耕作、田中裕、田辺伸子、永井茂文・ゆわえ、中村一郎、西口和彦、野澤和弘、白田正子、橋本勝雄、原田昌幸、浜敏子、比毛君男、吹野富美夫、三井猛、宮崎郁子、宮田和男、森嶋秀一、横倉要次、渡邊明和

- 11 出土遺物及び関係資料は、常陸大宮市教育委員会において保管している。

- 12 本書に掲載した出土遺物拓本の一部には、茨城県指定無形文化財保持者菊池正氣氏の渡いた西ノ内紙を用いた。

凡 例

- 1 地区設定については、平成18年(2006)の調査時に鈴木素行氏が現在の地形を考慮してグリッドを設定しているため、これを踏襲した。グリッドの南北軸はN-23°-Wである。

平成18年の調査時に設定した北西端の杭を基準とし、遺跡範囲内を東西・南北各々20mの大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、2m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ1, 2, 3・・・, 西から東へA, B, C・・・とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。なお、平成18年の調査区はF6区となる。




さらに小調査区は北から南へ1, 2, 3・・・0, 西から東へa, b, c・・・jとし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b1区」のように呼称した。
- 2 トレンチは、平成18年調査時のものを第1トレンチとし、それを中心として東西南北に延ばすように設定し、さらに必要に応じて設定している。番号は随時、時計回りで付した。

なお、作業の便宜上、トレンチを5mごとに区切って、中心側から1区、2区・・・等と称したことがある。

また、再葬墓遺構の集中する地区でトレンチ間を調査する必要が生じたため、第24トレンチ以北をA地区、第24トレンチ南側・第15トレンチ北側をB地区、第15トレンチ南側・第8トレンチ北側をC地区、第8トレンチ南側・第17トレンチ北側をD地区、とそれぞれ呼称した。
- 3 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S D—溝, S E—井戸跡, S I—竪穴住居跡, S K—土坑, S X—性格不明遺構,
P—柱穴, K—攪乱

遺物 Q—石器・石製品, S—石
- 4 土層と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。
- 5 トレンチ・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。
 - (1) 全体図は400分の1、トレンチ実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
 - (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。
 - (3) トレンチ・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	須恵器, 赤彩		竈材, 粘土(混じりの土), 黒色処理
	軸		
 - (4) トレンチ実測図中の●・○は土器・土製品, ■は石器・石製品を示し、それらは出土位置を示す。
- 6 遺物観察表の表記については以下のとおりである。
 - (1) 欠損がある場合、現存値は(), 推定値は[]を付して示した。計測値の単位は原則、cmで、重量はgで示した。有効数字は表示のとおりである。
 - (2) 備考欄は、写真図版番号、残存状況その他必要と思われる事項を記した。
- 7 「主軸」は、竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については、長軸(長径)を軸とみなした。「主軸・長軸(長径)方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-W)

目次

ごあいさつ	
例言	ii
凡例	iv
目次	v
挿図・付図目次	vi
表目次	vii
写真図版目次	viii
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と方法	2
第3節 調査経過	5
第2章 位置と環境	10
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査の成果	14
第1節 遺跡の概要	14
第2節 基本層序	14
1 上位層	14
第3節 遺構と遺物	19
1 第1トレンチ	19
2 第8トレンチ	22
3 第10トレンチ	48
4 第15トレンチ	60
5 第17トレンチ	67
6 第19トレンチ	77
7 第24トレンチ	93
8 第25トレンチ	105
9 第26トレンチ	125
10 B地区	133
11 C地区	142
12 D地区	164
13 表面採集	190
第4節 第26号土坑に係る分析	192
1 花粉分析、微細物分析及び土壌理化学分析	192
2 弥生土器の圧痕分析	208
3 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定	210
第4章 総括	213
1 遺構分布状況	213
2 第26号土坑	220
3 再葬墓に係る考察	224
4 まとめ	234
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 ・ 付 図 目 次

第1図	泉坂下遺跡周辺遺跡分布図	11	第40図	第19号竪穴住居跡出土遺物実測図	68
第2図	茨城県北部及びその周辺の弥生時代中期前半の遺跡	12	第41図	第99号土坑実測図	68
第3図	泉坂下遺跡平面図	付図	第42図	第99号土坑出土遺物実測図	68
第4図	トレンチ配置図	17・18	第43図	第101号土坑出土遺物実測図	70
第5図	第1トレンチ実測図	19	第44図	第111号土坑出土遺物実測図	71
第6図	第1トレンチ遺構外出土遺物実測図	20	第45図	第17トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	73
第7図	第8・15トレンチ、C・D地区実測図(1)	23	第46図	第17トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	74
第8図	第8・15トレンチ、C・D地区実測図(2)	24	第47図	第19トレンチ実測図	78
第9図	第23号土坑実測図	25	第48図	第9号溝跡出土遺物実測図	79
第10図	第23号土坑出土遺物実測図	26	第49図	第8号溝跡出土遺物実測図	83
第11図	第24・30号土坑実測図	28	第50図	第19トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	86
第12図	第25号土坑実測図	29	第51図	第19トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	87
第13図	第26号土坑実測図(1)	30	第52図	第19トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	88
第14図	第26号土坑実測図(2)	31	第53図	第24トレンチ実測図	93
第15図	第26号土坑実測図(3)	32	第54図	第136号土坑実測図	94
第16図	第26号土坑出土遺物実測図(1)	33	第55図	第136号土坑出土遺物実測図	94
第17図	第26号土坑出土遺物実測図(2)	34	第56図	第105号土坑出土遺物実測図	95
第18図	第26号土坑出土遺物実測図(3)	35	第57図	第106号土坑出土遺物実測図	96
第19図	第26号土坑出土遺物実測図(4)	37	第58図	第129号土坑出土遺物実測図	96
第20図	第26号土坑出土遺物実測図(5)	38	第59図	第134号土坑出土遺物実測図	98
第21図	第26号土坑出土遺物実測図(6)	39	第60図	第135号土坑出土遺物実測図	99
第22図	第26号土坑出土遺物実測図(7)	41	第61図	第24トレンチ遺構外出土遺物実測図	100
第23図	第26号土坑出土遺物実測図(8)	42	第62図	第25トレンチ実測図	103・104
第24図	第26号土坑出土遺物実測図(9)	43	第63図	第5・152・153号土坑実測図(1)	106
第25図	第8トレンチ遺構外出土遺物実測図	46	第64図	第5・152・153号土坑実測図(2)	107
第26図	第10トレンチ1・2区実測図	48	第65図	第5号土坑出土遺物実測図	107
第27図	第123号土坑出土遺物実測図	49	第66図	第152号土坑出土遺物実測図	108
第28図	第108号土坑実測図	49	第67図	第153号土坑出土遺物実測図	109
第29図	第108号土坑出土遺物実測図	50	第68図	第1号竪穴住居跡実測図	110
第30図	第109号土坑実測図	52	第69図	第15号竪穴住居跡実測図	110
第31図	第109号土坑出土遺物実測図	52	第70図	第15号竪穴住居跡竪穴実測図	111
第32図	第110号土坑実測図	52	第71図	第15号竪穴住居跡出土遺物実測図	111
第33図	第110号土坑出土遺物実測図	53	第72図	第22号竪穴住居跡竪穴実測図	113
第34図	第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物実測図(1)	56	第73図	第22号竪穴住居跡出土遺物実測図	113
第35図	第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物実測図(2)	57	第74図	第23号竪穴住居跡出土遺物実測図	115
第36図	第59～61号土坑実測図	61	第75図	第156号土坑出土遺物実測図	116
第37図	第61号土坑出土遺物実測図	63	第76図	第154号土坑出土遺物実測図	117
第38図	第15トレンチ遺構外出土遺物実測図	64	第77図	第155号土坑出土遺物実測図	118
第39図	第17トレンチ実測図	67	第78図	第25トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	

.....	119	第101図	第117号土坑実測図	164
第79図	第25トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	第102図	第117号土坑出土遺物実測図	165
.....	120	第103図	第118～120・157号土坑実測図	169
第80図	第25トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	第104図	第118号土坑出土遺物実測図	169
.....	121	第105図	第119号土坑出土遺物実測図	170
第81図	第26トレンチ実測図	第106図	第157号土坑出土遺物実測図	171
第82図	第148号土坑出土遺物実測図	第107図	第20号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)	172
第83図	第26トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	172
.....	128	第108図	第20号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)	173
第84図	第26トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	173
.....	129	第109図	D地区遺構外出土遺物実測図(1)	176
第85図	B地区実測図	第110図	D地区遺構外出土遺物実測図(2)	177
第86図	B地区遺構外出土遺物実測図(1)	第111図	D地区遺構外出土遺物実測図(3)	178
第87図	B地区遺構外出土遺物実測図(2)	第112図	D地区遺構外出土遺物実測図(4)	179
第88図	第113・158号土坑実測図	第113図	表面採集遺物実測図	190
第89図	第113号土坑出土遺物実測図	第114図	第26号土坑土壌サンプル等採取位置図	193
第90図	第114～116号土坑出土遺物実測図	193
第91図	第114号土坑出土遺物実測図	第115図	S K 26採取試料における腐植含量とリン酸含量の相関	206
第92図	第115号土坑出土遺物実測図	206
第93図	第116号土坑出土遺物実測図	第116図	暦年校正結果	212
第94図	第158号土坑出土遺物実測図	第117図	弥生時代遺構分布状況	214
第95図	第21号竪穴住居跡出土遺物実測図	第118図	第26号土坑埋納土器	222
第96図	第9号性格不明遺構出土遺物実測図	第119図	第26号土坑土器内土壌堆積状況	227
第97図	C地区遺構外出土遺物実測図(1)	第120図	第26号土坑土器の向く方向	229
第98図	C地区遺構外出土遺物実測図(2)	第121図	第117号土坑土器の向く方向	231
第99図	C地区遺構外出土遺物実測図(3)	第122図	第110号土坑実測図	232
第100図	C地区遺構外出土遺物実測図(4)	232

表 目 次

第1表	泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表	12	第13表	第61号土坑出土遺物観察表	63
第2表	茨城県北部及びその周辺の弥生時代中期前半の遺跡一覧表	13	第14表	第15トレンチ遺構外出土遺物観察表	65
第3表	泉坂下遺跡Ⅳ収載遺構一覧表	15	第15表	第19号竪穴住居跡出土遺物観察表	68
第4表	第1トレンチ遺構外出土遺物観察表	20	第16表	第99号土坑出土遺物観察表	69
第5表	第23号土坑出土遺物観察表	26	第17表	第101号土坑出土遺物観察表	70
第6表	第26号土坑出土遺物観察表	36	第18表	第111号土坑出土遺物観察表	71
第7表	第8トレンチ遺構外出土遺物観察表	46	第19表	第17トレンチ遺構外出土遺物観察表	74
第8表	第123号土坑出土遺物観察表	49	第20表	第9号溝跡出土遺物観察表	79
第9表	第108号土坑出土遺物観察表	50	第21表	第8号溝跡出土遺物観察表	84
第10表	第109号土坑出土遺物観察表	52	第22表	第19トレンチ遺構外出土遺物観察表	88
第11表	第110号土坑出土遺物観察表	54	第23表	第136号土坑出土遺物観察表	94
第12表	第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物観察表	57	第24表	第105号土坑出土遺物観察表	95
.....	57	第25表	第106号土坑出土遺物観察表	96
.....	57	第26表	第129号土坑出土遺物観察表	97

第27表	第134号土坑出土遺物観察表	98	第50表	C地区遺構外出土遺物観察表	155
第28表	第135号土坑出土遺物観察表	99	第51表	第117号土坑出土遺物観察表	166
第29表	第24トレンチ遺構外出土遺物観察表	100	第52表	第118号土坑出土遺物観察表	169
第30表	第5号土坑出土遺物観察表	107	第53表	第119号土坑出土遺物観察表	170
第31表	第152号土坑出土遺物観察表	108	第54表	第157号土坑出土遺物観察表	171
第32表	第153号土坑出土遺物観察表	109	第55表	第20号竪穴住居跡出土遺物観察表	173
第33表	第15号竪穴住居跡出土遺物観察表	111	第56表	D地区遺構外出土遺物観察表	179
第34表	第22号竪穴住居跡出土遺物観察表	114	第57表	表面採集遺物観察表	190
第35表	第23号竪穴住居跡出土遺物観察表	115	第58表	花粉分析結果	195
第36表	第156号土坑出土遺物観察表	116	第59表	微細物分類・炭化種実同定結果	196
第37表	第154号土坑出土遺物観察表	117	第60表	S K 26炭化種実出土状況	203
第38表	第155号土坑出土遺物観察表	118	第61表	S K 26土壌理化学分析結果	204
第39表	第25トレンチ遺構外出土遺物観察表	121	第62表	放射性炭素年代測定結果	211
第40表	第148号土坑出土遺物観察表	127	第63表	暦年校正結果	211
第41表	第26トレンチ遺構外出土遺物観察表	129	第64表	泉坂下遺跡再葬墓等一覧表	215
第42表	B地区遺構外出土遺物観察表	137	第65表	泉坂下遺跡調査済再葬墓規模等比較	221
第43表	第113号土坑出土遺物観察表	143	第66表	器高による埋納土器分類	223
第44表	第114号土坑出土遺物観察表	144	第67表	胴部形態による埋納土器類型	224
第45表	第115号土坑出土遺物観察表	145	第68表	再葬墓等埋納土器数別一覧	225
第46表	第116号土坑出土遺物観察表	147	第69表	埋納土器指向別一覧	230
第47表	第158号土坑出土遺物観察表	148	第70表	再葬墓等土器の向く傾向別一覧	231
第48表	第21号竪穴住居跡出土遺物観察表	148	第71表	再葬墓等重複関係一覧	233
第49表	第9号性格不明遺構出土遺物観察表	150			

写真図版目次

巻頭図版1	S K 26遺物出土状況, S K 117確認状況
巻頭図版2	調査区全景, S K 23・24・26・30確認状況, 調査区中心部
図版1	調査区全景(1)～(5)
図版2	調査区全景(6)・(7), 遠景(1)・(2), S K 23確認状況
図版3	遠景(3), 第8トレンチサブトレンチ東壁セクション, S K 26確認状況(1)～(3), S K 26セクション(1)～(3)
図版4	S K 26セクション(4)～(6), S K 26セクションベルト除去後(1)・(2)
図版5	S K 26土器2内土層堆積状況, 同土器5内土層堆積状況, 同土器6内土層堆積状況, 同土器7・9内土層堆積状況, 同土器8内土層堆積状況, 同土器9内土層堆積状況, 同土器10内土層堆積状況, 同土器上半部除去後(1)
図版6	S K 26土器上半部除去後(2), 同土器1上半部除去後, 同土器2上半部除去後, 同土器5上半部除去後, 同土器7上半部除去後
図版7	S K 26土器8上半部除去後, 同土器9上半部除去後, 同土器10上半部除去後, 同擾乱部セクション, 同擾乱部調査状況, 同定掘状況(1)・(2), 第10トレンチ1・2区全景(1)
図版8	S K 109・110確認状況, 第10トレンチ1・2区全景(2), S K 108確認状況(1)・(2), S K 109確認状況(1)
図版9	S K 109確認状況(2), S K 110確認状況(1)・(2), S K 123確認状況, S K 61確認状況, 第17トレンチ全景, 第17トレンチセクション(1)・(2)

- 図版10 第17トレンチセクション (3), S I 19確認状況, S I 19竈確認状況, S K 99・100確認状況, S K 99№1出土状況, S K 99セクション, S K 14・101・102確認状況, S X 8確認状況
- 図版11 第19トレンチ全景, 第19トレンチセクション (1)・(2), S D 8調査状況, S D 9調査状況 (1)
- 図版12 S D 9調査状況 (2), S K 138～140確認状況 (1)・(2), S K 143・144確認状況, S D 10～12調査状況, 第24トレンチ全景, 第24トレンチセクション (1)・(2)
- 図版13 S K 136確認状況 (1)～(3), 第24トレンチセクション (3), S K 136保護措置 (1)
- 図版14 S K 136保護措置 (2), S I 24竈確認状況, S K 103～107確認状況, S K 128・131・132確認状況, 第25トレンチ西壁セクション (1)～(4)
- 図版15 第25トレンチ西壁セクション (5)～(8), S K 5確認状況
- 図版16 S K 5・152・153確認状況 (1)・(2), 第25トレンチ西壁セクション (9), S K 5・152確認状況, S K 153確認状況
- 図版17 S K 5・152セクション (1)・(2), S K 153セクション, S K 5・152・153保護措置 (1)・(2), S I 15竈確認状況, S I 15竈確認状況, S I 22確認状況
- 図版18 S I 22・23確認状況, S I 22竈確認状況, S K 154・S D 9確認状況, S K 154セクション, S K 155確認状況, S K 156確認状況, S K 137確認状況, 第26トレンチ全景
- 図版19 S K 148確認状況 (1)・(2), S K 150確認状況 (1)・(2), B地区全景, B地区セクション (1)～(3)
- 図版20 S K 124確認状況, S K 125確認状況, C地区全景 (1)・(2), S K 113確認状況 (1)・(2) S K 114確認状況 (1)
- 図版21 S K 113～115確認状況, S K 114・115確認状況
- 図版22 S K 114確認状況 (2), S K 115確認状況 (1)～(3), S K 116確認状況 (1)
- 図版23 S K 116確認状況 (2), S K 158確認状況, S I 21確認状況, C地区サブトレンチ東壁セクション, C地区サブトレンチ南壁セクション (1)・(2), D地区全景
- 図版24 S K 117確認状況 (1)・(2), S I 20・S K 117確認状況, S I 20竈確認状況, S K 118～120・157確認状況
- 図版25 S K 118確認状況, S K 118・120確認状況, S K 119・157確認状況, 作業風景 (1)・(2)
- 図版26 作業風景 (3)～(5), 現地説明会 (1)～(3), 泉坂下遺跡シンポジウム風景, 文化財写真技術ミニ講習会いよいよばらき風景
- 図版27 第1トレンチ遺構外出土遺物, S K 23出土遺物
- 図版28 S K 26出土遺物 (1)
- 図版29 S K 26出土遺物 (2)
- 図版30 S K 26出土遺物 (3)
- 図版31 第8トレンチ遺構外出土遺物, S K 123出土遺物, S K 108出土遺物
- 図版32 S K 109出土遺物, S K 110出土遺物, 第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物 (1)
- 図版33 第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物 (2)
- 図版34 S K 61出土遺物, 第15トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版35 第15トレンチ遺構外出土遺物 (2), S I 19出土遺物, S K 99出土遺物, S K 101出土遺物, S K 111出土遺物, 第17トレンチ遺構外出土遺物 (1),
- 図版36 第17トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版37 S D 9出土遺物, S D 8出土遺物, 第19トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版38 第19トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版39 第19トレンチ遺構外出土遺物 (3)
- 図版40 第19トレンチ遺構外出土遺物 (4), S K 136出土遺物, S K 105出土遺物, S K 106出土遺物, S K 129出土遺物, S K 134出土遺物, S K 135出土遺物 (1)
- 図版41 S K 135出土遺物 (2), 第24トレンチ遺構外出土遺物
- 図版42 S K 5出土遺物, S K 152出土遺物, S K 153出土遺物, S I 15出土遺物, S I 22出土遺物 (1)
- 図版43 S I 22出土遺物 (2), S I 23出土遺物, S K 156出土遺物, S K 154出土遺物, S K 155出土遺物

- 図版44 第25トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版45 第25トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版46 SK148出土遺物, 第26トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版47 第26トレンチ遺構外出土遺物 (2), B地区遺構外出土遺物 (1)
- 図版48 B地区遺構外出土遺物 (2)
- 図版49 B地区遺構外出土遺物 (3), SK113出土遺物, SK114出土遺物, SK115出土遺物 (1)
- 図版50 SK115出土遺物(2), SI21出土遺物, SK116出土遺物, SK158出土遺物, SX9出土遺物(1)
- 図版51 SX9出土遺物 (2), C地区遺構外出土遺物 (1)
- 図版52 C地区遺構外出土遺物 (2)
- 図版53 C地区遺構外出土遺物 (3)
- 図版54 C地区遺構外出土遺物 (4)
- 図版55 SK117出土遺物
- 図版56 SK118出土遺物, SK119出土遺物, SK157出土遺物, SI20出土遺物 (1)
- 図版57 SI20出土遺物 (2)
- 図版58 D地区遺構外出土遺物 (1)
- 図版59 D地区遺構外出土遺物 (2)
- 図版60 D地区遺構外出土遺物 (3)
- 図版61 D地区遺構外出土遺物 (4)
- 図版62 D地区遺構外出土遺物 (5), 表面採集遺物
- 図版63 花粉化石・炭化種実 (1)
- 図版64 炭化種実 (2)
- 図版65 SX-4 No.4土器圧痕・圧痕レプリカ
- 図版66 SK26土器10圧痕
- 図版67 SK26土器10圧痕レプリカ (1)
- 図版68 SK26土器10圧痕レプリカ (2)

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

泉坂下遺跡は、地権者である菊池榮一氏の自宅敷地であったが、菊池氏が転居後水田にするため整地して出土した遺物を当時の大宮町歴史民俗資料館と同町立上野小学校に寄贈したことから一部に知られていた。この遺物は、石棒破片及び未成品7点、弥生土器2点で、うち壺形土器1点は、平成7（1995）年、大宮町歴史民俗資料館特別展「大宮の考古遺物」で展示され、図録（大宮町歴史民俗資料館『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会、平成7年）にも掲載されたことから広く知られ、再葬墓遺跡の可能性のある遺跡として注目されるようになった。

平成18（2006）年1月から2月にかけて、鈴木素行氏が石棒製作遺跡の実態解明を目的として学術調査を実施した。ところが、調査の当初から再葬墓遺構が良好な遺存状態で確認されるに及び、調査の目的が再葬墓の実態解明に変更となった。再葬墓が希少な遺構である上に、調査初日から人面付壺形土器が出土し、調査目的の変更は自然な動きであった。

その後、調査で得られた資料は慎重に整理され、詳細な考察とともに調査報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』（平成23年8月25日、鈴木素行編集・発行）にまとめられた。なお、同報告書は、同年8月31日、鈴木氏の好意により実質同内容で『茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡』として当市教育委員会から発行されている。また、調査で出土した遺物は、平成21年11月末日に鈴木氏から常陸大宮市に移管されている。

当市はこれら資料の文化財としての重要性に鑑み、歴史民俗資料館で平成21年度企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」（期間：平成21年12月15日～平成22年2月7日）を開催し、研究者や一般の注目を集めた。併せて開催されたシンポジウム（平成22年1月31日）は市外からも多くの参加者を得、関心の高さを裏付けたものであった。

これらの再葬墓出土遺物については、平成22年3月31日付で市指定文化財に指定され、さらには平成26年1月27日付で県指定文化財に指定されている。

また、遺跡の重要性も極めて高いことから、当市としては保存・整備の上、活用することとし、そのために常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会（以下、保存委員会）を組織して、その指導のもとに調査・保存・整備・活用をすることとした。以降、保存委員会では測量・確認調査についての検討・指導、整備の基本理念・基本計画等の具体的な検討を進めている。

そこで、今後保存・整備・活用を円滑に進めるためには国史跡指定を得ることが肝要との考えから、その基礎資料を得ることを目的とした確認調査を、当初は3か年計画で実施することを立案した。そして、平成24年10月から11月にかけて第1次、平成25年9月から11月にかけて第2次の確認調査を実施し、再葬墓遺構の分布範囲の確認や原地形の確認といった成果が挙げられた。これらについては「泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査報告」（平成25年7月31日、常陸大宮市教育委員会編集・発行）及び「泉坂下遺跡Ⅲ 保存整備事業に伴う第2次確認調査報告」（平成26年7月31日、同）にそれぞれまとめられている。

しかし、ここまでの調査を終えた時点で、3か年の確認調査を補足する調査の必要が生じた。このため、3か年だった計画を4か年へと変更し、従って平成27年度は4か年計画の第3次調査として実施されることとなった。

第2節 調査の目的と方法

調査の目的は上記したとおり、「泉坂下遺跡整備の基本理念」（文末に抜粋を取録）に則り、将来の保存・活用、及び国史跡指定申請のための基礎資料を得ることである。「泉坂下遺跡第3次確認調査要項」のとおり、第3次調査の主目的は、再葬墓遺構の分布範囲の確定等全体像の把握及び弥生時代の溝（SD9）の走向の確認と性格等の把握を掲げた。

調査の目的を達成するために、平成18年調査の調査区（第1トレンチ）及び第1・2次調査で再葬墓遺構が確認された第8・15トレンチの再発掘を行うとともに、それぞれのトレンチ間をも調査して、再葬墓遺構の分布状況を把握することとした。このため、第24トレンチ南側・第15トレンチ北側をB地区、第15トレンチ南側・第8トレンチ北側をC地区、第8トレンチ南側・第17トレンチ北側をD地区とそれぞれ呼称し、付近のトレンチと同様に調査した。また、SD9の確認のため、適宜トレンチを追加することとした。

トレンチの掘削は、下層に存在する遺構を保護するため、全て人力で行なうこととした。また埋め戻しの際も同様に人力で行った。

調査中に確認された遺構は原則として掘り込まず、従って遺構に伴う遺物の取り上げもせず、確認のためやむを得ない場合のみサブトレンチを掘削して調べる、という基本方針は第1・2次調査から踏襲した。しかし、今次調査においては再葬墓の性格・特徴等の解明をするため、再葬墓遺構のサンプルを精査することとした。サンプルに選択したのは第26号土坑1基のみである。再葬墓遺構の精査にあたっては、有限会社三井考測に委託して、遺構形状・出土遺物も全て3次元計測を実施した。周辺のトレンチ・遺構も同時に計測して、再葬墓遺構の位置情報を周辺の状況と合わせて記録した。また、再葬墓遺構の分析には、可能な限り自然科学的調査を行っていく。

なお調査区域は主に陸田であり、調査した遺構が耕作により破壊されることが危惧されることから、遺構保護のため、これまでに引き続いて調査区域の借上げを行なうこととした。これによって耕作による遺構破壊の危惧がなくなることから、トレンチ幅は2mを基本とすることとした。

調査は常陸大宮市教育委員会が主体となって実施し、保存委員会が指導する体制を採ることとした。また状況によって茨城県文化課、文化庁にも指導を仰いだ。

調査区割については、平成18年調査の際のトレンチを基本とするグリッドによることとしたため、南北軸がN-23°-Wの傾きを見せるが、これは調査地の地形に合わせたものとなっている。無論今後に生かせるよう、世界測地系（新・平面直角座標系）に反映できるようにした。

「泉坂下遺跡整備の基本理念」（抜粋）

1 当市の教育政策と泉坂下遺跡

（中略）泉坂下遺跡とその出土遺物は、当市の多くの優れた文化財の中でも、とりわけ大きな重要性を持つものであり、「郷土の誇れるもの」の中でも白眉といえる。泉坂下遺跡とその出土遺物の保存・活用は、当市の教育と教育政策の中核をなすべきものである。当市としては、泉坂下遺跡とその出土遺物を後世に向けて万全な保存をし、十分に活用していかななくてはならない。

（中略）

2 泉坂下遺跡の基本的性格と構造

(中略) 当市域の再葬墓の遺跡としては、当遺跡のほか小野天神前遺跡、中台遺跡が知られており、また周辺では那珂市域に海後遺跡なども所在する。当市域及び周辺は再葬墓の遺跡が密な分布を示す地域であり、再葬墓を有する文化が大きく展開している地域といえる。

当遺跡は、そうした時期と地域の中で営まれた再葬墓群に強く特色づけられる。その上、一次葬の土壇墓群を伴っており、当時の墓制の実相を示唆している。ただ、再葬墓群や関連する遺構の範囲については、平成18年の調査が部分的なものであり、現在のところ不明である。また、生活の拠点としての集落遺跡や生業の場としての水田等の遺跡の所在も不明である。

(中略) 当遺跡は再葬墓の遺跡として、縄文時代から弥生時代への転換期における当地域の文化の様相を象徴的に示している可能性がある。一方で遺跡の範囲や年代、性格等は不明の部分が多く、遺跡の全体像は捉えられていない。(中略) 今後、調査を実施して明らかにしていく必要がある。

3 泉坂下遺跡の重要性

(中略) きわめて遺存状況がよいことである。再葬墓遺跡が少ない上に多くは遺存状況が悪く、調査研究に支障を来しており、遺存状況が良好な当遺跡の今後の調査によっては、弥生時代墓制の解明、ひいては弥生時代の社会や文化の解明が大きく進展する可能性がある。さらに言えば、前回調査で出土したような遺構・遺物が周辺に埋没している可能性があり、そうした状況が明らかになれば弥生時代の解明に計り知れない意義がある。当遺跡の持つ学術上の、また教育上の意義がさらに増大する可能性があるのである。

4 国史跡指定と整備の基本理念

以上に述べた重要性に鑑み、今後さらに遺跡の性格等の把握に努め、当市として保存・整備・活用を推進していく。これを適切かつ円滑に推進するためにも、国史跡指定を受け、国の史跡として整備することを目指す。(中略)

泉坂下遺跡は、耕作等による遺構の破壊が軽微であり、保存状況がきわめて良好である。当遺跡を特色づける再葬墓群の他に縄文晩期・古墳時代・奈良平安時代の遺構も存在し、各時代の土地利用がそのまま保たれている可能性がある。しかし表土層が薄く、従って深耕の影響を受けやすく、このまま放置しておけば湮滅の恐れもある。当遺跡全体をできるだけ現状のまま保存することを念頭に整備を進める。また、周辺には歴史的環境が自然景観を含めて良く残されている。台地上には前小屋城跡があり、一帯には縄文時代以来の自然景観が広く保たれている。これらが一体となってこの地域の歴史的環境を形成しているのである。こうした歴史的環境をできるだけ保全しつつ整備を進める。(以下略)

「泉坂下遺跡第3次確認調査要項」(抜粋)

1 調査目的・方針等

(1) 調査目的

- ①「泉坂下遺跡整備の基本理念」に則り、将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とする。
- ②第3次調査の具体的な目的は、以下のとおりとする。
 - i) 再葬墓遺構の全体像の把握(関連遺構を含む分布範囲の確定、分布密度の把握、一部

遺構の精査、自然科学的分析の準備等)

ii) 弥生時代の溝(SD9)の走向の確認と性格等の把握

(2) 調査方針

- ①上記目的に沿った調査とするため、可能な限り現状が保存できる調査方法をとることを原則とする。
- ②前項にかかわらず、再葬墓及び関連遺構を選択的に精査し、性格・特徴等の解明をするその際、可能な限り自然科学的調査を行なう。

2 調査対象区域

- (1) 調査範囲 常陸大宮市泉字坂下918-2ほか21筆
*根本地区の候補地及び西部の竹林部分は、第3次調査の対象外とする。

- (2) 調査対象面積 7,697㎡

3 日程・工程

- (1) 全体計画 4年計画(平成24・25・26・27年度)
*新たに1年度を追加。本年度はその第3次
- (2) 調査期間 平成26年9月1日～11月14日
(75日。土日祝日を除き、実質51日)

(中略)

4 調査体制

- (1) 調査主体 常陸大宮市教育委員会(着手後、法第99条による報告)
- (2) 指導体制 保存委員会による指導(期間中、日時未定。その他随時)
文化庁・県文化課の指導(期間中、日時未定)
- (3) 調査体制 調査員:市教育委員会 後藤俊一主幹,
萩野谷悟嘱託職員, 中林香澄嘱託職員
補助員:大学(院)生若干名
作業員:補助員と合わせて10名程度

*一部区域については、明治大学が考古学実習を実施

5 調査方法

- (1) 調査範囲の土地借上げ 遺構の保存のため、公有地化まで継続
- (2) 掘り込み
- ①トレンチ調査 幅2mのトレンチを基本として遺構の平面形や性格の把握に努め、トレンチ拡張は原則としてしない。ただし、再葬墓域については、面的な調査を行なう。
 - ②人力による掘削
 - ③遺構の掘り込み 原則、しない。必要な場合もサブトレンチまで。ただし、上記目的に応じて一部の再葬墓遺構を掘り込み、精査をする。
 - ④遺物の取り扱い 遺構内出土遺物は、原則、取り上げない。取り上げる場合の判断は、学術上の観点(自然科学的調査の試料採取を含む)及び保護上の観点から慎重に行なう。ただし、精査の場合はこの限りではない。

(3) 記録

- ①実測 縮尺:遺構は原則1/20、必要に応じ1/10等も。

原地形は1/100でコンター測量

調査用方眼により実施。世界測地系（新・平面直角座標系）に変換可能に。

原則、調査員・補助員等で実施

精査した遺構は有限会社三井考測に委託して3次元実測を実施

- ②写真撮影 35mmモノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラ
- ③空中写真 日本特殊撮影株式会社に委託。ラジコンヘリ使用
6×7判カラーリバーサル・モノクロ、デジタルカメラ
- (4) 埋め戻し 人力により実施

6 報告書の作成

- (1) 刊行計画 平成27年7月を目途に刊行
*調査最終年度の次年度には総括的な報告書を刊行
- (2) 作業工程 原稿作成は平成27年5月までに行なう。
- (以下略)

第3節 調査経過

調査期間は、平成26年9月1日から11月14日までとした。9月1日に調査準備後、掘削（第Ⅰ層除去）を開始し、予定より遅れて12月17日に現場での調査を終了した。整理作業は12月18日から開始し、平成27年7月31日に終了した。以下、調査日誌から抄録する。

【調査日誌抄録】

- 9月1日（月）曇時々雨。機材整理等調査準備をするも、雨のため本格的な作業には至らず。明治大学考古学実習初日のため、実習生5名のみで第24トレンチ西半部の第Ⅰ層除去に着手
- 9月2日（火）晴。作業員とミーティングをし、調査の趣旨・方法について確認。第24トレンチは東半部の第Ⅰ層除去後、第ⅠB層を全面除去し、第Ⅱ層上面で遺構確認。第17トレンチでは第Ⅰ層・第ⅠB層を除去し、S I 19・S K 99等確認。再葬墓集中地区ではトレンチの間を調査するため、石川委員と協議し、第15・24トレンチ間をB地区、第8・15トレンチ間をC地区、第8・17トレンチ間をD地区とそれぞれ命名。C地区の第Ⅰ層除去着手
- 9月3日（水）曇。第24トレンチでは西半部でS K 確認。B・D地区は第Ⅰ層除去着手。C地区では第Ⅰ層除去後、土器が集中する地点を精査
- 9月4日（木）曇。第24トレンチは引き続き精査。B地区は第Ⅰ層除去後、Ⅱ層上面を精査。C地区での土器の集中はS K 23の北半部と判断。D地区は第Ⅰ層除去。第17トレンチでは西端部を拡張しS K 101・102を確認後、セクション実測
- 9月5日（金）曇。明治大学考古学実習最終日。第24トレンチ・B地区はさらに5～10cm掘り下げて精査。C地区北西部・D地区西部で土器の集中が確認され、さらに精査。第17トレンチは確認状況の実測
- 9月8日（月）曇。S K 99を半載し、撮影、平面・セクション実測。B地区東半部に焼土の集中があり、住居跡の可能性が考えられるため引き続き精査。C・D地区は精査継続
- 9月9日（火）晴。第24トレンチは清掃して撮影。B地区で確認されている住居跡はS I 18と考えられる。C地区は、西半部に土器の集中が認められるため調査区を西へ拡張、また中央部

- にS I 17と考えられる住居跡を確認。D地区は精査継続
- 9月10日(水) 曇。第10トレンチ1・2区の第I層除去着手。第24トレンチは平面・セクション実測。B・C・D地区は精査継続
- 9月11日(木) 曇。第10トレンチ1・2区で第I B層除去中、再葬墓と考えられる土器の集中を確認。B地区ではS I 18のプラン確認。C地区で完形に近い浅鉢が出土し、付近に縄文の遺構がある可能性を踏まえて精査。D地区東半部では平安期の遺物が出土し、住居跡の可能性が考えられた
- 9月12日(金) 晴。第10トレンチ1・2区では、再葬墓の可能性のある土器集中4か所を確認。S D 9は確認できない。C地区は精査継続。D地区では、竈が2か所あるように見えるが住居跡プランは今後精査が必要
- 9月16日(火) 晴のち雨。第10トレンチ1・2区では全体を下げて精査したところ、再葬墓と考えられるのは2基のみ。S D 9の走向確認のため、第19トレンチの第I層除去着手。C地区で縄文の遺構がある可能性を考えて進めていたが、否定的となった。第17トレンチはサブトレンチを掘削
- 9月17日(水) 晴。第10トレンチ1・2区に遺構番号付与、再葬墓はS K 108・110。S K 108は3個体、S K 110は4個体の壺形土器が確認できる。第19トレンチ第I層除去後、第I B層除去着手。C・D地区は遺物周辺を清掃し、土器を確認。第17トレンチはサブトレンチセクション検討
- 9月18日(木) 晴。第10トレンチ1・2区は確認状況を撮影、実測。第19トレンチは第I B層除去。B・D地区は精査継続
- 9月19日(金) 晴。第10トレンチ1・2区は実測後、遺構外出土遺物の取り上げ。第19トレンチは第I B層除去、石棒頭部出土。B・C・D地区は精査継続
- 9月22日(月) 晴一時雨。第10トレンチ1・2区は清掃しプラン確認。第19トレンチは第I B層除去中、ローム粒を多く含む部分がある。B地区では、乾燥によるヒビ割れで円形土坑が推定できる状況になる。C・D地区では、確認できた再葬墓に遺構番号付与
- 9月24日(水) 曇。S K 110の個体数を確認、3～5個体か。第19トレンチ第I B層除去中、以前石棒が出土した付近から土偶等出土。S K 23の土器整理と個体確認をしたところ、第1次調査時のものと合わせて15個体あることが判明。S I 20撮影後、遺物取り上げ
- 9月25日(木) 雨。現地作業は中止、歴史民俗資料館で遺物水洗
- 9月26日(金) 晴。第19トレンチ1・2区では第II層上面で遺構確認。C地区の再葬墓出土遺物の整理・検討。S I 20の遺物取り上げ。S K 119プラン確認。第25トレンチでは第I層除去着手
- 9月29日(月) 晴。第10・19トレンチは精査継続。C地区では全景・遺構の撮影。第25トレンチでは第I層除去
- 9月30日(火) 晴。S K 110・123撮影。第19トレンチ撮影、実測してサブトレンチ掘削。S I 21遺物取り上げ後、実測。S K 116プラン再確認。D地区の土器を精査し、S K 117の攪乱はS I 20床面によるものと理解した。第25トレンチでは第I B層まで除去し、遺構確認。S K 5の西側に、弥生の壺形土器の埋納を確認
- 10月1日(水) 曇。第19トレンチはサブトレンチを掘削、東端でS D 9を確認。B地区は撮影、実測。D地区は実測。第25トレンチで、S K 5の西側でさらに壺形土器を確認、新たな再葬墓

の可能性がある

- 10月2日(木) 曇。第19トレンチではサブトレンチを掘削、SD9を確認。第24トレンチではサブトレンチ掘削。第25トレンチではSK5西側に再葬墓を確認、その南に半円形遺構とSD9を確認。当遺跡にて文化財写真技術研究会主催の文化財写真技術ミニ講習会 in いばらき開催、参加者8名
- 10月3日(金) 曇。第19トレンチでは、SD8を掘削後サブトレンチと合わせて撮影・実測、その後SD9を掘削。第24トレンチではサブトレンチ拡大。B地区ではサブトレンチ内精査。第25トレンチは精査継続。第1トレンチを北側から再発掘着手
- 10月6日(月) 雨のち晴。台風18号通過に伴い作業休み。調査区水没
- 10月7日(火) 晴。調査区水没のため、歴史民俗資料館で遺物水洗。現地ではポンプで排水
- 10月8日(水) 晴。調査区水引かず、歴史民俗資料館で遺物水洗。現地ではポンプで排水
- 10月9日(木) 曇。水は深めの遺構内だけになったため作業再開。SD8を撮影し、SD9を掘削。B地区サブトレンチセクション撮影。第24トレンチでは精査継続。第1・8・15トレンチを再発掘
- 10月10日(金) 晴。SD9を掘削し、遺物取り上げ。SI20にサブトレンチを掘削したが床面検出できず。第24トレンチ中央部分の遺構確認、セクション検討。第25トレンチでは精査継続。第1・8・15トレンチを再発掘
- 10月14日(火) 台風19号通過に伴い作業休み
- 10月15日(水) 曇。SD9を掘削し、遺物取り上げ。第24トレンチ確認状況・セクション撮影。第1・8トレンチを再発掘
- 10月16日(木) 晴時々曇。雨予報だったため歴史民俗資料館で遺物水洗。
- 10月17日(金) 晴。SD9を掘削し、遺物取り上げ。第24トレンチセクション実測、SK128・131～136撮影。第25トレンチは精査継続。第1・8トレンチを再発掘
- 10月20日(月) 晴のち雨。SD9は掘削完了、セクション検討。第24トレンチサブトレンチセクション実測、確認状況実測。当初予定していなかった第26トレンチを畦に設定し、第I層除去着手。第1トレンチを再発掘
- 10月21日(火) 雨のち曇。歴史民俗資料館で遺物水洗
- 10月22日(水) 雨。歴史民俗資料館で遺物水洗
- 10月23日(木) 曇時々雨。歴史民俗資料館で遺物水洗
- 10月24日(金) 晴。SD9はセクション検討。第25トレンチは遺物を取り上げ、確認面を下げる。第26トレンチでは、地表面はロームブロックを多く含む層があり、その下の旧表土と考えられる層まで掘り込む。D地区ではSI20のプランを確認し、SI20がSK117を切る状況を把握。第1トレンチを再発掘継続
- 10月27日(月) 曇のち晴。第25トレンチは確認面を一段下げ終え、精査。第19トレンチはサブトレンチの遺構にSK138～146を付与、撮影、実測。第26トレンチは攪乱が多い。第1トレンチを再発掘継続。雷雨により作業打ち切り
- 10月28日(火) 快晴。第19トレンチは実測。第25・26トレンチ、D地区では遺構確認。第1トレンチを再発掘継続
- 10月29日(水) 晴。第25トレンチでは住居跡を確認。第26トレンチは遺物を取り上げ、遺構確認。C地区では精査継続。D地区は遺構確認、実測完了。第1・4・15トレンチは再発掘

- 10月30日(木) 晴。第25トレンチでは精査継続。第26トレンチではサブトレンチ掘削。第1・8・15トレンチは再発掘。三井考測によるトレンチ形状の3次元計測
- 10月31日(金) 曇。第10トレンチ1・2区は撮影、実測。第25トレンチは遺構確認、撮影。第26トレンチはサブトレンチ掘削完了、遺構確認。第1・8トレンチは再発掘。三井考測による写真計測
- 11月1日(土) 小雨。SK108を実測。第25トレンチは実測。第26トレンチはセクション検討。三井考測によるトレンチ形状の3次元計測。午後から作業員は歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月2日(日) 晴。SI22・23は遺物を取り上げ、竈を実測。第8トレンチ、C・D地区、SK110を清掃し、三井考測による写真計測
- 11月3日(月) 快晴。第8トレンチとD地区の間のベルトを外し、SI20のプラン確認。第25トレンチの再発掘は、プラン確認までの方針とした。三井考測による写真計測
- 11月4日(火) 晴。第25トレンチでは、再発掘の確認のため掘り下げ。SI22の撮影、竈実測。明日の空中写真撮影のための準備。SK26を三井考測による3次元計測
- 11月5日(水) 曇。日本特殊撮影による空中写真撮影。第25トレンチでは再発掘を精査、SK5のプラン修正。第26トレンチは遺構確認、撮影。第15トレンチ西端部の再発掘を精査。三井考測による3次元計測
- 11月6日(木) 晴一時雨。SK26を撮影、掘削、土壌は全量サンプリング。第25トレンチはSK5西側の再発掘精査、SI15・22付近精査。第26トレンチは三井考測による3次元計測後、セクション実測、埋め戻し。第17トレンチ埋め戻し
- 11月7日(金) 晴。SK26を掘削、撮影、実測。第25トレンチでは遺構確認、SK5西側の再発掘にSK152・153付与、南半部の土坑にSK154～156付与。
- 11月8日(土) 曇。SK26を掘削、実測、土壌サンプリング。第25トレンチではSK5、152～156の撮影、東西壁のセクション撮影、実測。現地説明会の準備
- 11月9日(日) 曇。SK137撮影。SK26ベルト除去。午前10時から当遺跡で現地説明会開催。参加者104名。午後には市文化センターで泉坂下遺跡シンポジウム開催、参加者230名
- 11月10日(月) 晴。SK126・153実測。SK5・152・153は三井考測による写真計測。SK26はセクション撮影、土壌サンプリング、ベルト除去、三井考測による3次元計測。第19トレンチ・B地区は埋め戻し
- 11月11日(火) 曇のち雨。SK26撮影、三井考測による3次元計測。SK136エレベーション実測。SK136調査中、竈を確認し、SI24付与。SK5・152を実測。第1・24トレンチ埋め戻し。午後は降雨のため歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月12日(水) 雨のち曇。SK61を実測。第25トレンチは埋め戻し。雨があがらないため歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月13日(木) 晴。SK26はセクション追加、土壌サンプリング。SK61はエレベーション実測、遺物取り上げ、撮影。SK152を実測。第8トレンチとC地区にまたがる再発掘空白部分にサブトレンチを入れて、遺構が所在しないことを確認。第25トレンチ・B地区は埋め戻し
- 11月14日(金) 晴。SK26セクション撮影、実測、ベルト除去。SK5・152・153セクション撮影、実測。C地区はサブトレンチ掘削、撮影、実測。第25トレンチ南端部をレベリング。第1・15・25トレンチ、B地区は埋め戻し
- 11月17日(月) 曇時々晴。第1・10・15トレンチ、C地区は埋め戻し。SK119・152・153・

- 157の実測。S K26は実測、掘削。一部は午後から歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月18日（火） 晴。S K26はセクション実測、遺物取り上げ、ベルト除去、土壌サンプリング。
S K119・157は撮影。C地区で遺構を確認し、S K158付与、撮影、実測。第1トレンチ・C地区は埋め戻し。一部は歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月19日（水） 晴。S K26は撮影、セクション実測、掘削、遺物取り上げ。第8トレンチ、C・D地区の再葬墓集中地区の撮影。一部は歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月20日（木） 曇。S K26の土器は下面を残し取り上げ、撮影、実測。一部は歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月21日（金） 晴。S K26は三井考測による写真・3次元計測。第8・25トレンチ、C・D地区は埋め戻し
- 11月25日（火） 雨。歴史民俗資料館で遺物水洗
- 11月28日（金） 曇。S K26を三井考測による3次元計測
- 12月4日（木） 曇のち雨。S K26を三井考測による3次元計測
- 12月9日（火） 晴。S K26の遺物取り上げ、セクション図補足
- 12月10日（水） 曇。S K26の攪乱部分掘削、完掘状況撮影、セクション図補足。S K25・117、第24トレンチ・B地区付近の埋め戻し
- 12月16日（火） 曇のち雨。S K26を三井考測による3次元計測。付近を埋め戻し。雨のため作業打ち切り
- 12月17日（水） 晴。S K26及びその周辺を埋め戻し。機材を撤収し、現場での全作業を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境 (第1・2図)

泉坂下遺跡(第1図1、第2図1)は、茨城県常陸大宮市泉坂下918番地ほかに所在する。

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、西は栃木県と境を接する。市域の多くは八溝山地の一部である鷲子山塊及びその周縁の台地または低地である。市域のほぼ東端を久慈川が南流し、南端付近を那珂川が南東に流れている。久慈川は市域南東端で支流である玉川と合流するが、当遺跡はこの合流点から北西約3kmに所在する。

当遺跡は、鷲子山塊に連続する那珂台地から東に下った久慈川右岸の低位段丘上に立地している。久慈川の現在の河道からの距離は700～800mの位置にある。河道近くには自然堤防が形成され、北側の自然堤防上には宇留野塚の集落が立地している。自然堤防との間は氾濫原(後背湿地)で、現在は水田になっている。当遺跡の立地する低位段丘は標高20mほどで、東側の水田面からの比高差は2mほどである。この低位段丘は、台地からの湧水によって切断されながら、玉川との合流点まで南東に大きく展開しており、ここには根本の集落、さらに南東に上岩瀬・下岩瀬の集落が立地している。当遺跡西側の那珂台地上とは比高差30mほどあり、その斜面には水戸藩三大江堰の一つ岩崎江堰水路が南流し、これに伴う地形の改変が見られる。

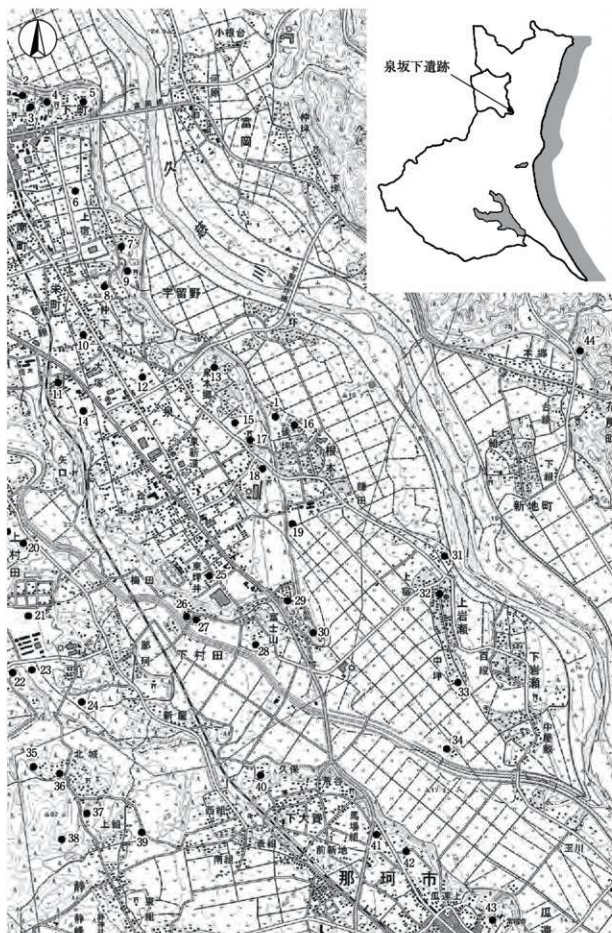
第2節 歴史的環境 (第1・2図、第1・2表)

常陸大宮市で周知されている遺跡の多くは久慈川・那珂川の両水系によって形成された河岸段丘から低地にかけて分布し、山間地への分布は比較的少ない。旧石器から近世に至る多様な遺跡が所在しており、以下各時代の主な遺跡をもって概要を説明する。

まず、旧石器時代である。久慈川右岸の山方遺跡では、昭和39(1964)年に茨城県内初となる旧石器が発見されており、この時出土した石核は約30,000～28,000年前のもので、現時点においても市内最古の遺物である。また、那珂川左岸の赤岩遺跡では礫群3基と石器・剥片集中地点3か所が確認されており、礫群はいずれも大型で、1号礫群では礫数は197点、総重量で43kgを超えるものであった。

縄文時代の遺跡は市内に多く所在し、調査例も多い。早期では、那珂川支流緒川右岸の岡原遺跡で田戸下層式期の堅穴住居跡が1軒確認されている。中期となると、西塙遺跡で有段堅穴遺構4軒・土坑378基等、赤岩遺跡・三美中道遺跡で土坑101基等、滝ノ上遺跡で堅穴建物跡8軒・土坑289基等、高ノ倉遺跡で土坑223基等が確認されるなど、那珂川左岸の段丘上に大規模な環状集落が林立していたことが窺える調査事例が蓄積されている。このほか特筆されるのは、久慈川支流玉川の左岸段丘上に広がる坪井上遺跡(第1図25)である。泉坂下遺跡の南方約1.2kmに位置する坪井上遺跡は、平成5・8年度の二度にわたり調査が行われ、堅穴住居跡19軒、袋状土坑75基が確認された中期の集落跡であり、1遺跡から8個の硬玉製大珠が出土していることで特に知られている。これらは新潟県糸魚川市の姫川流域で産出される翡翠製であり、この集落は中期における茨城県北部地域の一交流拠点であったと考えられている。

弥生時代としては、泉坂下遺跡の南方約1.5kmの上岩瀬富士山遺跡(第1図29)や那珂川支



第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院1:25,000地形図「常陸大宮」)

第1表 泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	番号	遺跡名	種類	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	
第1区 1	泉坂下遺跡	集落跡	○	○		○	○	○			第1区 23	堂山B遺跡	集落跡								○	
2	部重城跡	城館跡						○			24	堂山A遺跡	集落跡			○	○	○				
3	松吟寺遺跡	集落跡	○								25	坪井上遺跡	集落跡	○	○	○	○					
4	松吟寺古墳群	古墳群				○					26	念仏塚	経塚									○
5	宮中遺跡	集落跡	○			○					27	念仏塚遺跡	集落跡							○		
6	上ノ宿遺跡	集落跡	○			○	○				28	西坪井遺跡	集落跡			○	○	○				
7	上宿上坪遺跡	集落跡	○			○	○				29	上岩瀬富士山遺跡	集落跡			○	○	○				
8	仲下遺跡	集落跡	○			○	○				30	富士山古墳群	古墳群									
9	宇留野城跡	城館跡						○			31	川岸遺跡	集落跡								○	
10	大塚遺跡	集落跡	○					○			32	岩瀬城跡	城館跡	○				○	○			
11	六丁遺跡	集落跡									33	上岩瀬中坪遺跡	集落跡									
12	駄木所遺跡	集落跡						○			34	本宮遺跡	集落跡		○		○	○				
13	前小屋館跡	城館跡						○			35	溜前遺跡	集落跡									○
14	上高作遺跡	集落跡	○								36	上坪遺跡	集落跡									○
15	春日神社前遺跡	集落跡				○	○				37	滝前遺跡	集落跡	○								
16	根本後坪遺跡	集落跡									38	城菩提城跡	城館跡									○
17	根本遺跡	集落跡						○			39	新宿古墳群	古墳群									○
18	根本古墳群	古墳群						○			40	久保遺跡	集落跡									○
19	根本向井坪遺跡	集落跡				○	○				41	下大賀遺跡	集落跡			○	○	○	○			○
20	北村田B遺跡	集落跡						○			42	十林寺古墳群	古墳群									○
21	一騎山古墳群	古墳群						○			43	瓜達遺跡	集落跡	○	○	○						○
22	高野A遺跡	集落跡						○			44	寺山寺院跡	寺院跡									○

流緒川右岸の山根遺跡などで後期後半十王台式期の集落跡が確認されている。しかしここで特筆すべきは小野天神前遺跡（第2図8）であろう。昭和51（1976）年に茨城県立歴史館によって学術調査され、16m四方ほどの調査区から20基の土坑が確認されて、茨城県北部の再葬墓研究に大きく寄与した。一般に人面付壺形土器は再葬墓遺跡1遺跡から1点しか出土しないといわれているが、小野天神前遺跡では1遺跡から3点が出土している特異な事例である。これらを含む出土



第2図 茨城県北部及びその周辺の弥生時代中期前半の遺跡

（『泉坂下遺跡の研究』（鈴木素行編集・発行、平成23年8月25日）第122図から引用）

土器19点は茨城県有形文化財に指定され、現在茨城県立歴史館に所蔵されている。那珂川沿いの小野天神前遺跡は、今回調査された久慈川沿いの泉坂下遺跡と並び称される遺跡であろう。このほか市内では、桑の木の植え替えの際に弥生中期の壺形土器がまとめて出土したという、久慈川右岸の山方宿遺跡（第2図7）も再葬墓遺跡と考えられており、中台遺跡の名で広く知られている。従って、市内には泉坂下遺跡と合わせて計3箇所の弥生再葬墓遺跡が所在することになる。

なお、弥生再葬墓は東日本に広く分布するが、久慈川・那珂

第2表 茨城県北部及びその周辺の弥生時代中期前半の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	備考	番号	遺跡名	所在地	備考
第2図1	泉坂下遺跡	茨城県常陸大宮市		第2図11	坂口遺跡	茨城県常陸太田市	
2	崖の上遺跡	福島県棚倉町		12	大塚遺跡	茨城県那珂市	
3	中萩平遺跡	福島県棚倉町		13	森戸遺跡	茨城県那珂市	
4	三枚畑C遺跡	栃木県那珂川町		14	籠内遺跡	茨城県那珂市	
5	滝内遺跡	栃木県那珂川町		15	海後遺跡	茨城県那珂市	
6	箕ノ輪遺跡	栃木県茂木町		16	小塚遺跡	茨城県高萩市	
7	山方宿遺跡	茨城県常陸大宮市	通称中台遺跡	17	明神越遺跡	茨城県日立市	
8	小野天神前遺跡	茨城県常陸大宮市		18	十王堂遺跡	茨城県日立市	
9	北方遺跡	茨城県城里町		19	大沼遺跡	茨城県日立市	
10	瑞龍遺跡	茨城県常陸太田市		20	女方遺跡	茨城県筑西市	

川流域を中心とした茨城県北部地域では特に分布密度が高い。久慈川右岸の那珂市には、昭和42（1967）年、耕作中に人面付壺形土器が出土したことで知られる海後遺跡（第2図15）などが所在し、那珂川右岸の城里町には北方遺跡（第2図9）などが所在しており、弥生再葬墓と考えられている遺跡が集中して分布している、この集中地の概ね中央部に泉坂下遺跡は位置する。

古墳時代の集落遺跡としては、梶巾遺跡などが確認されている。古墳については、泉坂下遺跡の南方約1.5kmに所在する富士山古墳群（第1図30）には、前期の前方後方墳である富士山4号墳があり、茨城県内でも最も古い古墳の一つと考えられている。また中期古墳としては、同じく富士山古墳群の全長60mの五所皇神社裏古墳、糠塚古墳群の全長90mの糠塚古墳といった前方後円墳が所在する。後期古墳として、一騎山古墳群（第1図21）は10基の古墳からなり、4号墳は6世紀後半の小規模な前方後円墳で、人物・動物等の形象埴輪や円筒埴輪が出土している。このほか岩崎古墳群、鷹巣古墳群、糠塚古墳群、富士山古墳群などがあり、これらのほとんどは久慈川右岸またはその支流玉川兩岸の段丘上に所在しているが、その例外として、岩崎古墳群及び富士山古墳群の丸山古墳は、久慈川の低位段丘面に所在する。また玉川左岸には、雷神山横穴群と岩欠横穴群といった横穴墓も所在している。

奈良・平安時代の遺跡は時代別としては最も多く市内に所在し、調査例も多い。県内有数の大規模集落として知られるのは、久慈川右岸の段丘上標高55mの上ノ宿遺跡（第1図6）である。平成18・20・24年度の3度の調査で計128軒の竪穴住居跡が確認され、風字硯や耳皿2点などが出土しており、この地域の拠点集落であったと考えられている。同様に久慈川右岸に所在する北原遺跡では、平成25年度の調査で84軒の竪穴住居跡が確認されている。どちらの集落も9世紀代に最盛期を迎え、10世紀に入ると衰退しているなど類似点が多く、久慈川流域の歴史的推移を検証していくうえで貴重な資料である。このほか、岡原遺跡では多文字・人面墨書土器や朱墨書土器が出土しており、源氏平遺跡では、底面に「土垣倉」と墨書され、内側に「解」と記された漆紙文書の付着した土師器が出土している。また、「文」の烙印が出土した上村田中道遺跡や、茨城県指定有形文化財「丈永私印」の銅印が出土した小野中道遺跡など、丈部氏関連と考えられる遺跡も確認されている。

中世の遺跡としては、久慈川右岸の部垂城跡（第1図2）、宇留野城跡（第1図9）、前小屋館跡（第1図13）、那珂川左岸の長倉城跡、野口城跡、小場城跡、玉川左岸の東野城跡、緒川左岸の高部館跡などに代表される城館跡が市内各地に点在しており、そのほとんどが何らかの形で佐竹氏の影響を受けたものである。とりわけ前小屋館跡は、本郭が泉坂下遺跡の北西約500m、宿は泉坂下遺跡の西約100mという至近距離に所在しており、泉坂下遺跡第1・2次確認調査では、前小屋館が泉坂下遺跡に与えた影響について想起させる成果が得られている。

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要 (第3・4図, 第3表)

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉坂下918番地ほかに所在し、久慈川右岸の低位段丘面上に立地している。標高20～21mで、東側の水田面からの比高差は2mほどであり、現況は水田(陸田)、宅地、原野である。

まず平成18年に調査されたトレンチを第1トレンチとして調査区の中心に捉え、これを南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを設定し、状況に応じてこれらを補足するトレンチを入れる方針をとった。

最初に南に向かって第2・3トレンチ、西へ向かって第4・5トレンチ、北へ向かって第6・7トレンチ、東へ向かって第8・9トレンチを設定し、調査を進めた。これらがある程度進捗してきたところで、補足の必要が生じた部分に第10～16トレンチを追加で設定し、さらに進捗により第17～24トレンチを設定した。それらのうち第1次調査で第2～9・11・16トレンチ、第2次調査で第10・12～15・18・23トレンチが調査済である。

今次調査では、第10・17・19・24～26トレンチを調査し、合わせて第24トレンチ南側・第15トレンチ北側をB地区、第15トレンチ南側・第8トレンチ北側をC地区、第8トレンチ南側・第17トレンチ北側をD地区とそれぞれ呼称し、付近のトレンチと同様に調査した。このほかこれまでに調査済の第1・8・15トレンチの再発掘を行い、合計12本のトレンチで計263㎡を調査し、縄文時代から中世までの幅広い時代の遺構・遺物を確認した。

遺構は、縄文時代の土坑1基、弥生時代の土坑24基、溝跡1条、平安時代の竪穴住居跡8軒、土坑1基、中世の土坑1基、時期不明の土坑43基、溝跡4条、性格不明遺構2基が確認されている。弥生時代の土坑24基のうち20基は再葬墓または土器棺墓である。

遺物は、収納コンテナ(内寸530mm×356mm×234mm)で42箱ほど出土している。主な遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器・石製品、土製品である。

第2節 基本層序

1 上位層

調査区における土層の堆積は、平成18年調査の報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』に倣い、整地・耕作により攪乱された層を第1層、ローム層を第Ⅲ層、その中間の層を第Ⅱ層と大きく分類し、そこからアルファベットを付して分層し、さらに細分するものはアラビア数字を付して表記することとした。

また、遺物の出土位置など判別が困難な場合については、例えば第ⅠB1層及び第ⅠB2層から出土したものを、合わせて第ⅠB層からの出土と表記するなど、便宜的に総称として用いた箇所もある。これらの層位についてはトレンチごとに差異があるため、図についてはそれぞれのトレンチの項にて記載する。

なお、今次調査ではテストピットによる下位層(ローム層以下)の確認は実施していない。テストピット掘削は第2次調査で実施しており、その成果は、『泉坂下遺跡Ⅲ』のとおりである。

第Ⅰ層

第Ⅰ層は現在の耕作土で、締まりは弱い。灰褐色。

第ⅠB1層は水田耕作の床土の層で、かなり堅く締まる。暗褐色。

第ⅠB2層も同様に水田耕作の床土で、堅く締まるが第ⅠB1層と比べると弱い。暗褐色で第ⅠB1層と比べるとやや黒みが強い。このため遅れて第ⅠB層を2つに分層したものである。

第ⅠC層は調査区城南西端に設定した第11トレンチの11・12区にのみ見られる層で、水田耕作の床土層の一部であるが黄褐色粒子を含有するため、第ⅠB層とは異なる扱いとした。暗褐色で堅く締まる。

第Ⅱ層

第Ⅱ1層は遺物包含層で褐色土。締まりは強い、粘性中。この層が失われているトレンチも多い。

第Ⅱ2層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。普遍的に存在する。

第Ⅱ3層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。ただし第Ⅱ2層と比べると締まりはやや弱く、黒みはやや強い。

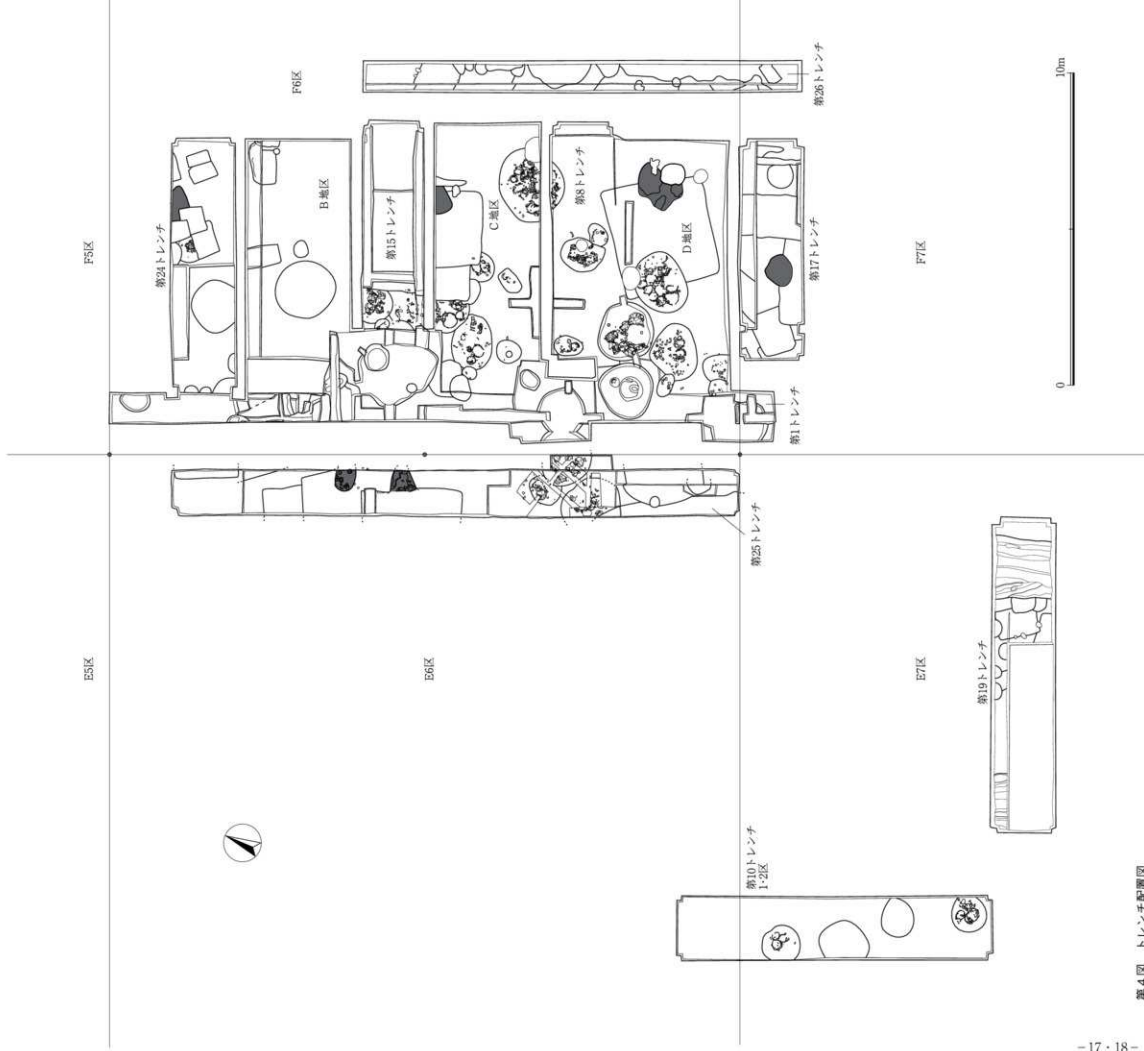
第ⅡB層は暗褐色土と黄褐色ローム土の混合層であり、ローム粒子が不均一に混じる、第Ⅲ層への漸移層である。締まり中。

第Ⅲ層は橙色ローム層。締まりは強い。最上面に今市スコリア（Nt-I）と考えられる橙色の火山礫を混入する。なおNt-Iの上位にはほぼ同一期に降灰した七本桜バミス（Nt-S）と呼ばれる白色火山灰が堆積しているはずであるが、上層に取り込まれたためか層としては認められなかった。

第3表 泉坂下遺跡Ⅳ取載遺構一覧表

No.	遺構番号	位置		時期	過去調査での確認トレンチ			備考
		グリッド	トレンチ		平成18年	第1次	第2次	
1	SD8	E7h5, E7i5	19トレ	不明		4トレ	18トレ	旧K
2	SD9	E7i5, E7j5, E6j8~E6j0	19・25トレ	弥生		4トレ	18トレ	旧SX4
3	SD10	E7e5	19トレ	不明			18トレ	
4	SD11	E7e5	19トレ	不明			18トレ	
5	SD12	E7e5	19トレ	不明			18トレ	
6	S11	E6j3	25トレ	平安	1トレ			
7	S115	E6j5, E6j6	25トレ	平安			14トレ	
8	S119	F7c1, F7d1	17トレ	平安				
9	S120	F6c9~F6e9, F6c0~F6e0	D地区	平安				
10	S121	F6d6, F6e6	C地区	平安				
11	S122	E6j4, E6j5	25トレ	平安			14トレ	旧SX7
12	S123	E6j3, E6j4	25トレ	平安				
13	S124	F6d2, F6e2	24トレ	平安				
14	SK5	E6j7, E6j8	25トレ	弥生	1トレ	4トレ		再葬墓
15	SK14	F7b1	17トレ	不明		2トレ		
16	SK23	F6d7, F6e7	8トレ・C地区	弥生		8トレ		再葬墓
17	SK24	F6c8, F6d8	8トレ	弥生		8トレ		再葬墓
18	SK25	F6b8	8トレ	弥生		8トレ		再葬墓
19	SK26	F6b9, F6c9	8トレ・D地区	弥生		8トレ		再葬墓
20	SK30	F6d8	8トレ	弥生		8トレ		土器棺墓
21	SK59	F6b5, F6c5	15トレ	弥生			15トレ	土器棺墓
22	SK60	F6c5	15トレ	弥生			15トレ	再葬墓
23	SK61	F6c5	15トレ	弥生			15トレ	再葬墓
24	SK99	F7e1	17トレ	平安				
25	SK100	F7e1	17トレ	不明				
26	SK101	F7b1, F7c1	17トレ	不明				

No.	遺構番号	位置		時期	過去調査での確認トレンチ			備考
		グリッド	トレンチ		平成18年	第1次	第2次	
27	SK102	F7b1		17トレ	不明			
28	SK103	F6b2		24トレ	不明			
29	SK104	F6b2		24トレ	不明			
30	SK105	F6b2		24トレ	不明			
31	SK106	F6b2		24トレ	不明			
32	SK107	F6b2, F6c2		24トレ	不明			
33	SK108	E7c1		10トレ	弥生			汚葬墓
34	SK109	E7c3		10トレ	弥生			
35	SK110	E7c4		10トレ	弥生			汚葬墓
36	SK111	F7c1		17トレ	不明			
37	SK112	F7e1		17トレ	不明			
38	SK113	F6c6, F6c7, F6d6, F6d7		C地区	弥生			汚葬墓
39	SK114	F6b6, F6c6		C地区	弥生			汚葬墓
40	SK115	F6b6, F6b7, F6c6, F6c7		C地区	弥生			汚葬墓
41	SK116	F6b7		C地区	弥生			土器棺墓
42	SK117	F6c9, F6c0, F6d9		D地区	弥生			汚葬墓
43	SK118	F6b9, F6b0, F6c9, F6c0		D地区	弥生			汚葬墓
44	SK119	F6b0		D地区	弥生			
45	SK120	F6b9		D地区	不明			
46	SK121	F6b6		C地区	不明			
47	SK122	F6b6		C地区	不明			
48	SK123	E7c2		10トレ	縄文			
49	SK124	F6c3, F6c4, F6d3, F6d4		B地区	不明			
50	SK125	F6d3		B地区	不明			
51	SK126	F6c3		B地区	不明			
52	SK127	F6e3		B地区	不明			
53	SK128	F6e2		24トレ	不明			
54	SK129	F6b2		24トレ	不明			
55	SK130	F6b2, F6c2		24トレ	不明			
56	SK131	F6e2		24トレ	不明			
57	SK132	F6e2		24トレ	不明			
58	SK133	F6d2		24トレ	不明			
59	SK134	F6d2		24トレ	不明			
60	SK135	F6d2		24トレ	不明			
61	SK136	F6d2		24トレ	弥生			土器棺墓
62	SK137	E6j2		25トレ	不明			
63	SK138	E7g5		19トレ	不明			
64	SK139	E7g5		19トレ	不明			
65	SK140	E7g5		19トレ	不明			
66	SK141	E7g5		19トレ	不明			
67	SK142	E7h5		19トレ	不明			
68	SK143	E7h5		19トレ	不明			
69	SK144	E7h5		19トレ	不明			
70	SK145	E7h5		19トレ	不明			
71	SK146	E7h5		19トレ	不明			
72	SK147	F6c9		D地区	不明			
73	SK148	F6f5, F6f6, F6g5, F6g6		26トレ	不明			
74	SK150	F6f7, F6f8, F6g7, F6g8		26トレ	不明			
75	SK151	F6e9, F6e0		D地区	不明			
76	SK152	E6j7, E6j8		25トレ	弥生			汚葬墓
77	SK153	E6j8, E6j9		25トレ	弥生			汚葬墓
78	SK154	E6j9, E6j0		25トレ	不明			
79	SK155	E6j9		25トレ	不明			
80	SK156	E6j0		25トレ	平安			
81	SK157	F6b0		D地区	弥生			
82	SK158	F6c7		C地区	弥生			
83	SK159	F6c6		C地区	不明			
84	SX8	F7d1, F7e1		17トレ	不明			
85	SX9	F6c6		C地区	不明			



第4図 トレンチ配置図

第3節 遺構と遺物

本節においては、今回の調査で確認された遺構と遺物をトレンチごとにまとめて解説し、所見を付す。以下、トレンチ順に記す。

1 第1トレンチ (第5図)

(1) 調査概要

先述した、平成18年に鈴木素行氏が学術調査したトレンチが、この第1トレンチである。第1トレンチは、F6a1区からF6a0区までの区域に、長さ20m、幅1mで南北に長く設定され、遺構の確認に合わせて適宜拡大されている。調査面積は最終的に36㎡となり、弥生時代の再葬墓7基、土壊墓3基、平安時代の堅穴住居跡1軒が確認された。これらの成果は『泉坂下遺跡の研究 一人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について一』にまとめられている。調査後は元通り埋め戻され、平成18年度から平成23年度にかけては、地権者により水田耕作が行われていた。

今次調査において、再葬墓等の三次元計測を実施する運びとなった。これに合わせ、将来の史跡活用をにらんだ遺構の三次元情報取得を目的として、第1トレンチを再発掘しての三次元計測を試みたものである。調査後は目印としてトレンチ全体に山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

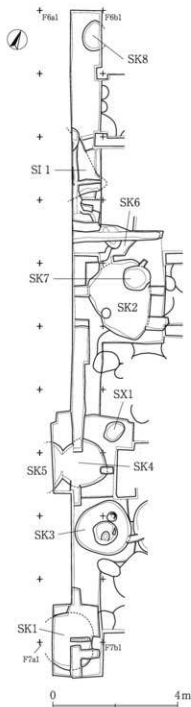
今次調査では、新たな遺構は確認されなかった。

B 遺構外出土遺物

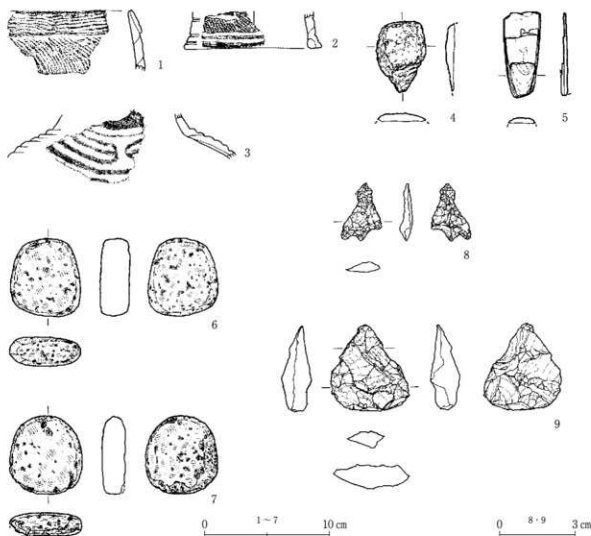
遺構外で確認された遺物について解説する。(第6図, 第4表)
遺物出土状況 土器等1,260点, 石器等26点が出土している。うち縄文土器3点(壺1, 深鉢1, 台付鉢1), 石器・石製品6点(磨石2, 石鏃2, 石剣1, 石棒1)を掲載する。これらは全て平成18年調査トレンチの埋め戻し土から採取されたものである。

(3) 所見

再発掘にあたっての懸念材料であった水田耕作による攪乱も少なく、ほぼ報告のとおり掘り上げることができた。泉坂下遺跡が注目を浴びるきっかけである第1トレンチの三次元情報を記録できた意義は大きく、今後の史跡整備・活用に寄与するものと考ええる。



第5図 第1トレンチ実測図



第6図 第1トレンチ遺構外出土遺物実測図

第4表 第1トレンチ遺構外出土遺物観察表

種目 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第6図 1	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	[4] (4.7)	内唇、内傾。複合口縁。口 縁部外面横位の、胴部斜位 の撫糸文。内面ヘラナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ チャート粒・ 雲母微量	良好	外面灰黄褐 色、内面にぶ い黄橙色	埋土 中。 F6a4	—	PL27 晩期粗製 土器
2	縄文 土器	台付 鉢か	脚台 部、5 %以下	— (29) [11.0]	直線的、内傾。外面縄文を 地文に、現存上位に沈線に よる方形区画(?)、下位に 横走沈線2条。内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒・チャ ート粒・泥岩 粒・海綿骨針 微量	良好	内外面灰白 色、外面一部 黄灰色	埋土 中。 F6a4	—	PL27 晩期
3	縄文 土器	盃	頭へ肩 部、5 %	— — —	内唇気味に強く内傾する肩 部から屈曲して立ち上がる 頸部。頸部外面ミガキ。肩 部変形工文字。内面ナデ、 一部輪積み痕が残る	メノウ粒中 量、チャート 粒少量、石英 粒・黒色砂粒・ 雲母微量	やや不 良。焼 成甘い	内外面にぶ い黄橙色・灰 黄褐色	埋土 中。 F6a7・ a8	—	PL27 大洞A式

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第6図 4	石棒 未成品	(56)	(39)	(0.7)	(189)	粘板岩	頭部破片。緩やかに括れて体部に接続。扁平。表面敲打痕	1トレ 内SK6 埋土	—	PL27 一部残存
5	石剣	(67)	(23)	(0.5)	(101)	粘板岩	破片だが扁平な器体が想定され石剣と判断した。先端部。表面風化により調整等不明	1トレ 埋土。 F6a4	—	PL27 一部残存
6	磨石	62	5.6	2.4	1215	多孔質 安山岩	不整楕円形の扁平な礫を利用。表裏面と両側縁を磨りにより整形し、両端を使用。特に幅の広い下端を中心に使用	1トレ 埋土。 F6a0	—	PL27 完存
7	磨石	62	5.8	1.9	(1000)	多孔質 安山岩	不整円形の扁平な礫を利用。表裏面と両側縁を磨りにより整形し、幅広の端部を使用。表面右側縁付近と下端付近に欠損	1トレ 埋土。 F6a0	—	PL27 一部欠損
8	石鏃	(23)	1.6	0.5	(10)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凹基有茎で両側縁に段をもついわゆる飛行機鏃。左右非対称	1トレ 埋土。 F6a3	—	PL27 晩期中葉 ～終末。 一部欠損
9	石鏃 未成品	34	3.2	1.2	9.8	チャート	大型の無茎鏃を志向したが基部の剥離調整に失敗し製作を中断したと推定される。側縁の調整は粗い	1トレ 埋土。 F6a4	—	PL27 完存

2 第8トレンチ (第7・8図)

(1) 調査概要

第8トレンチは、F6b8区からF6f8区までの区域に、長さ7m、幅2mで東西に長く設定されている。第1次調査の際に調査され、弥生時代の再葬墓5基が確認された。調査後は、山砂をクッションに入れた後、掘り上げた土をかけて埋め戻されている。これらの成果については「泉坂下遺跡Ⅱ」にまとめられている。

今次調査において、再葬墓等の三次元計測を実施する運びとなった。これに合わせ、将来の史跡活用をにらんだ遺構の三次元情報取得を目的として、第8トレンチを再発掘しての三次元計測を試みたものである。

また、再葬墓研究のためには、再葬墓の掘り込みは不可避との考えから、文化庁と調整の上、今次調査では1基のみサンプル的に再葬墓を完掘することとなった。その対象として選ばれたのは、第1次調査で確認され、その状態の良さを認められていた第26号土坑である。第26号土坑については、後述のとおりであるが、加えて実施した分析等については別節で記載する。

この他は、第1次調査の確認面までの再発掘である。その一方、遺構が確認されなかった範囲に小規模のサブトレンチを入れて、下層にも遺構がない旨の確認をしている。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

今次調査では、新たな遺構は確認されなかった。既知の遺構について、観察を加えたものを掲載する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第23号土坑 (SK23, 第7～9図)

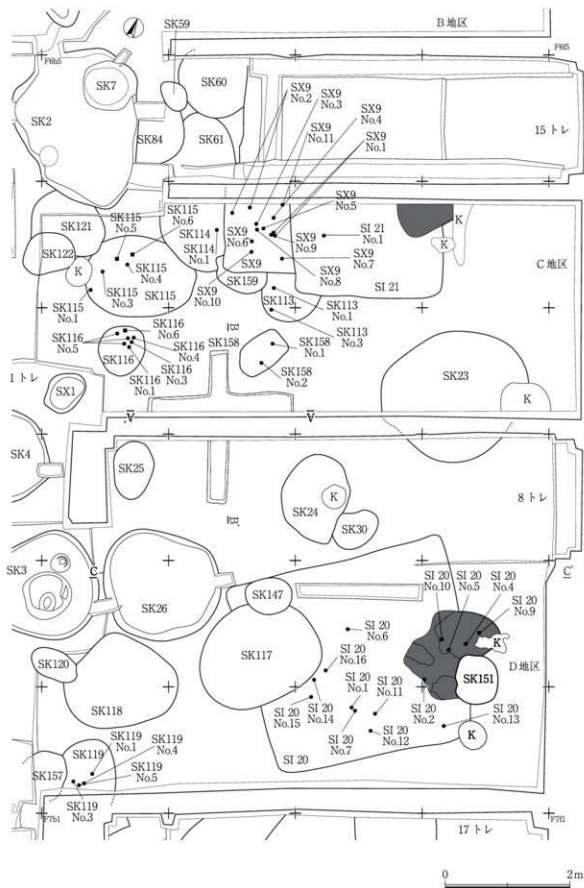
位置 F6d7区、F6e7区、F6d8区、F6e8区に位置する。第8トレンチとC地区に跨って確認されたが、ここで合わせて掲載する。第Ⅱ2層上面で確認できた。北東部に攪乱がある。

規模と形状 平面は長軸230cm、短軸202cm、長軸の向きはN-41°-Eの楕円形である。

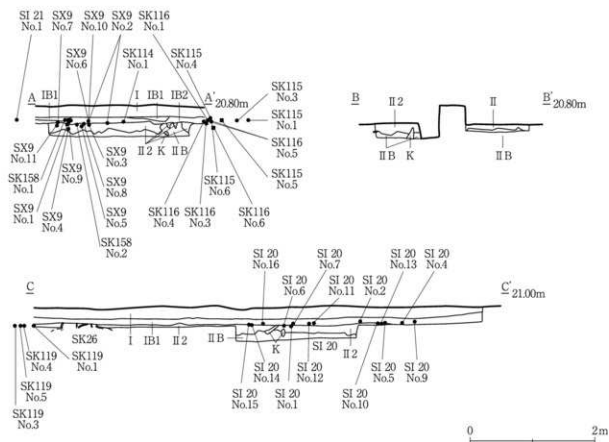
遺物出土状況 土器等173点、石器等3点が出土している。うち弥生土器9点(壺)、土製品2点(泥面子1、土偶1)を掲載する(第10図、第5表)。11の泥面子については、第ⅠB層との境界付近からの出土であるため、遺構の時期決定に影響するものではない。

再葬のため埋納された土器は以下の15点で、これは取り上げていない。ピンボールで探ると、いずれの土器も確認面から5cm前後で底部側に当たることから、これら15点の土器は、平坦な土坑底面に同じレベルで据えられたと考えられる。土器の据え置き姿勢は、土器1・2・6・7・10・12・15は直立気味、土器3・9・11・13は斜め、土器4・5・8・14は横倒しである。傾きの判別できる土器8点の主軸は、土器3・4・5は概ね南、土器11・13・14は概ね南東、土器8は概ね東を向いていて、一定の志向を窺えるものの、土器9のみ北を向いている。

土器の据え置き方は、南から北へ、東西4列の配列が考えられる。最も南の列では、土器2・3の順序は確認できないが、土器1の方が後から置かれたと考えられる。南から2番目の列では、土器7・8・6の順に置かれたと考えられ、東から西への順に置いている。南から3番目の列で



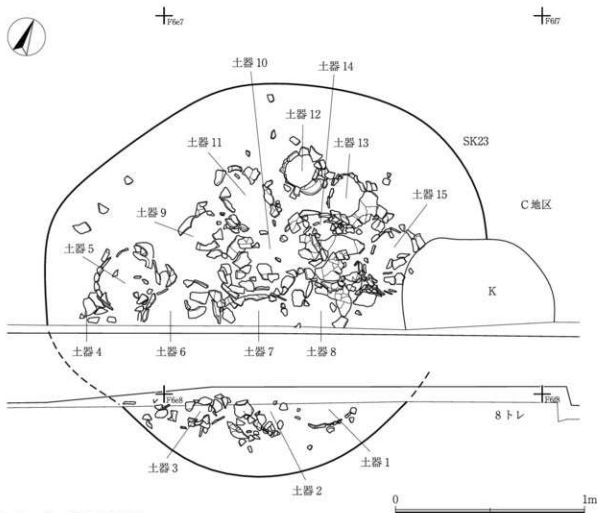
第7図 第8・15トレンチ、C・D地区実測図(1)



第8図 第8・15トレンチ、C・D地区実測図(2)

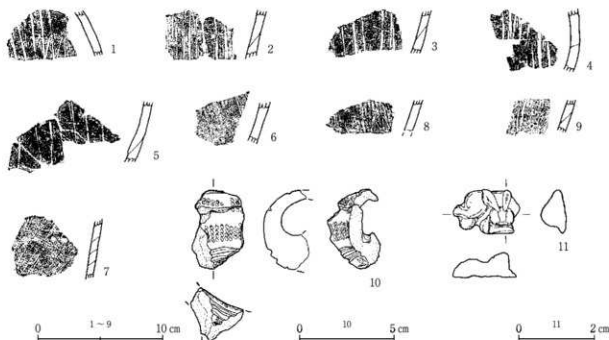
は、土器15・14・10・9・5の順に置かれたと考えられ、これも東から西への順に置いている。南から4番目、最も北の列では、土器13・12・11の順に置かれたと考えられ、やはり東から西への順に置いている。

- 土器1** 第1次調査で確認されている。明茶褐色の壺形土器で、器厚は10mmと厚く、胴径は33cmまで確認できる。胴部に粗く深い条痕文があり、煤等の付着は見られない。ほぼ直立して据えられている。
- 土器2** 第1次調査で確認されている。頸部から胴上部は淡い明褐色、胴中央部から下部は茶褐色の壺形土器で、胴径は25cm前後と考えられる。頸部は無文で、胴部には煤が付着する。ほぼ直立して据えられている。
- 土器3** 第1次調査で確認されている。淡い明褐色の壺形土器である。頸部は無文で、胴部は4条/cmのLR縄文が施されている。主軸を概ね南に向けて斜めに倒れている。
- 土器4** 新たに確認できた壺形土器で、胴下部のみ確認できる。平滑な器面に浅い条痕が部分的に施され、煤を吸着している。主軸を概ね南に向けて倒れていると考えられる。
- 土器5** 新たに確認できた淡い明褐色の壺形土器で、胴径は30cm前後と考えられ、現存する高さは約40cmである。胴部は4条/cmのLR縄文が施され、下部になると部分的になる。主軸をN-178°-Eに向けて倒れている。
- 土器6** 新たに確認できた内面は淡い褐色、外面は黒変した弥生の大型壺形土器で、胴径は40cm前後と考えられる。胴部は浅い条痕文が施され、薄く煤を吸着している。ほぼ直立して据えられている。



第9図 第23号土坑実測図

- 土器7 新たに確認できた淡い褐色に煤が吸着して黒変した壺形土器で、胴径は40cm前後と考えられる。間隔の空く条痕文が施されている。ほぼ直立して据えられている。
- 土器8 新たに確認できた、淡い褐色に煤を吸着して黒変した壺形土器で、現存する高さは約30cmである。胴中央部には3条/cmのLR縄文、胴下部には浅い条痕文が施されている。底部は無文で、底径は約15cmである。主軸をN-108°-Eに向けて倒れている。
- 土器9 新たに確認できた淡い明褐色の壺形土器で、胴径は約30cmである。主軸をN-5°-Eに向けて斜めに倒れている。
- 土器10 新たに確認できた、内面は淡い褐色、外面は薄く煤を吸着して黒変した壺形土器で、胴中央部の彎曲が強い。細くまばらな条痕文が施されている。ほぼ直立して据えられている。
- 土器11 新たに確認できたごく淡い褐色の壺形土器で、胴径は30cm前後と考えられる。胴部はまばらにごく細い条痕文が施され、煤の吸着はない。主軸をN-128°-Eに向けて斜めに倒れている。
- 土器12 新たに確認できたごく淡い褐色の壺形土器である。太く密な条痕文が施され、煤の吸着はない。ほぼ直立して据えられている。
- 土器13 新たに確認できた内外面とも淡い明褐色の壺形土器である。内面は刷毛状の整形痕があり、外面には太く密な条痕文が施され、煤の吸着はない。主軸をN-122°-Eに向



第10図 第23号土坑出土遺物実測図

第5表 第23号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第10図 1	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎, 内傾。外面粗い条痕文。条痕はわずかに斜位(右傾左傾)。施文単位は3条, 施文具幅は1.6cm。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	覆土中一括	—	PL27
2	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面粗い縦位の条痕文。施文は浅い。施文方向は下から上。単位は不明。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	土器6周辺	2片	PL27 土器6か
3	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎気味, 外傾。外面粗いほぼ垂直の条痕文。条痕の単位は2条か。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。外面浅黄色。内部褐灰色	土器10付近	—	PL27
4	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	外傾から内彎して内傾。外面にはほぼ垂直の粗い条痕文。施文は深く, 条痕はくっきりしている。施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・凝灰岩礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい褐色。内面・内部褐灰色	土器7付近	遺構外の1片接合	PL27 土器7か
5	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎, 外傾。外面には縦位の条痕文。条痕は疎ら。内面ヘラナデ。一部輪積み痕顕著	メノウ粒少量, 凝灰岩礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好。堅緻	外面橙色・にぶい赤褐色。内面橙色	土器14付近	4片	PL27 土器14か
6	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎気味, 外傾。外面斜位の条痕文。条痕は細かく, 施文は浅い。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	土器8付近	—	PL27 土器8か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第10図 7	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	直線的、外傾。器厚薄い。外面粗い斜位の条痕文。施文は浅く、条痕は細い。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部褐色	土器10付近	—	PL27 土器10か
8	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに内傾、外傾。外面わずかに斜位の条痕文。施文は浅い。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好。聚敏	内外面にふい赤褐色	土器15付近	—	PL27 土器15か
9	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	直線的、外傾。外面粗いわずかに斜位の条痕文。施文は浅く、条痕は細い。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	普通	外面暗赤褐色。内面にふい黄褐色	土器13付近	—	PL27 土器13か

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第10図 10	土偶	(42)	(28)	—	(158)	中空土偶の肩から腕付近か。部位により厚みに差があり、胴部から腕にかけての内面と推定される面が認められる。現状で外面に沈線2条と1条、縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面橙色。内面褐色	遺構確認	2片	PL27 C地区Nk 75と同一 個体。 混入
11	泥面子	1.7	1.2	—	0.7	厚さ0.7cm。ウサギが寝ている姿を表現。裏面尻部に径1.5cm、深さ3cmの小孔。製作技法に関するものか	精良。メノウ粒・雲母細片微量	良好	橙色	覆土上層一括	—	PL27 定存 上層遺物の 混入

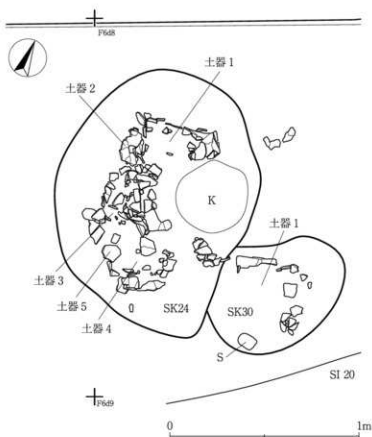
けて斜めに倒れている。

土器14 新たに確認できた明茶褐色の壺形土器で、高さは50～55cm、胴径は30～35cmと考えられる。口縁部は3条/cmのLR縄文、胴上部から中央部はまばらで鋭く深い条痕文が施され、頸部と胴下部は無文である。胴中央部には薄く煤が付着する。主軸をN-120°-Eに向けて倒れている。

土器15 新たに確認できた明茶褐色の壺形土器である。密な条痕文が施されている。ほぼ直立して据えられている。

所見 第1次調査の際、第8トレンチで確認された弥生時代中期の再葬墓である。今次調査では北側に隣接するC地区を調査し、土坑全体を観察することができた。第1次調査では土器1～3の3点の埋納が確認されていたが、今次調査では、15点までの土器の埋納が確認できた。他の再葬墓同様掘り込みはせず、平面での確認のみを行った。また、地表面から設定したセクションベルトも除去せず、残置した。

第24号土坑 (SK24, 第7・8・11図)



第11図 第24・30号土坑実測図

位置 F6c8区, F6d8区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸133cm, 短軸99cm, 長軸の方位はN-5°-Wの不整な楕円形である。土坑中央やや東寄りに径約35cmの円形の攪乱がある。

重複関係 第30号土坑を切っている。

遺物出土状況 遺構確認面には以下の5点の土器が確認できる。いずれも第1次調査で確認したものであるが、観察を進めたところ、土器2は土器1の蓋と考えられた。これによって、再葬のため埋納された壺形土器は土器1・3・4の3点と所見を改めた。これらは取り上げていない。

- 土器1** 第1次調査で確認されている。淡い明褐色の壺形土器で、現存する高さは45cmである。胴部には条痕文が施され、煤が吸着している。底部は無文である。確認された4点の土器のうち最も北側にあり、主軸をN-118°-Wに向けて倒れている。胴部の南面する部分が攪乱により失われている。
- 土器2** 第1次調査で確認されている。外面はごく細かいLR縄文が施された土器である。第1次調査では壺形土器と判断していたが、状況から、土器1の蓋と考えられる。土器1の下に大部分が隠れており、土器1頸部の西側にわずかに露出する。
- 土器3** 第1次調査で確認されている。ごく深い褐色の壺形土器である。胴部はごく浅い条痕文が施され、胴下部には輪積み痕が残る。土器1・2の南側に約10cm離れて、土器4・5からはすぐ北側に置かれている。東半分が攪乱されているが、口縁-胴部が確認でき、主軸をN-134°-Wに向けて倒れている。
- 土器4** 第1次調査で確認されている。赤褐色の壺形土器である。浅い条痕文が施される。確認された壺形土器のうち最も南側にある。主軸をN-113°-Wに向けて倒れている。
- 土器5** 第1次調査で確認され、土器4の一部と認識していた。淡い暗褐色の土器である。外面は条痕文が施される。土器4の蓋と考えられるため、所見を改めて土器5として取り扱う。

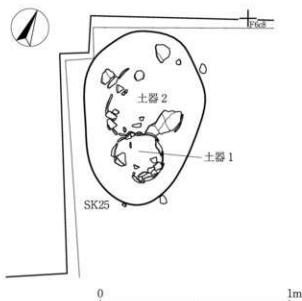
所見 第1次調査の際、第8トレンチで確認された弥生時代中期の再葬墓である。今次調査で確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った結果、再葬のため埋納された壺形土器は土器1・3・4の3点と所見を改めた。

第25号土坑 (SK25, 第7・8・12図)

位置 F6b8区に位置し、第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸92cm, 短軸63cm, 長軸の方位がN-10°-Wの楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には以下の2点の土器が確認できる。いずれも第1次調査で確認したもので、観察を進めた。周辺の再葬墓と比較すると、土器への攪乱度合いは大きく、遺構底面は浅いものと推測される。土器の埋納手順については、まず土器2を斜めに置き、そこに土器1を立てかけたものと考えられる。



第12図 第25号土坑実測図

土器1 第1次調査で確認されている。

淡い明褐色の壺形土器で、胴径は27～28cmである。胴部は細かい条痕文が施される。主軸をN-53°-Wに向けて倒れている。

土器2 第1次調査で確認されている。ごく淡い褐色の壺形土器で、確認できる高さは40～45cm, 胴径は35cm前後である。胴部は細かい条痕文が施され、煤付着による黒変が現れる。主軸をN-76°-Wに向けて倒れている。

所見 第1次調査の際、第8トレンチで確認された弥生時代中期の再葬墓である。今次調査で確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った。再葬のため埋納された壺形土器は2点という所見に変更はない。

第26号土坑 (SK26, 第7・8・13～15図)

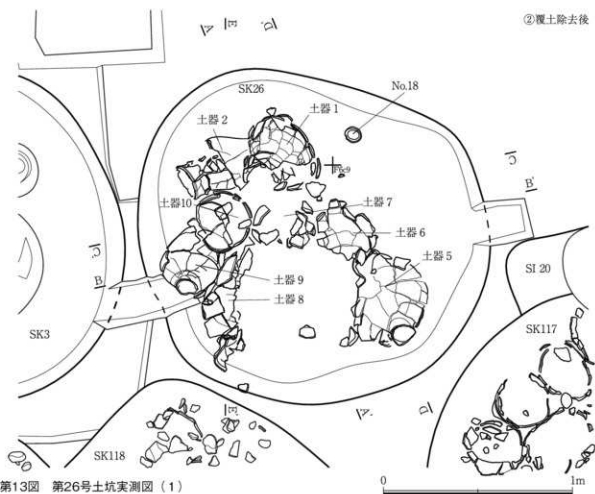
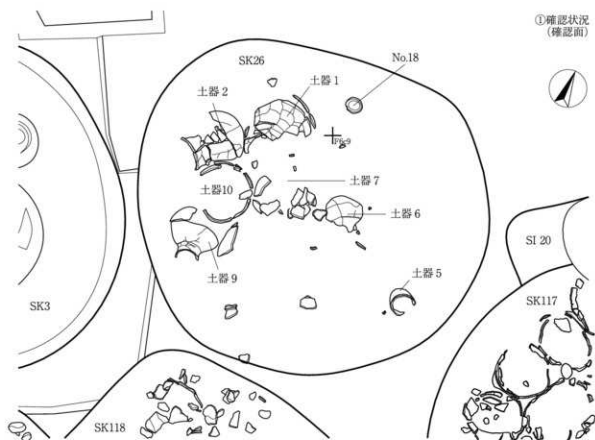
位置 F6b8区, F6e8区, F6b9区, F6e9区に位置する。第8トレンチとD地区に跨って確認されたが、ここで合わせて掲載する。第II 2層上面で確認できた。南部に径60cmの円形の攪乱がある。

規模と形状 平面は長軸190cm, 短軸180cm, 長軸の方位はN-71°-Wの不整な楕円形である。壁高は確認面から最大高26cmを測り、外傾して立ち上がっている。底面は概ね平坦である。

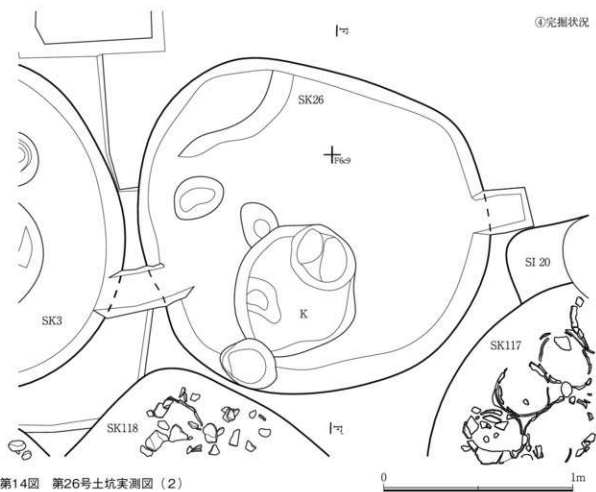
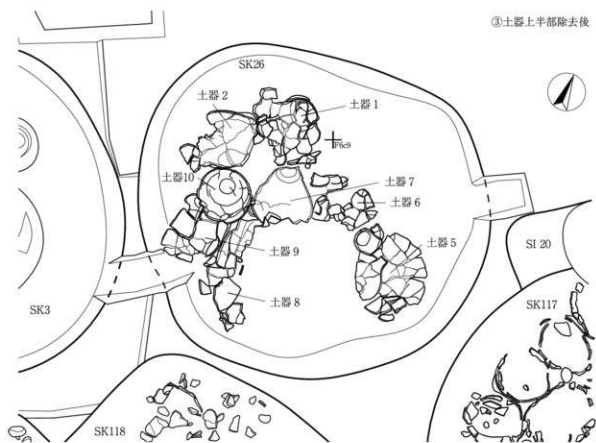
土層 9層を記載するが、4・5・22～25は攪乱である。3は埋納土器を据えるために盛られた層で、1・2層が埋納の際に掛けられた土であるが、ほとんどを1層が占める。人為堆積と考えられる。

土層解説

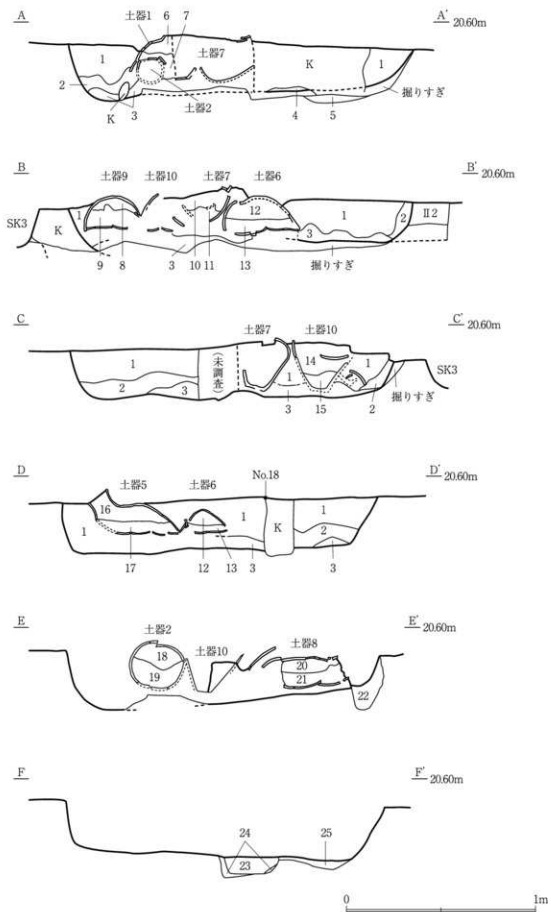
- 1 黒褐色 (7.5YR2/1) 黄褐色ローム (10YR8/6) 粒子少量, 粘性やや強
- 2 黒褐色 (7.5YR2/1) 黄褐色ローム (10YR8/6) 粒子多量
- 3 黄褐色ローム (10YR8/6) 黒褐色 (7.5YR2/1) 土多量, 1・2層と比較すると締まり強。土坑周囲より中央部が高いため、埋納土器を据えるための置き土と考えられる
- 4 黒色 (10YR3/3) 締まり強, 攪乱
- 5 黒褐色 (10YR3/2) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり弱, 粘性中, 攪乱
- 22 黒褐色 (10YR3/1) ローム中ブロック少量, ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まりやや強, 粘性やや弱, ビット状の攪乱



第13図 第26号土坑実測図(1)



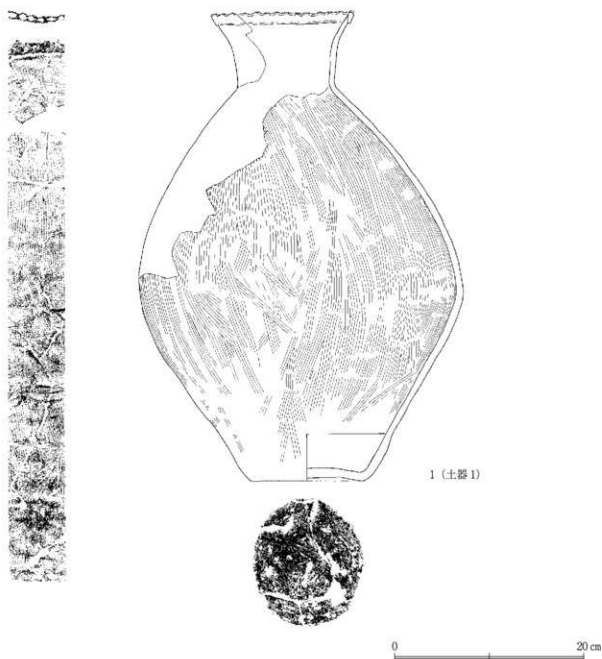
第14図 第26号土坑実測図(2)



第15図 第26号土坑実測図(3)

- | | |
|-------------------|---|
| 23 黒色 (10YR 2/1) | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性強, ビット状の攪乱 |
| 24 褐色 (10YR 4/6) | ローム小ブロック多量, ローム粒子多量, 黒色土小ブロック中量, N t-S極少量, 締まりやや強, 粘性やや弱, ビット状の攪乱 |
| 25 暗褐色 (10YR 3/3) | ローム粒子多量, 黒色土小ブロック多量, ローム小ブロック中量, N t-S極少量, 締まり弱, 粘性強, 攪乱 |

遺物出土状況 土器等3,737点, 石器等693点, 鉄製品1点が出土している。うち縄文土器3点(鉢2, 深鉢1), 弥生土器18点(壺17, 不明1), 石製品1点(石鏃)を掲載する(第16~24図, 第6表)。これらのうち, 再葬のため埋納された土器は以下の8点で, 土器内で観察できた土層も合わせて記す。第26号土坑はサンプルとして掘り上げているためこれらの土器は全て取り上げられており, 詳細な観察は第6表のとおりである。



第16図 第26号土坑出土遺物実測図(1)



第17図 第26号土坑出土遺物実測図(2)

0 20 cm

これら8点の土器は、平坦な土坑底面に同じレベルで据えられ、3層の土で固定されたと考えられる。土器の据え置き姿勢は、全て斜めに倒れている。主軸は、土器1・7・8・9は概ね南、土器2は概ね南西、土器5・6は概ね南東を向いていて、南向きの扇状に広がるように並べられている。土器の据え置き方は、南から北へ、東西3列の配列が考えられる。最も南の列は土器5・8の2点で、置かれた順序は確認できない。なお、2点の土器の間には前述のとおり径60cmの攪乱があり、別個体の土器が埋納されていた可能性が高い。南から2番目の列では、土器9・10・7の順に置かれたと考えられ、この3点は西から東への順に置いている。しかし、その東側にある土器6は、土器7より先に置かれたと考えられ、土器9・10との先後は不明である。南から3番目、最も北の列では、土器2・1の順に置かれたと考えられ、これも西から東への順に置いている。

土器1 (第16図1) 第1次調査で確認されている壺形土器で、主軸をN-179°-Eに向けて倒れている。胴部は土器2・7胴下部～底部の上に乗る。埋納の際、最後に置かれた土器である。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器1内土層解説 (第15図)

- 6 暗褐色 (10Y R 3/3) ローム粒子極少量、N t-S極少量、締まり中、粘性中
 7 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、N t-S極少量、締まり中、粘性中



第18図 第26号土坑出土遺物実測図(3)

土器2 (第17図2) 第1次調査で確認されている壺形土器で、主軸をN-136°-Wに向けて倒れている。胴下部～底部は土器1 胴部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器2内土層解説 (第15図)

- 18 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム小ブロック少量, N t-S少量, ローム粒子極少量, 締まり中, 粘性中
 19 黒褐色 (10Y R 2/2) ローム小ブロック極少量, ローム粒子極少量, N t-S極少量, 締まり中, 粘性中

土器5 (第18図3) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-132°-Eに向けて倒れている。

胴下部～底部は土器6 頸部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器5内土層解説 (第15図)

- 16 褐色 (10Y R 3/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, N t-S極少量, 炭化物粒子極少量, 焼土粒子極少量, 白色骨粉極少量, 締まり弱, 粘性弱
 17 黒褐色 (10Y R 2/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, N t-S極少量, 締まりやや弱, 粘性中。16層より黒味が強く、有機質が強い

第6表 第26号土坑出土土物観察表

採図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第16図	1	弥生土器	壺 口縁～ 底部 70%	[14.9] 500 120	平底から胴部が外傾して立ち上がる。20cm付近で径が最大となり、その上部は内彎・内傾し、頸部で屈曲して外反しながら口縁部に至る。胴部最大径約35cm。やや下膨れの器形。口縁部は複合口縁で、端部はキザミにより小波状をなす。頸部ナデ。胴部外面はくっきりした条痕文。施文順は胴部上半と下半、のち最大径付近に補足。条痕は上半で左傾、下半で垂直。一部右傾。最大径付近はやや強い左傾。施文方向は上半が上から下へ、最大径付近以下から上へ。施文具は幅約1cm。条痕の単位は5条。内面ヘララナデ。底部ヘラケズリ。一部に線状の任痕。元は木葉痕か	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・海綿骨針微量	普通。焼けムラ。胴部二次焼成	外面明赤褐色・黒褐色・内面明赤褐色・赤褐色・黄褐色	葛城北部に口縁部を南向きに横倒した土器2に倒れるような状況	原位置を保つ出土破片を接合	PL28 土器1 第1次調査で確認。報告Ⅱで既報外面10～17cm付近に炭化物付着。そこから液体状のもの垂れた跡。内面5～10cm付近の一部分に炭化物付着。胴下部から底面に黄褐色物質付着
第17図	2	弥生土器	壺 口縁～ 底部 95%	155 420 104	上げ底気味の底部から胴部が外傾して立ち上がる。21cm付近に最大径(30.0cm)をもつ。その上位は内彎・内傾してすぼまり、外反・外傾する頸部を経て口縁部に至る。口縁部は平縁で外傾を肥厚させ縄文を施文。頸部以下外面条痕文。条痕は垂直。一部左傾。施文順は頸部・胴部上半から胴部下半。施文方向は頸部・胴部上半は上から下、胴部下半は下から上。施文単位は5条でしっかりした条痕。施文具の幅は1.5cm。内面ナデ。底部木葉痕	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒微量	良好。胴部二次焼成	サンドイッチ状。外面に赤褐色・内面赤褐色・内部褐色	葛城北部で口縁部を西に横倒した土器1に倒れたような状況	原位置を保つ出土破片を接合	PL28 土器2 第1次調査で確認。報告Ⅱで既報胴部外面15～25cm付近、内面2～15cm付近に炭化物付着
第18図	3	弥生土器	壺 口縁～ 底部 95%	[12.4] 496 98	平底から胴部が外傾して立ち上がり、最大径のある24cm付近からは内彎・内傾して内傾する頸部に続き、わずかに外反して口縁部に至る。最大径34.5cm。成形の歪みにより輪が傾く。口縁部は直口縁に近いが口縁部外面のナデにより緩やかな稜をもつ。端部は小波状。外面条痕文。底部近くには無文部が残る。条痕は上半は垂直ないわずかに右傾、下半は左傾。施文順は口縁部～胴部上半から胴部下半、のち一部胴部上半に補足。施文方向は口縁部～胴部上半は上から下へ、胴部下半は下から上へ。主要な条痕の単位は5条だが、施文具の先割れによる細かい条痕は多数。施文具の幅は2.0cm。内面ナデ。底部木葉痕	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好。胴部二次焼成	外面赤色・褐色・内面に赤褐色	葛城南部で口縁部を南向きに横倒した土器1に倒れたような状況	原位置を保つ出土破片を接合	PL28 土器5 内面9～13cm付近に炭化物付着



第19図 第26号土坑出土遺物実測図(4)

土器6(第19図4) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-139°-Eに向けて倒れている。
 頸部は土器5胴下部～底部の上に乗る、胴部は土器7胴部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器6内土層解説(第15図)

- | | | |
|----|--------------|--|
| 12 | 黒褐色(10YR2/2) | ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性弱 |
| 13 | 黒褐色(10YR3/2) | ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性やや弱 |

土器7(第20図5) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-169°-Eに向けて倒れている。
 胴部は土器6・10胴部の上に乗る。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器7内土層解説(第15図)

- | | | |
|----|--------------|-----------------------------|
| 10 | 黒褐色(10YR3/2) | Nt-S少量、ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱 |
| 11 | 黒褐色(10YR2/2) | ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まりやや弱、粘性弱 |



第20図 第26号土坑出土遺物実測図(5)

土器8(第21図6) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-170°-Eに向けて倒れている。

胴下部～底部は土器9・10胴部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器8内土層解説(第15図)

20 黒褐色(10YR3/2) ローム粒子少量, Nt-S少量, ローム小ブロック極少量, 炭化物粒子極少量, 締まり中, 粘性中

21 黒褐色(10YR2/2) ローム小ブロック極少量, ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

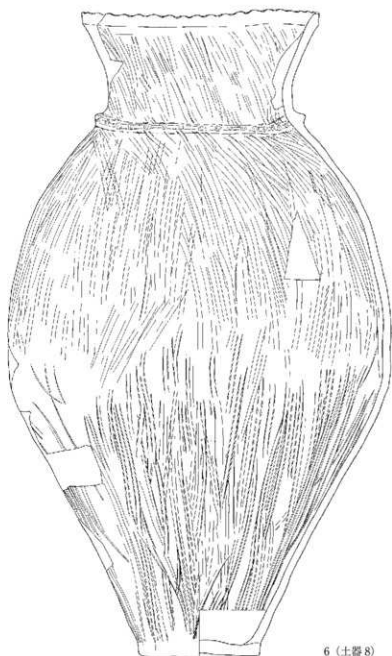
土器9(第22図7) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-170°-Eに向けて倒れている。

胴部は土器8胴部の上になり、胴下部～底部は土器10胴部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土器9内土層解説(第15図)

8 黒褐色(10YR3/2) ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まりやや弱, 粘性弱

9 黒褐色(10YR3/1) ローム粒子中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性弱



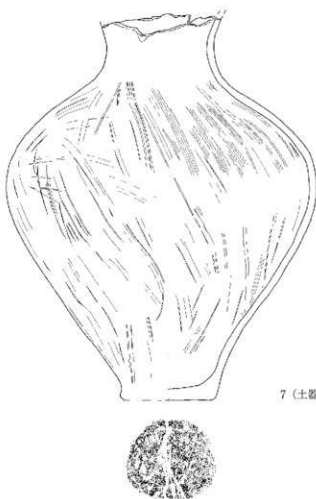
6 (土器8)



第21図 第26号土坑出土遺物実測図(6)

土器10(第23図8) 新たに確認された壺形土器で、主軸をN-174°-Eに向けて倒れている。胴部は土器9胴部の上に乗る、土器7胴部の下になる。土器内の土層は2層に分層でき、埋納後に流れ込んだ自然堆積と考えられる。

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第19図	4	弥生 土器	壺 口縁～ 底部 60%	[23.0] 46.8 10.4	平底から胴部が外傾して立ち上がり、最大径のある22cm付近からはやや強く内彎・内傾し、わずかな段をもって頸部に続き、外反して口縁部に至る。最大径33cm、成形の歪みにより輪が傾く。口縁部は複合口縁に作り、外面に右下がりの条痕文、内面に幅約1cmの凹線。端部はキザミにより小波状。胴部から頸部外面ミガキ。口縁部外面くっきりした条痕文。条痕は上半左傾、下半はやや立ち気味の左傾。施文順は胴部上半から胴部下半、のち一部胴部中に補足。施文方向は下から上へ。条痕の単位は4条。施文具の幅は1cm。内面丁寧なナデ。底部木葉痕	メノウ粒少量、メノウ礫、泥岩礫・チャート粒・雲母 細粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状、外面にぶい黄褐色、内面褐色	墓壙中央部から口縁部を南に向けて出土。一部土器7の下になる。口縁～胴一部は攪乱により欠損	ほぼ原位置を保って出土した破片を接合	PL28 土器6 外面13～23cm付近の一部に炭化物付着。その下位には液体状のものが重れた痕跡
第20図	5	弥生 土器	壺 口縁～ 底部 60%	15.8 45.2 13.0	平底から胴部が外傾して立ち上がる。底部周囲一部粘土継補足。27cm付近で径が最大となり、その上部は強く内傾し、頸部で屈曲し外反する口縁部に至る。胴部最大径33.0cm。最大径が胴部の上位にあり肩が張る器形。口縁部は外面が肥厚し、下端に稜をもつ。外面無文。内面幅約1cmの凹線。端部はキザミにより小波状。外面は頸部以下条痕文。条痕は上半で左傾、下半でやや立ち気味の左傾。施文順は胴部上半から胴部下半、のち一部胴部上半に補足。施文方向は肩部は上から下へ、胴部中位以下は下から上へ。下半は底部付近から最大径付近まで一気に引き上げる場合が多い。条痕の単位は不明(4条か)。施文はやや雑。内面は口縁部ミガキ、頸部ヘラケズリ、胴部ナデ、輪積み痕が残る。底部木葉痕	メノウ粒・泥岩礫・チャート礫微量	やや不良、焼けムラ。胴下部二次焼成	外面灰黄褐色・黒褐色にぶい黄褐色。内面灰黄褐色・黒褐色	墓壙内中央部に口縁部を南西に向けて出土。胴部が南側の攪乱により欠損	ほぼ原位置を保って出土した破片を接合	PL29 土器7 外面20～24cm付近に炭化物付着。その下位には14cm付近まで液体状のものが重れた痕跡。内面6.5～13.5cm付近の一部に炭化物付着
第21図	6	弥生 土器	壺 口縁～ 底部 50%	[25.1] 68.8 12.6	平底から胴部が外傾して立ち上がる。34cm付近で径が最大となり、その上部はやや強く内彎・内傾し、頸部で屈曲し外反する口縁部に至る。胴部最大径42.7cm前後。大型。口縁部は外面が肥厚し、稜をもつ。端部にキザミ。頸部に突帯を貼り付け、連続刺突。外面は口縁部以下粗い条痕文。条痕は上半で左傾、下半で垂直、一部右傾。施文順は胴部上半から胴部下半、のち一部胴部上半に補足。施文方向は下から上へ。下半は底部付近から最大径付近まで一気に引き上げる場合が多い。施文具は2種が認識でき、条痕の単位は2条と3条。施文はやや雑。胴部内面に一部輪積み痕が残る。底部木葉痕	メノウ粒・泥岩礫少量、メノウ礫・泥岩礫・チャート粒微量	普通、焼けムラ。胴部下半二次焼成	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、一部黒褐色。内面淡黄褐色	墓壙南部で口縁部を南に向けて出土。横倒しになった庄で濡れたような状況。東部に攪乱を受け胴部半分を欠	原位置を保って出土した破片を接合。一部横倒破片接合	PL29 土器8 外面27～35cm付近の一部、内面5～13cm付近と24～28cm付近の一部に炭化物付着

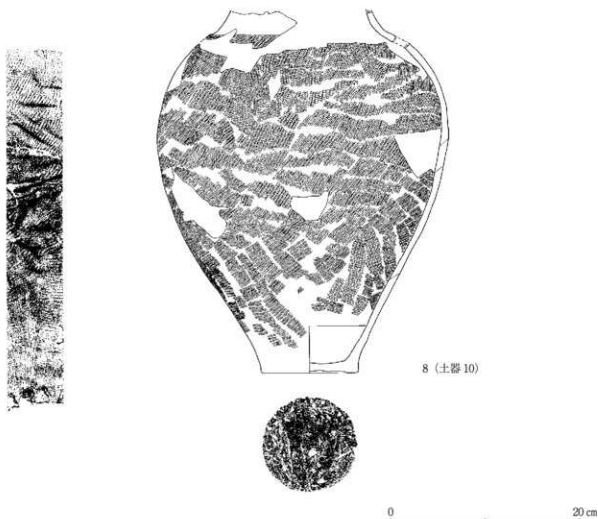


7 (土器9)

0 20 cm

第22図 第26号土坑出土遺物実測図(7)

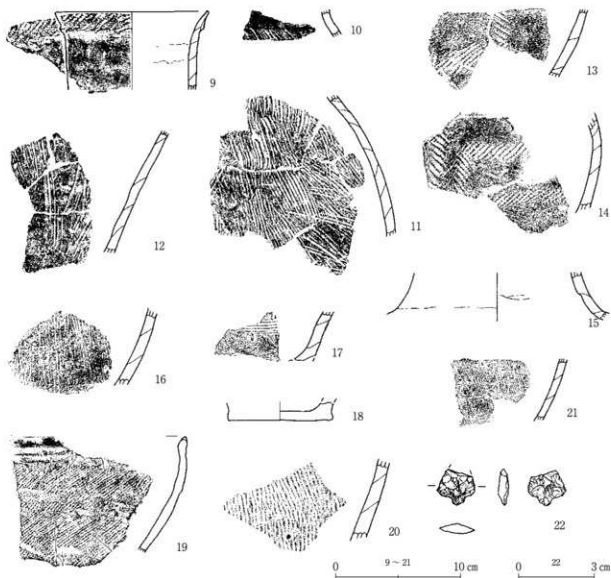
挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第22図	7	弥生土器	頸~底部, 95%	— (41.1) 9.4	平底から胴部が外傾して立ち上がる。23cm付近で径が最大となり、その上部はやや強く内彎・内傾し、外反する頸部に至る。口縁部を欠失。最大径32.8cm。外面糸織文。頸部と胴下部はナデ。糸織文は垂直または左傾。一部横位と右傾。施文順は胴部上半から胴部下半。施文方向は胴部上半は横位のち上から下へ、胴部下半は下から上へ。主要な委痕の単位は4条だが、施文具の先割れによる細かい委痕は多数。施文具の幅は1.5cm。施文はやや雑。内面ナデ。底部木葉痕(一部残存)	メノウ粒少量、泥岩礫、石英、石英礫、石英粒、チャート粒微量	普通。下部焼成	内外面にぶい橙色。底部付近褐灰色。	墓域南西部で頭部を南西に向けて横位で出土。底面は直立する土器10の下の位置。東側には土器8が同向きで出土。	原位置を保って出土した破片を接合	PL29土器9内面7~10cm付近炭化物付着(油しみ状)



8 (土器 10)

第23図 第26号土坑出土遺物実測図(8)

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第23図	8	弥生土器	壺	頸~底部, 70% 100	口径 (38.5) 器高 100 底径 100 平底から胴部が外傾して立ち上がる。25cm付近で径が最大となり、その上部はやや強く内彎・内傾。胴部最上部以上を欠失。最大径30.8cm。胴部外面縄文。底部付近はナデ。推定同一個体内からは頸部はナデと考えられる。縄文は単筋LRを縦横に施文。内面ナデ。一部ヘラケズリ。底部木葉痕	メノウ粒少量 石英礫・チャート粒微量	普通。胴部下半二次焼成	外面赤色、内面はふい橙色	墓坑中央西寄り。土器1・5・7・6が構位上中出立出上層に出土して、土器作等より壊損	原位置を保って出土した破片を一部遺構破片接合	PL30土器外面に鈎状痕2か所。内面10~14cmの一化物付着。胴下部外面一化物付着



第24図 第26号土坑出土遺物実測図(9)

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第24図 9	弥生土器	甕	口縁～ 頸部、5% 以下	[122] (6.2) —	わずかに外反・わずかに外傾する頸部から外反し段を有する口縁部。段は口縁部外面に粘土板を貼り付けて作る。口縁部外面縄文、頸部外面ミガキ。内面ナデ、一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色、内部褐色	南部。土器3西側に隣接。西側攪乱との間。口を南東に向け、坑底から約15cm上	—	PL30 土器11 No10～12 と同一個体
10	弥生土器	甕	頸～胴部、5%以下	— — —	内彎気味で内傾する胴部から外反する頸部。胴部の外面斜位の委祺文。頸部ミガキ。委祺文を一部磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色、内部褐色	南部攪乱中	—	PL30

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第24図 11	弥生 土器	壺	胴上 部, 5 %以下	— — —	内甕, 内傾。外面斜位の条 痕文。条痕の単位は3条か。 内面ナデ・ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ チャート粒・ 褐色砂粒微 量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐色	土器3 付近	6片	PL30 土器9 No9-10- 12と同一 個体
12	弥生 土器	壺	胴下部 (底部 付近), 5%以下	— (9.7) —	外反, 外傾。外面縦位・斜 位の条痕文。施文方向は下 から上。内面ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ チャート粒・ 泥岩粒・褐色 砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐色	南部攪 乱中	4片	PL30 外面下3 分の1付 近, 内面 上3分の 1付近に 炭化物付 着
13	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内甕, 外傾。外面縄文によ るし字形。長方形(?)の一 部か。内面ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ チャート粒・ 泥岩粒・海綿 骨針微量	良好	外面黒色・に ぶい褐色。内 面にぶい赤 褐色	2区一 括	3片, うち 遺構外1 片	PL30 外面一部 埋付着。 No14と同一 個体
14	弥生 土器	壺	胴部最 大径付 近, 5 %以下	— — —	内甕, 外傾から内傾。外面 縄文により長方形(?)を 描く。一部縄文は多条縄文 か。内面ヘラナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面にぶい 褐色・にぶい 赤褐色。内面 にぶい赤褐色	確認面	2片, うち 遺構外1 片	PL30 外面一部 埋付着。 No13と同一 個体
15	弥生 土器	壺	頸部, 5%以下	— — —	内傾する胴部から屈曲して 外反・内傾する頸部。頸部 下端で径16.0cm。内外面ナデ。 内面に輪積み痕	メノウ粒少量, 石英礫・ 石英粒・チャ ート粒・海綿 骨針微量	良好	外面明赤褐 色。内面灰赤 色	南部攪 乱中	2片, うち 遺構外1 片	PL30
16	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内甕, 外傾。外面ほぼ縦位 の条痕文。条痕はやや細く 密。内面ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ 泥岩粒・海綿 骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面暗赤 褐色。内面灰 褐色。内部褐 灰色	南西部 一括	—	PL30 外面炭化 物付着顕 著。内面 一部炭化 物付着
17	弥生 土器	不明	不明 不明	— — —	わずかに外反, 外傾。外面 ヘラナデ後横走する条痕文。 内面ヘラナデ	メノウ粒少量, チャート粒・ 礫・チャート 粒・雲母細粒 微量	やや不 良。焼け けムラ	外面暗赤褐 色。内面に ぶい赤褐色・赤 褐色	東部パ ルト一 括	—	PL30
18	弥生 土器	壺か	底部, 5%以下	— (1.5) 8.2	平底。胴部が外傾して立ち 上がる状況だが, 胴部最下 段から欠失。底部ヘラナズ リ, 内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・雲母 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 黒褐色	確認面。南 に傾 き, 内面 を上して 出土	—	PL30 報告Ⅱで 既報(土 器3)
19	縄文 土器	鉢	口縁~ 胴部, 15%	— — —	胴部は内甕・外傾して立ち 上がり, 外反して口縁部に 至る。口縁は端部にキザミ を入れ小突起の連続。胴部 外面縄文。一部輪積み痕。 内面丁寧なミガキ	やや精良。 メノウ粒・石 英粒・チャ ート粒・泥岩 粒微量	良好。 若干焼 けムラ	外面橙色・灰 褐色。内面に ぶい黄褐色・ 黒褐色	土器4 脇	—	PL30 大調BC 式。混入
20	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内甕, 外傾。外面器糸文 内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・ 黒色砂粒・褐 色砂粒微量	二次 焼成	外面にぶい 黄褐色・浅黄 褐色。内面に ぶい黄褐色・ ぶい・橙色	東部パ ルト一 括	—	PL30 混入
21	縄文 土器	鉢	胴部, 5%	— — —	内甕, 外傾。外面微細交 糸文。内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・ チャート粒・ 泥岩粒・雲母 細粒微量	二次 焼成	外面黒褐色 内面にぶい 黄褐色	北西部 上層一 括	—	PL30 外面炭化 物付着顕 著。内面 わずかに 炭化物付 着

検出 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第24図 22	石甌	(14)	1.5	0.4	(0.7)	チャート	凸蓋有蓋甌。先端部欠損。表面中央部は調整剥離が達せず、素材時の剥離面が残リ、厚みも残る	南西部 掘削中	—	PL30 一部欠 損。混入

土器10内土層解説 (第15図)

14 黒褐色 (10YR 3/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性弱

15 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性やや弱

所見 第1次調査の際、第8トレンチで確認された弥生時代中期の再葬墓である。今次調査では、第8トレンチ南側のD地区まで調査範囲を広げ、さらには掘り込んでの調査をすることで、全容を知ることができた。加えた分析等については、第4章で記載する。

第30号土坑 (SK30, 第11図)

位置 F6a8区、第24号土坑の東側に位置し、第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸77cm、短軸58cm、長軸の方位はN-27°-Eの楕円形である。

重複関係 第24号土坑に切られている。

遺物出土状況 遺構確認面には以下の1点の土器が確認できた。これは第1次調査で確認したもので、観察を進めた。

土器1 第1次調査で確認されている。淡い暗褐色の壺形土器である。胴部は粗い条痕文が施される。主軸をN-70°-Eに向けて倒れている。

所見 第1次調査の際、第8トレンチで確認された弥生時代中期の土器棺墓である。今次調査で確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った。再葬のため埋納された壺形土器は1点という所見に変更はない。

B 遺構外出土遺物

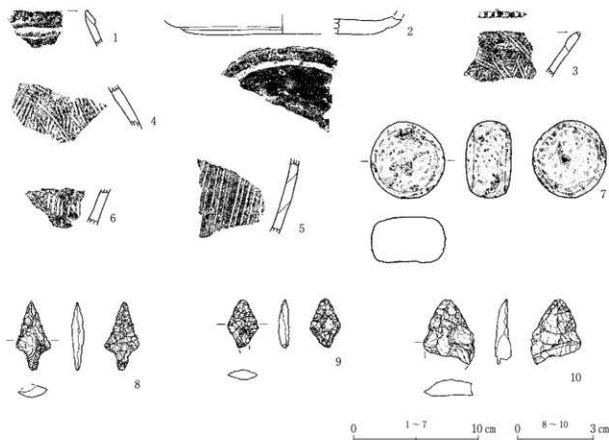
遺構外で確認された遺物について解説する。(第25図、第7表)

遺物出土状況 土器等510点、石器等22点が出土している。うち縄文土器2点(深鉢1、浅鉢1)、弥生土器4点(壺)、石器・石製品4点(石甌3、磨石1)を掲載する。なお、これらの多くは、調査済トレンチの埋め戻し土からの出土である。

(3) 所見

クッションとした山砂の除去に時間を要したものの、新たな攪乱もなくほぼ第1次調査のとおり掘り上げることができた。再葬墓遺構の三次元情報を記録できた意義は大きく、今後の史跡整備・活用に寄与するものと考えられる。

今次調査では、要項に掲げたとおり再葬墓の性格・特徴等の解明を目的として、一部の再葬墓を掘り込み、精査をすることとしている。第8トレンチで確認されている第26号土坑は、その保存状態の良さから、調査対象として選定された。



第25図 第8トレンチ遺構外出土遺物実測図

第7表 第8トレンチ遺構外出土遺物観察表

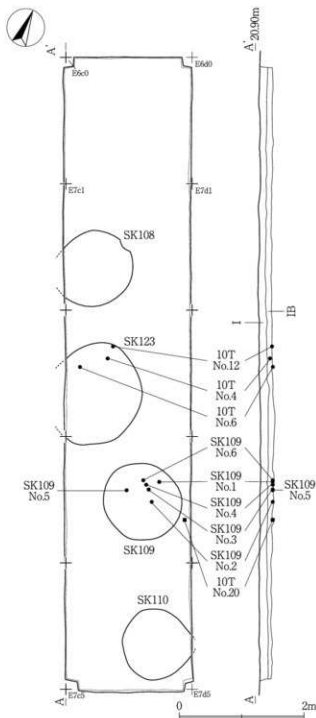
挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第25図 1	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	胴部内彎気味から口縁部わずかに外反。複合口縁。内外面ナデ。内面輪積み痕が残る	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒, 海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色・黒色, 内面にぶい黄褐色	F6b8再発掘中	—	PL31 晩期粗製土器。外面煤付着
2	縄文土器	浅鉢	底部, 5%	(15) [14.0]	平底。底部周囲に沈線めぐらす。内外面ミガキ	メノウ粒少量, 泥岩粒・石英粒・海綿骨針微量	普通	内外面黒色	F6c8サブトレ, II層	—	PL31 外面炭化物付着
3	弥生土器	壺	口縁部, 5%以下	—	わずかに外反, 大きく外傾。端部にキザミ。端部下1cm内面わずかに肥厚。外面横位・斜位の条痕文。施文順は右傾→横位→左傾。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にぶい褐色。内部褐色	再発掘中一括	—	PL31
4	弥生土器	壺	胴部上半, 5%以下	—	内彎, 内傾。外面斜位の条痕文が交差。施文順は右傾→左傾。内面ナデ	砂質。メノウ細粒少量, 石英細粒・チャート細粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい赤褐色。内面浅黄褐色。内部褐色	F6c8サブトレ, II層	—	PL31
5	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内彎, 外傾。外面左傾の条痕文。施文具細かく先割れ。内面ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい赤褐色。内面浅黄褐色。器表下明赤褐色。内部にぶい黄褐色	F6c8サブトレ, II層	—	PL31

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第25図 6	弥生 土器	壺	胴下 部, 5 %以下	— — —	外反気味。外傾。外面短条 痕文。施文の単位は5条か。 長さは約15mm。方向は下か ら上。内面ヘラナデ	メノウ粒少 量, 石英粒・ チャート粒・ 海綿骨針微 量	普通	外面 灰黄褐 色, 内面 褐色	F6b8 再発掘 中	—	PL31 内面炭化 物付着

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第25図 7	磨石	6.1	5.9	3.7	186.5	多孔質 安山岩	不整形でやや扁平な礫を利用。周縁を整形し表裏面を使用。全面に整形痕または使用痕	F6e8 再発掘 中	—	PL31 完存
8	石鏃	(27)	(13)	(0.5)	(0.9)	メノウ	凸基有茎鏃。表面にやや大きな剥離(折損)。刃部先端と側縁にも折損	F6b8 ベルト 上	—	PL31 一部欠損
9	石鏃	(19)	1.2	0.4	(0.7)	チャート	凸基有茎鏃。茎先端部折損。身部先端の剥離(潰れ)は使用によるものか。表面に一部素材時の剥離面を残す	再発掘 中一括	—	PL31 一部欠損
10	石鏃 未成品	26	2.0	0.6	2.7	チャート	調整前半段階で放棄した未成品。やや大型の剥片を利用し、剥離はやや雑で両面に素材時の剥離面を残す	F6b8 再発掘 中	—	PL31 一部欠損

3 第10トレンチ (第26図)

(1) 調査概要



第26図 第10トレンチ1・2区実測図

第10トレンチは、E6c0区からE9c9区までの区域に、長さ59m、幅2mで南北に長く設定されている。第2次調査の際に、E7c5区からE7c9区にまでの3・4区の長さ10m、E8c5区からE8c9区までの7・8区の長さ10m、E9c5区からE9c9区までの長さ9mの計29mが調査された。その成果については『泉坂下遺跡Ⅲ』にまとめられている。

今次調査の目的のひとつに、第9号溝跡の走向の確認と性格等の把握があるが、そのためには第9号溝跡が確認されている第18トレンチの南側を押さえる必要があった。第9号溝跡は緩やかに南西に傾斜していることが予想されたため、その方向のE6c0区からE7c4区までの長さ10mに設定されていて、未調査となっていた第10トレンチ1・2区を調査することとなった。また、このトレンチは第1次調査時に第4トレンチで確認されて第19・20・21号土坑と記録した土器棺墓群の南への広がりをもつために有用であると考えた。第18トレンチの南方向には、第19トレンチを設定して今次調査で調査した。

第Ⅱ2層上面で遺構確認に努め、遺構が確認されたため、サブトレンチは掘削していない。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分間馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

①縄文時代

(i) 土坑

第123号土坑 (SK123, 第26図)

位置 E7c2区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸165cm、長軸の方向はN-7°-Eの楕円形である。

遺物出土状況 土器等13点、石器等1点が出土している。うち縄文土器1点(壺)、弥生土器1点(広口壺)を掲載する(第27図、第8表)。

所見 礫を含む遺物の集中地点を精査したところ、周囲よりわずかに黒味が強いことから遺構の覆土と判断した。主体となる出土遺物から縄文時代晩期の所産と考えられる。



第27図 第123号土坑出土遺物実測図

第8表 第123号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第27図 1	縄文土器	深鉢	肩部、5%以下	—	わずかに内彎、強く内傾。上部で外反し頸部に至る椀椗。外面頸部下に同心円状の沈線2条。肩部に下向き弧状の沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色。外面明褐色、内面黒褐色	遺構確認一括	—	PL31
2	弥生土器	広口壺	胴部、5%以下	—	薄手。内彎気味、外傾。外面附加条縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微量	やや不良。焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・内面黒褐色・内面にぶい褐色・黒褐色、内面黒褐色	遺構確認一括	—	PL31 混入か

②弥生時代

(i) 土坑

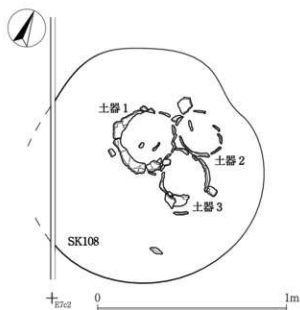
第108号土坑 (SK108, 第26・28図)

位置 E7c1区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は径120cmの概ね円形である。

遺物出土状況 土器等56点が出土している。うち縄文土器1点(深鉢)、弥生土器9点(壺)を掲載する(第29図、第9表)。再葬のため埋納された土器は以下の3点で、これは取り上げていない。この3点は、土坑中央に密接して埋設されており、3点とも西側に傾く。3点の埋設レベルはほぼ同じと考えられ、据え置き順は土器1・3・2と考えられる。

土器1 明褐色の壺形土器で、胴径は35～38cmと推測される。胴中央部は4条/cmのLR縄文、胴下部は磨消縄文が施される。

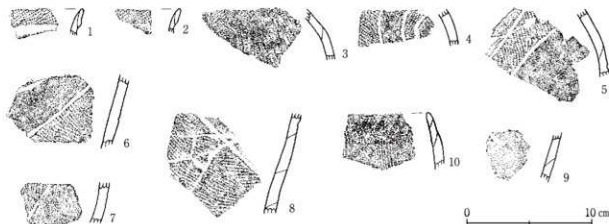


第28図 第108号土坑実測図

土器2 暗褐色の壺形土器で、胴径は25cm前後と推測される。無文である。

土器3 明褐色の壺形土器で、胴径は25～30cmと推測される。頸部は無文、胴上部は4条/cmのLR縄文、下部は細く密な条痕文が施される。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。



第29図 第108号土坑出土遺物実測図

第9表 第108号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第29図	1	弥生土器	壺	口縁部, 5%以下	—	外反, 外傾。複合口縁。外面縄文, 頸部無文。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・チャート粒・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色。内面一部灰黄褐色。内部褐色	遺構確認一括	—	PL31
	2	弥生土器	壺	口縁部, 5%以下	—	外反, 外傾。複合口縁。外面縄文, 頸部無文。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・チャート粒・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。外面暗褐色。内面にぶい橙色。内部褐色	遺構確認一括	—	PL31
	3	弥生土器	壺	胴部上半, 5%以下	—	内彎, 内傾。外面縄文。一部ヘラナデ状(器表荒れて詳細不明)。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥岩礫・泥岩粒・石英粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面明赤褐色。内部灰黄褐色	遺構確認一括	—	PL31
	4	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内彎, 外傾。外面縄文を地文に斜位の沈線で区画し磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量, 泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒微量	普通	サンドイッチ状。外面赤褐色。内面赤褐色。内部褐色	遺構確認一括	—	PL31 No.5, 7, 8と同一個体
	5	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内彎, 内傾。外面縄文を地文に斜位の沈線で区画し磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒微量	普通	サンドイッチ状。外面赤褐色。内面赤褐色。内部褐色	遺構確認一括	3片	PL31

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第29図 6	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	直線的、外傾。外面縄文を 地文に斜位の沈線で区画し 磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒・雲母微量	普通	外面にふい 赤褐色。内面 にふい橙色	遺構確 認面一 括	—	PL31
7	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内彎、内傾。外面縄文を地 文に弧状沈線で区画し磨り 消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・ 泥岩礫・泥 岩粒・石英 粒・チャート 粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面赤褐 色。内面橙色。 内部褐色	遺構確 認面一 括	—	PL31
8	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味、外傾。外面縄文 を地文に斜位の沈線で区画 し磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面赤褐 色。内面橙色。 内部褐色	遺構確 認面一 括	6片	PL31
9	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味、外傾。外面縄文 を地文に沈線での字状に 区画し磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 泥岩礫・ 泥岩粒・石英 粒・チャート 粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ふい褐色。内 部褐色	遺構確 認面一 括	—	PL31
10	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	内彎、内傾。外面直線的に 垂下する条線文と縦位の弧 状条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ チャート粒・ 雲母微量	普通	外面暗赤褐 色。内面にふ い赤褐色	遺構確 認面一 括	—	PL31 後～晩期 粗製土 器。混入

第109号土坑（SK109、第26・30図）

位置 E7c3区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸125cm、短軸115cm、長軸の方向はN—68°—Wの楕円形である。

遺物出土状況 土器等47点、石器等1点が出土している。うち縄文土器2点（鉢1、深鉢1）、弥生土器3点（甕2、壺1）、土製品1点（土器片円盤）を掲載する（第31図、第10表）。

所見 第ⅠB層の調査時から、縄文晩期の土器が集中し、遺構の存在が想定された地点である。しかし出土遺物に弥生土器が混じることから、廃絶時期は弥生時代と考えられる。性格は不明である。

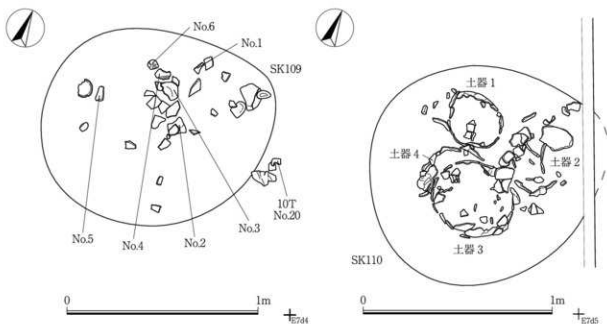
第110号土坑（SK110、第26・32図）

位置 E7c4区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるが、平面は径110cmの概ね円形である。

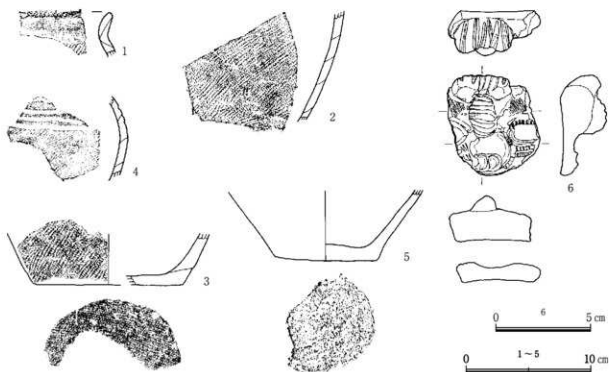
遺物出土状況 土器等141点、石器等1点が出土している。うち縄文土器3点（深鉢2、壺1）、弥生土器7点（壺）を掲載する（第33図、第11表）。再葬のため埋納された土器は以下の4点で、これは取り上げていない。土器1・2・3が再葬に用いられたもので、土器4は土器3の蓋として用いられたものと考えられる。据え置きは、土器1または3が先に置かれ、その後土器2が置かれたと考えられる。

土器1 明褐色の壺形土器で、胴径は25cm前後と推測される。主軸をN—163°—Wに向けて倒れている。



第30図 第109号土坑実測図

第32図 第110号土坑実測図



第31図 第109号土坑出土遺物実測図

第10表 第109号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第31図	1	弥生土器	口縁部、5%以下	—	内傾する胴部から頸部で屈曲して外反する口縁部。端部やや外側に縄文。頸部ナデ、胴部縄文。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面暗灰黄色。内面にふい色。内面褐色。	遺構確認面	—	PL32 No.2と同一個体か

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第31図 2	弥生土器	甕か	胴部、5%以下	—	薄手。内彎、外傾。外面縄文、内面ミガキ。外面に一部輪積み痕が残る	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート・泥岩粒・雲母微量	良好。一部焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	遺構確認面	2片	PL32
3	弥生土器	壺	胴～底部、5%以下	(4.1) [11.8]	平底から胴部が内彎・外傾して立ち上がる。外面縄文、一部輪積み痕を残す。内面ナデ、一部ミガキ。底部布疋痕	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	遺構確認面	2片、10トレ遺物接合	PL32
4	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	内彎・外傾から上半で内傾。外面縄文を地文に横走沈線を3条と間をおいて現状上端に1条。内面ヘラナデのちナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通。焼けムラ	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色・黒褐色。内部黒褐色	遺構確認面	—	PL32混入
5	縄文土器	深鉢	胴～底部、5%	(5.5) [8.0]	外面・底部ヘラケズリ、内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面暗黄褐色。内面にぶい黄褐色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	遺構確認面	3片	PL32混入

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第31図 6	土器片 円盤	5.3	5.0	—	44.5	下端の割れ方から円盤と判断。縄文土器・深鉢の口縁部を利用。口縁部を肥厚させ外面に縄文。肩部と直下にキザミを入れ付けた突起をT字形に貼り付け。下位はキザミを入れ付けた微細な隆線で円形・扇形・四角形。円形区域にいわれる珠鼻を貼り付け。内面粗いミガキ	やや精良。砂質。メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿管針微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面灰黄褐色	遺構確認面	—	PL32安行2式混入

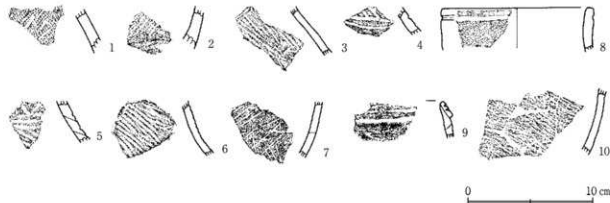
土器2 壺形土器で、胴径は25cm前後と推測される。胴部はLR+RR縄文が施されている。

主軸をN-45°-Wに向けて倒れている。

土器3 壺形土器で、高さは45～50cm、胴径は36～38cmと推測される。胴部は粗く大きな条痕文が施される。主軸をN-63°-Wに向けて倒れている。

土器4 RRまたはLR+RR縄文が施された土器である。倒立しており、土器3の蓋として置かれたものと考えられる。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。



第33図 第110号土坑出土遺物実測図

第11表 第110号土坑出土土物観察表

採回 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第33回											
1	弥生 土器	壺	肩部 5%以下	— — —	内脣、内傾。外面附加条縄文L R + R・R。上端は縄文が一部ナデ消される。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色。内部黒褐色	土器2 付近	—	PL32 土器2
2	弥生 土器	壺	部位不明(胴下部か)、5%以下	— — —	内脣、外傾。外面附加条縄文L R + R・R。現状下端は縄文磨り消し。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部黒褐色	土器2 付近	—	PL32 土器2
3	弥生 土器	壺	肩部、5%以下	— —	わずかに内脣、内傾。上端で外反する様相。外面斜位の条痕文。条痕は3条/cmのくつきりした条痕。現状ではほとんど左傾。一部右傾。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	土器3 付近	—	PL32 土器3
4	弥生 土器	壺	頸部、5%以下	— —	外反気味。内傾。外面くつきりした条痕文。上位に斜位。下位に横位の条痕。施文順は斜位→横位。施文方向は横位は左から右。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微量	良好	内外面にぶい黄褐色	遺構確認面一括	—	PL32
5	弥生 土器	壺	頸部、5%以下	— —	外反。内傾。外面現状中央部に横位。上下に斜位の平行線文。斜位の平行線文は羽状か。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒微量	普通	外面明黄褐色。内面にぶい黄褐色	土器1 付近	—	PL32 土器1
6	弥生 土器	壺	頸部、5%以下	— — —	外反。内傾。外面斜位の条痕文。条痕は3条/cmのくつきりした条痕。現状ではほとんど左傾。一部右傾。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	土器3 付近	—	PL32 土器3
7	弥生 土器	壺	胴部、5%以下	— — —	わずかに内脣、内傾。外面やや細い。斜位。一部縦位の条痕文。施文順は右傾→左傾→縦位。施文方向は斜位は下から上。縦位は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・雲母微量	やや不良。焼き甘い	外面黒褐色。内面にぶい黄褐色	土器3 付近	2片	PL32
8	縄文 土器	壺(注:口器または形台土器か)	口縁部、5%以下	[120] (35)	外反気味。わずかに外傾。口縁端部平出。外面縄文を施文に端部直下に横位の沈線を入れ。端部から沈線まで丁寧なミガキ。縄文帯下位に横位の沈線か。内面丁寧なミガキ	メノウ粒・石英粒・赤褐色・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面黒褐色。内部器表下褐色。内部明褐色	遺構確認面	—	PL32 晩期前葉(安行3a式か)。混入
9	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	薄手。内脣、内傾。複合口縁。口縁外面に2条単位の横位の短沈線。長さは(24)cm以上。施文具は先端が鋭いヘラか。胴部外面網目状擦糸文か(器表荒れて不明)。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	やや不良。焼き甘い	内外面浅黄褐色	遺構確認面	—	PL32 晩期粗製土器。混入

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第33図 10	縄文 土器	深鉢	胴下 部, 5 %以下	— — —	薄手。内壁、外頰。外面擦 糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 泥岩粒・チャ ト粒・雲 母・海綿骨針 微量	普通	外面黒褐色、 内面にふい 黄褐色	土器1 付近	6片	PL32 内外面炭 化物付 着。海綿 骨針顕 著。混入

B 遺構外出土遺物

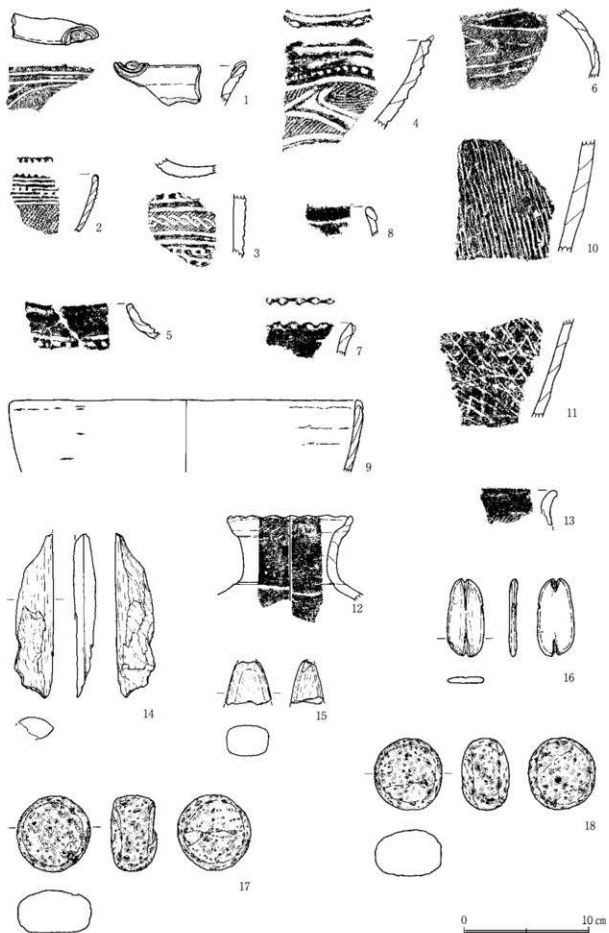
遺構外で確認された遺物について解説する。(第34・35図, 第12表)

遺物出土状況 土器等1,527点, 石器等55点が出土している。うち縄文土器11点(深鉢5, 壺2, 浅鉢2, 鉢1, 不明1), 弥生土器2点(壺), 石器・石製品13点(石鎌6, 磨石3, 石剣1, 磨製石斧1, 石錘1, 勾玉1)を掲載する。第Ⅱ2層上面で遺構が確認されたため, サブトレンチは掘削しておらず, これらの遺物は全て確認面より上のレベルで出土したものである。

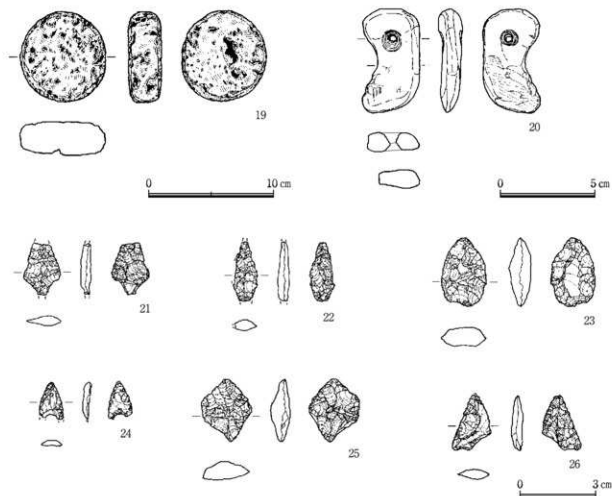
(3) 所見

第18トレンチの南側に延びると予想された第9号溝跡の走向を押さえる目的で調査した第10トレンチ1・2区であるが, 結果として, 第9号溝跡は確認できなかった。このため, 第9号溝跡の走向把握は, 第19トレンチの調査に委ねられることとなった。

一方, 第108・110号土坑という2基の再葬墓が確認された。これは, ここまでの調査で積み上げてきた再葬墓の考察に, 大きな変更を加えざるを得ない結果となった。第2次調査時の第18トレンチで, 土器棺墓2基が確認されたことが示すように, 再葬墓が密に集中する区域の西側に土器棺墓が疎らに分布するものとこれまでは想定していた。しかし, 周辺部にも再葬墓が所在することが判明したため, 次の確認調査においては, この付近のさらなる調査を行う必要が生じた。この付近の考察については, 第4次調査結果を待ちたい。



第34図 第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物実測図(1)



第35図 第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物実測図(2)

第12表 第10トレンチ1・2区遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第34図 1	縄文 土器	鉢	口縁部, 5%以下	—	外反, 外傾。口縁部から内面にかけて中心にドーナツ状。周囲に2条の隆線を半円形に貼り付け。外面細密沈線文を地文に沈線で区画し磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒, 雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色。内面一部にぶい赤褐色	E7c2, 遺構確認面	—	PL32 安行3b式
2	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	薄手の小型精製土器。口縁部にキザミ。口縁部外面横走沈線間にやや形数化した羊歯状文。胴部外面縄文・内面丁寧なミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	外面黒褐色。内面黒色	E7c4, I B層	—	PL32 大洞BC式
3	縄文 土器	不明	不明・不明	—	横断面形楕円形か。器厚図左から右へ漸減。直立か。外面上下に羊歯状文。間に下を沈線で区画した縄文帯と結節回転文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	外面にぶい褐色。内面黒色	E7c1, I B層	—	PL32 大洞BC式
4	縄文 土器	浅鉢(台付か)	口縁部, 10%	[27前後] (7.3)	内彎, 大きく外傾。胴部と口縁部の境界内面に稜。口縁部は斜に作り薄1条。外側に頂部を凹ませた突起を貼付。その下に薄2条。胴部結節沈線。その下に磨消縄文手法による入組文。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・チャート粒・石英粒・海綿骨針微量	普通・焼けムラ	内外面にぶい黄褐色・灰黄褐色・黒褐色	E7c2, 遺構確認面 SK123に帰属の可能性あり	—	PL32 大洞C2式

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第34図 5	縄文土器	壺	口縁～胴部、5%以下	—	[36前後] 強く内傾し頸部で屈曲して立ち上がる。口縁部内外面ナデ。外面に緩やかな接をもち、胴部上端にヘラ状工具による連続的突、内面に一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート粒・石英粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい、内面にふい、橙色	E7c3、遺構確認	4片	PL32 大洞C2式か
6	縄文土器	壺	胴部上半、5%以下	—	内彎、外傾から強く内傾。球形形。最大径21cm前後か。外面磨消縄文手法による大紐文。磨消は平面的。最大径付近に横走沈線1条、以下無文(ナデか)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。外面黒褐色、内面にふい、黄褐色。器表下にふい、黄褐色。内部褐色	F7c2、I B層	—	PL32 大洞C2式。内面下部炭化物付着
7	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに外反。外傾。口縁部には内外からの交互押圧による小波状をなす。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい、黄褐色。内面にふい、黄褐色。内部黒褐色	E7c4、遺構確認	—	PL33 外面炭化物付着
8	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、内傾。複合口縁。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面灰色、内面にふい、黄褐色。内部褐色、灰色	E7c4、遺構確認	—	PL33 晩期粗製土器
9	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	[27.6] (5.7)	内彎、外傾。口縁部ではほぼ直立。外面無文(細いミガキ)。内面ナデ。内外面一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母微量	普通	内外面灰黄褐色、黒褐色	E7c4、I B層	4片	PL33 後～晩期粗製土器。外面炭化物付着
10	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	厚手で大型。わずかに内彎、外傾。外面燃糸文。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・内面にふい、黄褐色。内部褐色、灰色	E6c0、I B層	—	PL33
11	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面網目状燃糸文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい、黄褐色。内部褐色、灰色	E7c2、遺構確認	3片	PL33 晩期粗製土器
12	弥生土器	壺	口縁～胴部、5%以下	[10.0] (6.8)	内傾する胴部から屈曲して頸部が立ち上がり、わずかな段をもって内彎・外傾する口縁部に至る。口縁部には押圧により小波状。口縁部・胴部外面縄文。頸部ミガキ。口唇部内面縄文、頸部内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面灰色、内面にふい、黄褐色。内部褐色、灰色	E7c2、I B層	—	PL33 同一個体片1片。海綿骨針顕著
13	弥生土器	壺か	口縁～胴部、5%以下	—	外反。胴部外面縄文。口縁部内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい、黄褐色。内部褐色、灰色	E7c3、I B層	—	PL33

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第34図 14	石剣	(13.0)	(3.1)	(1.8)	(66.2)	粘板岩	断面杏仁形の棒状品。縁は鋭い。表面には軸平行方向の擦痕(調整痕)	E7c1、I B層	—	PL33 一部残存
15	磨製石斧	(3.5)	(3.7)	(2.7)	(40.9)	ホルンフェルス	頭部片。頭部から急激に幅・厚みを増す。断面隅丸長方形。磨りによる調整	E7c2、I B層	—	PL33 一部残存
16	石錘	6.2	2.9	0.7	17.5	ホルンフェルス	扁平な長楕円礫を利用。両端に切れ目。切れ目・溝の両側に挿入。切れ目を入れる際に誤って脇を磨ったか	E7c2、I B層	—	PL33 完存
17	磨石	6.0	5.8	3.7	164.0	多孔質安山岩	やや扁平な円礫を利用。表裏及び周縁を磨りにより整形。主に表面を使用	E6c0、I B層	—	PL33 完存

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第34図 18	磨石	5.7	5.3	3.7	153.7	多孔質 安山岩	やや扁平な楕円礫を利用。表裏及び周縁を磨りにより整形して使用	E7c4, I B層	—	PL33 完存
第35図 19	磨石	7.2	6.8	2.7	186.5	多孔質 安山岩	扁平な楕円礫を利用。表裏・周縁を磨りにより調整して使用。厚さも一定で整った形状	E7c3, I B層	—	PL33 完存
20	勾玉	5.5	3.1	1.2	26.6	ホルンフ エルス	彎曲した扁平な礫を利用。裏面脚部付近を磨りにより整形。頭部に1孔。径0.4cm。切込面での最大径1.2cm。両面穿孔	E7c3, 遺構確認面	—	PL33 完存
21	石鏃 (21)	1.5	0.4	(1.1)		メノウ	凸基有茎鏃	E7c3, I B層	—	PL33 一部欠損
22	石鏃 (23)	(1.0)	0.5	(0.9)		メノウ	良質なメノウを利用。柳刃形の尖基鏃	E7c2, I 層	—	PL33 一部欠損
23	石鏃	2.8	1.7	0.8	3.9	メノウ	凹基鏃。厚みがあり、表表面の一部に一次調整の剥離面が残る	E7c1, I 層	—	PL33 完存
24	石鏃 (15)	1.0	0.3	(0.3)		メノウ	小型の凹基無茎鏃。透明感のある良質の薄い薄片を素材とし周囲から調整剥離。剥離は短く、表表面に一次調整の剥離面が残る	E7c1, I B層	—	PL33 一部欠損
25	石鏃 未成品	2.5	2.0	0.7	2.7	メノウ	基部付近の調整が粗く未成品と判断。先端部の角度が90°と大きい	E7c1, 遺構確認面	—	PL33 完存
26	石鏃 未成品	2.2	1.5	0.5	1.1	メノウ	表面右側縁に自然面を残し、先端部調整未了。基部欠損後一部に再調整痕	E6c0, I B層	—	PL33 完存

4 第15トレンチ (第7・8図)

(1) 調査概要

第15トレンチは、F6c5区からF6f5区までの区域に、長さ6.5m、幅2mで東西に長く設定されている。第2次調査の際に調査され、弥生時代の再葬墓3基、平安時代の堅穴住居跡2軒が確認された。調査後には、山砂をクッションに入れた後、掘り上げた土をかけて埋め戻されている。これらの成果については『泉坂下遺跡Ⅲ』にまとめられている。

今次調査において、再葬墓等の三次元計測を実施する運びとなった。これに合わせ、将来の史跡活用をにらんだ遺構の三次元情報取得を目的として、第15トレンチを再発掘しての三次元計測を試みたものである。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分間馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

今次調査では、新たな遺構は確認されなかったものの、第2次調査よりも確認面を下げて、観察を進めた遺構がある。ここではその遺構と遺物についてのみ報告する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第59号土坑 (SK59, 第7・8・36図)

位置 F6b5区、F6c5区に位置し、第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸55cm、短軸37cm、長軸の方位はN-64°-Wの楕円形である。

重複関係 第60・84号土坑を切っている。

遺物出土状況 再葬のため埋納された土器は以下の1点で、これは取り上げていない。この土器は第2次調査で確認されていたもので、さらに観察を加えた。

土器1 第2次調査で確認されている。薄い明褐色の壺形土器である。浅い縦の条痕文が施され、一部に煤が付着する。主軸をN-133°-Eに向けて倒れている。

所見 第2次調査の際、第15トレンチで確認された弥生時代の再葬墓である。今次調査では確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った。土器1の形を復元すると、第59号土坑の南西ラインはもう少し広がる可能性がある。

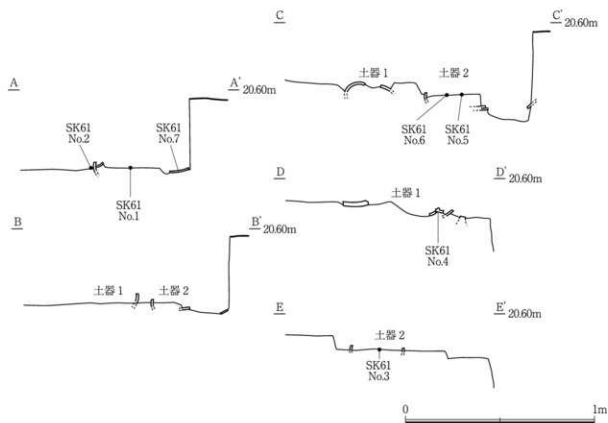
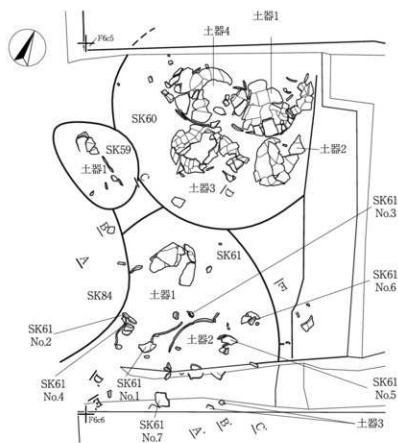
第60号土坑 (SK60, 第7・8・36図)

位置 F6c5区に位置し、第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は北部がトレンチ外に延びるため長軸は不明、短軸120cm、長軸の方位はN-25°-Eの楕円形である。 **重複関係** 第59号土坑に切られ、第61号土坑を切っている。

遺物出土状況 再葬のため埋納された土器は以下の4点で、これは取り上げていない。これらの土器は第2次調査で確認されていたもので、さらに観察を加えた。土器の据え置き姿勢は、土器1・2は北東向きの横倒し、土器3は東向きに横倒し、土器4はほぼ直立である。土器の据え置きは、土器1・2・3・4の順に、時計回りに置かれたと考えられる。

土器1 第2次調査で確認されている。薄い黄褐色の壺形土器で、高さは50～55cmと推測する。口縁部はLR縄文、頸部は方形の帯縄文、胴上部は帯縄文、胴下部は細かい5条



第36図 第59～61号土坑実測図

／cmのLR縄文が一部縦回転で施される。胴上部に薄く煤が付着する。主軸をN-51°-Eに向けて倒れており、胴下部の上に土器4が重なる。

土器2 第2次調査で確認されている。明褐色の壺形土器で、高さは40～55cmと推測する。口縁部は欠損する。頸部は無文、胴部は4条／cmのLR縄文が施される。胴部には煤が付着する。主軸をN-42°-Eに向けて倒れている。

土器3 第2次調査で確認されている。明褐色の壺形土器で、高さは45～50cmと推測する。口縁部には縄文、頸部・胴部には粗い櫛状の条痕文が縦に施される。胴部に煤が付着する。主軸をN-105°-Eに向けて倒れており、胴下部の上に土器4が重なる。

土器4 第2次調査で確認されている。淡い明褐色の壺形土器で、高さは35～38cmと推測する。口縁部は欠損する。頸部は無文、胴部は条痕文、頸部と胴部の区画は一条帯LR縄文が施される。胴部の条痕文は、疎密のムラがある。ほぼ直立しており、胴部は土器1・3の上に重なる。

所見 第2次調査の際、第15トレンチで確認された弥生時代の土器棺墓である。今次調査では確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った。

第61号土坑（SK61，第7・8・36図）

位置 F6c5区に位置し、第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は南部がトレンチ外に延びるもの、楕円形になると考えられる。

重複関係 第60・84号土坑に切られている。

遺物出土状況 土器等46点が出土している。うち弥生土器7点（壺）を掲載する（第37図，第13表）。再葬のため埋納された土器は以下の3点で、これは取り上げていない。土器1は第2次調査で確認されていたもので、さらに観察を加えた。

土器1 第2次調査で確認されている。明褐色の壺形土器で、下半部ほど色合いは淡くなり、胴下部では被熱により暗色化している。高さは70cmと推測される。頸部に高い突帯が一条横走りし、上に縄文、その下が輪状の膨らみ、胴上部に磨消縄文、胴下部に粗い条痕文が施される。主軸をN-176°-Wに向けて倒れている。

土器2 壺形土器と考えられ、胴部は大きいLR縄文が施され、煤が付着する。

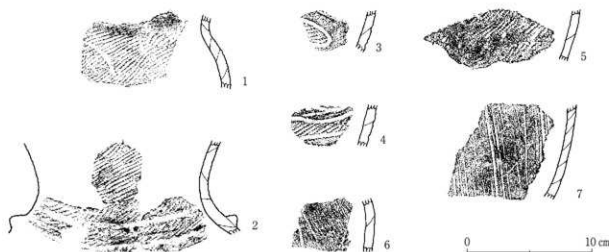
土器3 器種は不明である。内面の一部は黒変している。内面を上にして、ベルト内に広がっている。

所見 第2次調査の際、第15トレンチで確認された弥生時代の再葬墓遺構である。今次調査では確認面をわずかに下げ、埋納土器等の観察を行った。なお、第61号土坑の土器3はベルト内に広がっており、同様にベルト南隣の第114号土坑の土器もベルト内に広がっていることから、この2つの土坑は同一のものとなる可能性が考えられる。ただし、第61号土坑の土器のほうが攪乱が大きく、攪乱の程度に差があるため、別の遺構として取り扱った。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。（第38図，第14表）

遺物出土状況 土器等244点、石器等5点が出土している。うち縄文土器4点（深鉢2，小型鉢1，浅鉢1），弥生土器11点（壺），石器・石製品3点（磨石2，石鏃1）を掲載する。これらについては、調査済トレンチの埋め戻し土からの出土である。



第37図 第61号土坑出土遺物実測図

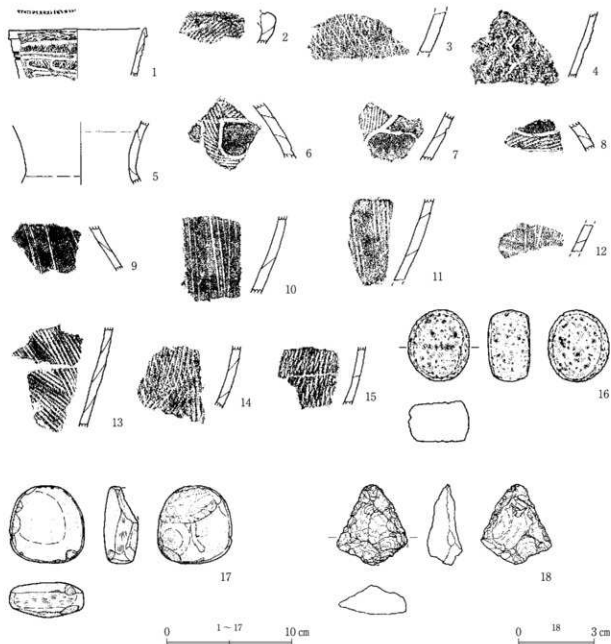
第13表 第61号土坑出土遺物観察表

採回 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第37図 1	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	中位が膨らむ所謂「瓢形」 の頸部。内母・内傾から上 部で外反する。上位無文、 以下縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母微量	普通。 焼けムラ	サンドイッチ 状。外面に ぶい黄褐色。 内面 ぶい 黄褐色。内 部褐灰色	土器1 付近。 遺構確 認面	2片	PL34 2-4、 報告書Ⅲ 62図No1 〜10と同 一個体。 土器1
2	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	内傾から外反し外傾。頸部 下位に突帯貼り付け。頸部、 突帯上・胴部外面に縄文。 突帯径 [18] cm。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母微量	普通。 焼けムラ	サンドイッチ 状。外面に ぶい黄褐色。 内面 ぶい 褐色。内部 褐灰色	土器1 付近。 遺構確 認面	4片。 報告書 第62 図10が 破合	PL34 No1・3・ 4、Ⅲ62 図No1〜 10と同一 個体
3	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内壁気味。外傾。縄文を上 縁で区画し、磨消縄文に上 り文様表現。ヒトデ状文の 先端部か。内面ナデ。一部 ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母微量	普通	サンドイッチ 状。外面に ぶい黄褐色。 内面 ぶい 黄褐色。内 部褐灰色	遺構確 認面	—	PL34 No1・2・ 4、Ⅲ62 図No1〜 10と同一 個体。土 器1
4	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	内壁気味。外傾。縄文を上 縁で区画し、磨消縄文に上 り文様表現。内面ナデ。一 部ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母微量	普通	サンドイッチ 状。外面に ぶい黄褐色。 内面 ぶい 褐色。内部 褐灰色	遺構確 認面	—	PL34 No1〜 3、Ⅲ62 図No1〜 10と同一 個体
5	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内母。外傾。外面縄文。内 面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母微量	普通	サンドイッチ 状。外面 褐色。内面 に ぶい 黄褐 灰色	遺構確 認面	—	PL34 外面炭化 物付着
6	弥生 土器	壺	胴部 (最大 径付近)、 5%以下	— — —	内母。外面左傾の条痕文。 条痕は浅くやや不明瞭。内 面ナデ。一部輪積み痕を残 す	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母細粒 微量	普通。きや 甘い	外面暗黄 褐色。内面 黄褐色	遺構確 認面	—	PL34 外面一部 煤付着
7	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内母。外傾。外面やや左傾 の条痕文。条痕は主要なも のは3条。その他施文具の 先割れによる細かい条痕。 施文具の幅1.1cm。施文方 向は上から下。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・ 石英粒・チャート 粒・雲母 微量	良好	サンドイッチ 状。外面明 黄褐色。内 部 ぶい 褐 灰色	覆土上 層	—	PL34 Ⅲ62図No 14と同一 個体か

(3) 所見

クッションとした山砂の除去に時間を要したものの、新たな攪乱もなくほぼ第2次調査のとおりに掘り上げることができた。再発掘遺構の三次元情報を記録できた意義は大きく、今後の史跡整備・活用に寄与するものと考えられる。

ただし、先述のとおり第2次調査での調査レベルよりも、深い掘削をしてしまった箇所があり、再発掘の難しさを体感することとなった。



第38図 第15トレンチ遺構外出土遺物実測図

第14表 第15トレンチ遺構外出土土物観察表

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第38図											
1	縄文土器	小型鉢か	口縁～胴部、50%程度か	[10.8] (3.8)	直線的、外傾。複合口縁。口縁部へラ状工具による細かいキザミ。口縁部外面網目状燃糸文。胴部網目状燃糸文施文後、横走及び炬炬状の沈線で区画。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	再発掘排土中	—	PL34 晩期中葉
2	縄文土器	浅鉢	口縁部付近、5%以下	—	内彎・外傾する胴部から屈曲して内傾する口縁部。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部黒色。内部褐色	再発掘排土中	—	PL34
3	縄文土器	深鉢	胴部下平、5%以下	—	わずかに内彎。外傾。外面網目状燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	二次焼成	外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色	再発掘排土中	—	PL34 晩期中葉。内面炭化物付着
4	縄文土器	深鉢	胴部下平、5%以下	—	薄手。内彎気味。外傾。外面網目状燃糸文。内面ヘラナデ	粗悪。メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒微量	良好	外面黒褐色。内面にぶい褐色	F6c5、II層	—	PL34 晩期粗製土器
5	弥生土器	壺	頸部、5%以下	(5.0)	内傾する胴部上半から縮やかへ屈曲して外反・外傾する頸部。現存上端で内面がわずかに内彎する様相。内外面ナデ。内面上部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	2片、F6c5、II層	—	PL34
6	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎。内傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫・砂岩礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面浅黄褐色。内部褐色	再発掘排土中	—	PL34 No.7・8、SK61土器1と同個体
7	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎。外傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文か。同下層に比照。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫・砂岩礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面浅黄褐色。内部褐色	再発掘排土中	2片	PL34 No.6・8、SK61土器1と同個体
8	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎。内傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫・砂岩礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面浅黄褐色。内部褐色	再発掘排土中	—	PL34 No.6・7、SK61土器1と同個体
9	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	わずかに外反。内傾。外面斜位の条痕文。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面灰白色。内部灰褐色	F6c5サブトレ清掃中	—	PL34
10	弥生土器	壺	胴部下平、5%以下	—	わずかに内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩礫・チャート粒・石英粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい褐色。内部褐色	F6c5サブトレ清掃中	—	PL34 外面炭化物付着
11	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐色。内面褐色	再発掘排土中	—	PL34
12	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	直線的、外傾。外面縦位の条痕文。一部輪積み痕が残る。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	再発掘排土中	—	PL34

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第38図 13	弥生 土器	壺	胴部 下半、5 %以下	— — —	わずかに内彎、外傾。外面 斜位のくっきりした条痕文。 内面ナデ	砂質。メノウ 細粒・石英細 粒少量。チャ ート細粒・雲 母細粒微量	良好	外面黒褐色。 内面にふい 赤褐色	F6c5 サブト レ清掃 中	2片	PL34 同一個体 片が他に 3片あり
14	弥生 土器	壺か	胴部、 5%以 下	— — —	わずかに内彎、外傾。外面 附加条縄文、内面粗いミカ キ	メノウ粒少 量、泥岩礫・ 泥岩粒・石英 粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	普通	外面灰褐色。 内面褐色	F6c5 サブト レ清掃 中	—	PL34
15	弥生 土器	壺か	胴部、 5%以 下	— — —	わずかに内彎、外傾。外面 附加条縄文、内面ヘラナデ	メノウ粒少 量。メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・海綿 骨針微量	普通。 焼けム ラ	外面にふい 橙色・黒褐色。 内面橙色	再発掘 排土中	2片	PL34

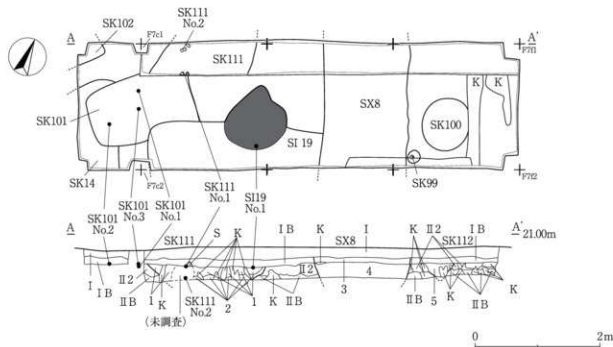
挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第38図 16	磨石	5.7	4.8	3.3	1310	多孔質 安山岩	やや小型。楕円柱状。表裏面及び周縁を磨 りにより整形して使用	再発掘 排土中	—	PL34 完存
17	磨石	6.2	6.0	2.6	(127.4)	砂岩	扁平な礫を利用し、周縁を磨って台形に近 い楕丸方形に整形。主に図下の面を使用。 擦痕が残る	再発掘 排土中	—	PL34 一部欠損
18	石鏃未 成品	3.2	2.8	1.4	8.4	メノウ	やや大型で分厚い。基部の調整が未了と判 断し未成品とした。尖基縁を意図か。一部 に素材剥片時の剥離面を残す	再発掘 排土中	—	PL35 完存

5 第17トレンチ (第39図)

(1) 調査概要

第17トレンチは、F7b1区からF7e1区までの区域に、長さ7m、幅2mで東西に長く設定されている。今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、その南限を押さえるために第17トレンチは設定された。

第Ⅱ2層上面で遺構確認に努めるとともに、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。調査後は、トレンチ全体に目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。



第39図 第17トレンチ実測図

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第19号竪穴住居跡 (S119, 第39図)

位置 F7e1区、F7d1区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 南寄り大部分がトレンチ外に延び、また第8号性格不明遺構に切られているため規模は不明だが、平面は隅丸長方形になるものと考えられる。長軸の向きはN-18°-Wである。

重複関係 第8号性格不明遺構に切れ、第101号土坑を切っている。

床 確認していない。竈 北壁に付設されている。柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等4点が出土している。うち縄文土器1点(鉢)を掲載する(第40図, 第15表)。ただし、状況から混入と考えられる。

所見 形状から、平安時代の所産と考えられる。



第40図 第19号竪穴住居跡出土遺物実測図

第15表 第19号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第40図 1	縄文 土器	鉢	胴部・ 5%以 下	— — —	わずかに内彎気味。外傾。 外面磨消縄文手法による雲 形文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ チャート粒・ 雲母細粒微 量	普通	サンドイッチ 状。外面褐灰 色。内面暗灰 黄色。器表下 にふい黄橙 色。内部褐灰 色	F7c1。 遺構確 認面。 竈内	—	PL35 大洞C1式 混入

(ii) 土坑

第99号土坑 (SK99, 第39・41図)

位置 F7e1区に位置する。第Ⅱ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径20cmの円形である。断面はU字形で、深さは21cmである。

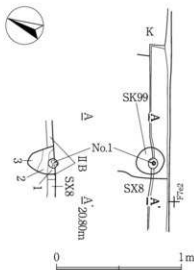
土層 3層が確認でき、東側から流れ込んだ状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

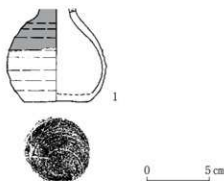
- 1 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム粒子極少量。Nt-S極少量。締まり中、粘性中
- 2 褐色 (7.5YR4/3) ローム小ブロック少量。ローム粒子少量。締まり中、粘性中
- 3 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子少量。締まり強、粘性中

遺物出土状況 灰軸陶器1点(小瓶)が出土しており、掲載する(第42図, 第16表)。この灰軸陶器は2層上面にはほぼ直立して置かれ、1層をかけて埋められていた。

所見 出土遺物から、9世紀後半の所産と考えられる。土器1が据えられていた状況から、埋葬関連の可能性が考えられるものの、詳細は不明である。



第41図 第99号土坑実測図



第42図 第99号土坑出土遺物実測図

第16表 第99号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第42図 1	灰軸 陶器	小瓶	頭～底 部、90 %	— (7.3) 5.2	ロケロ成形。平底から内側 外傾して体部が立ち上がる。 高さ27cmで最大径(7.8cm) をもち、内傾して頸部に至 る体部は下膨れの卵形。底 部回転糸切り。頸部から体 部上半灰軸刷毛密り	精良。わずか に黒色・白色 細粒	良好	器胎：灰色、 軸：オリーブ 灰色	小規模 土坑内 にはほ ぼ正立。 体部は 破損な し(ひ びあ り)	—	PL35 黒径90 式期。器 体内に内 容物なし

②時期不明

(i) 土坑

第14号土坑 (SK14, 第39図)

位置 F7b1区に位置する。第II 2層上面で確認できた。西半部は第2トレンチへ延びており、第1次調査時に確認されている。

規模と形状 第2トレンチで確認されたものと合わせると、平面は長軸145cm、短軸65cm、長軸の向きはN-3°-Eの楕円形である。

重複関係 第101号土坑に切られる。遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から、平安時代以前の所産と考えられるが、詳細は不明である。

第100号土坑 (SK100, 第39図)

位置 F7e1区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径80cmの概ね円形である。遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第101号土坑 (SK101, 第39図)

位置 F7b1区、F7e1区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸165cm、短軸105cm、長軸の向きはN-41°-Eのいびつな隅丸長方形である。

重複関係 第19号堅穴住居跡に切られ、第14・111号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等6点が出土している。うち縄文土器1点(台付浅鉢)、土師器2点(盤1、皿1)を掲載する(第43図、第17表)。これらは混入の可能性も捨てきれず、時期決定には用いなかった。

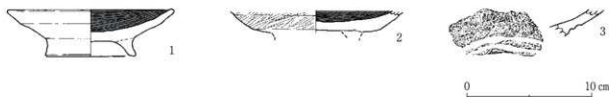
所見 重複関係から、平安時代以前の所産と考えられるが、詳細は不明である。

第102号土坑 (SK102, 第39図)

位置 F7b1区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 東南のコーナーが確認できるが、大部分がトレンチ外に延びており、詳細は不明である。遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。



第43図 第101号土坑出土遺物実測図

第17表 第101号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第43図 1	土師器	皿	口縁～ 底部	[13.0] 3.7 (高台) 6.8	ロクロ成形。平底。体部が内彎して大きく開き、外面に緩い稜をもって口縁部に移行する。高台貼り付け。外面ロクロナデ、内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英塵・石英粒・チャート粒・褐色砂粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	普通、焼きやや甘い	外面にふい 橙色、内面黒	正位、 F7b1、 遺構確認	—	PL35 9世紀後半～10 世紀前半
2	土師器	盤	底部 40%	— (1.7)	ロクロ成形。平底。体部が内彎気味に大きく開く椀相。底部回転糸切り後、内へラ掻きした上に高台貼り付け。高台は現状で脱落。内外面ミガキ、内面黒色処理。高台内ロクロナデ	メノウ粒少量、石英塵・石英粒・チャート粒・褐色砂粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面にふい 黄橙色、内面 黒色	F7b1、 遺構確認	—	PL35 9世紀後半～10 世紀前半
3	縄文 土器	台付 浅鉢	胴部下 半、5 %	— — —	内彎、大きく外傾。内外面ミガキ、外面には底部を巡るように沈線2条。断面形態・施文から台付と判断	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面暗 赤褐色。器表 下にふい橙 色、内部黒褐 色	F7b1、 遺構確認	—	PL35 混入

第111号土坑 (SK111, 第39図)

位置 F7c1区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は、当初幅135cm、走向N-3°-Wの溝状に見えたが、すぐ北側のD地区で確認できず、詳細は不明である。確認できる深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第101号土坑に切られる。

土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 (7.5YR3/1) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 2 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

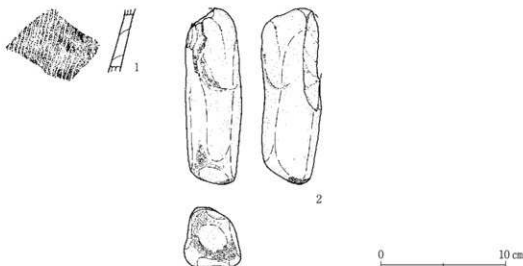
遺物出土状況 土器1点、石器等3点が出土している。うち縄文土器1点(深鉢)、石器・石製品1点(敲石)を掲載する(第44図、第18表)。これらは混入の可能性も捨てきれず、時期決定には用いなかった。

所見 重複関係から、平安時代以前の所産と考えられる。出土遺物や覆土の状況から、縄文～弥生まで遡る可能性があるものの、詳細は不明である。

第112号土坑 (SK112, 第39図)

位置 F7c1区に位置する。北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は不明である。セクションで確認できる上端の幅は45cm、深さは20cmである。



第44図 第111号土坑出土遺物実測図

第18表 第111号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第44図 1	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	— — —	直線の、外傾。外面細く粗い縞系文、内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色、内面黒褐色。器表下にふい橙色、内面黒褐色	F7c1、覆土上層	—	PL35

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第44図 2	敲石	139	4.5	(4.8)	(446)	砂岩	棒状礫を利用。両端部付近に使用痕。一端が2か所破損。使用によるものか	F7c1、覆土中層、サレ底面	—	PL35 破然。一部欠損

土層 1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

5 暗褐色 (75YR3/4) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

(ii) 性格不明遺構

第8号性格不明遺構 (S X 8, 第39図)

位置 F7d1区、F7e1区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は、当初幅132cm、走向N-20°-Wの溝状に見えたが、すぐ北側のD地区で確認できず、詳細は不明である。確認できる深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第19号堅穴住居跡を切っている。

土層 2層が確認できたが、堆積状況は不明である。3層は水田の床土化し、第I B層と同様に堅く締まるが、基本的と同じ土層である。

土層解説

3 暗褐色 (75YR3/4) ローム小ブロック中量、ローム粒子中量、Nt-S少量、締まり強、粘性中

4 暗褐色 (75YR3/4) ローム小ブロック中量、ローム粒子中量、Nt-S少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から、平安時代以降の所産と考えられるが、詳細は不明である。溝跡の可能性を考えたが、すぐ北側のD地区で確認できなかったため、性格不明遺構として取り扱った。また、第I B層中に延びており、新しい掘り込みの可能性も考えたが、判然とせず、念のために遺構として扱ったものである。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第45・46図, 第19表)

遺物出土状況 土器等1,149点, 石器等33点が出土している。うち縄文土器11点(深鉢6, 浅鉢3, 小型壺1, 台付鉢1), 弥生土器4点(壺2, 浅鉢1, 小型壺1), 土師器1点(高台付坏), 石器・石製品9点(石棒5, 石核2, 敲石1, 砥石1)を掲載する。周辺の他のトレンチと同様に、攪乱を受けている第I層～第I B層に多くの遺物が混入しており、縄文晩期の土器が目立つ。

(3) 所見

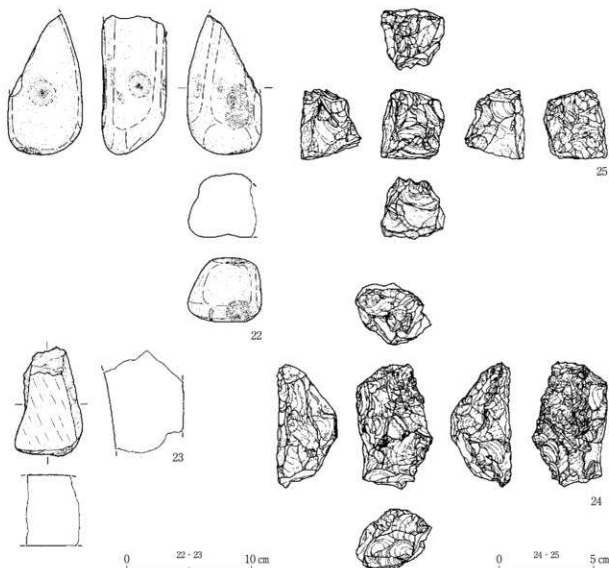
第17トレンチからは、再葬墓は確認できず、また、弥生の遺物の散布も少なくなった。このため、このトレンチまで再葬墓分布は延びていないものと判断した。再葬墓分布範囲の限界把握は、より北側であるD地区の調査結果を待つこととなった。

また、第17トレンチでは、西部のF7b1区, F7c1区に、平安時代以前の所産と考えられる土坑が確認された。この第14・101・111号土坑については、平安と考えられる第19号竪穴住居跡との重複関係からこれ以前の所産と考えられる。その中でも第111号土坑は、最も古いと考えられ、出土遺物や覆土の状況から縄文～弥生の所産の可能性を残す。しかし、今次調査では根拠が不十分のため、結論として時期不明と扱わざるを得なかった。

このほか、時期不明の土坑がトレンチ西部に多く確認されており、これは、隣接する第2トレンチと似た状況といえる。



第45図 第17トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第46図 第17トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)

第19表 第17トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第45図 1	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	[35-6] — —	内彎・外傾する胴部から段をもって外反・外傾する口縁部。波状口縁波頂部には先端に孔をもつ突起。波頂部内面に縦位と横部に沿う沈線。外面縄文を地文に眼鏡状浮帯文2段と沈線3条及び磨消縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒褐色、外面一部灰白色	F7c1、I B層	—	PL35 大割C2式
2	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	内彎気味で外傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口縁部。口縁端部内面に横走沈線1条。外面之溝間の数痕、その下位に磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状、外面浅黄褐色、一部橙色。内面橙色、浅黄褐色、内部黒色。	F7c1、I B層	—	PL36 大割C1式またはC2式。橙色は混泥か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第45図											
3	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	(35前後) 胴部は内彎気味に大きく開く。口縁部内面に粘土板を貼り肥厚させ、端部にB突起貼り付け。外面上下の沈線で区画し三又入組文。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	内外面黒色・灰黄褐色	F7d1、I B層	—	PL35 晩期前葉、大割BC式か
4	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、ほぼ直立。平縁の口縁部外面にわずかに弧を描き連続する横位の条線文4条。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	やや不良。焼き甘い	外面にぶい黄褐色、内面にぶい褐色・褐灰色	F7e1、I B層	—	PL36 安行3b式
5	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、内傾。複合口縁。口縁部外面平行する横長の刺交文。胴部外面網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い	内外面浅黄褐色・橙色	F7e1、I B層	—	PL36 晩期粗製土器
6	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、内傾。複合口縁。外面無文(ナデ)、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部褐灰色	F7d1、I B層	—	PL36 晩期粗製土器
7	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	内彎気味、内傾。複合口縁。口縁部・胴部網目状捺糸文。内面ナデか(器表風化により不明)	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	やや不良。焼き甘い	外面にぶい黄褐色、内面・内部黒色	F7d1、I B層	—	PL36 晩期粗製土器
8	縄文 土器	小型 壺か	口縁 部、5 %以下	— — —	薄手。現存上端極めて薄い。外反。外傾。外面縄文を地文に平面的な磨消縄文による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	外面灰白色、一部にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	F7d1、I B層	—	PL36 大割C2式。外面にぶい褐色には泥漿塗布か
9	縄文 土器	台鉢 か	鉢底部 ~脚台 部、5 %程度 か	(26)	ミガキの面を器体内面と判断。平底。胴部外傾。脚台(剝離)貼り付け後、貼付部外面に隆帯貼り付け。外面、底部ナデ、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒色・灰黄褐色	F7d1、I B層	—	PL36 晩期前半か
10	縄文 土器	浅鉢	底部、 20%前 後か	(14) 4.7	底径は沈線の内側を底部と見ての径。丸底。底部の周囲を沈線2条が巡る。外面ヘラテズリ後粗いミガキ、内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面褐灰色、内面灰黄褐色	F7c1 サブトレ I内、 II層	2片	PL36
11	縄文 土器か	深鉢 か	底部、 5%以 下	(27) [88]	厚手。平底。胴部外傾。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英礫・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部褐灰色	F7e1、II層上 部	2片。1片はD地区出土	PL36
12	弥生 土器	壺	口縁 部、5 %以下	— — —	外反。わずかに外傾。口縁部平坦。口縁部外面縄文帯、その下位ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい赤褐色、内面にぶい褐色	F7c1 サブトレ I内、 II層	—	PL36
13	弥生 土器か	浅鉢 か	口縁 部、5 %以下	— — —	直線的。外傾。口縁部は平坦に作って棒状浮文を貼り付け、浮文間に縄文施文。外面縄文、内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・黒い褐色、内面にぶい褐色、内部黒色	F7e1 サブトレ I内、 II層	—	PL36
14	弥生 土器か	小型 壺か	頸部、 不明	— — —	わずかに外反。内傾。現存部径[30~46]cm。外面縄文、下位ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・泥岩粒・凝灰岩粒微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面・内部灰黄褐色	F7d1 サブトレ I内、 II層	—	PL36

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第45図 15	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに内甕。わずかに内 傾か。外面ヒトデ状文。内 面ナデ	メノウ粒少 量。石英粒・ チャート粒・ 海綿骨針微 量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 褐色	F7d1. I B層	—	PL36
16	土師器	高台付 杯	体部～ 高台。 20%	(39) —	ロクロ成形・糸切り後、高 台貼り付け。体部内甕。大 きく外傾。高台はハの字状 に開く足高高台の様相	褐色礫・褐色 砂粒・メノウ 粒・チャート 粒・泥岩粒・ 雲母細粒微 量	やや不 良。焼 きやや 甘い	内外面灰白 色。外面一 部灰オリーブ 色	F7d1. I B層	3片	PL36 10世紀前 半

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第45図 17	石棒	(7.6)	(3.8)	(1.3)	(54.2)	粘板岩	やや大型の石棒頭部片。図下端は括れ部。 表面頭頂部及び括れ部に敲打痕。裏面剥離。 本来の断面扁平か。表面の筋は後世 の操作等による傷	F7e1. I層	—	PL36 一部残存
18	石棒 未成品	(16.5)	(4.9)	(1.7)	(163.0)	粘板岩	やや大型の石棒片。表面敲打痕。裏面剥離。 本来の断面扁平か	F7c1. I層	—	PL36 一部残存
19	石棒	(8.0)	(3.4)	(1.1)	(37.8)	粘板岩	やや大型の石棒片。頭部片か。図下端は 括れ部の可能性。表面敲打痕。裏面剥離。 本来の断面扁平か	F7b1. I層	—	PL36 一部残存
20	石棒	(4.9)	(2.4)	(1.2)	(17.4)	粘板岩	石棒先端部破片。裏面剥離。図下端は左 に反る。先端部に敲打痕。身部は軸直交 に近い斜交方向の研磨調整	F7e1. I B層	—	PL36 一部残存
21	石棒 未成品	(10.6)	(3.0)	(2.5)	(93.5)	粘板岩	小型でやや扁平な石棒片。周囲を敲打に より整形。先端部はわずかに彫らみをも ち断面三角形。先端は平滑な自然面	F7c1. I層	—	PL36 一部残存
第46図 22	敲石・ 凹石	(11.2)	5.9	5.0	(431)	砂岩	やや太い棒状礫を利用。現状で一端と接 付近に使用痕。3面に凹み。凹石として も使用	F7d1. I B層	—	PL36 一部欠損
23	砥石	(8.2)	(5.4)	(6.4)	(335)	砂岩	底面が平らなやや大型の礫を利用。現状 で1面に使用痕。砥面は彎曲	F7d1. I B層	—	PL36 一部残存
24	石核	6.6	4.0	3.2	73.0	メノウ	節理の多い、石器素材としてはやや不適 と思われる礫を利用。打面を転回しなが ら小型幅広の剥片を剥離。現状不整形。 一部自然面が残る	F7c1. I層	—	PL36 完存
25	石核	3.7	3.4	3.3	47.7	珪化 凝灰岩	打面を転回しながら小型幅広の剥片を剥 離。立方体状。2面に自然面、1面に節 理面がそれぞれ一部残る	F7e1. I B層	—	PL36 完存

6 第19トレンチ (第47図)

(1) 調査概要

第19トレンチは、E7e5区からE7i5区までの区域に、長さ10m、幅2mで東西に長く設定されている。今次調査の目的のひとつに、第9号溝跡の走向の確認と性格等の把握がある。それには、第9号溝跡が確認されている第18トレンチの南側を押さえる必要があったため、第19トレンチは設定されたものである。また、このトレンチは第2次調査時に第18トレンチで確認されて第81・83号土坑と記録した土器棺墓群の南への広がりを掴むためにも、有用であると考えた。第18トレンチの南西方向には、第10トレンチ1・2区を設定して調査した。

第Ⅱ2層上面で遺構確認に努めるとともに、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本としており、第9号溝跡付近ではサブトレンチを拡大している。調査後は、トレンチ全体に目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

①弥生時代

(i) 溝跡

第9号溝跡 (SD9, 第47・62図)

位置 第19トレンチではE7i5区、E7j5区に位置し、第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。また、第25トレンチではE6j8区からE6j0区に位置し、第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。第19トレンチと第25トレンチに跨って確認されたが、ここで合わせて掲載する。

規模と形状 第19トレンチで確認できる上端の幅は180cm、深さは157cmの断面V字形の溝である。走向はN-14°-Wで、第2次調査で確認できた走向とはほぼ同様である。掘り込みは下部で急斜面になって粘土層を貫き、その下の礫層にまで達し、ここで湧水する。底面の幅は55cmで、第1・2次調査で確認できた幅より広い。また、第25トレンチで確認できる走向はE6j0区でN-30°-Wだが、E6j8区ではN-42°-Wと、ゆるやかに走向が変化する。確認できる深さは36cmである。

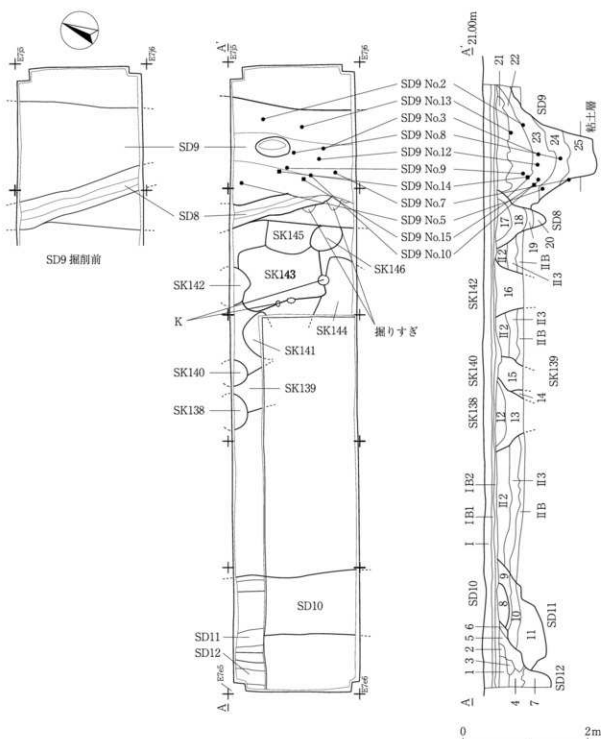
重複関係 第19トレンチでは第145・146号土坑・第8号溝跡に切られている。第25トレンチでは第154・155号土坑に切られ、第153号土坑を切っている。

土層 掘り込んだ第19トレンチ北壁のセクションでは5層が確認でき、自然堆積である。第25トレンチ西壁のセクションでも、21・22層が確認できる。

土層観察

21 暗褐色 (10YR3/3)	ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
22 暗褐色 (10YR3/3)	ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
23 褐色 (7.5YR4/3)	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
24 暗褐色 (7.5YR3/4)	ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
25 暗褐色 (10YR3/4)	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

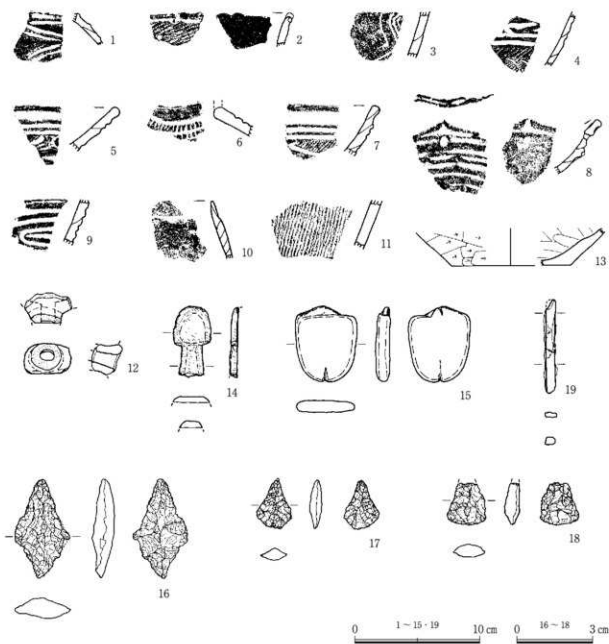
遺物出土状況 土器等628点、石器等64点、鉄製品1点が出土している。うち縄文土器12点（浅鉢5、深鉢4、壺2、注口土器1）、土師器1点（甕）、石器・石製品5点（石鏃3、石棒1、石



第47図 第19トレンチ実測図

錘1), 鉄製品1点(不明)を掲載する(第48図, 第20表)。なお, 土師器や鉄製品については, いずれも第I B層と接する確認面付近からの出土で, 時期決定に影響するものではないと判断した。中・下位層からは縄文土器や石器・石製品のみが出土し, 弥生以降の遺物の混入は見られない。また, 土偶脚部が出土しているが, 第119号土坑出土の土偶脚部と接したため, そちらに掲載した。

所見 溝跡という性格上, 第1次調査では第4トレンチ, 第2次調査では第18トレンチ, 今次調査では第19トレンチと第25トレンチで捉えられている。走向は第4トレンチではN-46°-W,



第48図 第9号溝跡出土遺物実測図

第20表 第9号溝跡出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第48図 1	縄文土器	壺	肩部、5%以下	—	精製。わずかに内唇。強く三内傾。外面刻文帯による三角区画の連続。区画の結節部は刻文帯による円環文か。外面区画内ミ字身。赤彩(橙色)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	内外面にふい黄橙色	遺構確認面	—	PL37 安行2式
2	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外反気味。外傾。口縁部をわずかに外側に突出させ、端部にB突起貼り付け。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内面褐色	覆土中層	—	PL37

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第48図 3	縄文 土器	深鉢	胴部 5%以下	— —	内彎気味。外傾。外面糸線による縦位(斜位か)の波状文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	外面褐灰色。内面にふい橙色	覆土中層	—	PL37 後～晩期 粗製土器
4	縄文 土器	浅鉢	胴部 5%以下	— —	薄手。内彎。外傾。外面上半半南状文。横走沈線を挟み下半結節縄文。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面にふい黄褐色。一部黒褐色	遺構確認	—	PL37 大洞B C 式
5	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部 5%以下	—	わずかに内彎。大きく外傾。外面沈線2条の下位に半南状文か	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。器表下にふい褐色。内部褐灰色	覆土中層	—	PL37 晩期前葉
6	縄文 土器	壺	肩部 5%以下	—	わずかに内彎。強く内傾する肩部から頸部が屈曲して立ち上がる様相。3条の同心円状の沈線をまわし間をヘラ状施文具でキザミ	メノウ粒・石英粒少量。メノウ礫・雲母微量	普通	外面灰黄褐色。内面黒褐色	遺構確認	—	PL37
7	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部 5%以下	— —	内彎。大きく外傾。外面口縁部下に横走する溝。以下横走沈線2条。磨消縄文手法による雲形文または入組み文	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒少量、泥岩粒・褐色色砂粒微量	良好。 焼けムラ	内外面橙色。一部黒色	覆土下層	—	PL37 大洞C1 またはC 2式
8	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部 5%以下	— —	胴部内彎。大きく外傾。口縁部波状口縁。肩部と頸部外面は眼状。下位は眼に波文に沿った溝。眼状浮帯文。沈線で区画した縄文帯。沈線の区画文。内面ナデ。波頂下には波頂に沿った溝。波頂部下に焼成後穿孔の1孔。	メノウ粒・石英粒少量。黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒色	覆土下層	—	PL37 大洞C2 式
9	縄文 土器	浅鉢	胴部 5%未 満	— —	わずかに内彎気味。外傾。外面沈線による工字文。内面ミガキ	精良。メノウ粒・石英粒微量	良好。 焼けムラ	サンドイッチ状。内面浅黄褐色。外面灰黄褐色。内部褐灰色	覆土上層	—	PL37 大洞A式
10	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部 5%以下	— —	胴部わずかに内彎。口縁部外反気味。内傾。複合口縁。外面ナデ。輪積み痕が残る。細い粘土紐使用。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	内外面黒褐色。内面一部にふい赤褐色	覆土中層	—	PL37 晩期粗製 土器
11	縄文 土器	深鉢	胴部下 5%以下	— —	直線的。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・泥岩粒・雲母粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。内部褐灰色	遺構確認	—	PL37 外周わず かに炭化 物付着
12	縄文 土器	注口 土器	注口 部。5 %以下	— —	横幅(37)cm。孔は横径10cm。縦径0.9cmの横長の楕円形で、若干上を向く。内外面ナデ。注口先端部欠損。現状で10cm残存。欠損部整形のうえ使用された可能性	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	覆土中層	—	PL37
13	土師器	甕	体～底 部。5 %以下	— (28) [94]	薄い平底から外反気味に大きく外傾して立ち上がる体部。上端で内彎気味。外面ヘラケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色。内部褐色	覆土上層	—	PL37

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第48図	14	石棒 頭部	(5.6)	(3.0)	(0.6)	(11.3)	粘板岩	頭部下2.5cmで折損。裏面剥離のため扁平。表面の平坦面には研磨痕。元来扁平の可能性。調整は軸に斜交方向の研磨	覆土上層	—	PL37 一部残存
	15	石錘	6.0	4.9	1.1	51.1	粘板岩	扁平な礫を利用。両端に切り込み	覆土中層	—	PL37 完存
	16	石鏃	4.0	2.2	0.9	(4.1)	メノウ	現状、被熱により白変し表面ひび割れ。やや大型の凸基有茎鏃。鏃身部が厚く茎部が薄い。天地は全体形状から判断したが、厚さからは逆の可能性あり	覆土上層一括	—	PL37 一部欠損
	17	石鏃	(1.9)	1.4	0.5	(0.9)	メノウ	明黄褐色の良質なメノウを利用。円基鏃。先端部をわずかに折損。深い剥離による丁寧な調整	遺構確認面付近	—	PL37 一部欠損
	18	石鏃	(1.7)	1.6	0.6	(1.4)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。表面の一部に自然面。円基鏃。先端部欠損。一部細線の調整が粗く未成品の可能性あり	覆土中層	—	PL37 一部欠損

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第48図	19	不明 鉄製品	(7.4)	1.0	0.6	(15.8)	鉄	現状で断面方形の棒状品。より長い製品の一部分かどうかは不明。断面は図上位で薄くなり厚さ0.4cm。図下端から3.3cmに区状の部分があるが区かどうか不明	遺構確認面	—	PL37 一部欠損。後世遺物の混入か

第18トレンチではN—15°—Wと変化していたが、第25トレンチにおいては、ゆるやかに曲線を描く様子を平面で確認できた。すなわち走向については、ここまでの調査結果から、遺跡の所在する低位段丘の等高線に合わせて、大きく緩やかに弧を描くと考えられる。出土遺物から、弥生時代後期の所産という見解は、第2次調査と変わらない。また、弥生時代中期の再葬墓である第153号土坑を切っていることが確認でき、廃絶時期を検証するうえで貴重な成果となった。

②時期不明

(i) 土坑

第138号土坑 (S K 138, 第47図)

位置 E 7 g 5区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるが、平面は径55cmの円形になると考えられる。確認できる深さは45cmで、壁は確認面から20cm程度で急に外傾する。

重複関係 第139号土坑を切っている。

土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

12 灰黄褐色 (10YR 4/2) ローム粒子少量、小礫少量、Nt-S少量、締り中、粘性中

13 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締り中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第139号土坑 (S K 139, 第47図)

位置 E 7 g 5区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるものの、平面は短軸57cm、長軸の向きはN—42°—Wの楕円形または長方形になると考えられる。確認できる深さは17cmである。

重複関係 第138・140号土坑に切られる。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

14 暗褐色 (10YR 3/3)

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第140号土坑 (SK140, 第47図)

位置 E7g5区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるが、平面は径40cmの円形になると考えられる。確認できる深さは40cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第139号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

15 暗褐色 (10YR 3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第141号土坑 (SK141, 第47図)

位置 E7g5区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びるものの、平面は短軸55cm、長軸の向きはN-19°-Eの隅丸長方形になると考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第142号土坑 (SK142, 第47図)

位置 E7h5区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるものの、平面は径58cmの円形になると考えられる。深さは43cmで、壁は外傾して立ち上がっている。重複関係 第143号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

16 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第143号土坑 (SK143, 第47図)

位置 E7h5区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸130cm、短軸95cm、長軸の向きはN-35°-Wの隅丸長方形である。

重複関係 第142・145・146号土坑に切られ、第144号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第144号土坑 (SK144, 第47図)

位置 E7h5区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 コーナーが確認でき長方形を指向すると考えられるが、大部分がトレンチ外に延びており、詳細は不明である。

重複関係 第143号土坑に切られる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第145号土坑 (SK145, 第47図)

位置 E7h5区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は短軸70cm、長軸の向きはN-75°-Eの楕円形と考えられる。

重複関係 第146号土坑に切られ、第143号土坑・第9号溝を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第146号土坑 (SK146, 第47図)

位置 E7h5区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸55cm、短軸40cm、長軸の向きはN-63°-Wの楕円形と考えられる。

重複関係 第143・145号土坑・第9号溝を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

(ii) 溝跡

第8号溝跡 (SD8, 第47図)

位置 E7h5区、E7i5区に位置する。第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 上端の幅45cm、深さ76cmの断面V字形の溝である。走向はN-40°-Wで、掘り込みは下部で急斜面になって第Ⅲ層に達する。

重複関係 第9号溝跡を切っている。

土層 4層が確認でき、人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------|---|
| 17 暗褐色 (10YR3/3) | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、小礫極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |
| 18 黒褐色 (10YR3/1) | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |
| 19 黒褐色 (10YR3/1) | ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |
| 20 黒褐色 (10YR2/3) | ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |

遺物出土状況 土器等37点、石器等3点が出土している。うち石器・石製品1点(石剣)を掲載する(第49図, 第21表)。

所見 平安時代の堅穴住居跡を切っていることが第1次調査で確認されているため、平安時代以降の所産と考えられている。今次調査では新たな知見は得られず、詳細は不明である。



第49図 第8号溝跡出土遺物実測図

第21表 第8号溝跡出土遺物観察表

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第49図 1	石剣	(5.4)	(2.1)	(0.7)	(9.9)	粘板岩	破片だが扁平な形状が推定され、石剣と判断した。部位不明。表面に軸に対し直交に近い斜位の磨りによる調整痕	覆土中 一括	—	PL37

第10号溝跡 (SD10, 第47図)

位置 E7e5区に位置する。第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 確認できる上端の幅は100cm、深さは17cm、断面は皿状でゆるやかに立ち上がる。

走向はN-23°-Wで、第2次調査で確認できた走向とほぼ同様である。

重複関係 第12号溝跡に切られ、第11号溝跡を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

8 褐色 (7.5YR 4/6) ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 第2次調査で確認された重複関係から、古代～中世の所産と考えられるが詳細は不明である。

第11号溝跡 (SD11, 第47図)

位置 E7e5区に位置する。北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大きく切られているものの、上端の幅はその形状から200cm程度はあるものと推測される。深さは75cmで、壁はゆるやかに立ち上がっている。走向はN-27°-Wである。

重複関係 第10・12号溝跡に切られている。

土層 3層が確認でき、人為堆積である。

土層解説

9 暗褐色 (7.5YR 3/4) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性中

10 黒褐色 (7.5YR 3/2) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

11 黒褐色 (7.5YR 2/2) ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 第2次調査で確認された重複関係から、古代～中世の所産と考えられるが詳細は不明である。

第12号溝跡 (SD12, 第47図)

位置 E7e5区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 確認できる上端の幅は95cm、深さは82cm、断面はV字形である。走向はN-14°-Wである。

重複関係 第10・11号溝跡を切っている。

土層 7層が確認でき、ブロック状の人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
- 2 褐色 (10YR 4/4) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
- 3 灰黄褐色 (10YR 4/2) ローム粒子中量, 締まり中, 粘性中
- 4 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中
- 5 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) ローム小ブロック中量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 締まり中, 粘性中
- 6 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中
- 7 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 形状から、中世以降の所産と考えられるが詳細は不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第50～52図, 第22表)

遺物出土状況 土器等2,616点, 石器等161点, 鉄製品1点が出土している。うち縄文土器22点(深鉢15, 浅鉢2, 注口土器2, 壺2, 台付浅鉢1), 弥生土器4点(壺2, 広口壺1, 高坏1), 土師器1点(椀), 土製品7点(土偶2, 管状土錘3, 土器片円盤1, 弓形土製品1), 石器・石製品24点(石鏃8, 石棒4, 石剣3, 砥石3, 石錘2, 敲石1, 磨製石斧1, 磨石1, 石核1)を掲載する。第2次調査時の第18トレンチでも、縄文晩期と弥生中期の遺物の散布が確認されていたが、第19トレンチになると縄文晩期の比率が増え、弥生中期が少なくなる。弥生遺構の分布域から離れてきたものと考えられる。一方、第19トレンチでは弥生の高坏が確認されていて、第2次調査時の18トレンチとの共通点も見られる。

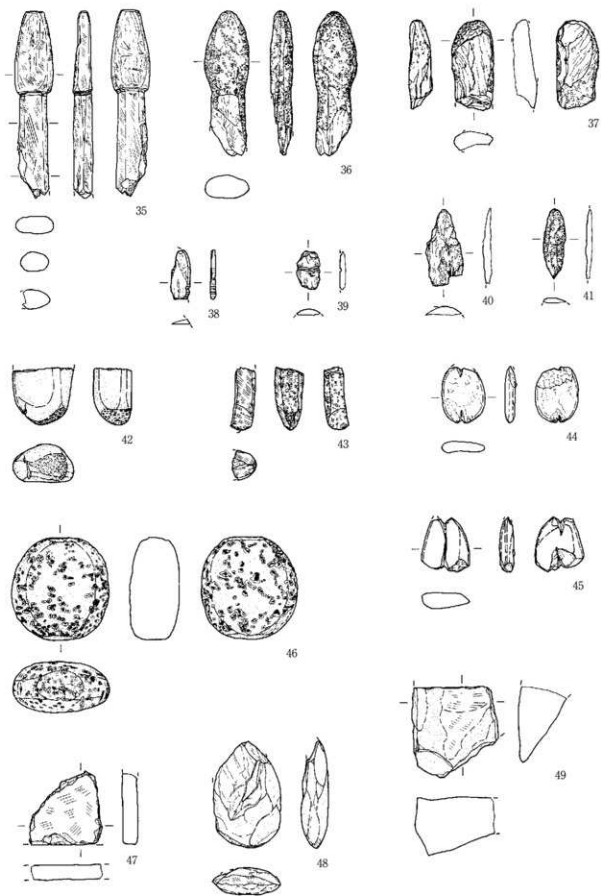
(3) 所見

第19トレンチの目的である、第9号溝跡は押さえることができた。この調査結果から、遺跡の所在する低位段丘の等高線に合わせて大きく緩やかに弧を描くという当初想定が覆され、第9号溝跡は、少しずつ走向を変えながら、南北に伸びるということが判明した。

一方、土器棺墓群の南への広がりという点については、新たな土器棺墓が確認されなかったこと、また弥生の遺物の散布が少なくなったことにより、付近に所在する可能性はほぼなくなったと考えられる。

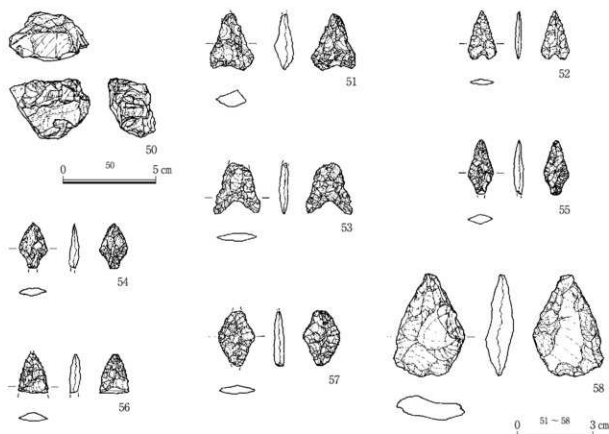


第50図 第19トレンチ遺構外出土物実測図(1)



0 10 cm

第51図 第19トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第52図 第19トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)

第22表 第19トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
50図	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	直線的, わずかに外傾, 平縁。口縁部外面に現状で平行沈線2条, その間と下位に梯状施文具による刺突3か所。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色・黒褐色。内面にぶい橙色。内部黒褐色	E7f5, II層上面	—	PL37 同一個体片2片(Na2ほか1片)。前期・浮島I式
2	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	直線的, 外傾。外面に斜位と横位に近い平行沈線により三角形の文様を構成。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色・黒褐色。内面にぶい橙色。内部黒褐色	E7f5, IB層, 同サブレベル内II層以下	2片	PL37 同一個体片2片(Na1ほか1片)。前期・浮島I式
3	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎, 外傾。口縁端部に羊歯状のキザミ。その下位外面横走沈線3条と細く浅い斜位の沈線1条。内面やや粗いミガキ	泥岩粒少量, メノウ粒・石英粒・チャート粒・赤褐色砂粒微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色。内部黒灰色	E7f5, II層上面	—	PL37 晩期中葉か
4	縄文土器	注口土器か	胴部, 5%以下	—	わずかに内彎・外傾する下半から最大径付近で緩やかに屈曲し, 上半で内彎・内傾。最大径約17cm。最大径直下外面に横走沈線1条, 上半外面羊歯状文。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・海綿骨針微量	良好。焼けムラ	外面灰黄褐色・黒色。内面黒褐色。内部褐色	E7e5, SD10履土中か	—	PL38 大淵BC式
5	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	薄手。直線的, 外傾。外面結節縄文, 内面ミガキ	メノウ粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色	E7c5, I-B層上面	—	PL37 晩期中葉

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第50図											
6	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— —	内彎気味。外傾。外面結節縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい 橙色・内面灰褐色	E7f5, I B層	—	PL38 晩期前～ 中葉
7	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	— —	わずかに内彎。外傾。端部内側外側交互の連続するキザミ。外面横走沈線その間に連続刺突。その下に縄文と弧状の沈線。左端近くの小孔は胎土中の有機物の痕跡か。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒微量	良好	外面黒褐色 内面・内部黒色。外面直下灰白色	遺構確認一拵	—	PL38 大期前～ 中葉
8	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内彎。外傾。口縁部外面に幅広の溝。胴部外面棒状工具による連続刺突。その下に縄文を弧状に磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩粒・石英粒・赤褐色砂粒微量	普通。焼けムラ	外面にぶい 橙色・一部黒褐色。内面黒褐色	E7g5, I B層	—	PL38 大期C2 式前後
9	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	外反。外傾。口縁部を平縁から一部緩やかな山形に作り、器表荒れにより不明)を施文。口縁部下の横走沈線から頂部に向かう楔状の凹線を施す。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母微量	やや不焼 き甘い	内外面黒褐色 色・灰黄褐色	E7g5, I B層	—	PL38 大期C2 式
10	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内彎気味で外傾する胴部からわずかに外側に屈曲する口縁部。口縁部外面に突起。胴部外面細かな器余文。口縁部内面ミガキ。胴部内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面黒褐色 内面灰黄褐色	E7g5, I B層～I 層上面	—	PL38 晩期後半
11	縄文土器	深鉢	胴部上半5%以下	— —	内彎。わずかに外傾。矩形(長方形の一部)の隆帯を貼り付け、1～2列のやや長い刺突。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	やや不焼 き甘い	外面にぶい 赤褐色・明赤褐色。内面にぶい 褐色	E7f5, I 層上面	2片	PL38 大期C2 式か
12	縄文土器	壺	胴部上半5%以下	— —	上面斜位の器余文を施文後、上位に横走沈線を2条平行させ、間に横長の刺突を連続させる。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色・黒褐色。内部褐色	E7e5, SD10 覆土中か	—	PL38 晩期中葉
13	縄文土器	壺	胴部5%以下	— —	内彎・内傾する肩部から外反する頸部。頸部外面ミガキ。浅い沈線で区画して胴部器余文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・黒色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部黒褐色	E7h5, I B層～I 層上面	—	PL38 大期C2 式
14	縄文土器	台付浅鉢	底部～脚台10%	(3.3)	平底に大きく開く脚台が付く。底部と脚台の境界部分に眼線状浮帯文。溝の施文には半截竹管状の施文具を使用。内外面丁寧なミガキ。脚台内面やや粗いミガキ	メノウ粒中量、石英粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面暗赤褐色・黒褐色。器表下褐色。内部灰褐色	E7g5, I B層	—	PL38 大期C2 式
15	縄文土器	注口土器または香形土器	肩～胴部5%以下	— —	内彎気味で内傾する胴部から原曲して強く内傾する肩部。肩部に孔の一部。肩部外面ミガキ。屈曲部外面に起伏のある突帯。胴部横走沈線の下に磨消縄文。内面ナデ	泥岩礫・泥岩粒・メノウ粒・石英粒微量	普通。焼けムラ	外面灰黄褐色・黒褐色。内面褐色	E7g5, I B層～II 層上面	—	PL38 晩期中葉 か
16	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	粗製。わずかに外反。外傾。平縁。外面斜位・横位のケズリ。横位は口縁部のみ。ケズリの方向は右・右下→左・左上。順は斜位→横位。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	やや不焼 き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	E7f5, I B層	—	PL38

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第50図	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— [30前後]	内甕・外傾する胴部から屈曲して外傾する口縁部。口縁端部キザミにより小波状。外面無文(ナデ)。口縁部外面輪積み痕。内面ヘラナデ	メノウ粒中量、メノウ礫・チャート粒・石英粒・雲母細粒微量	良好	内外面にぶい 褐色。外面一部にぶい褐色	E7c5、I B層～II層上面	—	PL38 晩期粗製土器。前～中葉か
18	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— [28前後]	わずかに外反。わずかに外傾。複合口縁。端部平坦。外面網目状撫系文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。外面明褐色。内面褐色。内部褐色	E7c5、I B層～II層上面	—	PL38 晩期粗製土器
19	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— [29前後]	内甕気味。内傾。複合口縁。口縁部外面網目状撫系文。胴部外面撫系文(網目状か)。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい 赤褐色。内面にぶい褐色	E7c5、I B層～II層上面	—	PL38 晩期粗製土器
20	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— [29前後]	薄手。胴部内甕・内傾。口縁部外反・直立。複合口縁。複合部粘土紐の終始を重ねたまま無調整。外面無文(一部輪積み痕と指頭圧痕を残し、粗いミガキ)。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい 褐色。内面にぶい黄褐色	E7e5、SD10 覆土中か	—	PL38 晩期粗製土器
21	縄文土器	深鉢	頸～胴部上半、5%以下	— [29前後]	薄手。胴部内甕・わずかに外傾。胴部外反。頸部外面ナデ。頸部外面網目状撫系文。施文後、円形浮文を貼り付け。周縁に沈線。のち一部沈線で網目を補ったか。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量。泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐色・褐色。内面にぶい褐色	E7f5サ アフレ、II層以下	—	PL38 晩期粗製土器。大淵C2式
22	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— [29前後]	内甕気味。外傾。外面網目状撫系文。内面ナデ。一部粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部黒褐色	E7f5、I B層	—	PL38 晩期粗製土器。内面炭化物付着
23	弥生土器	壺	口縁～頸部、5%以下	— [10前後]	わずかに外反。外傾。口縁部内甕気味。口縁部外面縄文。口縁部内面・頸部内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内面にぶい褐色。内部褐色	E7f5サ アフレ、II層以下	—	PL38
24	弥生土器	壺か	胴部、5%以下	— [10前後]	薄手。わずかに内甕。外傾。外面縄文。内面ナデ。一部輪積み痕	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面褐色・浅黄褐色。内面灰白色	E7g5、I B層	—	PL38
25	弥生土器	広口壺か	頸～胴部、5%以下	— [10前後]	外反。内傾。外面鐘形状に附加糸縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い	外面褐色。内面黒褐色	E7h5、II層～I層上面	—	PL38 後期。器表荒れ
26	弥生土器	高坏	坏底部～脚部、5%	— (2.0)	坏底部に大きく広がる脚が付く。坏内面ナデ。脚内外面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・チャート粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	E7f5、I B層	—	PL38
27	土師器	碗	体～底部、15%	— (3.6) [7.6]	ロクロ成形。平底。体部内甕・外傾。外面ロクロナデ。内面ミガキ。黒色処理。底部手持ちヘラケズリ	精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	E7f5、I B層	3片	PL38 10世紀前半

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第50図	土器片 円盤	3.0	2.8	—	81	厚さ10cm。縄文土器胴部片を利用。周囲の一部を磨り調整。表面に土器の縄文。裏面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。表面にぶい褐色。表面浅黄褐色。内部黒褐色	E7h5、I B層	—	PL38 完存

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第50号												
29	弧形土製品	24	24	0.3~0.9	(7.5)	推定円盤状の基部から基部寄りにわずかな括れをもつ筒形部分が立ち上がる。軸線に基部から先端にかけて細くなる貫通孔。外面ナデ。内面ヘラ状工具によるナデ。やや粗製	メノウ粒(赤メノウ顕著)少量。石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい橙色。内部褐色	E7g5, I B層	—	PL38 一部欠損
30	土偶か	(27)	(3.3)	—	(7.4)	中空で器胎の厚さ0.3~0.9cmと不安定。部位不明。表面細い沈線区画の中に細かい刺突。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄色。内面にふい赤褐色。内部黒褐色	E7g5, I B層~II層上面	—	PL39 一部残存
31	土偶	高さ(5.3)	(4.3)	—	(64.1)	厚さ(3.8)cm。脚部。足の形状等から左足と判断した。厚い板状の脛に横に張った短い脚が付く。脛の表裏に三角形の一部とその下位に横位の沈線。脚の表裏と脛面に沈線と2列の刺突。無文部ナデ。一部ヘラナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・泥岩礫・泥岩粒・石英粒・雲母細粒微量	普通	表面 灰黄色褐色。内部 褐色	E7g5, I B層~II層上面	—	PL39 一部残存
32	管状土鍾	3.4	1.5	0.4	(6.6)	不整な円筒形。断面不整形。長軸に貫通孔。表面ナデ	砂質。メノウ粒中量。チャート粒少量。石英粒・泥岩粒微量	やや不良	灰黄色褐色・黒褐色	E7h5, I層	—	PL39 ほぼ完存
33	管状土鍾	3.4	1.9	0.4	8.6	中央部が太く両端は急激に細くなる。断面円形。長軸に貫通孔。表面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	良好	にふい橙色・浅黄褐色	E7e5, I B層	—	PL39 完存
34	管状土鍾	4.0	1.6	0.4	(8.7)	中央部が太く両端は細くなる。断面円形。長軸に貫通孔。表面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	にふい橙色・灰黄褐色	E7e5, I B層	—	PL39 ほぼ完存

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第51号										
35	石剣	(14.8)	3.1	(1.5)	(101.0)	粘板岩	頭部。扁平で頭部両面に自然面が残る。身部副縁に稜。調整は軸に斜交(一部直交・平行)する研磨。研磨痕やや顕著	E7g5, I B層	—	PL39 一部残存
36	石剣未成品	(11.6)	3.5	(2.8)	(88.4)	粘板岩	扁平な形状から石剣と判断。頭部から括れて身部。敲打による成形の段階。表裏面の敲打は軸に対し斜に連続して行なう場合が多い	E7g5, II層上面	—	PL39 一部残存
37	石剣	(7.1)	(3.4)	(2.0)	(52.3)	絹雲母片岩	扁平。頭部から若干括れて身部。表面敲打痕。剥離面との境界やや不明	E7f5サフドレシ。II層以下	—	PL39 一部残存
38	石棒	(3.9)	(1.6)	(0.4)	(2.5)	粘板岩	曲面から石棒頭部と判断。軸直交の溝2条。表面軸直交・斜交の研磨調整	E7e5~5, SD10または11覆土中	—	PL39 一部残存
39	石棒	(3.0)	(1.8)	(0.5)	(3.8)	粘板岩	断面円形のため石棒と判断。径は3.5cm程度か。軸直交の溝1条。表面はほぼ軸方向の研磨調整	E7e5~5, SD10または11覆土中	—	PL39 一部残存
40	石棒未成品	(6.1)	(3.0)	(0.7)	(10.6)	粘板岩	断面形状等から石棒と判断。径は5~6cm程度か。表面敲打痕	E7g5, I B層~II層上面	—	PL39 一部残存

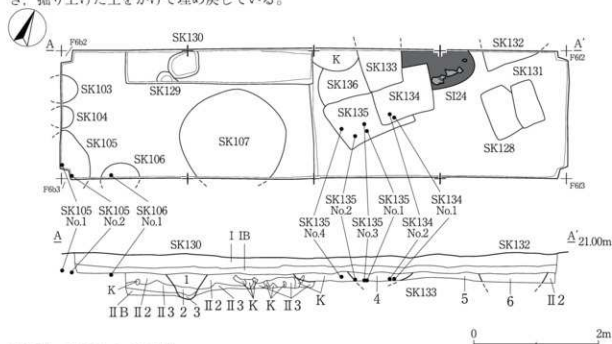
挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第51図	41	石棒 未完成品	(5.5)	(1.8)	(0.5)	(5.2)	粘板岩	断面円形の棒相。断面形状等から石棒と判断。表面敲打痕。敲打痕が大きく強い打跡が想定される	E7g5, I B層 ～II層 上面	—	PL39 一部残存
	42	敲石	(4.5)	(4.8)	3.1	(98.0)	砂岩	断面三角形に近い棒状礫を利用。現状で一端に使用痕	E7g5, I B層 ～II層 上面	—	PL39 一部残存
	43	磨製 石斧	(5.0)	(2.0)	(2.3)	(25.9)	粘板岩	両刃で断面隅丸長方形。器表には顕著な擦痕。側縁には敲打痕が残る。石棒未完成品の転用か	E7g5, I B層 ～II層 上面	—	PL39 一部残存
	44	石錘	(4.5)	3.4	0.8	(17.5)	ホルンフェルス	扁平な楕円礫を利用。両端から磨りにより切れ目を入れる。表面図下端に磨りの痕跡。裏面拱理による欠損	E7g5, I B層 ～II層 上面	—	PL39 一部欠損
	45	石錘	(4.3)	3.9	1.2	(25.1)	ホルンフェルス	扁平な不整形礫を利用。図下部の割れは加工前。両端から切れ目	E7g5, II層上 面	—	PL39 一部欠損
	46	磨石・ 敲石	8.1	7.7	4.0	308	多孔質 安山岩	扁平な楕円礫を利用。両端に使用痕。磨石としては表裏面も使用か	E7e5, SD10 または 11覆土 中	—	PL39 完存
	47	砥石	(5.9)	(5.7)	1.2	(63.0)	砂岩	拱理によって剥離した板状礫を利用。1面が使用により平滑	E7e5, II層上 面	—	PL39 一部残存
	48	砥石	(8.5)	5.4	2.2	(113.5)	ホルンフェルス	楕円形に近い扁平な礫を利用。一端に砥面。手持ち砥石。一部拱理による欠損	E7f5, I B層	—	PL39 一部欠損
	49	砥石	(7.1)	(6.8)	(4.6)	(240)	ホルンフェルス	図上～右側縁は破損面。左も破損面の可能性。大型礫の1面を利用。磨面平滑。磨面の中央は図上方か	E7g5, I B層 ～II層 上面	—	PL39 一部残存
第52図	50	石核	3.1	4.2	2.5	34.5	チャート	角礫を利用し、打面転回しながら3面から幅広い剥片を剥離	E7f5, I B層	—	PL40 完存
	51	石鏃	(2.3)	1.7	0.8	(2.0)	メノウ	透明感のある良質のメノウを利用。凹基無茎鏃。調整が粗く、厚みがある。先端部に使用痕と思われる彫刀面状の衝撃剥離痕	E7f5, I B層	—	PL40 一部欠損
	52	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.4	斑岩	整った形状の凹基無茎鏃。調整が粗い部分がある	E7g5, I層	—	PL40 完存
	53	石鏃	(2.0)	1.8	0.4	(1.1)	チャート	凹基無茎鏃。先端部に剥離。衝撃剥離痕か	E7h5, I B層	—	PL40 一部欠損
	54	石鏃	(1.8)	1.1	0.4	(0.6)	メノウ	赤メノウを利用。凸基有茎鏃。調整が粗く、素材剥片時の剥離面が残る。側面観も反りがやや大きい	E7h5, I B層 ～II層 上面	—	PL40 一部欠損
	55	石鏃	(2.2)	1.0	0.4	(0.7)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凸基有茎鏃。茎の一部が欠損。表裏面丁寧な調整剥離	E7f5, I B層 ～II層 上面	—	PL40 一部欠損
	56	石鏃	(1.6)	(1.2)	(0.4)	(0.7)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。先端と基部欠損。側縁歯状	E7f5, II層上 面	—	PL40 一部欠損
	57	石鏃	(2.2)	1.4	0.4	(1.1)	珪質頁岩	凸基有茎鏃。先端と茎先端を折損。先端は使用痕と思われる衝撃剥離痕	E7f5, I層	—	PL40 一部欠損
	58	石鏃 未完成品	4.1	2.8	1.1	10.2	珪化 凝灰岩	大型。剥離は粗く、表裏面に素材剥片時の剥離面を残す。無茎鏃を志向か	E7g5, I層	—	PL40 完存

7 第24トレンチ (第53図)

(1) 調査概要

第24トレンチは、F6b2区からF6e2区までの区域に、長さ8m、幅2mで東西に長く設定されている。今次調査の目的として、再葬墓遺構の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓遺構分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、その北限を押さえるために第24トレンチは設定された。

第Ⅱ2層上面で遺構確認に努めるとともに、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本としており、一部でサブトレンチを拡大している。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分間馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。



第53図 第24トレンチ実測図

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

① 弥生時代

(i) 土坑

第136号土坑 (SK136, 第53・54図)

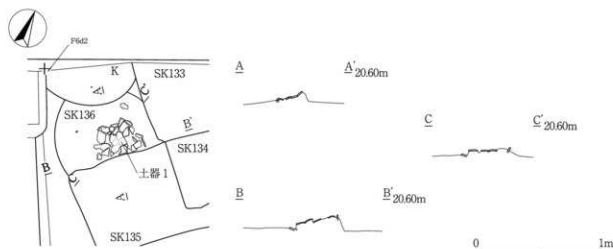
位置 F6d2区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 3方向から切られているが、平面は径90cm程度の円形と考えられる。

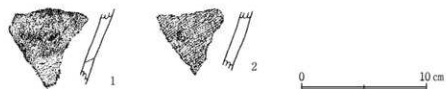
重複関係 第133・134・135号土坑に切られている。

遺物出土状況 土器等16点が出土している。うち弥生土器2点(壺)を掲載する(第55図, 第23表)。再葬のため埋納された土器は以下の1点で、これは取り上げていない。

土器1 内外面とも淡い明褐色の壺形土器である。口縁部～胴中央部は、第135号土坑に切られて失われている。胴下半部には、L R R R RまたはL R + 2 R縄文が6～7条/1cmと密に施され、底面は無文である。主軸をN-136°-Eで倒れており、中心軸はほぼ水平である。



第54図 第136号土坑実測図



第55図 第136号土坑出土遺物実測図

第23表 第136号土坑出土遺物観察表

神国 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径器 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第55図 1	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面附加条 縄文または密な縄文(器表 荒れで不明)。内面ナデ	メノウ粒少 量。石英粒・ チャート粒・ 雲母微量	やや不 良。焼 き甘い	サンドイッチ 状。内外面 にふい橙色。 内部明褐色 灰色	覆土中 一括	—	PL40
2	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面附加 条縄文。内面ナデ	メノウ粒少 量。石英粒・ チャート粒・ 雲母微量	良好	外面にふい 黄橙色。内面 にふい橙色	覆土中 一括	—	PL40 SK134 No.2 SK135No. 2~4と 同一個体

所見 出土遺物から、弥生時代中期の土器棺墓である。遺構の推定プランと、壺形土器の復元位
置から、土坑内中央に壺形土器1点を横置きしたものと考える。

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第24号竪穴住居跡 (S I 24, 第53図)

位置 F6d2区, F6e2区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分が耕作による攪乱で失われており、竈の底が確認できるのみである。

重複関係 第133・134号土坑に切られている。床 確認していない。

竈 灰黄色～にふい黄橙色粘土によって構築されており、底の部分わずかに残存する。形状か
ら、東竈と考えられる。竈土層は、北壁のセクションで確認した。

甕土層解説

5 褐灰色 (10Y R 4/2) 灰黄色~にぶい黄橙色粘土小ブロック少量、焼土小ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物粒子少量、N t-S極少量、微細焼骨片極少量、練まり中、粘性中

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 状況から、平安時代の堅穴住居跡と考えられる。第136号土坑の残存状況から、床面は第I B層以上の高さにあったものと考えられるため、耕作による攪乱で大部分が失われており、遺存状態はかなり悪い。

③時期不明

(i) 土坑

第103号土坑 (S K 103, 第53図)

位置 F 6 b 2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は径45cmの円形になると考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第104号土坑 (S K 104, 第53図)

位置 F 6 b 2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は径35cmの円形になると考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第105号土坑 (S K 105, 第53図)

位置 F 6 b 2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるが、平面は径150cm程度の円形になると考えられる。

遺物出土状況 土器2点が出土しており、縄文土器2点(鉢1, 深鉢1)を掲載する(第56図、



第56図 第105号土坑出土遺物実測図

第24表 第105号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第56図 1	縄文土器	鉢(浅鉢か)	胴部, 5%以下	—	内唇, 大きく外頼。外面沈線による人組文, 内面ミガキ	メノウ粒中量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	二次焼成	外面 橙色・淡黄色・灰色, 内面明黄褐色	F6b2, 遺構確認面	—	PL40 器表荒れ。大割C2式
2	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	内唇, 外頼。外面撫糸文, 内面ミガキ	メノウ粒中量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿管針微量	良好	外面 黒色, 内面黒褐色	F6b2, 遺構確認面	—	PL40

第24表)。これらは混入の可能性も捨てきれず、時期決定には用いなかった。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。

第106号土坑 (SK106, 第53図)

位置 F6b2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びるが、平面は径60cm程度の円形になると考えられる。

遺物出土状況 土器1点が出土しており、縄文土器1点(深鉢)を掲載する(第57図, 第25表)。



これは混入の可能性も捨てきれず、時期決定には用いなかった。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。

第57図 第106号土坑出土遺物実測図

第25表 第106号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第57図 1	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— — —	内埴気味、外頼。外面網目状埴糸文。内面ミガキ、一部輪積み痕が残る	メノウ粒少 チヤート 粒・泥岩粒微量	良好	外面褐灰色、 内面にふい 棕色	F6b2、 遺構確認面	—	PL40

第107号土坑 (SK107, 第53図)

位置 F6b2区、F6e2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びるが、平面は径165cmの円形である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第128号土坑 (SK128, 第53図)

位置 F6e2区に位置する。第III層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸77cm、短軸55cm、長軸の向きはN-49°-Wの長方形である。

重複関係 第131号土坑に切られる。 遺物出土状況 出土していない。

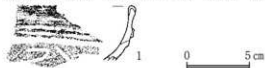
所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。

第129号土坑 (SK129, 第53図)

位置 F6b2区に位置する。第III層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径28cmの円形と考えられる。 重複関係 第130号土坑に切られる。

遺物出土状況 縄文土器1点(浅鉢)が出土しており、掲載する(第58図, 第26表)。これは



混入の可能性も捨てきれず、時期決定には用いなかった。

所見 柱穴と考えられるが、詳細は不明である。

第58図 第129号土坑出土遺物実測図

第26表 第129号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58図 1	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	[21～ 22] (4.4) —	内埴、外傾。口縁部外面ミ ガキ、胴部との境界に眼鏡 状浮帯文を付し、胴部に縄 文と沈線により雲形文を描 く。内面ミガキ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・雲母 微量	良好	口縁部外面・ 内面黒褐色、 胴部外面・ 内部褐色、 外面色分け した可能性	下層	—	PL40 内外面一 部に付 着する赤 褐色物質 は自然の 鉄分付着 か。大割 C2式。混 入か

第130号土坑 (SK130, 第53図)

位置 F6b2区, F6c2区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は長軸50cm, 短軸40cm, 長軸の向きはN—46°—Eの長方形である。

重複関係 第129号土坑を切っている。

土層 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 (7.5YR4/3) ローム粒子少量, 礫少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
- 2 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
- 3 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第131号土坑 (SK131, 第53図)

位置 F6c2区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸68cm, 短軸40cm, 長軸の向きはN—43°—Wの長方形である。

重複関係 第128号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。

第132号土坑 (SK132, 第53図)

位置 F6c2区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 南東のコーナーが確認できるが、大部分がトレンチ外に延びるため、平面は不明である。確認できる深さは15cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- 6 灰褐色 (7.5YR4/2) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。

第133号土坑 (SK133, 第53図)

位置 F6d2区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるものの、平面は短軸60cm、長軸の向きはN-39°-Wのいびつな長方形と考えられる。確認できる深さは13cmで、壁は外傾してゆるやかに立ち上がっている。

重複関係 第134・136号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

4 灰褐色 (7.5YR4/2) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 綿まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。

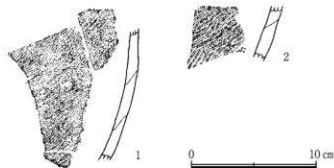
第134号土坑 (SK134, 第53図)

位置 F6d2区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸93cm、短軸75cm、長軸の向きはN-51°-Eの長方形である。

重複関係 第133号土坑に切られ、第135・136号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等5点が出土している。うち弥生土器2点(壺)を掲載する(第59図, 第27表)。これは第136号土坑を切るることによる混入であり、時期決定には用いなかった。



第59図 第134号土坑出土遺物実測図

所見 時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。

第27表 第134号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第59図 1	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内壁, 外傾。外面密な縄文, 内面ナデ, 一部ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・石英粒・雲母微量	良好, 焼けムラ	外面にぶい橙色・黒褐色, 内面にぶい黄褐色	遺構確認面	4片	PL40
2	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内壁, 外傾。外面附加条縄文, 内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・石英粒・雲母微量	良好	外面にぶい橙色, 内面にぶい黄褐色	遺構確認面	—	PL40 SK135Na 2-4, SK136Na 2と同一 器体。混入

第135号土坑 (SK135, 第53図)

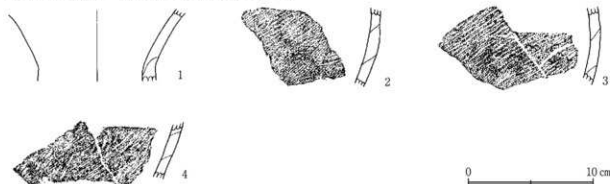
位置 F6d2区に位置する。第Ⅲ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸115cm、短軸75cm、長軸の向きはN-43°-Eの長方形である。

重複関係 第134号土坑に切れ、第136号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等9点が出土している。うち弥生土器4点(壺)を掲載する(第60図、第28表)。これは第136号土坑を切ることによる混入であり、時期決定には用いなかった。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。規模・形状や覆土状況から、第128・131～135号土坑は、同時代・同性格の土坑と考えられる。



第60図 第135号土坑出土遺物実測図

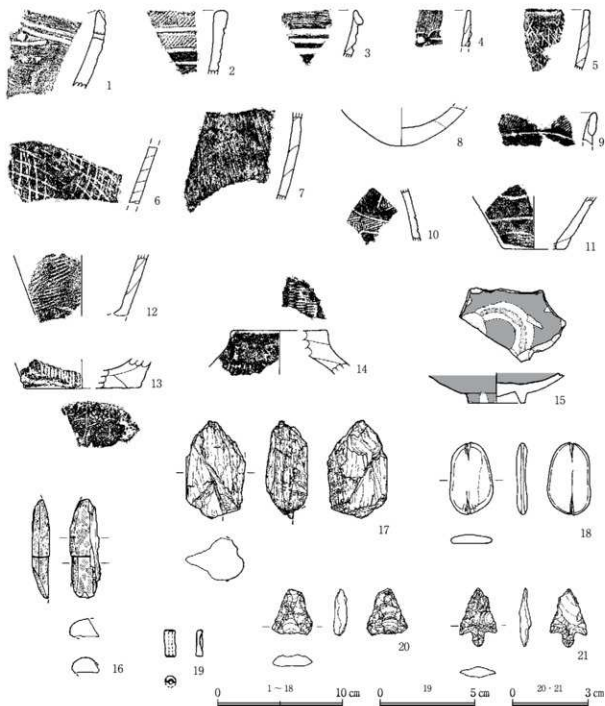
第28表 第135号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第60図 1	弥生土器	壺	頸部、5%以下	(5.7)	外反・外傾。内外面ナデ。胴部との接続部分に附加条縄文と思われる文様の端部。外面一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄橙色	遺構確認面	2片	PL40 No.2～4と同一個体の可能性。混入
2	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面附加条縄文、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色	遺構確認面	—	PL40 No.3・4、SK134 No.2、SK136No.2と同一個体。混入
3	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、わずかに外傾。外面附加条縄文、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色	遺構確認面	3片、SK134はか出土破片接合	PL40 No.2・4、SK134 No.2、SK136No.2と同一個体。混入
4	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面附加条縄文、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色	遺構確認面	2片	PL41 No.2・3、SK134 No.2、SK136No.2と同一個体。混入

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第61図、第29表)

遺物出土状況 土器等695点、石器等45点が出土している。うち縄文土器8点(深鉢6, 小型鉢1, 注口土器1), 弥生土器6点(壺2, 小型壺2, 蓋1, 不明1), 青白磁1点(碗), 石器・石製品6点(石棒2, 石鎌2, 石錘1, 管玉1)を掲載する。



第61図 第24トレンチ遺構外出土遺物実測図

第29表 第24トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第61図 1	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴。外傾。波状口縁。口縁端部に沿って2条の沈線。その下に径約4mmの孔。焼成前穿孔。孔の下に横位の沈線。外面ナデ。内面ミガキ	メノウ粒少量。石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	内外面にふい 黄橙色・黒褐色	F6c2. II層	—	PL41 外面上半 にわずかに赤色顔料付着。 晩期初頭か

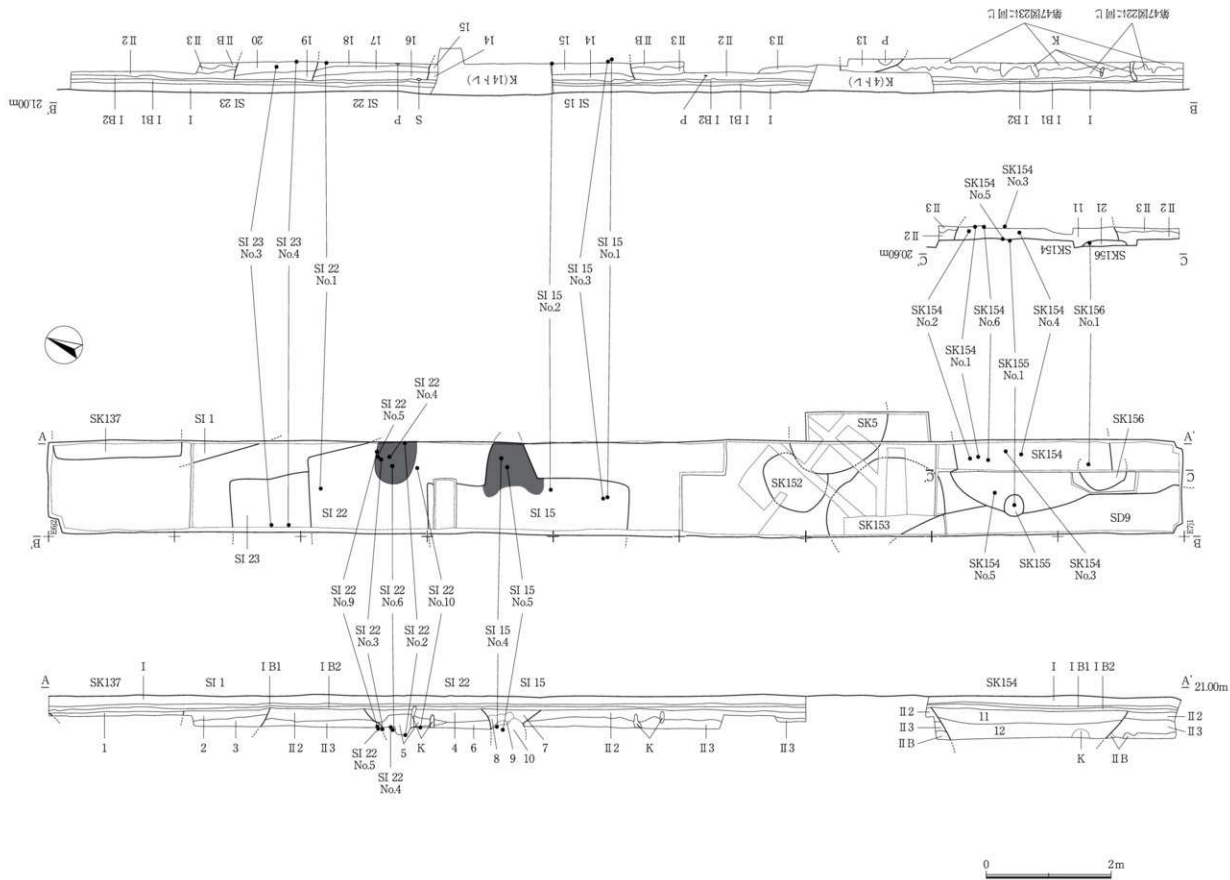
挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第61図 14	弥生 土器	蓋	天井 部、5 %程度 か	— (35) —	内傾する体部から屈曲して 平坦で肉厚の天井部。天井部 径 [7.4] cm。天井部・体 部外面条痕文。内面ナデ	メノウ粒少 量。石英粒・ チャート粒・ 雲母微量	良好	サンドイッチ 状。外面に ぶい黄橙色。 内面にぶい 橙色。内部 褐灰色	F6d2, II層	—	PL41
15	青白磁	碗	体~底 部、20 %	— (26) [46]	わずかに内彎しながら大き く外傾して立ち上る体部 に削り出し高台。口クロ成 形。内外面施釉。見込み蛇 目目輪剥ぎ。高台内口クロ ケズリ。重ね焼き。砂目	磁器胎土	良好。 極めて 堅緻	器胎：灰白色。 釉：明緑灰色	F6d2, II層	4ト レ、B 地区 の各1 片と接 合	PL41 4トレ 破片は 既報(報 告Ⅱ)。京 都鎮座 系。13~ 14世紀

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第61図 16	石棒	(7.9)	(2.4)	(1.4)	(32.1)	粘板岩	下部に括れをもつ頭部片。表面研磨調整 痕。一部敲打痕が残る。研磨調整もやや 粗く、完成品に近い未成品の可能性	F6e2 サブト レ、II 層	—	PL41 一部残存
17	石棒 未成品	(7.7)	(4.7)	(3.3)	(117.6)	粘板岩	整形初期の破片。やや大型。括れを作出 しており(図右下)頭部と判断。表面に 粗い敲打痕	F6c2, II層	—	PL41 一部残存
18	石錘	5.7	3.4	0.8	23.7	ホルンフ エルス	扁平な不整形円形礫を利用。両面に磨り による切れ目。切れ目付近の随所に磨り の失敗による擦痕	F6e2 サブト レ、II 層	—	PL41 完存
19	管玉	1.4	0.6	(0.3)	(0.3)	珪化 凝灰岩	小型。円筒形で軸方向に径0.2cmの円孔が 貫通。孔内面は緩やかに彎曲。2方向か らの穿孔か。横位からの力により破損(お そらく人為的)	F6d2 サブト レ、II 層	—	PL41 一部残存
20	石鏃 未成品	1.8	1.6	0.5	1.5	メノウ	凹基無茎鏃を志向。整形上で調整も粗 い	F6d2, I層	—	PL41 完存
21	石鏃	2.3	1.5	0.4	1.2	メノウ	凹基有茎鏃。先端部近くで刃部が屈曲。 いわゆる飛行機鏃。表面は調整が粗い	F6e2, II層	—	PL41 完存

(3) 所見

これまでの調査で再葬墓等の分布範囲は大まかに掴めてきており、このトレンチには再葬墓等は所在しないことを予想して調査に着手した。しかし、土器棺墓1基が確認されたことにより、これまでの見解を修正する必要があるが出てきた。これまでは、舌状の低位段丘中央やや東寄りに再葬墓集中区があり、その西側に土器棺墓が疎らに所在するものと捉えられていた。しかし、再葬墓集中区の西側だけでなく、北側にまで土器棺墓が分布していたということは、新たな知見である。

なお、このトレンチ以北は大きく地形改変されていて、新たな再葬墓が確認されることは望めず、この第136号土坑が当遺跡の再葬墓等の北限となると考えられる。



第62図 第25トレンチ実測図

8 第25トレンチ (第62図)

(1) 調査概要

第25トレンチは、E6j2区からE6j0区までの区域に、長さ18m、幅1.5mで南北に長く設定されている。今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、その西限を押さえるために第25トレンチは設定された。

第Ⅱ2層上面で遺構確認に努めるとともに、東壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本としており、一部でサブトレンチを拡大している。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分間馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

① 弥生時代

(i) 土坑

第5号土坑 (SK5, 第62～64図)

位置 E6j7区、E6j8区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平成18年調査の成果と合わせると、平面は長軸185cm程度、短軸170cm、長軸の向きはN-80°-Eのいびつな楕円形である。今回の調査で確認できた深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第152号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説 (第64図)

1 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 土器等9点が出土している。うち弥生土器1点(壺)を掲載する(第65図、第30表)。再葬のため埋納された土器は新たに4点確認され、計13点となった。土器1から6は、平成18年の調査ですでに取り上げられているが、以下の土器7～13は取り上げていない。

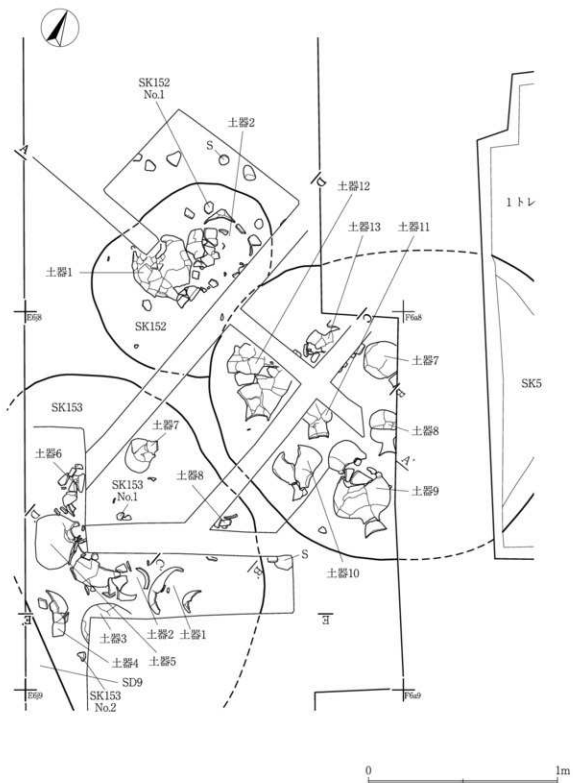
土器7 平成18年調査及び第1次調査で確認されていた明茶褐色の壺形土器である。胴部は単節縄文LRが施され、頸部は無文である。胴部と頸部は刺突文で区画される。主軸をN-133°-Eに向けて横転する。

土器8 平成18年調査及び第1次調査で確認されていた明茶褐色の壺形土器である。複合口縁で、口唇部・胴部は単節縄文LRが施され、頸部は無文である。主軸をN-151°-Eに向けて横転する。

土器9 第1次調査で確認された明茶褐色の壺形土器である。単純口縁で、胴部は4条/cmのLR+R縄文が施され、頸部は無文である。器高は60cm程度と考えられる。主軸をN-143°-Eに向けて横転する。

土器10 今次調査で新たに確認された明茶褐色の壺形土器である。波状の複合口縁で、口唇部は単節縄文LRが施され、頸部は無文、胴部は単節縄文LRに磨消縄文と沈線が施される。胴部と頸部は刺突文で区画される。主軸をN-152°-Eに向けて横転する。

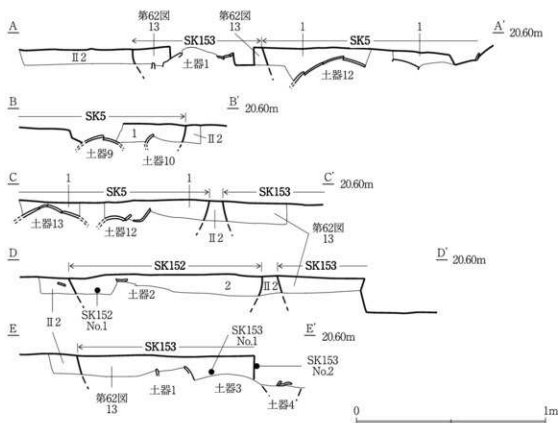
土器11 今次調査で新たに確認された明茶褐色の壺形土器である。複合口縁で、口唇部は単節



第63図 第5・152・153号土坑実測図(1)

縄文L Rが施され、頸部は無文、胴部は条痕文が施される。主軸をN-155°-Eに向けて横転する。

土器12 今次調査で新たに確認された明茶褐色の壺形土器である。胴部には単節縄文L Rが施される。主軸を概ね南東に向けて横転すると考えられる。



第64図 第5・152・153号土坑実測図(2)

土器13 今次調査で新たに確認された明茶褐色の壺形土器である。頸部から胴部にかけて条痕文が施される。主軸をN-157°-Eに向けて横転する。

所見 18年調査で東部を、第1次調査の第4トレンチで西部を調査した再葬墓である。今次調査で付近を調査したところ、埋納された弥生の壺形土器が出土した。精査の結果、うち4点は第5号土坑に帰属すると判断し、プランを訂正するとともに、新たに第152・153号土坑を確認した。



第65図 第5号土坑出土遺物実測図

第30表 第5号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第65図 1	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面斜位の条痕文、内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩塵・泥岩粒・石英粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面橙色	一括	—	PL42

第152号土坑 (SK152, 第62～64図)

位置 E6j7区, E6j8区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸104cm, 短軸80cm, 長軸の向きはN-22°-Eの楕円形である。確認できる深さは11cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第5号土坑に切られる。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説 (第64図)

2 暗褐色 (7.5YR 3/4) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 土器等5点, 石器等1が出土している。うち弥生土器1点(壺)を掲載する(第66図, 第31表)。再葬のため埋納された土器は以下の2点で、これは取り上げていない。

土器1 壺形土器である。複合口縁で、口唇部・胴部は単節縄文LRが施され、頸部は無文である。胴下部が攪乱を受け一部失われている。主軸をN-102°-Eに向けて横転する。

土器2 壺形土器で、胴部に条痕文が施される。胎土はもろい。主軸を概ね東に向けて横転すると思われる。攪乱のためか、上面がずれている。

所見 第1次調査の第4トレンチと重複する位置となるが、今次調査における第5号土坑の拡大に合わせて、確認面のレベルを下げたことにより新たに確認された遺構である。出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。



第66図 第152号土坑出土遺物実測図

第31表 第152号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第66図	1	弥生土器	壺	頸部5%以下	—	わずかに内埴、内輪。上部でわずかに外反。頸部外面ナデ。胴部外面横走沈線。その下位に細く浅い斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	やや不良。焼甘い	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部黒褐色	E67f, 土器2北側。遺構確認面	—	PL42
—												
—												

第153号土坑 (SK153, 第62~64図)

位置 E6j8区, E6j9区に位置する。第II 2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸197cm, 長軸の向きN-40°-Wの楕円形になると考えられる。確認できる深さは11cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第9号溝跡に切られる。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説 (第64図)

13 褐灰色 (7.5YR 4/1) ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まり弱, 粘性やや強

遺物出土状況 土器等5点が出土している。うち弥生土器2点(壺1, 小型壺1)を掲載する(第67図, 第32表)。再葬のため埋納された土器は以下の8点で、これは取り上げていない。なお、西側の未調査部分にも土器の埋納が想定される。

土器1 壺形土器で、胴上半部が失われている。平縁の単純口縁で、口縁部は無文、胴部は単節縄文LRが施される。主軸をN-95°-Eに向けて横転する。

土器2 (第67図1) 壺形土器である。平縁の単純口縁で、口縁部から頸部は無文、胴上部~中央部は条痕文、胴下部は単節縄文LRが施される。主軸を概ね東に向けて倒れていると考えられる。

土器3 壺形土器で、胴部は条痕文が施される。主軸を概ね東に向けて倒れていると考えられ

る。

土器4 壺形土器で、胴部は条痕文が施される。

土器5 壺形土器で、口縁部が失われている。頸部は無文、胴部の上端は2段の結節縄文で区画され、胴部には単節縄文L Rが施される。主軸をN-101°-Eに向けて横転する。

土器6 壺形土器で、胴部は単節縄文L Rが施される。

土器7 壺形土器である。平縁の単純口縁で、口唇部には単節縄文L R、頸部は無文、胴部は単節縄文L Rが施される。主軸をN-29°-Eに向けて横転する。

土器8 壺形土器で、平縁の複合口縁である。主軸を概ね北東に向けて倒れていると考えられる。

所見 第1次調査の第4トレンチと重複する位置となるが、今次調査における第5号土坑の拡大に合わせて、確認面のレベルを下げたことにより新たに確認された遺構である。出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。



第67図 第153号土坑出土遺物実測図

第32表 第153号土坑出土遺物観察表

検出番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第67図 1	弥生土器	小型壺か	胴部上平, 5%以下	—	薄手。わずかに外反。内傾。外面縄文を地文に沈線で区画し。上位を磨り消し。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好。堅緻	内外面明赤褐色	土器7南側。遺構確認面	—	PL42土器2の一部。同一個体片あり
2	弥生土器	壺	底部, 5%以下	(14) [90]	平底。胴部が外傾して立ち上がる。胴部外面ヘラケズリ。内面ナデ。底部木葉痕か、一部ケズリ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	普通	外面にぶい褐色。内面にぶい橙色	土器3・4南側。遺構確認面	—	PL42

(ii) 溝跡

第9号溝跡 (SD9, 第47・62図)

(77ページに掲載)

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (S I 1, 第62・68図)

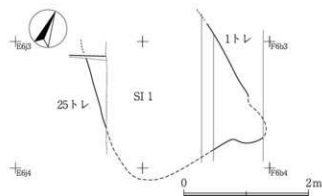
位置 E6 j 3区に位置する。第II 2層上面及び東西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平成18年調査の成果と合わせると、平面は短軸212cm、長軸の向きはN-48°-Wの隅丸長方形と考えられる。今回の調査で確認できた深さは25cmで、壁は外傾して立ち上がっている。
重複関係 第137号土坑に切られる。

土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説 (第62図)

- 2 暗褐色 (7.5Y R 3 / 4) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 締まり中, 粘性中
3 暗褐色 (7.5Y R 3 / 4) ローム粒子極少量, N t - S 極少量, 締まり中, 粘性中



第68図 第1号竪穴住居跡実測図

床 確認していない。

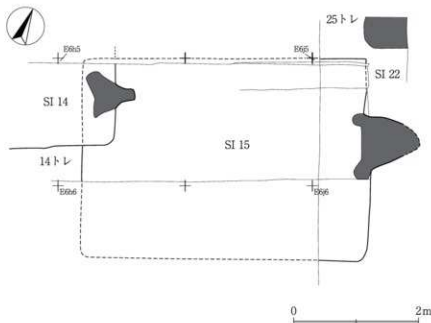
竈 第1トレンチで調査済である。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 平成18年調査で確認された第1号竪穴住居跡の西壁付近が確認できた。当時は東南コーナーの竈等を調査し、廃絶時期は平安時代10世紀前葉としている。

第15号竪穴住居跡 (SI 15, 第62・69・70図)



第69図 第15号竪穴住居跡実測図

位置 E 6 j 5 区, E 6 j 6 区に位置する。第2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 第2次調査の成果と合わせると、平面は長軸457cm, 短軸315cm, 長軸の向きはN-67°-Eの隅丸長方形である。今回の調査で確認できた深さは27cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第22号竪穴住居跡を切っている。

土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説 (第62図)

- 14 黒褐色 (7.5Y R 3 / 2) ローム粒子少量, N t - S 極少量, 締まり中, 粘性中
15 暗褐色 (7.5Y R 3 / 3) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, N t - S 極少量, 締まり中, 粘性中

床 確認していない。

竈 東壁やや北寄りに、黄色い砂質粘土で付設されている。竈土層は、トレンチ東壁のセクションで確認した。

竈平面解説 (第70図)

- 1 黄色い砂質粘土に焼土・煤けた泥岩片が混じる。竈袖である
2 黄色い砂質粘土に焼土が少量混じる。
3 一部煤けた泥岩片。竈口上部のブリッジ材と考えられる。
4 黄色い砂質粘土が壁に貼り付けられている。

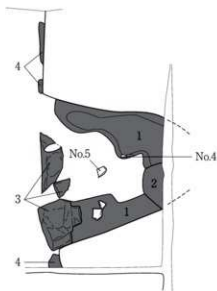
電土層解説 (第62図)

- 7 褐色 (7.5YR 4/3) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 締まり中
 8 褐色 (7.5YR 4/6) 焼土中量, ローム粒子少量, 黄色粘土小ブロック少量, 締まり中, 粘性中
 9 褐色 (7.5YR 4/3) 焼土中量, 黄色粘土小ブロック少量, ローム粒子極少量, 締まり強, 粘性中
 10 明褐色 (7.5YR 5/8) 黄色粘土大ブロック, 締まり強, 粘性強

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等16点, 石器等1点が出土している。うち弥生土器1点(蓋), 土師器2点(坏1, 甕1), 土製品1点(管状土錘), 石器・石製品1点(砥石)を掲載する(第71図, 第33表)。

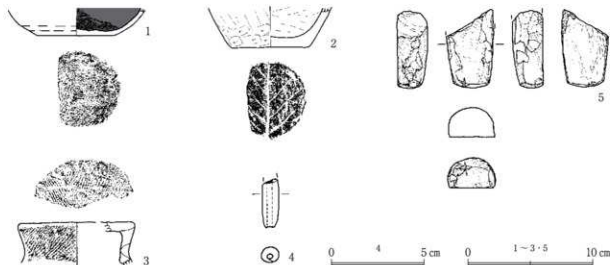
所見 第2次調査では, 第14トレンチで確認されており, その成果と合わせて, 規模を押さえることができた。出土遺物から, 平安時代10世紀代の所産と考えられる。なお, 状況から, 第22号竪穴住居跡から建替えた可能性が高い。



↑E66

0 1m

第70図 第15号竪穴住居跡電土実測図



第71図 第15号竪穴住居跡出土遺物実測図

第33表 第15号竪穴住居跡出土遺物観察表

神国番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第71図 1	土師器	坏	体へ底部, 40%	— (22) 6.3	ロクロ成形。平底。体部内彎。外傾。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理。底部回転へら切り	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面にふい黄褐色, 内面黒色	E6j6, 遺構確認	—	PL42 9~10世紀

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第71図 2	土師器	甕	体～底部, 10%	— (3.3) 6.0	平底から体部が外傾して立ち上がる。体部外面へラケズリ、内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ稜・石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	外面にふい黄橙色。内面にふい黄橙色・黒褐色	E6j5, 遺構確認面	—	PL42 外面炭化物付着。海綿骨針顕著。9～10世紀
3	弥生土器	蓋	天井部, 10%	— (3.4)	裾が大きく広がる妻の天井部。内傾する裾から屈曲して立ち上がり強く屈曲して平坦部に至る。天井部径[9.0]cm。外面縄文、内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ稜・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好。堅緻。一部焼けムラ	サンドイッチ状。内外面赤色。内部黒色	E6j6, 遺構確認面	—	PL42 混入

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第71図 4	管状土錘	(27)	(1.0)	0.2	(2.0)	全体に細身。棒に粘土板を巻き付けて成形。表面ナデ	メノウ粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	灰黄褐色	竈裡遺部。遺構確認面	—	PL42 一部欠損

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第71図 5	砥石 (石棒)	(62)	(38)	(2.4)	(88.5)	ホルンフェルス	研削調整の石棒先端部(推定)を破損後砥石に転用。破損面を砥面として利用	竈中央。遺構確認面	—	PL42 一部残存

第22号竪穴住居跡 (S I 22, 第62・72図)

位置 E 6 j 4 区, E 6 j 5 区に位置する。第 II 2 層上面及び東西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西寄り大部分がトレンチ外に延び、南側が第15号竪穴住居跡に切られているため、

詳細は不明だが、平面は短軸300cm以上、長軸の向きはN-61°-Eの隅丸長方形になると考えられる。確認できる深さは28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第15号竪穴住居跡に切られ、第23号竪穴住居跡を切っている。

土層 3層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説 (第62図)

- 16 暗褐色 (7.5Y R 3/4) ローム粒子極少量, N t-S 極少量, 締まり中, 粘性中
 17 暗褐色 (7.5Y R 3/3) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, N t-S 極少量, 締まり中, 粘性中
 18 暗褐色 (7.5Y R 3/3) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, N t-S 極少量, 締まり中, 粘性中

床 確認していない。

竈 東壁に砂質粘土で付設されている。竈土層は、トレンチ東壁のセクションで確認した。

竈平面解説 (第72図)

- 1 焼土が散り、一部に竈材である黄色砂質粘土が見られる

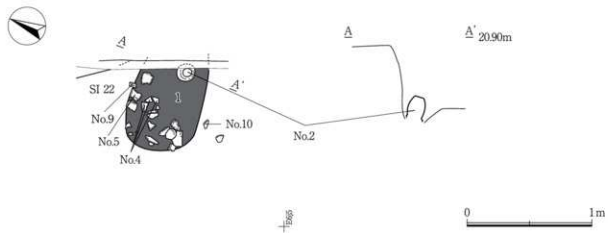
竈土層解説 (第62図)

- 4 黒褐色 (10Y R 3/1) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 焼土粒子極少量, N t-S 極少量, 締まり中, 粘性中
 5 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量, N t-S 極少量, 締まり中, 粘性弱
 6 黒褐色 (10Y R 2/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 焼土粒子極少量, N t-S 極少量, 締まり弱, 粘性中

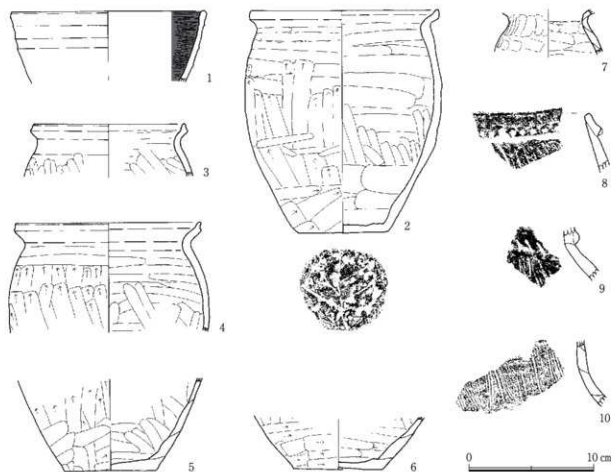
柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等45点、石器等12点が出土している。うち縄文土器1点（深鉢）、弥生土器2点（壺）、土師器7点（鉢1、甕5、小型壺1）を掲載する（第73図、第34表）。

所見 第2次調査では、第14トレンチで確認され、第7号性格不明遺構としていたものである。今次調査において、竪穴住居跡であることが判明したため、遺構番号を付し直している。出土遺物から、平安時代9世紀後半の所産と考えられる。なお、状況から、第23号竪穴住居跡から建替え、さらに第15号竪穴住居跡へと建替えられた可能性が高い。



第72図 第22号竪穴住居跡実測図



第73図 第22号竪穴住居跡出土遺物実測図

第34表 第22号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第73図 1	土師器	鉢	口縁～ 底部 10%	[15.4] (5.5) —	内彎・外傾。口縁部は体部から直線的に連続。外面口クロナデ。内面ミガキ・黒色処理	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい 橙色・橙色・ 黒色。内面黒 色	竈内、 遺構確 認面	—	PL42 9世紀後 半か	
2	土師器	甕	口縁～ 底部 100%	14.7 17.6 7.0	平底から体部が外傾して立ち上がり、体部中位やや上、約10cmに最大径(15.6cm)をもち、その上は内彎・内傾し、頸部でくの字状に屈曲して口縁部に至る。口縁端部つまみ上げ。口縁～頸部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、一部輪積み痕を残す。内面ナデ。底部木葉痕	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート礫・チャート粒・泥岩礫・泥岩粒・石英粒・雲母微量	良好。体部二次焼成	内外面明赤 褐色・にぶい 赤褐色・黒褐 色	竈内から 逆位で出 土。支脚に 転用	—	完形で 出土。底が 抜けたの を接合	PL42
3	土師器	甕	口縁～ 体部 30%	[11.8] (4.2) —	内彎・内傾する体部から屈曲して口縁部に至る。口縁部つまみ上げ。口縁～頸部横ナデ。体部外面縦位、内面斜位のナデ	やや精良。メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・チャート粒微量	良好	外面橙色・に ぶい橙色。内 面にぶい赤 褐色・灰赤色	竈内、 遺構確 認面	2片	PL42 25T遺構 外出土遺 物に同一 個体片あ り。体部 内外面有 機物付着	
4	土師器	甕	口縁～ 体部 30%	14.5 (8.7) —	体部は口縁部上端から下約7cmに最大径(15.9cm)をもち、その下位でわずかに外傾。上位で内彎・内傾し、頸部でくの字状に屈曲して口縁部に至る。口縁端部つまみ上げ。口縁～頸部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・石英粒・雲母微量	良好	内外面明赤 褐色・にぶい 黄褐色・黒褐 色	竈内、 遺構確 認面	5片	PL42 同一個体 片あり	
5	土師器	甕	体部～ 底部、 10%	— (7.3) [7.2]	平底からわずかに内彎する体部が外傾して立ち上がる。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ。底部ヘラケズリか	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・石英粒・雲母微量	良好	外面黒褐色、 内面にぶい 赤褐色	竈内、 遺構確 認面	2片	PL43	
6	土師器	甕	体部～ 底部、 10%	— (4.2) [7.0]	平底からわずかに内彎する体部が外傾して立ち上がる。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ。底部ヘラケズリのちヘラナデか	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい 橙色。内面に ぶい黄褐色	竈内、 遺構確 認面	—	PL43	
7	土師器	小型 壺	頸部～ 体部、 15%	— (3.3) —	小型で器厚が薄い。内彎・内傾する体部から屈曲する頸部。頸部径[6.2]cm。頸部外面縦位のヘラナデ。胴部横位のヘラナデ。内面横位のナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・泥岩礫・石英粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐 色。内面黒灰 色。内部灰黄 褐色	竈内、 遺構確 認面	—	PL43	
8	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5% 以下	— — —	内彎気味、内傾。口縁部は複合口縁で下端に棒状施文具によるキザミ。胴部外面熊糸文。内面ナデ、一部粗いミガキ	メノウ粒・泥岩粒少量、石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	外面灰黄褐色、 内面にぶい 黄褐色	E6J4、 遺構確 認面	—	PL43 混入	

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第73図 9	弥生土器	壺	頸部、5%以下	—	内傾する胴部から屈曲する頸部。外面突帯貼り付け。突帯下半から胴部にかけて細い半截竹管状の施文具で斜位のキザミ。胴部外面斜位の条痕文。内面ナデ、一部ミガキ	メノウ粒少量、石英礫・泥岩礫・石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい赤褐色。内面灰褐色。内面黒褐色	電内、遺構確認面	—	PL43混入
10	弥生土器	壺	頸部、5%以下	—	外反・内傾。外面垂直または左傾の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒・雲母微量	普通	外面暗灰黄色、内面黄褐色・黄灰色	E6j4、電内、遺構確認面	—	PL43混入

第23号竪穴住居跡(S I 23, 第62図)

位置 E6j3区, E6j4区に位置する。第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。
規模と形状 西寄り大部分がトレンチ外に延び、南側が第22号竪穴住居跡に切られているため、北東のコーナーが確認できるのみである。確認できる深さは28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。
重複関係 第22号竪穴住居跡に切られている。
土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 19 暗褐色(7.5YR3/4) ローム小ブロック極少量、ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
 20 暗褐色(7.5YR3/3) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

床 確認していない。 **竈** 確認していない。 **柱穴** 確認していない。

遺物出土状況 土器等19点が出土している。うち土器器2点(小型鉢1, 壺1)を掲載する(第74図, 第35表)。

所見 重複関係から、平安時代9世紀後半以前の所産と考えられる。なお、状況から、第22号竪穴住居跡へと建替えられた可能性が高い。



第74図 第23号竪穴住居跡出土遺物実測図

第35表 第23号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第74図 1	土器器	壺	底部、5%以下	(3.4) [10.5]	平底から体部が外傾して立ち上がる。外面ヘラケズリ、内面ナデ	メノウ粒中量、石英礫・石英粒・チャート粒微量	普通	外面橙色、内面にぶい黄褐色	E6j3、遺構確認面	—	PL43
2	土器器	小型鉢	体へ底部、20%	(3.1) 5.0	上げ底の底部から体部が外傾して立ち上がる。外面ナデ、底部付近ヘラケズリ、内面・底部ナデ	メノウ粒少量、石英礫・チャート粒・泥岩礫・雲母・海綿骨針微量	やや不良。二次焼成	外面にぶい黄褐色、黒褐色・橙色。内面灰白色・褐色・灰色	E6j3、遺構確認面	—	PL43

(ii) 土坑

第156号土坑 (S K 156, 第62図)

位置 E 6 j 0区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径70cm程度の円形と考えられる。深さは8cmで、底面は皿状で、壁はゆるやかに立ち上がっている。重複関係 第154号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

21 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、N t - I 極少量、締まり弱、粘性弱

遺物出土状況 土師器1点(高台付皿)が出土しており、掲載する(第75図, 第36表)。

所見 出土遺物から、平安時代9～10世紀の所産と考えられる。



第75図 第156号土坑出土遺物実測図

第36表 第156号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第75図 1	土師器	高台付皿	口縁～高台部, 55%	[144] 2.4 5.7	平底から体部が内彎気味に大きく開き口縁部外反。底部には輪高台。ロクロ成形後、高台貼り付け。外面と高台ロクロナデ、体部下半と高台内回転ヘラケズリ。内面ミガキ、黒色処理。ミガキは中央部は1方向、周縁部は6分割6方向	精良。メノウ粒・石英塵・石英粒・泥岩塵微量	良好	外面にふい黄橙色。内面黒色	遺構確認面	—	PL43 9世紀末～10世紀初頭

③時期不明

(i) 土坑

第137号土坑 (S K 137, 第62図)

位置 E 6 j 2区に位置する。第II 2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

規模と形状 東半部がトレンチ外に延びるが、長軸200cm、長軸の向きN-25°-Wの長方形になると考えられる。確認できる深さは5cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第1号堅穴住居跡を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 (7.5Y R 3/4) ローム粒子少量、N t - S 極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第154号土坑 (S K 154, 第62図)

位置 E 6 j 9区, E 6 j 0区に位置する。第II 2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるが、平面は短軸250cm程度、長軸の方向はN-64°-Eの

楕円形と考えられる。確認できる深さは48cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第155・156号土坑に切られ、第9号溝跡を切っている。

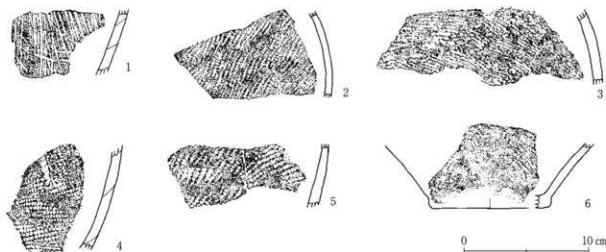
土層 2層が確認でき、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 11 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、締まり中、粘性中
 12 黒褐色 (75YR3/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 土器等41点、石器等3点が出土している。うち弥生土器6点(壺6)を掲載する(第76図、第37表)。これらは出土状況も散漫で、混入の可能性が高いため、時期決定には用いなかった。

所見 重複関係から、弥生～平安の所産と考えられるが、詳細は不明である。



第76図 第154号土坑出土遺物実測図

第37表 第154号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第76図											
1	弥生土器	壺	胴部	—	わずかに内傾。外傾。外面縄文及び縦位の条痕文、内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	遺構底面	3片	PL43
2	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内傾。わずかに内傾。外面縄文施文後、弧状の刻線とその左側に三角形とその一辺が伸びたような刻線。その間と右側にもごく細く浅い刻線(意図的か不明)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面にふい赤褐色・灰赤色、内面橙色	覆土下層	2片	PL43
3	弥生土器か	壺	胴部、5%以下	—	内傾。内傾。外面縄文、内面ナデ後粗いミガキ	粗悪。石英粒・メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好。堅緻	外面黒褐色・暗褐色、内面黒褐色、にぶい黄褐色	遺構底面	—	PL43
4	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内傾。外傾。外面縄文を粗く施文。内面ナデ。一部粗いミガキ状	メノウ粒少量、チャート粒・チャート粒・石英粒微量	良好	内外面橙色	覆土下層	—	PL43

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第76図 5	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— —	内彎、外傾。外面縄文。内面ナデ。一部粗いミガキ状	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面浅黄橙色、内面黒色	遺構確認面	—	PL43 SK155No.1と同一個体
6	弥生土器	壺	胴~底部、5%以下	— (50) [92]	平底からわずかに外反する体部が大きく外傾して立ち上がる。胴部外面縄文、底部付近ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	外面暗褐色、内面橙色	遺構底面	—	PL43

第155号土坑 (SK155, 第62図)

位置 E6j9区に位置する。第II層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径32cmのはほぼ円形である。

重複関係 第154号土坑・第9号溝跡を切っている。

遺物出土状況 弥生土器1点(壺)が出土しており、掲載する(第77図, 第38表)。これは混入の可能性が高いため、時期決定には用いなかった。



第77図 第155号土坑出土遺物実測図

所見 重複関係から、弥生～平安以降の所産と考えられるが、詳細は不明である。

第38表 第155号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第77図 1	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— —	内彎、外傾。外面縄文施文後下位に斜位の条痕文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面浅黄橙色・にふい橙色、内面黒色	遺構確認面	—	PL43 SK154No.5と同一個体。混入

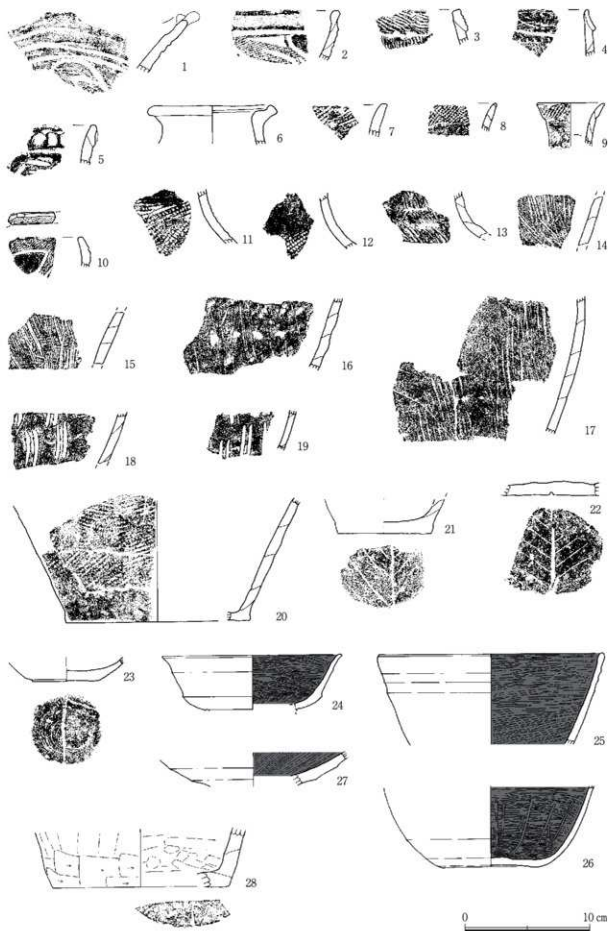
B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第78～80図, 第39表)

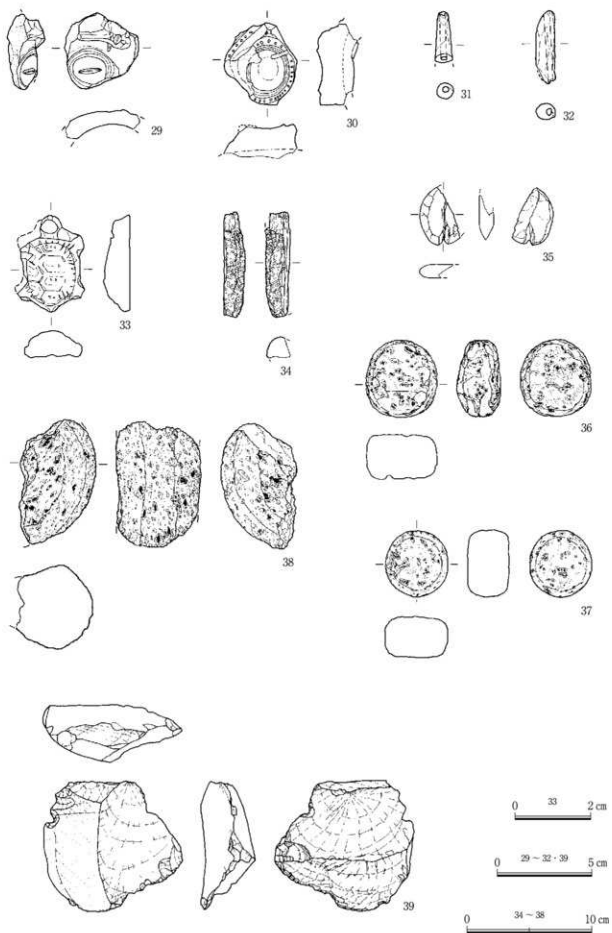
遺物出土状況 土器等3,715点, 石器等63点が出土している。うち縄文土器6点(深鉢3, 浅鉢2, 壺1), 弥生土器16点(壺14, 小型壺1, 片口鉢1) 土師器6点(鉢2, 坏1, 高台付坏1, 盤1, 甕1), 土製品5点(土偶2, 管状土錘2, 泥面子1), 石器・石製品14点(石鏃7, 磨石2, 石棒1, 石錘1, 石皿1, 大型剥片1, 石錐1)を掲載する。

(3) 所見

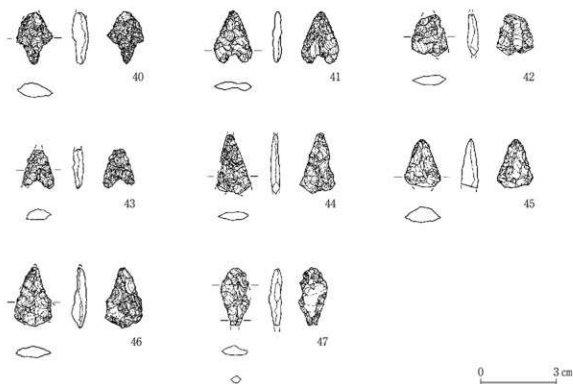
再葬墓分布範囲の西の限界を掴むことが目的のトレンチであったが、第5・152・153号土坑の確認によって、周辺を再度精査する必要が生じた。一方、第153号土坑が第9号溝跡に切られていることが確認できたことは、第9号溝跡と再葬墓の時期差を考える上で貴重な成果となった。



第78図 第25トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第79図 第25トレンチ遺構外出土物実測図(2)



第80図 第25トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)

第39表 第25トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径器 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第78図 1	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	—	わずかに外反、大きく外傾。 波状口縁の頂部を複頂に作り 内面に突起を付す。外面 沈線による入組文。内面口 縁部下に幅広い溝を巡らす。 内面ナデ、一部ミガキ	メノウ粒少量、 石英礫・泥岩 粒・雲母・海 綿骨針微量	普通。 焼きや や甘い	外面黄褐色、 内面褐色	E6J9サ ブトレ 中、 II層	—	PL44 晩期
2	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[29前 後] (4.0)	内彎・外傾する胴部から短 く外反する口縁部。口縁部 下外面に溝、その下位磨消 縄文手法による三又文。内 面ナデ	石英粒少量、 メノウ粒・泥 岩粒・黒色砂 粒・雲母微量	普通	内外面にふ い黄褐色、一 部褐色	E6J8、 II層	—	PL44 大洞C1 または C2式
3	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	—	内彎気味、内傾。複合口縁。 外面熟糸文(口縁部斜位、 胴部縦位)。内面ナデ。内面 に複合口縁の貼り付け痕が 残る	メノウ粒中 量、メノウ 礫・泥岩礫・ 泥岩粒・石英 粒・チャート 粒微量	良好	内外面にふ い黄褐色、一 部褐色	E6J6東 側サブ トレ、 II層	—	PL44 晩期粗製 土器
4	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	—	内彎気味、わずかに内傾。 複合口縁。口縁～胴部外面 網目状熟糸文。内面ナデ。 器表荒れ	メノウ粒少 量、メノウ礫、 石英粒・チャ ート粒・雲母 細粒微量	やや不 良。焼 き甘い	外面にふ い褐色、内 面にふい黄 褐色	E6J9	—	PL44 晩期粗製 土器
5	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	—	外反、わずかに外傾。複合 口縁にヘラによる指頭庄痕 状のキザミ、胴部外面横位、 斜位の沈線。内面ナデ、一 部ミガキ状	メノウ粒少 量、チャート 礫・チャート 粒・砂岩礫・ 泥岩粒微量	良好	外面褐色、内 面にふい褐色	E6J4	—	PL44

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第78図											
6	縄文 土器	壺	口縁～ 頸部、5% 以下	[92] (3.0)	外反気味に内傾して立ち上る頸部から屈曲して強く外傾する口縁部。口縁部は内厚で、内面は端部で立ち上がる。外面・口縁部内面ミガキ、頸部内面粗いミガキ	泥岩礫少量、 泥岩粒・メノウ粒・チャート粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	内外面黒色・黒褐色、一部にぶい橙色	E6J8、II層	—	PL44
7	弥生 土器	壺	口縁部、5%以下	—	外反、外傾。単純口縁。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	内外面明赤褐色	E6J8、I層	—	PL44
8	弥生 土器	壺	口縁～ 頸部、5% 以下	—	わずかに外反、外傾。口縁部外面縄文。頸部外面ナデ。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	内外面赤褐色、一部黒色	E6J8、II層	—	PL44
9	弥生 土器	小型 壺	口縁～ 頸部、5% 以下	[54] (3.5)	外反、外傾。口縁部を外側に肥厚させ縄文施文。頸部外面ミガキ。口縁～頸部上半ミガキ、頸部下半ナデ	泥岩礫・泥岩粒・メノウ粒・雲母・海綿骨針	良好、 堅緻	サンドイッチ状、内外面赤褐色、内部褐色	E6J4	—	PL44
10	弥生 土器	片口 鉢か	口縁部、5%以下	—	内彎、わずかに内傾。平面観は全体に直線的で、図左端が外反していく様相が見られ、片口かと思われる。外面磨消縄文によるヒトデ状文か。内面ナデ、一部ミガキ状	やや精良。メノウ粒・泥岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色。外面一部黒色	E6J4	—	PL44
11	弥生 土器	壺	頸～胴部、5%以下	—	外反・内傾。頸部無文。胴部縄文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面暗赤褐色・黒褐色、内面にぶい赤褐色	E6J6・J7、II層	—	PL44
12	弥生 土器	壺	頸部、5%以下	—	外反・内傾。頸部無文。胴部縄文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面暗赤褐色。内面暗赤褐色、内部暗赤灰色	E6J6・J7、II層	—	PL44
13	弥生 土器	壺	頸部、5%以下	—	外反、内傾。外面斜位の条痕文。一部輪積み痕が残る。内面やや粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい橙色。外面一部褐色	E6J9	—	PL44
14	弥生 土器	壺	胴部、5%以下	—	直線的、外傾。外面縦位・斜位の条痕文。施文順は縦位から斜位。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・海綿骨針微量	良好、 堅緻	外面暗赤褐色。内面褐色	E6J6、II層	—	PL44
15	弥生 土器	壺	胴部下 半、5% 以下	—	直線的、外傾。外面横位と斜位の条痕文。条痕の施文順は横位→斜位。施文具は2条のものど細かきもの2種。内面ナデ、一部輪積み痕	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好、 堅緻	外面暗黄褐色。内面にぶい黄褐色。内面褐色	E6J9サ ブトレ、 II層	—	PL44
16	弥生 土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面縦位に近い斜位の条痕文。条痕は幅0.8cmに5条単位、内面ヘラナデ。内外面に一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通、 焼けムラ	外面暗黄褐色・黒褐色、内面にぶい黒色。内部黒色	E6J9サ ブトレ、 I B層	—	PL44
17	弥生 土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面斜位の条痕文。条痕は器表荒れにより不明だが幅2.2cmに5条か。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	やや不 良。焼 き甘い	外面淡黄色。内面・内部黒色	E6J9サ ブトレ、 II層	3片	PL44 ほか同 一躯体1 片

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第78図 18	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— —	内彎、外傾。外面2条単位 の短条痕文。施文方向は上 から下。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・海綿 骨針微量	良好	外面褐灰色。 内面にふい 黄橙色	E6j6	—	PL44
19	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— —	内彎、外傾。外面は縦位 の短条痕文。条痕の長さ24 cm以上。単位2条、施文方 向上から下。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	外面暗黄褐 色・にふい黄 褐色。内面・ 内部褐灰色	E6j5。 遺構確 認面	—	PL44
20	弥生 土器	壺	胴～底 部、5 %以下	— (9.7) [14.6]	平底から胴部が外反気味に 外傾して立ち上がる。外面 縄文。内面ミガキ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・雲 母・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にふ い褐色。内面 にふい黄褐 色。内部褐灰 色	E6j0。 II層	4片	PL44 内面炭化 物付着。 内外面・ 底面に植 物組織片 圧痕
21	弥生 土器	壺か	底部 5%程 度か	— (2.7) [7.4]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。内外面ナデ。底 部木葉痕	メノウ粒中 量、メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒微量	やや不 良。焼 き甘い	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面にふ い赤褐色。内 部にふい黄褐 色・黒褐色	E6j8。 遺構確 認面	—	PL44
22	弥生 土器	壺か	底部 5%以 下	— 8.0以 上	平底。底部木葉痕。内面ナ デ	メノウ粒少 量、石英粒・ チャート粒・ 泥岩粒・海綿 骨針微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 橙色	E6j9 サブ トレ、 SK15に 埋戻しの 可能性あり	—	PL44
23	土師器	坏	体～底 部、40 %	— (1.8) 5.4	ロクロ成形。内外面ロクロ ナデ。底部回転ヘラ切り	メノウ粒少 量、泥岩粒・ 黒色砂粒・褐 色砂粒・雲 母・海綿骨針 微量	普通	外面にふい 褐色。内面灰 黄褐色	E6j4。 遺構確 認面	4片	PL44
24	土師器	高台 付坏	口縁～ 底部、 30%	[14.2] (4.3) —	九底気味の底部から段をも って体部に移行し内彎気味 に外傾。さらに外反する口 縁部に至る。貼付高台の弱 靡痕あり。外面ロクロナデ。 内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	外面浅黄橙 色。内面黒色	E6j7。 遺構確 認面	2片	PL45 9世紀
25	土師器	鉢	体部、 10%	[17.6] (7.2) —	緩やかに内彎、外傾。ロクロ ロ成形。外面ロクロナデ。 内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母微量	良好	外面にふい 褐色・褐灰色 黒色。内面黒 色	E6j4。 遺構確 認面	—	PL45
26	土師器	鉢	体～底 部、40 %	— (6.3) 8.0	薄手。ロクロ成形。平底か ら体部が内彎・外傾して立 ち上がる。外面ロクロナデ。 内面ミガキ・黒色処理。底 面手持ちヘラケズリ	やや粗悪。メ ノウ粒中量。 メノウ礫・石 英粒・泥岩 粒・海綿骨針 微量	やや不 良。焼 き甘い	外面橙色・浅 黄褐色。内面 黒色	E6j4。 遺構確 認面	5片	PL45 9世紀
27	土師器	盤	体部、 20%	— (2.6)	わずかに内彎、大きく外傾。 外面ロクロナデ。内面ミガ キ・黒色処理	メノウ粒少 量、泥岩粒・ 黒色砂粒微 量	やや不 良。焼 き甘い	外面浅黄橙 色。内面黒色	E6j4。 遺構確 認面	—	PL45 9世紀
28	土師器	甕	胴～底 部、5 %以下	— (4.6) [14.0]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部内外面ナデ。 外面下位ヘラケズリ	メノウ粒少 量、石英粒・ 黒色砂粒・海 綿骨針微量	普通	内外面灰黄 褐色	E6j6。 遺構確 認面	—	PL45

神国番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第79図 29	土偶	(40)	(39)	—	(152)	透光器土偶の右目部分、中空で、彎曲する粘土板に環状の隆帯と横位の刻線が目を表現。上位に隆帯と突起。突起にはキザミ。眉と眉間の飾りを表現。	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒、泥岩粒・海綿骨針微量	良好	黄灰色、にぶい黄橙色	E6j3, II層	—	PL45 一部残存
30	土偶	(43)	(39)	—	(266)	わずかに彎曲する粘土板に円盤を貼り付け、中央をくぼませ、周縁に細いキザミ状の突起。土偶の目または口の表現か。表面はナデ調整が粗く、中空土偶の内面と判別	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒・泥岩粒微量	良好	外面褐灰色 内面橙色	E6j6一括	—	PL45 一部残存
31	管状土鍾	(28)	(09)	0.3	(17)	細形。わずかに彎曲。断面不整形円形。長軸に貫通孔。貫通孔は直。軸に粘土板を巻き付けて成形。表面ナデ	やや精良。メノウ粒・泥岩粒微量	良好	褐灰色	E6j6, I B層	—	PL45 一部残存
32	管状土鍾	3.8	1.0	0.3	(31)	細形。彎曲。断面不整形円形。長軸に貫通孔。貫通孔は直。軸に粘土板を巻き付けて成形。表面ナデ	やや精良。メノウ粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	褐灰色	E6j9, 遺構確認	—	PL45 一部欠損
33	泥面子	26	1.9	—	(20)	壺形を型押し成形。甲と四肢・頭・尾を表現。甲には亀甲鱗ぎ文に点文。周縁部亀甲にはキザミ状に表現。腹面ナデ	精良	良好	橙色	E6j9, I層	—	PL45 一部欠損 近世以降

神国番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第79図 34	石棒未成品	(8.3)	(19)	(1.7)	(425)	粘板岩	断面不整形円形の棒状で図下端がすぼまる。表面敲打直	E6j8, II層	—	PL45 一部残存
35	石鍾	(46)	(32)	1.2	(165)	粘板岩	扁平な楕円磗を利用。両端に磨りにより切れ目を入れる。磨りは一定せず周辺に及び。一部は切れ目同士連続	E6j4, I一括	—	PL45 一部欠損
36	磨石	6.1	5.6	3.5	180.8	多孔質安山岩	扁平な楕円磗を利用。周縁を研磨整形して表裏面を使用	E6j6, II層	—	PL45 完存
37	磨石	5.3	5.0	3.3	135.0	多孔質安山岩	不整形円磗を利用し、周縁を丁寧に整形して使用	E6j7, II層	—	PL45 完存
38	石皿	(10.0)	(6.1)	6.8	(365)	多孔質安山岩	やや大型・扁平な円磗を利用。径は13cm前後か。表裏面に凹み。質が粗く、整形痕・使用痕は不明瞭	E6j7, II層	—	PL45 一部残存
39	大型剥片	6.8	7.4	3.5	127.2	デイサイト	大型剥片を石核とし剥離した大型で横長の剥片。表面には自然面と剥離面各1面。打面は左方向からの剥離	E6j4, I B層	—	PL45 完存
第80図 40	石鏃	(21)	1.4	0.6	(1.4)	メノウ	一部が赤い良質のメノウ利用。凸基有茎鏃。厚みがある。先端を折損	E6j2, I B層	—	PL45 一部欠損
41	石鏃	20	1.5	0.4	0.8	メノウ	一部が赤い良質のメノウ利用。凹基無茎鏃。一部に素材剥片時の剥離面が残る。素材は横長の剥片	E6j4, II層	—	PL45 完存
42	石鏃	(16)	(1.4)	0.4	(0.9)	メノウ	良質の赤メノウの縦長の剥片を利用。凹基無茎鏃。先端と一方の脚を折損。剥離調整はやや粗い。表面光沢あり	E6j6, I層	—	PL45 一部欠損
43	石鏃	(15)	(1.2)	0.4	(0.7)	メノウ	赤メノウを利用。凹基無茎鏃。先端と一方の脚部先端を折損。丁寧に調整をするが、脚の一部に自然面が残る	E6j0, I層	—	PL45 一部欠損
44	石鏃	(24)	(1.4)	0.3	(0.8)	メノウ	凹基無茎鏃。先端と両脚部を折損。丁寧に調整をするが、一部に素材剥片時の剥離面が残る。表面光沢なし	E6j0, I層	—	PL45 一部欠損
45	石鏃	(19)	(1.4)	(0.7)	(1.4)	珪岩	基部を欠き全体形状不明。凸基有茎鏃か。礫の表面を含む剥片を利用。一部に自然面が残る	E6j4, II層	—	PL45 一部欠損
46	石鏃	(24)	(1.5)	0.5	(1.6)	メノウ	尖基鏃。被熱により表面白濁。一部剥離。調整やや粗く未成品の可能性も	E6j7, I B層	—	PL45 一部欠損
47	石鏃	(23)	(1.1)	0.5	(1.2)	メノウ	縦長の剥片を利用し、周辺からの剥離により楕円形の頭部と踵部を作出。踵部は基部を残して折損。主に折損部付近の断面(方形に近い菱形)から踵と判断	E6j0, I B層	—	PL45 一部欠損

9 第26トレンチ (第81図)

(1) 調査概要

第26トレンチは、F6f5区からF7f1区、F6g5区からF7g1区までの区域に、長さ14m、幅1mで南北に長く設定されている。今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、その東限を押さえるために第26トレンチは設定された。なお、第26トレンチ以東は、第1次調査の際に第9・16トレンチが調査され、再葬墓が所在しないことが確認されている。

第II 2層上面で遺構確認に努め、西壁に沿って20cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第III層上面まで掘削することを基本とした。ただし、第26トレンチが設定されたのは、他トレンチのように水田ではなく、畦として使用されていた部分である。よって、他トレンチの基本土層とは大きく異なり、畦の造成に際して客土された以下の層が分布している (第81図)。調査後は掘り上げた土をかけて埋め戻している。

土層解説

- | | |
|-----------------|---|
| 1 灰褐色 (75YR4/2) | ローム小ブロック少量、ローム粒子極少量、締まり強、粘性弱、踏み固められている現表土 |
| 2 褐色 (75YR4/3) | ローム大ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、締まり強、粘性中 |
| 3 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子少量、小礫少量、Nt-S極少量、締まり強、粘性中 |
| 4 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

①時期不明

(i) 土坑

第148号土坑 (SK148, 第81図)

位置 F6f5区、F6f6区、F6g5区、F6g6区に位置する。第II 2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるが、平面は短軸122cm、長軸の向きはN-88°-Wの楕円形と考えられる。確認できる深さは23cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|------------------|-------------------------------------|
| 5 極暗褐色 (75YR2/3) | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中 |
|------------------|-------------------------------------|

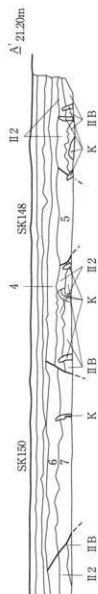
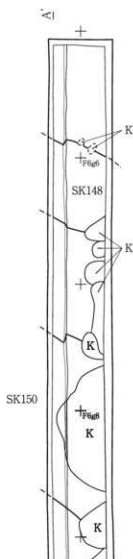
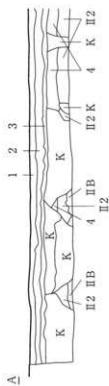
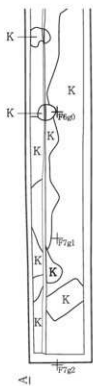
遺物出土状況 土器等15点が出土している。うち縄文土器2点 (深鉢)、弥生土器1点 (壺)、土製品1点 (土器片円盤) を掲載する (第82図, 第40表)。これらは混入の可能性が高いため、時期決定には用いなかった。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。

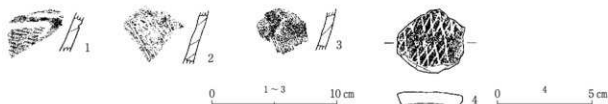
第150号土坑 (SK150, 第81図)

位置 F6f7区、F6f8区、F6g7区、F6g8区に位置する。第II 2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるが、短軸250cm程度、長軸の向きN-85°-Wの楕円形と考えられる。確認できる深さは36cmで、壁は外傾して立ち上がっている。



第81図 第26トレンチ実測図



第82図 第148号土坑出土遺物実測図

第40表 第148号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第82図 1	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	—	わずかに内脣、外脣。外面沈線で区画し磨消縄文手法による雲形文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒色	確認面一括	—	PL46 大洞C1 または C2式。 混入
2	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	—	直線的、外脣。外面斜位の熱糸文。内面ナデ、一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部灰黄色、芯部黒色	確認面一括	—	PL46 混入
3	弥生土器	壺か	胴部 5%以下	—	わずかに内脣、外脣。外面斜位の細い条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい褐色、内面にぶい黄褐色	確認面一括	—	PL46

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第82図 4	土器片円盤	3.8	3.3	—	8.9	縄文土器深鉢片の周囲を折断して成形。土器としての外面斜目状熱糸文、内面ナデ。厚さ0.7cm	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通。 焼けムラ	にぶい赤褐色・褐色、灰色	覆土中一括	—	PL46 晩期粗製土器

土層 2層が確認でき、人為堆積である。

土層観察

- 6 褐色 (7.5YR 4/3) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、締まり中、粘性中
7 暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量、締まり中、粘性中

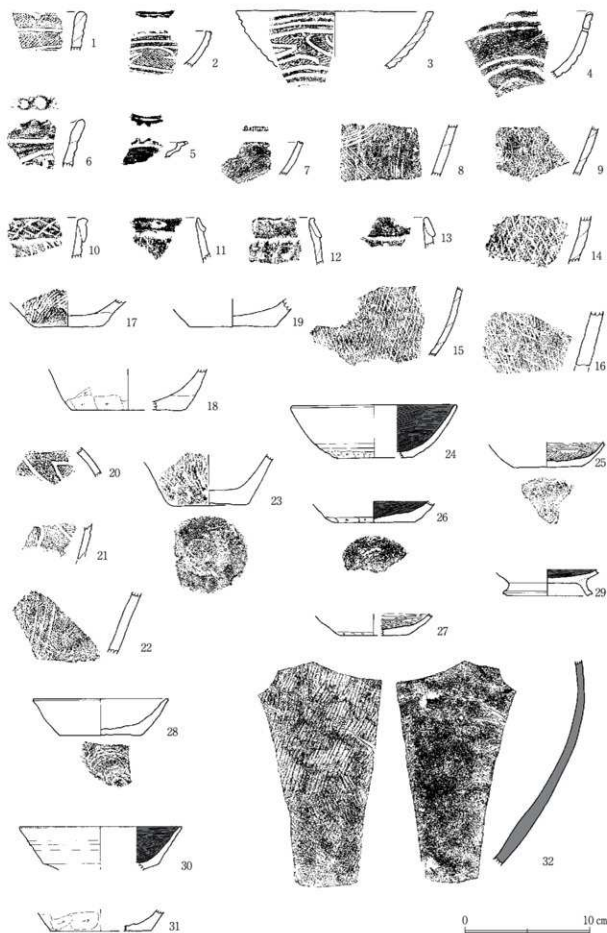
遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

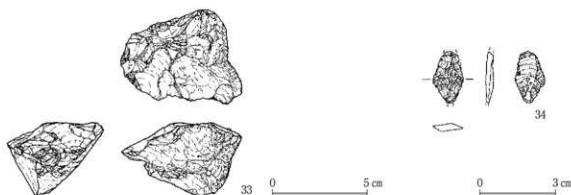
B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第83・84図, 第41表)

遺物出土状況 土器等461点, 石器等10点, 鉄製品1点が出土している。うち縄文土器18点(深鉢12, 浅鉢4, 小型浅鉢2), 弥生土器4点(壺3, 小型壺1), 土師器9点(坏5, 甕2, 高台付坏2), 須恵器1点(甕), 石器・石製品2点(石核1, 石鏃1)を掲載する。第41表中, 出土層位に表土とあるものは、畦の造成の際の客土層からの出土である。この客土層には縄文土器のほか、土師器が多く見受けられる。



第83図 第26トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第84図 第26トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)

第41表 第26トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第83図											
1	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面縄文を横走沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒微量	普通	外面黒褐色、内面灰黄褐色	F68、遺構確認	—	PL46 大洞B1式
2	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎。外傾。口縁端部は平坦に作り沈線をめぐらし外面側に棒状施工具によるキザミ。口縁部下に横走沈線2条。その下位の縄文を沈線で区画し一部を磨り消す雲形文。内面ミガキ、底部近くに沈線をめぐらす	メノウ粒少量、砂岩礫・石英粒・石英粒微量	普通	内外面黒褐色	F68、遺構確認	—	PL46 大洞C1またはC2式
3	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%	[15.6] (4.6)	内彎。外傾。口縁端部平坦。胴部外面上下を各2・3条の横走沈線で区画し一部の縄文を沈線で区画し一部を磨り消す雲形文。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、赤褐色礫・石英粒・砂岩粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふい黄褐色	F68、遺構確認	—	PL46 大洞C1またはC2式
4	縄文土器	浅鉢	口縁～底部、30%	—	内彎。外傾。口縁端部にB突起。口縁部下と胴部下位間に横走沈線各2条。底部周辺にも沈線状の凹形区画。内面上から2条目の沈線に焼成前穿孔2孔。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通	内外面にふい黄褐色・褐色	F68、遺構確認	—	PL46 晩期後葉か
5	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	器厚薄く小型精製。胴部は段をもって大きく外傾。口縁部下に沈線を回し、端部にB突起。外面粗いミガキ、内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい褐色。内面にふい黄褐色	F65・g5、一括	—	PL46 晩期後葉か
6	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに外反。外傾。口縁端部にキザミ。キザミは指頭によるものか。外面水平と斜位の沈線。その下位に刺突か。内面ナデ	メノウ粒少量、砂岩礫・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰黄色。内面灰白色・黒褐色。内部褐色	F65・g5、表土	—	PL46 晩期後葉か
7	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	器厚薄い。内彎。外傾。口縁端部を押さえて平坦にしヘラ状施工具で細かい刺突。外面斜位の粗い燃余文、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・砂岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面浅黄褐色。内部褐色	F69・g9、一括	—	PL46 晩期
8	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面弧状と斜位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・砂岩礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面褐色。内面褐色	F65g6、遺構確認	—	PL46 晩期。内面植物(?)片 丘裏

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第83図 9	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。外面 縦位の波状糸文。内面ナ デ	メノウ粒少 量、石英粒、 泥岩粒・雲母 微量	普通	外面黒褐色、 内面灰褐色	F69、 遺構確 認面	—	PL46 晩期粗製 土器。内 面炭化物 付着
10	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎。わずかに内 傾。複合口縁。口縁端部強 いナデにより平坦。口縁部、 胴部外面網目状懸糸文。内 面ナデ。一部粗いミガキ	メノウ粒少 量、砂岩礫・ 石英粒・チャ ート粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色、 内部褐色	F6g5、 遺構確 認面	—	PL46 晩期粗製 土器
11	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに外反。わずかに内 傾。複合口縁。外面縄文か、 内面ナデ	粗悪。砂岩礫 中量、メノウ 礫・メノウ粒 少量、泥岩粒 微量	普通。 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色、 内面一部黒 色、内部褐色	F69・ g9、 表土	—	PL46 晩期粗製 土器
12	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	胴部内彎。内傾。複合口縁。 内外面ナデ。一部幅横み重 が残る	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・泥岩 粒・褐色砂粒 ・黒色砂粒 微量	普通	内外面にふ い黄褐色	F60、 遺構確 認面	—	PL46 晩期粗製 土器
13	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内傾。複合口縁。 口縁部外面無文。内面ナデ	メノウ粒少 量、泥岩礫・ 赤褐色砂粒・ 海綿骨針微 量	普通。 焼けム ラ	内外面灰黄 褐色・黒褐色	F65・ g5、 表土	—	PL46 晩期粗製 土器。破 断面に黒 色の凹 み、植物 圧痕か
14	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。外面 網目状懸糸文。内面ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・泥岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	外面にふい 赤褐色、内 面にふい褐色	F67・ g7、 表土	—	PL46 晩期粗製 土器
15	縄文 土器	深鉢	胴部下 半、5 %程度 か	— — —	やや小型。内彎。外傾。外 面網目状懸糸文。内面ナデ	メノウ粒・泥 岩粒・雲母微 量	普通	外面黒褐色、 内面黒色	F65・ g5、 表土	—	PL46 晩期粗製 土器。内 外面炭化 物付着
16	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面網目状 懸糸文。内面ナデ	メノウ粒中 量、石英礫・ 石英粒・チャ ート粒・砂岩 礫・雲母細 粒・海綿骨針 微量	普通	内外面にふ い橙色	F65、 遺構確 認面	—	PL46 晩期粗製 土器
17	縄文 土器	浅鉢か	胴・底 部、5 %以下	— (21) [56]	平底から大きく外傾して立 ち上がる胴部。胴部外面懸 糸文。底部外面ナデ。内面 ナデ	メノウ粒少 量、石英礫・ 石英粒・泥岩 粒・雲母細粒 微量	良好。 堅緻	外面明赤褐 色・黒褐色、 内面にふい 褐色	F67・ g7、 表土	—	PL46
18	土師器	甕	底部、 5%以下	— (33) [90]	平底。体部内彎。外傾。外 面ナデ。底部周辺ヘラケス リ。底部ヘラナデ	メノウ粒少 量、チャート 粒・石英粒・ 雲母細粒微 量	良好	外面褐色、 内面にふい 黄褐色	F68、 遺構確 認面	—	PL46
19	縄文 土器	深鉢	底部、 5%以下	— (22) [68]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部・底部外面 ナデ。内面ナデ。一部ミガ キ状	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母細粒微 量	普通	外面褐色、 黒褐色、内 面にふい黄 褐色・黒色	F66、 遺構確 認面	—	PL46
20	弥生 土器	小型 壺か	胴部、 5%程 度か	— — —	薄手。内彎。内傾か。外面 縄文と無文部を沈線により 区画。ヒトデ状文か。内面 指ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 頁岩礫・チャ ート粒・泥岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面灰黄褐 色、内面に ふい褐色	F65、 遺構確 認面	—	PL46

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第83図											
21	弥生 土器	壺か	胴部 5%以下	— — —	内彎。外傾か。外面磨消縄 織手法によるヒトデ状文か。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 褐灰色	F66・ g6。 一括	—	PL46
22	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面ヘラケズ リ後ヘラ状施文具による 斜位の条痕。内面ヘラナデ。 一部ミガキ状	メノウ粒少量、 石英粒・ 灰色砂粒・海 綿骨針微量	良好。 堅緻	外面黒褐色。内面 灰褐色。内面 暗赤褐色	F65。 遺構確 認面	—	PL46
23	弥生 土器	壺	胴～底 部。5 %以下	— (4.0) 6.0	わずかに上げ底状の底部から ほぼ直線的に外傾して立ち 上がる胴部。外面条痕文。 内面ヘラナデ	メノウ粒少量、 チャート 粒・石英粒・ 雲母細粒微量	良好。 やや堅 緻	サンドイッチ 状。外面にふ い黄褐色。内 面にふい褐色。 内部褐灰色	F67・ g7。 表土	—	PL46
24	土師器	環	口縁～ 底部。 15%	[13.0] 4.2 [6.0]	平底。体部内彎。大きく外 傾。ロクロ成形。外面ナデ。 底部周辺手持ちヘラケズリ。 内面ミガキ。黒色処理。底 面手持ちヘラケズリ	やや精良。石 英粒・泥岩 粒・雲母細粒 微量	良好	外面にふい 褐色。内面黒 褐色	F6g9。 遺構確 認面	—	PL46 外面黒色 物質付 着。9～ 10世紀
25	土師器	環	体～底 部。15 %	— (2.0) [5.4]	平底。体部内彎。大きく外 傾。ロクロ成形。外面ナデ。 内面ミガキ。底部回転ヘラ 切り	メノウ粒少量、 メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒微量	普通。 焼けム ラ	外面にふい 赤褐色・黒色。 内面にふい 黄褐色・暗灰 黄色	F66f。 遺構確 認面	—	PL46 9世紀末 ～10世紀 前半
26	土師器	環	体～底 部。20 %	— (1.7) [6.4]	平底。体部内彎。大きく外 傾。ロクロ成形。外面ナデ。 底部周辺ヘラケズリ。内面 ミガキ。黒色処理。底部回 転ヘラ切りのち一部手持ち ヘラケズリ	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	普通	外面にふい 黄褐色。内面 黒色・褐灰色	F66h。 遺構確 認面	—	PL46 9～10世 紀
27	土師器	環	体～底 部。10 %	— (1.7) [5.4]	平底。体部わずかに内彎。 大きく外傾。ロクロ成形。 外面ナデ。底部周辺手持ち ヘラケズリ。内面ミガキ。 底部回転ヘラ切り	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・雲母 細粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。 灰黄褐色。内 部褐灰色	F66g。 遺構確 認面	—	PL46 内面植物 片付着。 9～10世 紀
28	土師器	環	口縁～ 底部。 25%	[10.6] 2.9 [6.6]	平底から体部が内彎気味に 外傾して立ち上がり。口縁 部でわずかに外反。ロクロ 成形。底部回転糸切り	メノウ粒少量、 泥岩礫・ 石英粒・チャ ート粒・褐色 砂粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	良好。 堅緻	内外面にふ い褐色。にふ い赤褐色	F68・ g8。 表土	2片	PL47 10世紀
29	土師器	高台付 環	底～高 台部。 30%	— (2.1) 6.3	ロクロ成形。平底から体部 が大きく開いて立ち上がる。 底部回転糸切り。のちハの 字状の高台貼り付け。内面 ミガキ。黒色処理	やや精良。メ ノウ粒・石英 粒・チャート 粒・泥岩粒微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 黒色	F66f・ g8。 表土	—	PL47 9世紀末 ～10世紀 前半
30	土師器	高台付 環	口縁～ 底部。 10%	[12.8] (3.4) —	高台欠失。底部から体部が 外反気味に外傾して立ち上 がり口縁部に至る。ロクロ 成形。内面ミガキ。黒色処 理	精良。メノウ 粒・石英粒・ チャート粒・ 赤褐色砂粒・ 雲母細粒微量	良好	外面浅黄橙 色・黒色。内 部褐色。内面 褐灰色	F66f。 遺構確 認面	—	PL47 9世紀末 ～10世紀 前半
31	土師器	甕	体～底 部。10 %	— (1.7) [8.0]	平底から体部が大きく外傾 して立ち上がる。体部外面 ヘラケズリ。内面ヘラナデ のち指ナデ。調整やや雑。 底部ヘラケズリ	メノウ粒少量、 メノウ礫・ 石英粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好。 堅緻	外面暗赤褐 色。内面明赤 褐色	F66f・ g8。 表土	—	PL47 平安時代 か
32	須恵器	甕	胴部。 5%	— (16.3) —	外傾。下半は緩やかに。最 大径付近ではやや強く内彎。 器厚は下半でやや厚く上半 で薄くなる。外面平行タギ →タギの順は右下がり →左下がり。内面同心円状 の当て具痕	メノウ粒少量、 泥岩粒・ 海綿骨針微量	還元炭 焼成	内外面灰色	F65・ g5。 表土	2片	PL47

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備 考
第84図 33	石核	3.8	6.3	5.0	91.7	メノウ	比較的良質なメノウの礫を利用。打面転回しながらやや大型で幅広い薄片を剥離。2面に自然面を残す	F65・ g7、 表土	—	PL47 完存
34	石鏃	(20)	(12)	(0.3)	(0.7)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。尖基鏃。先端部と裏面欠損	F66・ g6、 表土	—	PL47 一部欠損

(3) 所見

第26トレンチでは、東寄りに攪乱が目立つ。これらは第9・16トレンチで確認された攪乱に続くものと考えられる。一方、再葬墓の分布も見られず、同時代遺物の出土も少ないことから、再葬墓分布の東限は掴めたと考えられる。

また、畦として用いられた表土層には、縄文晩期の土器や土師器が含まれており、これは付近で観察された傾向と類似している。このため、付近の土を盛って造成したものと推測される。

10 B地区 (第85図)

(1) 調査概要

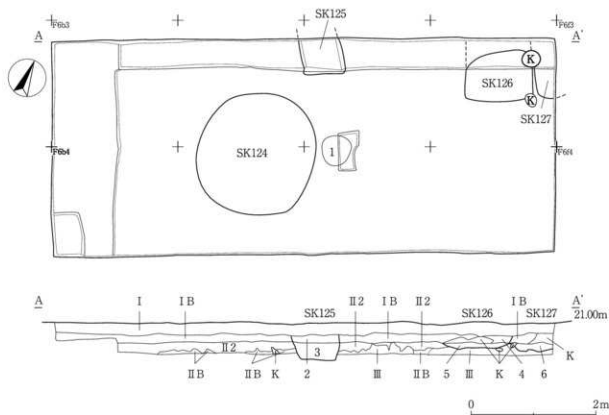
B地区は、第24トレンチの南、第15トレンチの北の、F6b3区からF6e3区、F6b4区からF6e4区までの、長さ8m、幅4mの東西に長い区域を示す呼称である。

今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大きな範囲は掴めてきていることを受け、トレンチ間を調査する必要が生じたため設定されたものである。一部、第1トレンチの拡張区と重複する。

第II 2層上面で遺構確認に努めるとともに、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第III層上面まで掘削することを基本とした。第II 2層上面で焼土が少量混じる箇所が確認でき、付近を精査したが詳細は不明である(第85図)。調査後は掘り上げた土をかけて埋め戻している。

土層解説

- 1 焼土少量混じる。



第85図 B地区実測図

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

① 時期不明

(i) 土坑

第124号土坑 (SK124, 第85図)

位置 F6c3区, F6e4区, F6d3区, F6d4区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径185cmの概ね円形である。遺物出土状況 出土していない。

所見 乾燥のため生じたヒビ割れによって確認された遺構である。覆土にはNt-S、Nt-Iがやや多く、締まりはない。形状から井戸跡の可能性も考えられたが断定できず、詳細は不明である。

第125号土坑（SK125, 第85図）

位置 F6d3区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるが、平面は短軸85cm、長軸の向きはN-39°-Wの隅丸長方形と考えられる。深さは38cmで底面は平になっており、壁は外傾して立ち上がっている。

土層 2層に分けたが基本的には同じ土である。2は床土化して第I B層と同様に堅く締まる。堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---|
| 2 褐色 (10YR 4/4) | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子少量、炭化材 (φ7~15mm) 少量、焼土粒子極少量、Nt-S極少量、締まり強、粘性弱 |
| 3 褐色 (10YR 4/4) | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子少量、炭化材 (φ7~15mm) 少量、焼土粒子極少量、Nt-S極少量、締まりやや弱、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第126号土坑（SK126, 第85図）

位置 F6e3区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるが、平面は短軸102cm、長軸の向きはN-23°-Wの長方形と考えられる。深さは12cmで底面は平になっており、壁は外傾して立ち上がっている。

土層 2層に分けたが同じ土である。4は床土化して第I B層と同様に堅く締まる。堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|------------------|--|
| 4 暗褐色 (10YR 3/4) | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土極少量、炭化材 (φ12mm) 極少量、Nt-S極少量、締まり強、粘性弱 |
| 5 暗褐色 (10YR 3/4) | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土極少量、炭化材 (φ12mm) 極少量、Nt-S極少量、締まりやや弱、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第127号土坑（SK127, 第85図）

位置 F6e3区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びるが、平面は円形と考えられる。断面は皿状で深さは18cm、底面は平になっており、壁は外傾して立ち上がっている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------|--|
| 6 褐色 (10YR 4/6) | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり強、粘性弱 |
|-----------------|--|

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

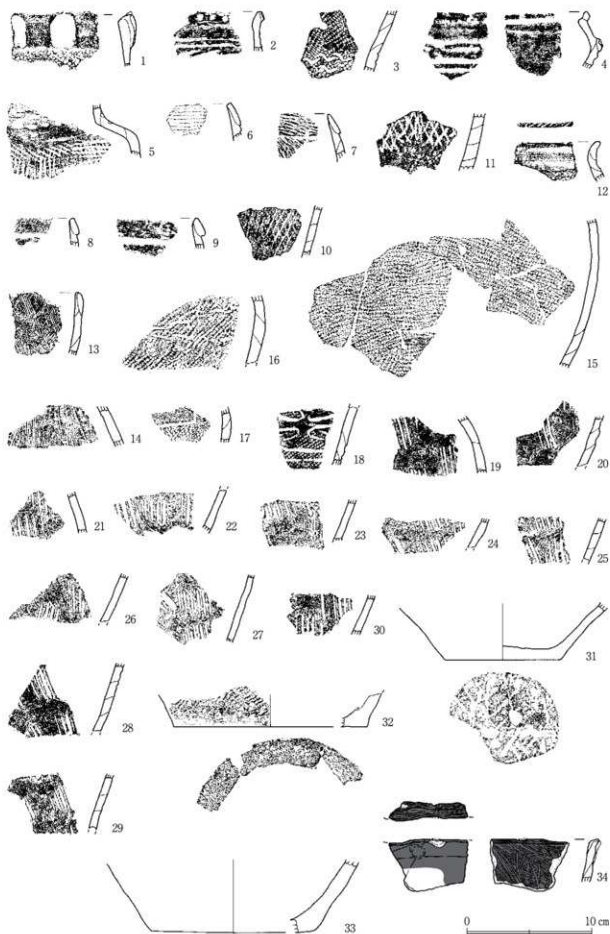
B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第86・87図, 第42表)

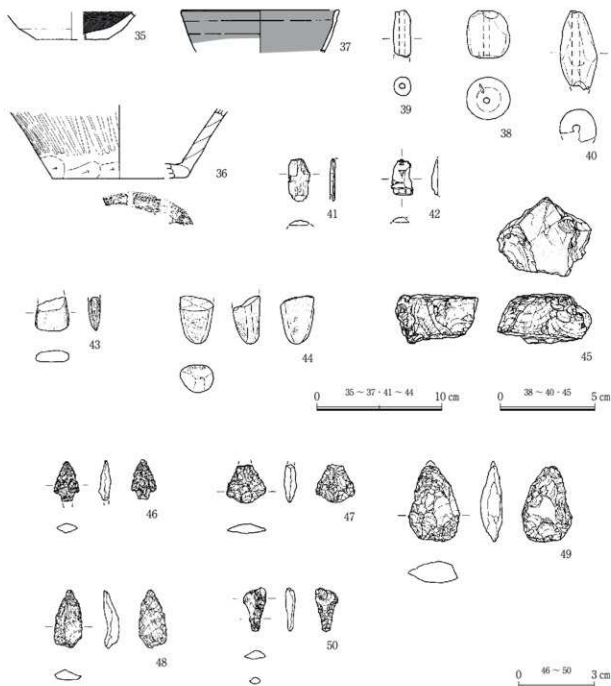
遺物出土状況 土器等2529点, 石器等35点, 骨片1点, 鉄製品3点が出土している。うち縄文土器11点(深鉢8, 壺2, 浅鉢1), 弥生土器22点(壺18, 鉢2, 甕1, 小型壺1), 土師器3点(片口鉢1, 坏1, 甕1), 灰釉陶器1点(椀), 土製品3点(管状土錘2, 球状土錘1), 石器・石製品10点(石鏃4, 石棒1, 石剣1, 小型磨製石斧1, 敲石1, 石核1, 石錐1)を掲載する。再葬墓遺構の集中域に隣接しているため, 耕作による攪乱を受けている第I層~第IB層には, 弥生土器が多く見受けられる。

(3) 所見

第2次までの確認調査で北限と考えられていた再葬墓が所在する第15トレンチの北側, 第24トレンチまでの間の状況を確認するために調査した地区であるが, ここで捉えられた遺構は, 時期不明の土坑4基だけであった。これらは皆, 比較的新しい時代の所産と考えられたが, 時期を特定することはできなかったものである。よって, B地区は再葬墓分布域からは外れるものと考えられる。



第86图 B地区遺構外出土遺物実測図(1)



第87図 B地区遺構外出土遺物実測図(2)

第42表 B地区遺構外出土遺物観察表

種図番号	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第86図 1	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎気味、わずかに内傾。口縁部は複合口縁で分厚い。口縁部外面ナデ。のち連続する指頭圧痕。胴部外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面に赤い・橙色、内面灰黄褐色・褐色。内部褐色	F6c3. 遺構確認面	—	PL47 晩期中葉か
			口縁部、5%以下	—	頭部内傾。口縁部外傾。口縁部外側を肥厚させ、キザミ。キザミは指頭によるか。頭部外面ヘラナデ。下に沈着か。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒微量	普通	内外面黒褐色、一部灰黄褐色	F6b3. I B層	—	PL47 晩期中葉か。頭部外面炭化物付着
			口縁部、5%以下	—							

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第86図 3	縄文 土器	深鉢	胴部 5%以下	— —	外反、外傾。外面縄文、結 節縄文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母・海綿骨 針微量	普通	サンドイッチ 状。外面暗灰 黄色。内面灰 黄褐色。内部 褐灰色	F6d4, I B層	—	PL47
4	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部 5%以下	— — —	胴部外傾から緩く屈曲して 内傾。屈曲して口縁部に至 る。口縁部は内面に施され た沈線により受け口状を呈 する。胴部最大径部分外面 に眼鏡状浮文。その下位 に横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・褐色 砂粒・雲母微 量	やや不 良。焼き 甘い	外面灰白色。 内面にぶい 黄褐色	F6b3, I B層	—	PL47 大淵C2 式
5	縄文 土器	壺	肩部 5%以下	— — —	胴部から屈曲して強く内傾 し屈曲して頸部が立ち上 がる。頸部基部外面に2段の 連続刺突。肩部ミガキ。胴 部捻糸文。内面ナデ	メノウ礫・メ ノウ粒少量。 チャート粒・ 雲母微量	良好。 焼けム ラ	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色・黒 褐色。内面に ぶい橙色。内 部褐灰色	F6c4, I B層	—	PL47
6	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	— — —	わずかに内彎。わずかに内 傾。複合口縁。口縁部外面 は横位の捻糸文。胴部斜 位の捻糸文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英礫・ チャート粒・砂 岩粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい橙色。内 面に褐色。内 部褐灰色	F6e4, I B層	—	PL47 晩期粗製 土器
7	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	— — —	内彎気味。内傾。複合口縁。 口縁部外面は横位の捻糸 文。胴部斜位の捻糸文。内 面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母細粒微 量	良好	内外面黒褐 色。内面一部 灰褐色	F6e4, I B層	—	PL47 晩期粗製 土器
8	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	— — —	内彎気味。わずかに内傾。 複合口縁。外面現存部では 無文。内外面ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・黒色 砂粒微量	普通	内外面にぶ い橙色	F6b3, I層	—	PL47 晩期粗製 土器
9	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	— — —	内彎気味。わずかに内傾。 複合口縁。外面現存部では 無文。内外面ナデ	メノウ粒・石 子 英粒少量。 チャート粒・黒 色砂粒微量	やや不 良。焼き 甘い	サンドイッチ 状。外面明褐 灰色。内面浅 黄褐色。内部 褐灰色	F6c3, I B層	—	PL47 晩期粗製 土器。口 縁部外面 炭化物付 着
10	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面網目 状捻糸文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 褐色砂粒・雲 母・海綿骨針 微量	良好。 堅緻	外面黒褐色。 内面にぶい 赤褐色	F6e4, 遺構確 認	—	PL47 晩期粗製 土器
11	縄文 土器	深鉢	胴部 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面網目 状捻糸文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ チャート粒・ 凝灰岩礫・黒 色砂粒・雲母 微量	やや不 良。焼き 甘い	外面にぶい 褐色。内面灰 褐色	F6c4, I B層	—	PL47 晩期粗製 土器
12	弥生 土器	甕	口縁～ 胴部 5%以下	— — —	胴部から頸部が外反・外傾 して立ち上がり。口縁部で 屈曲して外反。口縁部捻 糸連続斑瓦(附加条縄文か)。 頸部外面横位のナデ。胴部 外面縄文。内面ミガキ	精良。メノウ 粒。石英粒・ 雲母・海綿骨 針微量	良好	外面灰黄褐 色。内面にぶ い褐色	F6c3, 遺構確 認	—	PL47
13	弥生 土器	鉢	口縁部 5%以下	— — —	薄手。わずかに内彎。わず かに外傾か。口縁部ナデ により平坦。外面左下がり のち右下がりの条痕文。内 面ヘラナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 褐色砂粒・海 綿骨針微量	良好。 堅緻	サンドイッチ 状。内外面に ぶい褐色。内 部褐灰色	F6c4, I B層	—	PL47
14	弥生 土器	壺	胴部上 半、5 %以下	— — —	内彎気味。内傾。外面細い 条痕文。内面ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒微量	良好。 堅緻	内外面褐色	F6c4, I B層	—	PL47

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第86図											
15	弥生土器	壺	胴部、5%以下	(120)	胴部内縷、外頰から内頰、外面縄文、内面ナデ	メノウ粒・メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面橙色	F6d4、I B層	13片	PL48 他に同一個体片33片。SK136由來か
16	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷、外頰～内頰、外面結節縄文、内面ナデ	メノウ粒少量、砂岩粒・石英粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい橙色・ぶい褐色、内面にぶい黄褐色	F6d4、I層	2片	PL48 外面炭化物付着
17	弥生土器	小型壺	胴部、5%以下	—	内曲、ほぼ直立か。外面屈曲する沈礎で区画し屈曲外面に縄文を充填。内面ナデ、輪轡模様が残る	メノウ粒少量、メノウ粒・泥岩粒・石英粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状、内外面にぶい橙色、内部褐色	F6d4、I B層	—	PL48
18	弥生土器	鉢	胴部、5%以下	—	直線的、外頰、外面U字状と横走の沈礎で区画し縄文を充填。充填は粗粒。ヒトデ状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面にぶい黄褐色	F6d4、I B層	—	PL48 内面炭化物付着
19	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	内縷、内頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は3条、長さは2.5cm以上。条痕は断面長方形で終始が明瞭のためくっきりした印象。施文方向は下から上。施文具は幅1.2cm。内面ナデ	精良。褐色礫・メノウ粒・石英粒・チャート粒・砂岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状、内外面にぶい黄褐色、内部褐色	F6d4、I B層	—	PL48 No20と同一個体
20	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	内縷、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は3条、長さは2.5cm以上。条痕は断面長方形で終始が明瞭のためくっきりした印象。施文方向は上から下。施文具は幅1.2cm。内面ヘラナデ	精良。泥岩粒・メノウ粒・石英粒・チャート粒・砂岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状、外面灰黄褐色、内面にぶい黄褐色、内部褐色	F6d4、I B層	—	PL48 No19と同一個体、外面炭化物付着
21	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷気味、内頰か。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は5条以上、長さは約2cm。施文具の幅は2.7cm以上。施文は上から下。内面横位のナデ	メノウ粒・砂岩粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48
22	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷気味、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は5条以上、長さは約2cmと2.5cm以上。施文は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48 No22-30は同一個体か
23	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷気味、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は5条以上、長さは約2cm。施文は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48 No22-30は同一個体か
24	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷気味、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は6条。施文は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・石英粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48 No22-30は同一個体か
25	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内縷気味、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は6条。施文は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48 No22-30は同一個体か
26	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内縷、外頰、外面斜位の短条痕文。条痕の単位は主要なもの4条。施文は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面黒色	F6d4、I B層	—	PL48 外面炭化物付着。No22-30は同一個体か

採図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第86図											
27	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	直線的、外傾。外面斜位の 短条稜文。条痕の単位は6 条、長さは約2cm。施文は 下から上。内面斜位のナデ	メノウ粒少量、 石英礫・ 石英粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	外面灰黄褐色、 内面黒色	F6d4, I層	—	PL48 №22-30 は同一個 体か
28	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。外面 斜位の短条稜文。条痕の単 位は主要なものを4条、施 文は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・海綿 骨針微量	良好	外面にふい 黄褐色・褐灰 色、内面黒色	F6d4, I B層	—	PL48 №22-30 は同一個 体か
29	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに外反・外傾。外面 短条稜文。条痕の単位は4 条以上、長さは2cm以上。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・褐色 砂粒・雲母微 量	良好	外面灰黄褐色、 内面黒色	F6d4, I B層	—	PL48 №22-30 は同一個 体か
30	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。外面 斜位の短条稜文。条痕の単 位は4条以上、長さは2cm 以上。施文方向は下から上。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ 泥岩粒・海綿 骨針微量	普通	外面にふい 黄褐色、内面 黒褐色	F6c4, I B層	—	PL48 №22-30 は同一個 体か
31	弥生 土器	壺	底部 5%以下	(45) 90	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部ヘラナデ。 一部ミガキ状。底部木葉痕。 内部ナデ	メノウ粒・砂 岩礫少量、石 英礫・石英粒・ チャート粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色、 灰黄褐色、内 部褐灰色	F6d4, I B層	4片	PL48
32	弥生 土器	壺	胴～底 部、5 %以下	(26) [15.4]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部外面縄文。 底部布目痕。内面ナデ	メノウ粒・雲 母片岩礫少量、 石英礫・石 英礫・泥岩礫・砂岩 礫・褐色砂 粒・海綿骨針 微量	やや不 良。焼 き甘い	内外面にふ い黄褐色	F6d4, I B層	3片、 他に同 一物体 12片	PL48 内面前離 断片。底 部焼成後 浮きの可 能性ある も不明
33	弥生 土器	壺	胴～底 部、5 %以下	(58) [12.8]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部外面ヘラナ デ。胴部下位～底部指ナデ。 内面ヘラナデ	メノウ粒少 量、石英礫・ 泥岩礫・雲母 細粒微量	良好。 堅緻	内外面にふ い褐色。底部 サンドイッチ 状。内部褐灰 色	F6b4, 遺構確 認	—	PL48
34	土師器	片口鉢	口縁 部(片 口部)、 5%以下	— — —	内彎気味に外傾して立ち上 がり。口縁部でわずかに外 反。口縁部の一部が張り出 す様相。張り出しの基部外 面に指頭圧痕。口縁端部は 内側に傾斜する平面。口 縁部外面ヨコナデ。体部外 面ナデ。内面ミガキ、黒色 処理	精良。石 英粒・ メノウ粒 微量	良好	外面にふい 黄褐色・黒色、 内面黒色	F6b4, I B層	—	PL49 9-10世 紀
第87図											
35	土師器	坏	体～底 部、10 %	(22) [5.6]	平底から体部が内彎・外傾 して立ち上がる。ロクロ成 形。底部ヘラ切り後ヘラナ デか。内面ミガキ、黒色処 理	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩礫・雲母 細粒微量	良好。一 部二次 焼成	外面にふい 黄褐色・黒色、 内面黒色、に ふい赤褐色	F6d4, I B層	—	PL49 9-10世 紀。底部 に圧痕 (キビカ)
36	土師器	甕	胴～底 部、5 %以下	(58) [10.6]	平底から胴部が外傾して直 線的に立ち上がる。外面粗 い斜位のミガキ。下位ヘラ ケズリ。内面ヘラナデ。底 部木葉痕か	メノウ粒・石 英粒少量、メ ノウ礫・海綿 骨針微量	普通	外面黒褐色、 内面にふい 赤褐色	F6d4, I層	—	PL49 底部種実 圧痕(キ ビカ)
37	灰輪 陶器	碗	口縁～ 体部、 5%	[12.4] (34)	内彎・外傾して立ち上がり、 口縁部で外反。外面口縁周 辺と内面全面施釉。釉は刷 毛塗り	精良。石 英粒 微量	還元 焼成	器胎：灰色、 釉：灰オリーブ 色	F6b4, I B層	—	PL49 9世紀後 半(K90) ～10世 紀前半 (O53)

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第87図 38	球状 土罽	25	23	0.3	(120)	わずかに軸方向に長い円筒形に近い形態。軸方向に貫通孔	精良。メノウ粒・チャート粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良。焼き甘い	にぶい黄褐色	F6c3, I B層	—	PL49 一部欠損
39	管状 土罽	(25)	0.9	0.3	(22)	細身の円筒形。軸方向に貫通孔	メノウ粒少量。チャート粒・雲母微量	普通	にぶい黄褐色	F6b3, I B層	—	PL49 一部欠損
40	管状 土罽	(42)	1.9	0.4	(95)	大型。中央部を太く両端を細く作る。チヤ調整。軸方向に貫通孔	メノウ粒少量。泥岩礫・砂岩礫・チャート粒微量	普通	にぶい黄褐色	F6c3, 遺構確認	—	PL49 一部欠損

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第87図 41	石棒	(33)	(1.7)	(0.4)	(3.3)	粘板岩	頭部片。L字形の刻線により太い十字形を表現。表面に擦痕(調整痕)	F6e3, I B層	—	PL49 一部残存
42	石剣か	(28)	(1.7)	(0.5)	(2.2)	粘板岩	頭部片。身部との間に2段。表面に縦位と横位の三叉文。段面に短い縦線を刻む	F6e3, I B層	—	PL49 一部残存
43	小型磨 製石斧	(27)	2.6	(1.0)	(10.3)	蛇紋岩	刃部片。両刃。全面に主として右下がりの擦痕(調整痕)。刃部後縁には微細な破損(使用痕か)	F6d3, I B層	—	PL49 一部残存
44	敲石	(3.8)	(2.7)	(2.2)	(24.1)	砂岩	棒状礫を利用。端部付近の側面とその裏側にわずかに敲打痕。	F6b3, I B層	—	PL49 一部残存
45	石核	2.6	5.0	4.2	53.8	メノウ	厚さ22～26cmの板状の礫を利用。主に自然面を打面とし上下転回しながら幅広の剥片を剥離	F6c4, I B層	—	PL49 完存
46	石鏃	(1.6)	1.0	0.5	(0.5)	メノウ	小型有茎。茎先端を欠損。やや厚みがあるが、良好な調整	F6d4, I B層	—	PL49 一部欠損
47	石鏃	(1.5)	1.5	0.5	(0.8)	メノウ	円基鏃。先端部欠損。両面とも丁寧な調整剥離。被熱白変	F6b4, I B層	—	PL49 一部欠損
48	石鏃	2.3	1.1	0.6	1.1	珪質頁岩	彎曲した剥片を利用。刃部側縁と基部のみに調整剥離。尖基鏃か	F6c4, I B層	—	PL49 完存
49	石鏃	3.0	2.0	0.8	4.8	珪質頁岩	円基鏃。表表面に素材時の剥離面が残る。特に表面は剥離が不十分で厚みが残る。先端部は衝撃剥離か	F6d3, I B層	—	PL49 完存
50	石鏃	1.7	0.9	0.4	0.5	メノウ	自然面の残る剥片を利用。自然面を頭部としてやや幅広に残し、調整剥離により鏃部を作出。頭部に素材剥片時の剥離面が残る。鏃部長1.1cm	F6c3, I B層	—	PL49 完存

11 C地区 (第7・8図)

(1) 調査概要

C地区は、第15トレンチの南、第8トレンチの北の、F6b6区からF6f6区、F6b7区からF6f7区までの、長さ8.5m、幅4mの東西に長い区域を示す呼称である。今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、トレンチ間を調査する必要が生じたため設定されたものである。一部、第1トレンチの拡張区と重複する。

第II 2層上面で遺構確認に努めており、遺構が確認されたため、壁に沿ってのサブトレンチは掘削していない。一方、遺構が確認されなかった範囲には小規模なサブトレンチを入れて、下層にも遺構がない旨を確認している。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

① 弥生時代

(i) 土坑

第23号土坑 (SK23, 第7図)

(22ページに掲載)

第113号土坑 (SK113, 第7・8・88図)

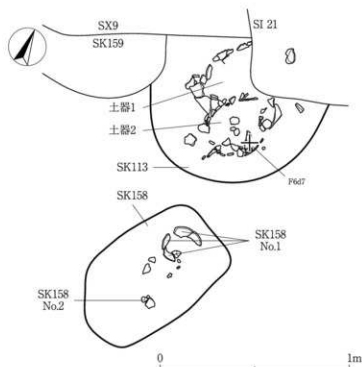
位置 F6c6区、F6c7区、F6d6区、F6d7区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が切られているが、平面は、短軸90cm程度、長軸の向きはN-1°-Eの楕円形と考えられる。

重複関係 第159号土坑、第21号堅穴住居跡、第9号性格不明遺構に切られている。

遺物出土状況 土器等17点が出土している。うち弥生土器3点(壺)を掲載する(第89図, 第43表)。再葬のため埋納された土器は以下の2点で、これは取り上げていない。

土器1 (第89図1) 暗褐色の壺形土器で、現存する高さは40cm、推測される胴径は30cmである。口縁部にはLR縄文、胴部には粗い条痕文が施される。主軸をN-147°-Wに向けて倒れている。



第88図 第113・158号土坑実測図

土器2 淡い明褐色の壺形土器で、高さは46cm前後、胴径は28～30cmと推測される。胴部外面は粗い縦ナデがされ、薄く黒変する。主軸をN-142°-Wに向けて倒れている。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。



第89図 第113号土坑出土遺物実測図

第43表 第113号土坑出土遺物観察表

検出番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第89図 1	弥生土器	壺	口縁部, 5%以下	—	外反, 外傾, 複合口縁。端部を平坦に作る。口縁外面縄文LR, 内面ナデ	メノウ粒少量, 泥岩礫・泥岩粒・石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面にふい黄褐色, 内面・内部褐灰色	土器1口縁付近, 遺構確認面	—	PL49 土器1口縁
2	弥生土器	壺	胴上部, 5%以下	—	外反気味, 内傾。外面ほぼ縦位のくっきりした条痕文, 内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色, 内面灰黄褐色, 内部褐灰色	遺構確認面一括	—	PL49
3	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	わずかに内傾, 外傾。外面条痕文・条痕はわずかに左傾, 一部右傾。施文類は左傾・右傾。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒・黒色砂粒・雲母微量	普通, 焼けムラ	外面にふい褐色・灰褐色, 内面にふい黄褐色	土器2口縁付近, 遺構確認面	—	PL49

第114号土坑 (SK114, 第7・8・90図)

位置 F6b6区, F6c6区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が切られているが、平面は径130cm程度の円形と考えられる。

重複関係 第159号土坑, 第9号性格不明遺構に切られ, 第115号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等22点が出土している。うち弥生土器1点(小型壺)を掲載する(第91図, 第44表)。再葬のため埋納された土器は以下の6点で、これは取り上げていない。

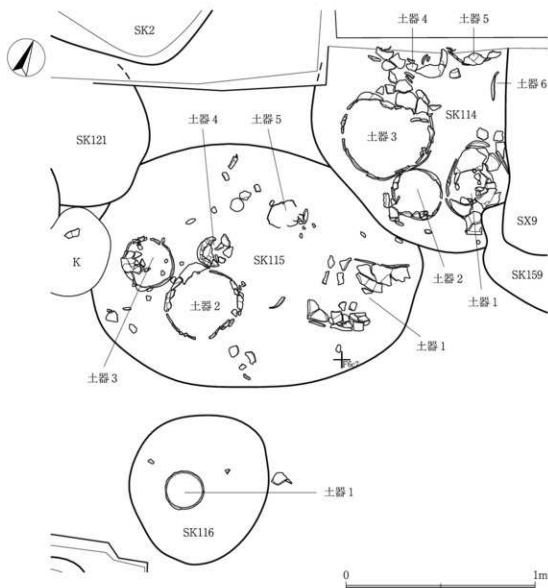
土器1 淡い明褐色の壺形土器で、高さは約45cm、胴径は33～34cmと推測される。胎土に海綿骨針を多量に含む。胴上部には結節文3列、胴中央部から下部にはLR+R縄文が施される。胴部に煤の付着は見られない。主軸をN-164°-Eに向けて倒れている。

土器2 淡い明褐色の壺形土器で、高さは33～35cmと推測され、胴径は29cmである。胴上部には結節文、胴中央部から下部にはやや密な条痕文が施される。胴部に煤の付着は見られない。主軸をN-159°-Wに向けて倒れている。

土器3 淡い明褐色の壺形土器で、現存する高さは55cm、胴径は50cmである。胴部は粗い条痕文が施される。胴部に煤の付着は見られないが、黒変している。

土器4 明褐色の壺形土器で、高さは不明である。胴部には淡く煤が付着している。主軸をN-76°-Wに向けて倒れている。

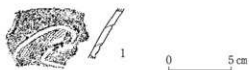
土器5 明褐色の壺形土器で、高さは不明である。胴部にはLR縄文が施される。



第90図 第114～116号土坑実測図

土器6 壺形土器で、高さは不明である。胴中央部にはLR縄文が施され、煤の付着は見られない。胴下部は条痕文か。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。なお、第114号土坑の土器はベルト内に広がり、同様にベルト北隣の第61号土坑の土器3がベルト内に広がっていることから、この2つの土坑は同一のものとなる可能性が考えられる。ただし、第61号土坑の土器のほうが攪乱は大きく、攪乱の程度に差があるため、別の遺構として取り扱った。



第91図 第114号土坑出土遺物実測図

第44表 第114号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第91図 1	弥生土器	小型壺か	胴部下半、5%以下	— — —	薄手。わずかに外反、大きく外傾。外面縄文を地文に沈線で区画し、磨り消し。ヒトデ状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、海綿骨針微量	普通	外面黒褐色、内面にふい黄色・黒褐色	遺構確認	—	PL49 外面炭化物付着

第115号土坑 (SK115, 第7・8・90図)

位置 F6b6区, F6b7区 F6c6区, F6c7区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸175cm, 短軸130cm, 長軸の向きはN-72°-Eの楕円形である。

重複関係 第114・121号土坑に切られている。

遺物出土状況 土器等38点, 石器等2点が出土している。うち弥生土器4点(壺3, 小型壺1), 石器・石製品2点(小型磨製石斧1, 磨石1)を掲載する(第92図, 第45表)。再葬のため埋納された土器は以下の5点で, これは取り上げていない。土器1は口縁を東に向けて横転している。土器2・3・4はまとまっているが, 土器4は外の2点より底部下面が浅く, これらの置かれた順番は, 土器2・3・4の順と考えられる。

土器1 淡い明褐色の壺形土器で, 現存する高さは約55cm, 胴径は30~35cm, 底径は13~15cmである。著しくなで肩で, 胴部には縦の条痕文が施され, 底部は木葉痕である。主軸をN-67°-Eに向けて倒れている。

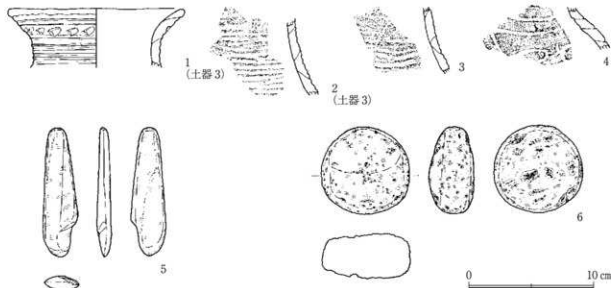
土器2 淡い明褐色の壺形土器で, 現存する高さは40cm, 胴径は42cm前後である。頸部は無文で, 胴部は浅い条痕文が施される。主軸をN-130°-Eに向けて倒れている。

土器3 (第92図1・2) 明茶褐色の壺形土器で, 現存する高さは約20cm, 胴径は28cmである。胎土には石英が多量に含まれる。主軸をN-160°-Wに向けて倒れている。

土器4 黒褐色の壺形土器で, 胴径は15cmである。胴上部はカナムグラの回転文が施され, 下部は無文である。

土器5 淡い褐色の壺形土器で, 胴下部には網目状撫糸文が施される。

所見 出土遺物から, 弥生時代中期の再葬墓である。



第92図 第115号土坑出土遺物実測図

第45表 第115号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第92図 1	弥生土器	壺	口縁~頸部, 5%以下	[136] (47) —	わずかに内傾する頸部から外反・外傾する口縁部。口縁部外面浅い横走沈線1条。その下に竹管状施文具による連続刺突。頸部外面平行する横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面赤褐色, 内面明赤褐色にぶい黄橙色	遺構確認	3片	PL49 No.1~3 同一個体, 土器3の一部

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第92図	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	—	外反、内傾。外面平行する横走沈線。沈線は下半が深く広いのに対し、上半は浅く細い。内面ナデ。下半はやや雑な調整	メノウ粒少量、石英粒・チャード粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面赤褐色。内面にぶい橙色	土器3付近。遺構確認面	3片、1片は遺構外土遺物。PL49 No.1、3と同一個体。土器3の一部	
—											
—											
3	弥生 土器	壺	肩部、 5%以下	—	外反、内傾。外面平行する横走沈線。沈線は下半が深く広いのに対し、上半は浅く細い。内面ナデ。下半はやや雑な調整	メノウ粒少量、石英粒・チャード粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面赤褐色。内面にぶい橙色	遺構確認面	2片、1片は遺構外土遺物。PL49	
—											
—											
4	弥生 土器	小型 壺	肩部、 5%	—	内彎、内傾。上位で外反する様相。外面縦繩文を地文に沈線で区画し磨消手法で文様を描く。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・泥岩粒・チャード粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部灰褐色	土器4付近。遺構確認面	—	PL50
—											
—											

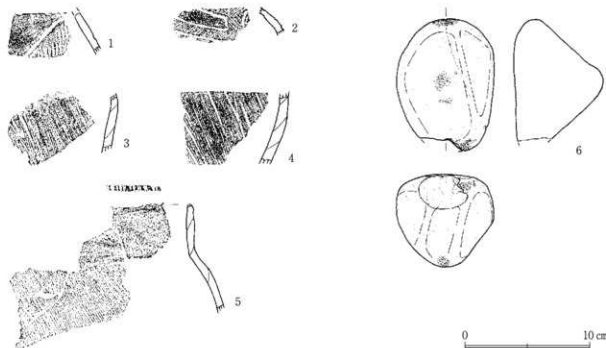
挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第92図 5	小型磨 製石斧	10.2	2.8	1.1	44.6	緑色片岩	一部に折損がある長茄子形の礫を利用。軸直交に近い方向の磨りにより調整	遺構確認面	—	PL50 完存
6	磨石	7.0	6.9	3.6	241	多孔質 安山岩	やや扁平な礫を利用。表裏面と周縁を磨りにより調整して使用	遺構確認面	—	PL50 完存

第116号土坑 (SK116, 第7・8・90図)

位置 F6b7区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径80cmの円形である。

遺物出土状況 土器等19点、石器等4点が出土している。うち弥生土器5点(甕3、壺1、小型壺1)、石器・石製品1点(敲石)を掲載する(第93図、第46表)。再葬のため埋納された土器は1点(土器1)のみで、これは取り上げていない。



第93図 第116号土坑出土遺物実測図

第46表 第116号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第93図 1	弥生土器	壺	胴部5%以下	— —	内壁気味。内傾。現状上端で外反する様相。外面洗滌で区画し磨消縄文手法で文様を描く。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄橙色。内面褐色	遺構確認面	—	PL50
2	弥生土器	小型壺	胴部5%以下	— —	内壁、強く内傾。外面磨消縄文手法による王字文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄橙色。内面褐色	遺構確認面	—	PL50
3	弥生土器	甕	胴部5%以下	— —	内壁、外傾から上端で内傾。外面斜位の細かい条痕文、内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄橙色。内面褐色	遺構確認面	—	PL50
4	弥生土器	甕	胴部5%以下	— —	内壁、外傾。外面斜位の細かい条痕文、内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘ムラ	外面にぶい黄褐色・褐色。内面褐色	遺構確認面	—	PL50
5	弥生土器	甕	口縁～胴部5%以下	— (8.7) —	内壁・内傾する胴上部から頸部で屈曲しほぼ直立する口縁部。最大径は胴部上半で38cm前後か。口縁部は直口縁で端部に細かなギザミ、外面ナデ。胴部外面斜位の細かな条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通。焼けムラ	外面にぶい赤褐色・褐色。内面赤褐色	遺構確認面	6片	PL50 接合しない同一個体3片。外面煤付着

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第93図 6	敲石	(10.5)	7.8	7.4	(672)	砂岩	不整形礫を利用。両端、山形の頂部、平坦面の中央部に使用痕	遺構確認面	—	PL50 一部欠損

土器1 ごく薄い淡褐色の壺形土器で、現存する底面内側までの高さは12cmである。無文で、器面は内外とも粗くなっている。ほぼ直立して掘えられている。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の土器棺墓である。

第158号土坑（SK158、第7・8・88図）

位置 F6c7区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸80cm、短軸53cm、長軸の向きはN-28°-Eの隅丸長方形である。

遺物出土状況 土器2点が出土している。縄文土器1点(浅鉢)、弥生土器1点(壺)を掲載する(第94図、第47表)。

土器1 (第94図1) 波状口縁の縄文の浅鉢である。遺存状態は比較的良好であるが、弥生の遺構に落ち込んだものと判断した。

所見 出土遺物から、弥生時代の所産と考えられるが、詳細は不明である。

②平安時代

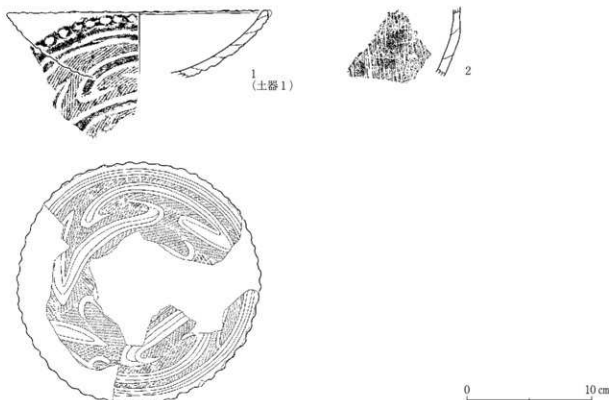
(i) 堅穴住居跡

第21号堅穴住居跡（S121、第7・8図）

位置 F6d6区、F6e6区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸240cm、長軸の向きはN-67°-Eの隅丸長方形と考えられる。

重複関係 第113号土坑、第9号性格不明遺構を切っている。



第94図 第158号土坑出土遺物実測図

第47表 第158号土坑出土遺物観察表

神図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
94	1	縄文土器	口縁~胴部, 60%	21.0 (5.2)	底部を欠損。胴部は内彎しながら大きく開き、口縁部に至る。口縁は端部を平坦に作り外側からキザミ。胴部外面縄文を地文に磨消縄文手法による入組文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好。焼けムラ	外面にふい橙色・黒褐色。内面にふい黄橙色・黒褐色	遺構確認	9片	PL50土器1。大割C2式。混入
	2	弥生土器	胴部, 5%以下	—	内彎。外傾。外面縦位の条痕文。条痕は細いが明瞭。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面暗オリーブ褐色。内底部褐色	遺構確認	2片	PL50

床 確認していない。竈 東壁ほぼ中央部に付設されている。柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等9点が出土している。うち須恵器1点(皿)を掲載する(第95図, 第48表)。



第95図 第21号竪穴住居跡出土遺物実測図

所見 出土遺物から、平安時代10世紀の所産と考えられる。

第48表 第21号竪穴住居跡出土遺物観察表

神図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
95	1	須恵器	皿 底部, 10%	— (1.9)	ロクロ成形。平底から底部が内彎気味に大きく外傾して開き、のち外反。高台貼り付け。内外面ロクロナデ	メノウ粒・石英粒・泥岩粒・チャート粒微量	還元炭焼成	内外面灰色	F6d6, 遺構確認	—	PL509世紀後半~10世紀初頭

③時期不明

(i) 土坑

第121号土坑 (SK121, 第7図)

位置 F6b6区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径120cm程度の概ね円形と考えられる。

重複関係 第122号土坑に切られ、第2・115号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 覆土が若干シルト質で、周辺の遺構の持つ特徴から、中世の所産である可能性が考えられるが、詳細は不明である。

第122号土坑 (SK122, 第7図)

位置 F6b6区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸80cm、短軸60cm、長軸の向きはN-45°-Eの概ね楕円形である。

重複関係 第121号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 覆土が若干シルト質で、周辺の遺構の持つ特徴から、中世の所産である可能性が考えられるが、詳細は不明である。

第159号土坑 (SK159, 第7図)

位置 F6c6区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸88cm、短軸55cm程度、長軸の向きN-89°-Wの楕円形である。

重複関係 第9号性格不明遺構に切られ、第113・114号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から、弥生～平安の所産と考えられるが、詳細は不明である。

(ii) 性格不明遺構

第9号性格不明遺構 (SX9, 第7・8図)

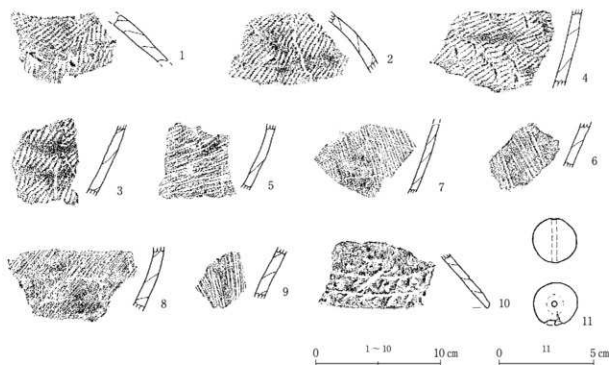
位置 F6c6区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 南西のコーナーが確認できるが、大部分が切られているため、詳細は不明である。

重複関係 第21号堅穴住居跡に切られ、第113・114・159号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等26点が出土している。うち縄文土器1点(蓋)、弥生土器9点(壺)、土製品1点(球状土錘)を掲載する(第96図, 第49表)。弥生の遺物が多く混入するが、多くは第114号土坑に由来するものと考えられる。

所見 重複関係から、弥生～平安の所産と考えられるが、詳細は不明である。古代の堅穴住居跡の可能性も考えられるため性格不明遺構として扱った。



第96図 第9号性格不明遺構出土遺物実測図

第49表 第9号性格不明遺構出土遺物観察表

種図番号	種別	器種	部位・残存率	口径高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第96図											
1	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内彎, 強く内傾。外面縄文, 上位にナデ痕あり。頸部直下。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	内外面橙色	遺構確認面	2片	PL50
2	弥生土器	壺	胴部上半, 5%以下	—	内彎, 強く内傾。外面縄文, 内面ヘラナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好。焼けムラ	外面赤褐色・黒色, 内面明赤褐色	遺構確認面	2片	PL50
3	弥生土器	壺	胴部下半, 5%以下	—	内彎, 外傾。外面縄文, 内面ヘラナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥岩粒・海綿骨針微量	良好。堅緻	外面黒褐色, 内面橙色	遺構確認面	—	PL51
4	弥生土器	壺	胴部下半, 5%以下	—	わずかに内彎, 外傾。外面縄文。施文開始位置に粘土の溜まり。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい赤褐色, 内面浅黄色	遺構確認面	—	PL50 外面炭化物付着
5	弥生土器	壺	胴部下半, 5%以下	—	内彎, 外傾。外面斜位の附加条縄文, 内面やや粗いミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面浅黄褐色, 内部褐灰色	遺構確認面	—	PL51
6	弥生土器	壺	胴部下半, 5%以下	—	内彎気味, 外傾。外面斜位の条痕文。施文は浅く, 方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色・褐灰色, 内面黒色	遺構確認面	—	PL51 内面煤付着

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
7	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	薄手。わずかに内脣。外傾。外面斜位のやや細かい条痕文。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	外面にふい黄褐色・黒褐色。内面にふい橙褐色	遺構確認	4片	PL51
8	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	内脣。外傾。外面斜位の細かい条痕文。輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	外面褐色・黒褐色。内面にふい赤褐色	遺構確認	—	PL51 外面煤付着
9	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	やや外反。外傾。外面わずかに斜位の条痕文。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部灰褐色	遺構確認	—	PL51 内外面炭化物付着
10	縄文土器	蓋	口縁部, 5%以下	— — — [28前後か]	薄手。直線的。内傾。端面取り。外面ナデ。輪積み痕顕著。下位2段連続する指頭圧痕。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・チャート粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰褐色・黒褐色。内面にふい褐色・黒褐色。内部褐色	遺構確認	—	PL51 晩期後 費大割A式。混入

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第96図 11	球状土鍾	24	23	0.2	(11.6)	球形で直な貫通孔をもつ。外面ナデ	メノウ粒・石英粒・泥岩粒微量	良好	黒褐色	遺構確認	—	PL51 一部欠損

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第97～100図, 第50表)

遺物出土状況 土器等3,974点, 石器等72点, 鉄製品2点が出土している。うち縄文土器44点(深鉢21, 浅鉢9, 鉢4, 壺3, 小型鉢3, 注口土器3, 台付鉢1), 弥生土器26点(壺22, 小型壺2, 深鉢2), 土師器3点(甕1, 鉢1, 盤1), 須恵器1点(大甕), 土製品4点(管状土鍾2, 土偶1, 不明1), 石器・石製品13点(石鏃3, 石棒2, 砥石2, 凹石2, 磨製石斧1, 敲石1, 磨石1, 独鈷石1)を掲載する。再葬墓集中域であり弥生土器が多く散布するが、それ以上に縄文土器が多い。

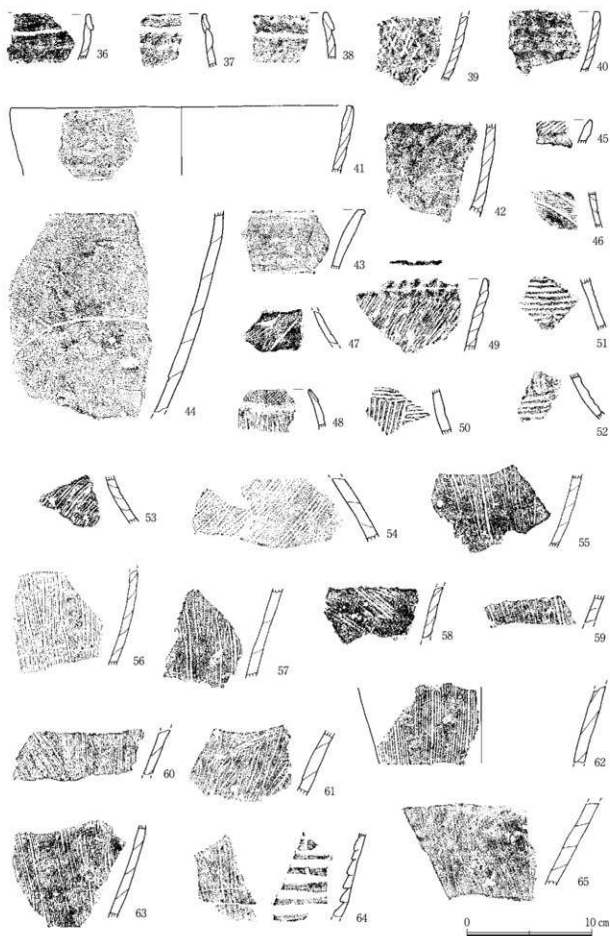
(3) 所見

第1次調査時の第8トレンチ, 第2次調査時の第15トレンチのいずれにおいても再葬墓が確認されており, C地区にも分布することが予測されていた。それに違わず, 第113・114・115・116号土坑の4基の再葬墓等が確認され, これまで考えてきた再葬墓分布範囲の裏付けとなる成果となった。

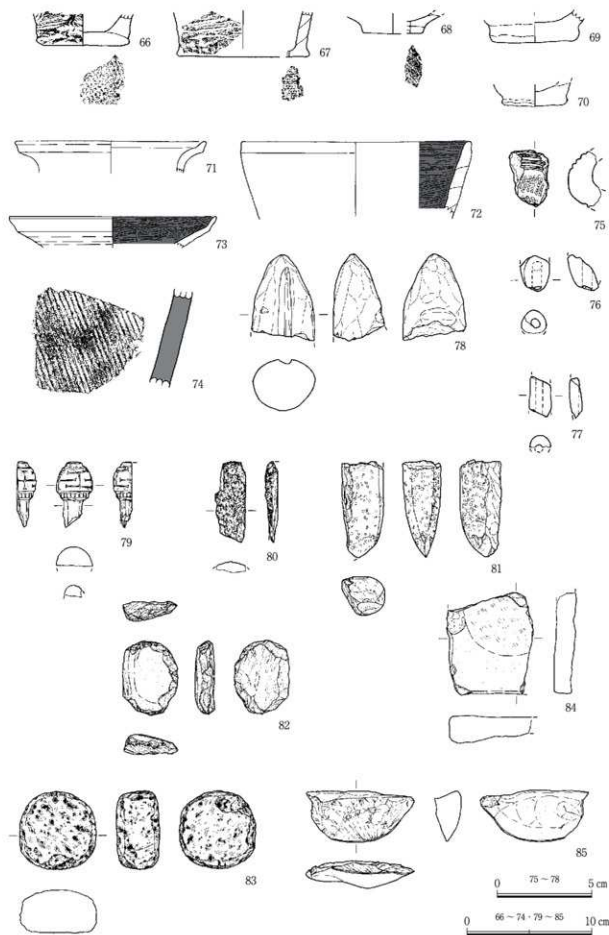
なお, C地区でも平安時代の竪穴住居跡が確認されたことは, これまでの調査によって得られた。低位段丘面上に平安時代の遺構が広がるという所見を, 裏付けする成果である。



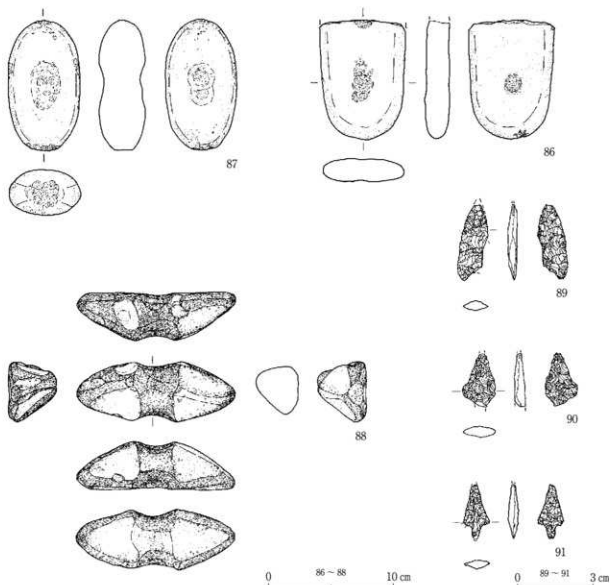
第97图 C地区遺構外出土遺物実測図(1)



第98图 C地区遺構外出土遺物実測図(2)



第99图 C地区遺構外出土遺物実測図(3)



第100図 C地区遺構外出土遺物実測図(4)

第50表 C地区遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第97図 1	縄文土器	壺か	頸部、5%以下	—	外反、内傾。頸部に突帯を回し、一部を突起させる。外面縄文。突起左下に貫通孔。焼成前穿孔。内面ナデ、輪積み痕が残る	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面橙色、内面にふい橙色	F6c6, I層	—	PL51中期か
2	縄文土器	深鉢	肩～胴部、5%以下	(9.0)	内彎・外傾して立ち上がり、肩部で内傾、屈曲して頸部をなす。最大径17～18cm程度か。肩部に縦長の貼瘤。その左右に上下を沈線で区画した連続刺突。胴下半にも上下を沈線で区画した連続刺突。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・砂岩粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄橙色、内部褐灰色	F6c6, I B層	—	PL51胴部上半炭化物付着。後期後葉か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第97図 3	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、わずかに外 傾。複合口縁。肥厚させた 口縁の外面に連続する指頭 状直痕。胴部外面縄文。内面 ミガキ	メノウ粒少 量、石英粒・ チャート粒・ 泥岩粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	普通	サンドイッチ 状。外内面灰 黄褐色・黒褐 色。器表下に ぶい黄褐色。 内部褐灰色	F6c6. I B層	—	PL51 後期粗製 土器
4	縄文 土器	小型 鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、わずかに外 傾。外面羊歯状文。文様の 一部は口縁端部にかかる。 内面ミガキ	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母細粒微量	良好	外内面黒褐 色	F6b7. I B層	—	PL51 大洞BC 式
5	縄文 土器	小型 鉢	胴上 部、5 %	— — —	内彎、外傾。外面横走沈線 3条。上段の沈線上にも文 様の存在。中段の沈線は一 部S字状に作る。沈線の 下位結節縄文。内面ナデ	メノウ粒少 量、泥岩礫・ 泥岩粒・石英 粒・雲母細粒 微量	良好	外面明黄褐 色。内面にぶ い黄褐色。	F6d7. I B層 上面	—	PL51 大洞B C 式
6	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎、わずかに内 傾。口縁を肥厚させ、端部 に沈線を施し、外傾は斜面 に作る。外面は縄文を地文 に幅広の弧状沈線2条で区 画し(舟形杵状文)。沈線間 の縄文を磨り消し。下端に も沈線。内面ミガキ	メノウ粒少 量、石英粒・ 凝灰岩粒・海 綿骨針微量	良好	内外面暗赤 褐色。内部明 赤褐色	F6d7. II層	—	PL51 前浦式
7	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	内彎気味、わずかに内傾。 口縁部を肥厚させ端部を斜 に作る。外面太い横走沈線 で区画し上段に縄文	黒色砂粒・メ ノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒微量	良好	内外面にぶ い褐色	F6d6. I B層 上面	—	PL51 前浦式
8	縄文 土器	壺	肩～胴 部、5 %	— — —	薄手。内彎、内傾。最大径 20cm前後。肩部外面磨消縄 文手法により雲形文、中位 に横走沈線3条、以下ミガ キ。外面一部赤彩か。内面 ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・褐色 砂粒・黒色砂 粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面橙 色・にぶい橙 色。内面にぶ い褐色。内部 褐灰色	F6c7. II層。 サブレ 内	—	PL51 大洞C1 式。沈線 の一部に 赤色顔料
9	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %	[17前 後] — — —	わずかに内彎、外傾。外面 上位に沈線2条。以下磨消 縄文手法により雲形文の一 部か。内面ミガキ。口縁に 沿って横走沈線1条	メノウ粒少 量、石英粒・ 黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰褐 色・にぶい橙 色。内面にぶ い褐色。内部 灰褐色	F6b6. I B層 上面	—	PL51 大洞C1 式か
10	縄文 土器	注口 土器	肩～胴 部、5 %	— — —	大きく外傾する胴部から屈 曲して強く内傾する肩部。 最大径19cm前後か。図左端 肩部が注口基部。注口は剥 離。注口右に隆帯と突起で 横V字状の区画。胴部は縄 文を地文に沈線で区画し上 位を磨り消し。一部赤彩。 内面ヘラナデ。一部粗いミ ガキ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・雲母 ・海綿骨針 微量	良好	外面灰黄褐 色・黒褐色。 内面にぶい 褐色	F6c7. I B層	—	PL51 大洞C1 ～C2式。 肩部突起 周辺赤色 顔料
11	縄文 土器	注口 土器	肩～胴 部、5 %	— — —	大きく外傾する胴部から屈 曲して強く内傾する肩部。 最大径18cm前後。外面上位 から磨消縄文。横走沈線。 截痕。最大径上位を肥厚さ せB突起。下位に連続刺突。 横走沈線。内部ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒微量	普通	外面褐灰色。 灰白色。内面 黒色	F6d7. II層	—	PL51 大洞C1 式
12	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	わずかに内彎・外傾。口縁 端部キザミ。外面横走沈線 と2溝間の截痕。口縁部内 面2溝間の截痕。胴部内面 ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・雲母 微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色。内 面灰黄褐色。 内部黒褐色	F6d6. I B層	—	PL51 大洞C1 式
13	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %	[22前 後] (37) —	反外気味。大きく外傾。口 縁部外面ヘラ状施文具によ る連続刺突と横走沈線2条。 その下位磨消縄文。口縁端 部から内面羊歯状文の葉部 を思わせるキザミと横走沈 線を施しミガキ	メノウ粒少 量、メノウ礫・ 石英粒・雲母 微量	良好	外面暗灰黄 色・黒褐色。 内面黒褐色	F6b7. I B層	—	PL51 大洞C1 式か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第97図											
14	縄文 土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	内嚢、外傾。口縁部を肥厚させ肩部を平坦に作り沈線を回す。肩部外面側にへら状施文具でキザミ。外面横走沈線3条。その下位磨消縄文(左下に沈線区画)。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・褐色砂粒・黒色砂粒・雲母微量	やや不良。焼き甘い	内外面にぶい黄褐色。内部褐色	サブト南側	—	PL51 大洞C1式
15	縄文 土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	内嚢、外傾。口縁部はやや平坦。外面口縁部に横走沈線2条。以下磨消縄文による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面灰褐色。内面黒色	F66, I B層上面	—	PL51 大洞C2式
16	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	— — —	外反、外傾。口縁部外面を肥厚させ、突起を作り縄文を施し、上位と左に沈線。胴部無文。内側口縁に沿って横走沈線、ミガキ	メノウ粒少量。チャート粒・黒色砂粒微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面褐色	F67, I B層上面	—	PL51 大洞C2式
17	縄文 土器	浅鉢	胴部、5%	— — —	内嚢、外傾。外面細く深いしっぺりした横走沈線。その下に細かい燃糸文。内面やや粗いミガキ	メノウ粒少量。黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F67, I層	—	PL51 大洞C2式
18	縄文 土器	鉢	口縁部、5%以下	— — —	胴部から屈曲して立ち上がる口縁部。口縁部直線的。外傾。波状口縁。口縁部下の沈線はほぼ口縁に沿う。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量。メノウ礫・石英礫・雲母細片微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰白色。内部褐色	F67, I B層上面	—	PL51
19	縄文 土器	浅鉢	胴部、5%	— — —	内嚢、大きく外傾。外面平直沈線2条と八字状の弧状沈線文。下端にも沈線。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F67, 遺構確認面	—	PL51 SK158に所属か。外面点状に炭化物付着
20	縄文 土器	鉢	口縁部、5%以下	— — —	内嚢・外傾する胴部から外反する口縁部。口縁部外面に横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	F67, I B層	—	PL52 内面種実圧痕か
21	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	— — —	薄手。外反、外傾。波状口縁。内外面ナデ。調整が確で、内外面に一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	やや不良。焼きムラ	内外面黒褐色。一部灰白色	F67, I層	—	PL52 内面炭化物付着
22	縄文 土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	外反、外傾。波状口縁。波頂部から左右の口縁端部に沈線。波状口縁下外面を隆帯状に作る。内面頂部から縦文と横位の沈線文	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面暗灰褐色。内部褐色	F66, II層	—	PL52 大洞C2式
23	縄文 土器	浅鉢	胴部上半、5%以下	— — —	内嚢気味・外傾から屈曲してわずかに内傾。屈曲部で最大径となり径は33cm前後か。屈曲部外面に粘土紐と円形浮文を貼り付け、粘土紐に横長の刺突。刺突の一部が円形浮文に掛かる。内外面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・海綿骨針微量	普通	内外面灰黄褐色。一部褐色	F67, I B層上面	—	PL52
24	縄文 土器	壺	頸部、5%	(42) — —	精製土器。内嚢・内傾する胴部から強く屈曲し外反・外傾して立ち上がる頸部。頸部径19~20cm前後。頸部外面沈線。肩部変形工字文。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F67, I B層	—	PL52 大洞A式
25	縄文 土器	鉢	胴部、5%以下	— — —	下部内傾から屈曲して上部で内傾。外面変形工字文。上部赤彩。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	F67, I B層上面	—	PL52 大洞A式。上部外面赤色。顔料付着(下部にもわずかに残存)

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第97図	26	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内嚮気味。口縁でわずかに外反。わずかに内傾。口縁端部キザミにより小波状。外面縄文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・雲母細粒微量	普通	外面にぶい赤褐色、内面黒褐色	F6c7, I B層	—	PL52 晩期粗製土器
	27	縄文 土器	深鉢	胴部、5%以下	—	直線的。外傾。外面縄文。施文前の腹位の指ナデのためか凹凸顕著。外面輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	やや不 良。焼 き甘い	外面にぶい黄褐色、内面にぶい黄褐色	F6b7, 遺構確認面	—	PL52 海綿骨針顕著
	28	縄文 土器	鉢	口縁～胴部、5%以下	[17.8] (5.7)	内嚮・内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する短い口縁部。外面無文(口縁部ナデ、頸部ミガキ、胴部ヘラケズリ)。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒、泥岩礫・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色、一部灰黄褐色	F6b7, I B層	—	PL52 内面炭化物付着
	29	縄文 土器 か	小型 鉢	口縁～体部、10%	[9.2] (3.0)	薄手。内嚮する胴部から屈曲して外傾する口縁部。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい褐色	F6d7, I B層	—	PL52
	30	縄文 土器	台付 鉢	脚台部、5%以下	(4.5) [14.8]	ハの字状に開く脚台。器厚厚くしっかりしている。外面上位に2条の横走沈線。沈線部分は赤彩。外面ミガキ、内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、泥岩礫・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面黒褐色。器表下灰白色、内面黒褐色	F6b7, I B層	—	PL52 沈線部分に赤色顔料
	31	縄文 土器	注口 土器	注口部、5%以下	—	基部がわずかに太い円筒状の注口。本体との接合部に粘土を貼って肥厚させ沈線をめくらす。長さ29cm。先端部径1.8cm。肥厚部分を除く基部径2.0cm。注口内径は先端部で0.9cm。基部で1.0cm	メノウ粒少量、泥岩礫・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色・褐灰色、内面褐灰色	F6b7, I B層	—	PL52
	32	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内嚮。内傾。複合口縁。口縁部外面横位の、胴部外面斜位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート礫・チャート粒・石英粒・泥岩礫・雲母細粒微量	普通	内外面灰黄褐色	F6c7, I B～II層	—	PL52 晩期粗製土器
	33	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内嚮。わずかに外傾か。複合口縁。端部平坦。口縁部外面ほぼ横位の、胴部外面斜位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒・チャート粒・泥岩礫・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色・灰黄褐色、内面にぶい黄褐色	F6d7, I B層	—	PL52 晩期粗製土器。外面炭化物付着
	34	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内嚮。わずかに外傾か。複合口縁。端部平坦。口縁部外面横位の、胴部外面斜位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、泥岩礫・泥岩礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色、内面褐灰色	F6c6, I B層	—	PL52 晩期粗製土器
	35	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内嚮気味。わずかに外傾か。複合口縁。端部平坦。口縁部外面網目が横長の、胴部同じ縦長の網目状燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、泥岩礫・凝灰岩粒・石英粒・チャート粒微量	やや不 焼 き甘い	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面灰黄褐色・黄灰色、内面黄褐色	F6e7, I B層上面	—	PL52 晩期粗製土器
第98図	36	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内嚮。わずかに外傾。複合口縁。端部は平坦。内外面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐灰色。内面灰褐色。器表下灰白色。内面褐灰色	F6b7, I B～II層	—	PL52 晩期粗製土器
	37	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	薄手。内嚮気味。内傾。複合口縁。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、灰色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面暗赤褐色、内面にぶい赤褐色	F6b6, II層	—	PL52 晩期粗製土器

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第98図 38	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	内彎、内傾。複合口縁。端部平坦。内外面ナデ。内面一部ミガキ状。外面に一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート礫・石英粒微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面明黄褐色	F6b7, I B層	—	PL52 晩期粗製土器
39	縄文 土器	深鉢	胴部、5%以下	— —	内彎、外傾。外面網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・凝灰岩粒・石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通	内外面にぶい橙色	F6b7, I B層	—	PL52 晩期粗製土器。外面成化物付着
40	縄文 土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	[25～26前後] (4.9)	内彎、外傾。外面無文(ナデ)。輪積み痕が残る。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内面褐色	F6c7, I B層	—	PL52
41	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	[27.0] (5.4)	内彎、外傾。単純口縁。端部平坦。内外面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、堅緻	外面黒褐色、内面にぶい赤褐色	F6c7, II層 サブトレ内	—	PL52
42	縄文 土器	深鉢	胴下部、5%以下	— —	内彎、外傾。外面無文(ナデ)。輪積み痕顕著。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート礫・チャート粒・砂岩礫・凝灰岩粒・雲母細粒微量	普通、二次焼成	外面にぶい黄褐色・橙色、内面褐色、内面にぶい黄褐色	F6b7, II層 遺構確認面	—	PL52 内外面一部成化物付着
43	縄文 土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	わずかに外反、外傾。外面ヘラナデ。内面ヘラナデ。一部ミガキ状。	メノウ粒少量、チャート礫・チャート粒・石英粒・雲母細粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色、内面灰褐色、内部黒褐色	F6c7, I B層	—	PL52 No43と同一体
44	縄文 土器	深鉢	胴下部、5%	— —	わずかに内彎、外傾。外面斜位(上位横位)のヘラナデ。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・灰白色、内面灰黄褐色、内部黒褐色	F6c7, I B層	2片	PL52 No43と同一体。SK158に所属か
45	弥生 土器	壺	口縁部、5%以下	— —	外反、外傾。口縁部外面を肥厚させ縄文を施文。頸部無文。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色、内部黒褐色	F6d7, I B層	—	PL52
46	弥生 土器	小型壺	頸部、5%以下	— —	外反、内傾。外面沈線で区画した縄文帯。ヒトデ状文の一部か。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内面にぶい褐色、内部褐色	F6b6, I B層	—	PL52 7-1と同一体
47	弥生 土器	小型壺	肩部、5%以下	— —	外反、内傾。外面斜位の直線とくの字状の沈線で区画した間は縄文。ヒトデ状文か器表摩擦により詳細不明。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不焼甘い	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内面にぶい褐色、内部褐色	F6b6 (拡張区), I B層	—	PL52 50-3と同一体
48	弥生 土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— —	内彎、内傾。口縁を複合口縁状に肥厚させ外面に縄文。胴部外面腹位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	内外面灰褐色・黒褐色	F6c7, I B層	—	PL53
49	弥生 土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	[36前後] (5.8)	内彎気味、外傾。単純口縁の内外面に指頭圧痕連続。内外面最上段の輪積み痕を残す。胴部外面斜位の条痕文。条痕の間に輪積み痕が残る。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート礫・チャート粒・泥岩粒・石英粒・黒色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面にぶい黄褐色	F6d7, II層	—	PL53

挿入 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第98図 50	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	外反、内傾。凹凸のしっかりした施文具で施した、始点も明瞭なくっきりした縦横の条痕文。条痕の単位は5条。施文順は横→縦。縦の条痕の施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・赤褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、内面にふい褐色	F6d6、I B層	—	PL53
51	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	外反気味、内傾。外面横位の太い条痕文。内面ナデ	メノウ中量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・雲母微量	普通	外面明赤褐色、内面橙色	F6b6、I層	—	PL53 %52、SK1153b 2・3と同一個体。ほかにも同一個体小片あり
52	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	わずかに外反、内傾。外面は縦位と斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ中量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・雲母微量	普通	外面明赤褐色、内面橙色	F6b6、I層	—	PL53 %51、SK1153b 2・3と同一個体。ほかにも同一個体小片あり
53	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	外反、内傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位は3条。施文方向は左下から右上。条痕の間に輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・砂岩礫・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色、内部褐色	F6d7、I B層 上面	—	PL53
54	弥生 土器	壺	胴部上 半、5% 以下	— — —	わずかに内傾、内傾。外面斜位の条痕文。施文具の幅2.4cm。条痕の単位7条。施文方向は左下から右上。内面は横位のナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面に浅黄色。内部褐色	F6c7、I B層 上面	4片	PL53
55	弥生 土器	壺	胴下 部、5% 以下	— — —	わずかに内傾、外傾。外面斜位の条痕文。施文具は先がささくれ。施文方向は右下から左上。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面灰褐色	F6c7、I層	—	PL53 外面炭化物付着。 Na56・Na63と同一個体の可能性
56	弥生 土器	壺	胴部下 半、5% 以下	— — —	内傾、外傾。外面斜位の条痕文。施文具は先がささくれ。施文方向は右下から左上。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面灰褐色、内面黒褐色	F6c7、I B層	—	PL53 外面炭化物付着。 Na63と同一個体の可能性
57	弥生 土器	壺	胴下 部、5% 以下	— — —	わずかに外反、外傾。外面斜位の条痕文。施文方向は下から上。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、チャート粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい黄褐色、内面にふい黄褐色	F6c7、I B層	—	PL53 内外下部 わずかに炭化物付着
58	弥生 土器	壺	胴下 部、5% 以下	— — —	わずかに外反、外傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位は4～5条。施文方向は右下～左上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	普通	外面灰黄褐色、内面黒色(炭化物全面付着)	F6c7、I層	—	PL53 内外炭化物付着(内面顕著)
59	弥生 土器	壺	胴部下 半、5% 以下	— — —	内傾気味、外傾。外面斜位の条痕文。条痕は幅広くしっかりしている。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・灰色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面浅灰色、内面黒色	F6c6、II層	—	PL53

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第98図											
60	弥生 土器	壺	胴部下 半, 5 %以下	— — —	内嚢気味。外傾。外面縦位・ 斜位の細かい条痕文。施文 具の幅1.8cm。施文方向は下 から上。内面ナデ。一部輪 積み痕が残る	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・雲母 細粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面淡黄 色・黄灰色。 内面にぶい 黄褐色。内部 褐灰色	F6b7, II層	—	PL53
61	弥生 土器	壺	胴下 部, 5 %以下	— — —	下部で内嚢。上部で外反気 味。外面斜位の条痕文。 施文具先端ささくれ。内面 ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量, チャート 礫・チャート 礫・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面明赤 ぶい黄褐色。 内部褐灰色	F6d7, II層	—	PL53 内面一部 炭化物付 着
62	弥生 土器	壺	胴下 部, 5 %以下	(6.0)	外反気味。外傾。外面ほぼ 縦位の条痕文。施文具の幅 2.5cm。条痕の単位は12条。 施文方向は下から上。内面 ヘラナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・黒色 砂粒・雲母細 粒微量	良好。 堅緻	サンドイッチ 状。外面明赤 褐色。内面赤 褐色。内部褐 灰色	F6c7, II層, サブレ 内	—	PL53 内面炭化 物付着
63	弥生 土器	壺	胴下 部, 5 %以下	— — —	わずかに内嚢。外傾。外面 斜位の条痕文。施文具は幅 1.6cmで、先のささくれが激 しい。施文方向は右下から 左上。内面粗いミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒・泥岩 粒・雲母細粒 微量	良好	外面黒褐色・ 灰褐色。内面 褐灰色	F6c7, II層	—	PL53 同一個体 片ありNa 56, Na55 も同一個 体の可能 性。外面 炭化物付 着
64	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	(6.7)	下部で弱く屈曲しながら外 傾。上部外反気味。外面斜 位の条痕文。内面わずかに ナデも輪積み痕顕著。粘 土粗6段。1段の平均高1.1 cm。輪積み痕を意図的に残 したか	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・チャ ート粒 微量	良好	外面にぶい 褐色・褐灰色。 内面灰褐色	F6b7, I B層	—	輪積み 痕で破 損した 3片 PL53
65	弥生 土器	壺	胴下 部, 5 %以下	— — —	内嚢気味。外傾。外面斜位 の薄い条痕文。施文具の幅 1.6cm。主要な条痕2条に細 かい条痕多数。施文方向は 右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量, 泥岩粒・海 綿骨針微量	良好。 堅緻	外面灰黄褐 色・褐色。内 面褐色	F6b6, II層	—	PL54
第99図											
66	弥生 土器	壺	底部, 5%以下	(2.5) [7.0]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部外面横位・ 斜位の条痕文。底部網代痕。 内面ヘラナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・泥岩 粒・泥岩 粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色・灰 黄褐色。内面 にぶい褐色。 内部褐灰色	F6d7, I B層	—	PL53
67	弥生 土器	壺	底～胴 部, 5 %以下	(3.6) [10.6]	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。胴部外面附加条 痕文。底部布目痕。内面粗 いミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 泥岩粒・泥岩 粒・黒色砂 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色。内 面にぶい褐色 ・灰黄褐色。 内部褐灰色	F6c6, I B層	—	PL54
68	弥生 土器	壺	底部	(1.6) [4.8]	平底から大きく外反・外傾 して立ち上がる胴部。外面 ヘラナデ。底部木葉痕。内 面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ チャート粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐灰色	F6c7, I B層	—	PL54
69	弥生 土器	壺	底部, 5%以下	(2.4) 6.4	平底から胴部が外傾して立 ち上がる。外面ヘラナデ。 底部ヘラケズリ。内面ミガ キ	メノウ粒少量, メノウ 礫・雲母細粒 微量	良好。 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 一部褐灰色。 内部褐灰色	F6c6, I層	3片	PL53
70	弥生 土器	壺か	底部, 5%以下	(1.9) 5.2	平底。胴部は接合面で弱離。 内外面ヘラナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 泥岩粒・灰色 砂粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	普通	外面にぶい 黄褐色。内面 内部褐灰色	F6c7, I B層	—	PL53

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
999	71	土師器	甕	口縁部、5%以下	[15.0] —	頸部から強く外反・外傾する口縁部。肩部は外上方へ撮み上げ。肩部外面から内面ヨコナデ。頸部外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好。堅緻	内外面にぶい赤褐色	F6d6, I B層上面	—	PL53 9世紀末～10世紀初頭
	72	土師器	鉢	口縁部、5%以下	[18.0] —	内彎気味。外傾。口縁は体部からそのまま移行する単純口縁で、外面1cm弱横ナデ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、赤褐色礫・雲母・海綿骨針微量	良好	外面暗赤褐色・明赤褐色 内面黒色	F6b6, I B層上面	—	PL54
	73	土師器	盤	口縁～体部、10%	[16.4] —	外反気味で大きく外傾する体部から屈曲し、外傾して立ち上がる口縁部。ロクロ成形成。外面ロクロナデ、内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒微量	普通	外面浅黄色 内面黒色	F6e6, I B層上面	2片	PL54 9世紀
	74	須恵器	大甕	体部、5%以下	— —	内彎気味、外傾。分厚い外面斜位の平行タタキ。内面ナデ。わずかに当て具痕が残る	精良。メノウ礫・メノウ粒・泥岩粒・海綿骨針微量	還元炭焼成	内外面灰色 外面一部オリブ黒色	F6c6, I層	—	PL54 8世紀ごろか

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
999	75	土偶	(3.0)	(2.1)	—	(7.6)	中空土偶の一部。肩から腕付近か。部位により厚みに差。外面沈線3条(4条か)。縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・泥岩礫・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面橙色 内面褐色	F6e6, I層	—	PL54 SK23% 10と同一個体
	76	管状土鉢	(1.9)	(1.6)	0.5	(3.0)	太形で端部がすはまる。粘土板を軸に巻き付け成形(粘土板王着痕跡)	メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・黒色砂粒微量	焼きやや甘い	にぶい黄褐色	F6d6, I B層	—	PL54 一部残存。破断面に種実圧痕か
	77	管状土鉢	(2.1)	(1.2)	[0.3]	(1.3)	細形の小破片。端部に向かって縦やかにすはまる	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	にぶい黄褐色。表面一部棕色	F6d6, I B層	—	PL54 一部残存
	78	不明	(4.6)	(3.3)	—	(38.0)	角状の土製品。表面には軸に沿って長さ(35)cm、幅(7)mm、深さ2mmの溝。裏面の破断面際に強いナデ痕があり、本体に貼り付けられた部品の可能性。土器の把手か	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針・ベンガラ粒微量	良好	灰褐色	F6d6, I B層	—	PL54 時期不明

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
999	79	石棒または石剣	(5.2)	(2.8)	(1.5)	(22.5)	結板岩	一部身部を含む石棒または石剣の頭部片。段をもつ球形に近い頭部には端部を三又文状にした十字状・工字状の縦刻。身部個の段にはキザミ状の縦刻。調整は主軸直交に近い斜位の磨り	F6c7, II層, サブトレ内	—	PL54 晩期、一部残存
	80	石棒類未成品	(6.4)	(2.4)	(1.0)	(18.0)	結板岩	加工初期段階の破片。図上端には自然面が残る。表面敲打痕。上端から約3cmにわずかな段。頭部を志向か	F6b7, II層, サブトレ内	—	PL54 一部残存
	81	磨製石斧	(7.7)	(3.4)	(3.1)	(107.5)	ホルンフェルス	両方。側面縦は軸がずれ、彎曲は表面がやや急。裏面がやや緩やか。全体の整形は敲打。刃部の調整は研磨による	F6d7, I層	—	PL54 一部残存
	82	敲石	5.8	4.3	1.6	56.7	結板岩	1面に自然面を残すやや大型の割片を利用。周囲を打撃により整形して扁平で楕円形の素材を作出し、両端を敲打で使用	F6c6, I B層	—	PL54 完存
	83	磨石	6.2	6.1	3.4	191.5	多孔質安山岩	やや扁平な円礫を利用。全面に擦痕(調整痕または使用痕)。裏面が平坦。主な使用面か	F6c7, II層, サブトレ内	—	PL54 完存

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第99図 84	砥石	(81)	(68)	2.1	(155.7)	砂岩	扁平な礫を利用(裏面一部加工)。中央部に向かってわずかに凹む(紙面)	F6c6, II層	—	PL54 一部残存
85	砥石 (磨切 砥石)	8.6	4.0	2.1	74.0	ホルンフ エルス	大型の楕長薄片を利用。弧状で揺らぎのないエッジを磨き切り(または溝切り)に使用。使用痕7.4cm。石棒類の製作に使用か	F6b7, II層	—	PL54 完存
第100図 86	凹石	(94)	(68)	1.9	(147.0)	凝灰岩	扁平な長楕円礫を利用。敲打による浅い凹みが表裏に3か所。折損面にかかる凹みは折損前、それ以外は折損後の使用痕か	F6b6, I B層	—	PL54 一部残存
87	凹石・ 敲石	10.3	5.7	3.6	300	砂岩	形の整ったやや扁平な楕円礫を利用。両端に敲石としての使用痕。表裏面中央部に楕円形の凹み。裏面の凹みは新旧2つの凹みの連結	F6c7, II層	—	PL54 完存
88	蝕蝕石	12.6	4.8	3.9	252	砂岩	断面三角で両端が鋭く尖る礫を利用し、原形を生かして加工。敲打により中央部に括れを作出し、稜を中心に敲打整形	F6e6 東南部 擾乱中	—	PL54 完存
89	石鏃	(3.0)	(1.2)	0.3	(1.1)	メノウ	凹基無茎鏃。片側の脚部欠損。輪長が長く、基部を除いて柳葉状。丁寧な調整で薄く仕上げる。先端部の欠損は使用による衝撃剥離か	F6c7, I B層	—	PL54 一部欠損
90	石鏃	(2.1)	1.3	0.4	(1.0)	メノウ	凸基有茎鏃。調整剥離がやや粗く、左右非対称。先端部と茎を欠損。先端部の欠損は使用による衝撃剥離か	F6d6, I層	—	PL54 一部欠損
91	石鏃	(2.1)	(1.0)	0.4	(0.5)	チャート	平基有茎鏃。丁寧な調整により整った形状。先端・茎・身部一部欠損。先端部の欠損は使用による衝撃剥離か	F6b7, I B層	—	PL54 一部欠損

12 D地区 (第7・8図)

(1) 調査概要

D地区は、第8トレンチの南、第17トレンチの北の、F6b9区からF6e9区、F6b0区からF6e0区までの、長さ8m、幅4mの東西に長い区域を示す呼称である。今次調査の目的として、再葬墓の分布範囲の確定、分布密度の把握が挙げられている。これまでの調査で、再葬墓分布範囲の大まかな範囲は掴めてきていることを受け、トレンチ間を調査する必要が生じたため設定されたものである。一部、第1トレンチの拡張区と重複する。

第II 2層上面で遺構確認に努めており、遺構が確認されたため、壁に沿ってのサブトレンチは掘削していない。調査後は土器の取り上げはせず、土坑には山砂を2～5cmほど敷き、水をかけて数分間馴染ませ、またトレンチ全体には目印として山砂を薄く撒き、掘り上げた土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

① 弥生時代

(i) 土坑

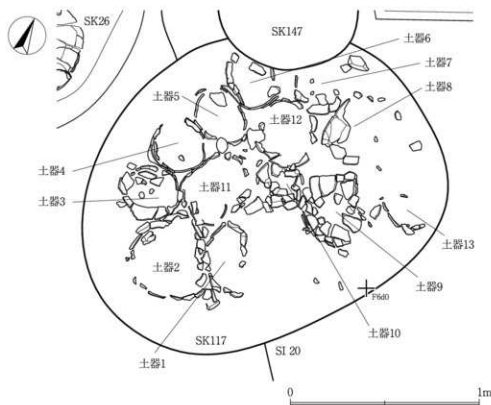
第26号土坑 (SK26, 第7図)

(29ページに掲載)

第117号土坑 (SK117, 第7・101図)

位置 F6e9区、F6e0区、F6d9区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸192cm、短軸153cm、長軸の向きはN-41°-Eの楕円形である。

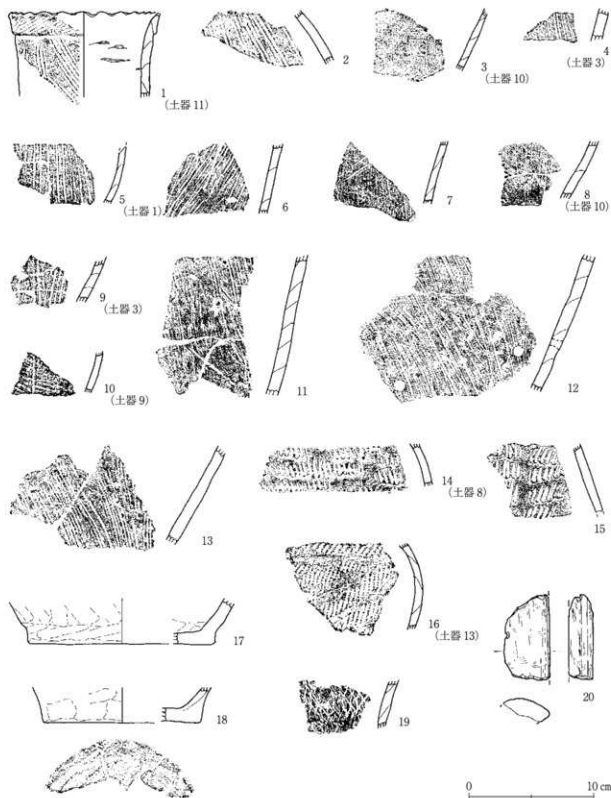


重複関係 第20号竪穴住居跡に切られている。第20号竪穴住居跡の掘り込み面が浅いため、その床下に、第117号土坑東部が残っている。また、第147号土坑にも切られている。

遺物出土状況
土器等152点、石器等3点が出土している。うち縄文土器1点(深鉢)、弥生

第101図 第117号土坑実測図

土器18点（壺）、石器・石製品1点（石剣）を掲載する（第102図、第51表）。再葬のため埋納された土器は以下の13点で、これは取り上げていない。第20号竪穴住居跡に切られるため、残存する上面の高さは、土器2～4のある西部が高く、土器6～10・12・13のある東部が低い。中央部の土器1・5・11は西半部を削られて段差のある状態である。13個体が残存するが、土器1・9間にもう1個体あった可能性がある。土器1～13の下面は同一の高さと推定される。



第102図 第117号土坑出土土遺物実測図

第51表 第117号土坑出土土物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第102図											
1	弥生 土器	甕	口縁～ 頸部、 5%以下	[120] (6.7)	外反、わずかに外傾。複合口縁。外面に縄文施文。その後端部を押圧。小波状に作る。頸部右下がりの粗い条痕文(4条単位)。一部は口縁の縄文に懸かる。内面ナデ。工具による傷3条	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	土器11内、確認面	—	PL55 土器11
2	弥生 土器	甕	肩部、 5%以下	—	内彎、内傾。外面右下がりの条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、凝灰岩礫・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	SE20床下	—	PL55
3	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	薄手。直線的。外傾。外面縦位の弱い条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・メノウ礫・雲母・海綿骨針微量	良好。二次焼成	外面褐色。内面明褐色。内部にぶい黄褐色	土器10上部周辺	—	PL55 土器10の一部か
4	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	内彎気味。外傾。外面条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部明褐色	土器3上部周辺	—	PL55 土器3の一部か
5	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	薄手。内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色・灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	土器1上部周辺	3片	PL55 土器1の一部
6	弥生 土器	甕	胴下部、 5%以下	—	内彎気味。外傾。外左下がりの条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面浅灰色	SE20床下	—	PL55
7	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	直線的。外傾。器厚薄い。外面条痕文。内面ミガキ	メノウ粒少量、雲母・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面赤褐色	SE20床下	—	PL55
8	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	わずかに内彎。外傾。外面縦位の弱い条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面黒色。内部赤褐色	土器10上部周辺	2片	PL55 土器10
9	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	薄手。内彎気味。外傾。外面条痕文。内面ナデ・輪積み痕	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色。内部灰褐色	土器3上部周辺	4片	PL55 土器3の一部か
10	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	—	薄手。わずかに内彎。外傾。外面右下がりの条痕文に縦の擦痕1条。内面条痕文状のナデ	メノウ粒少量、凝灰岩礫・雲母微量	普通。焼きやや甘い	表裏面にぶい黄褐色	土器9上部周辺	—	PL55 土器9の一部か
11	弥生 土器	甕	胴下部、 5%以下	—	上半直線的。下半やや内彎。外傾。外面右下がりのやや細かい条痕文。輪積み痕残存。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・凝灰岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色	SE20床下	3片	PL55 内面に炭化物付着
12	弥生 土器	甕	胴下部、 5%以下	—	わずかに内彎。外傾。外面やや細かい右下がりの条痕文。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面灰黄色。内部褐色	SE20床下	2片	PL55 外面に炭化物付着。修復孔2孔
13	弥生 土器	甕	胴下部、 5%以下	—	内彎気味。外傾。外面やや粗い右下がりの条痕文。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・凝灰岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	SE20床下	2片	PL55 内面下半に炭化物付着

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第102図 14	弥生 土器	壺	胴上 部、5 %以下	— — —	内壁、内頰、外面短条直文。 条痕の長さ1~1.7cm。単位は 7条、一部4条。施文方向 は上から下。内面ナデ	メノウ粒少 量、チャート 粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い褐色・灰褐色。内面にぶ い黄褐色。内 部褐灰色。	土器8 上部周 辺	2片	PL55 土器8と は別個体
15	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	わずかに外反、内頰。外面 短条直文。条痕の単位は5 単位。長さは1.2cm前後。施 文方向は上から下。内面ナ デ、一部輪積み痕を残す	メノウ粒少 量、チャート 粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。	SE20床 下	—	PL55
16	弥生 土器	壺	胴部 5%以下	— — —	内壁。外面縄文施文後水平 と斜めに磨り消し（沈線区 画なし）。内面ナデ	メノウ粒少 量、チャート 粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	普通。 焼けム ラ	外面黒褐色。 外面の一部 と内面にぶ い黄褐色。	土器13 から産	3片	PL55 土器13の 一部
17	弥生 土器	壺	胴—底 部、5 %以下	— (3.7) [14.8]	平底、胴部外頰。胴部外面 ナデ、一部ミガキ状。胴部 内面・底部内外面ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫、 チャート粒、 雲母微量	普通	内外面暗褐 色。一部にぶ い黄褐色。	SE20床 下	3片	PL55
18	弥生 土器	壺	底部 5%以下	— (2.8) [12.6]	平底、胴部外頰。胴部外面 ナデ。内面・底部内面ナデ。 底部外面ナデ、一部ケズリ 状	メノウ粒少 量、チャート 粒・雲母・海 綿骨針微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐灰色。	SE20床 下	3片	PL55
19	縄文 土器	深鉢	胴部 5%以下	— — —	外反気味。外頰。外面網目 状撫糸文。内面ミガキ	メノウ粒少 量、砂岩礫・ 石英粒・雲母 細粒微量	やや不 良。二次焼 成	外面灰褐色・ 褐色。内面黒 褐色	SE20床 下	—	PL55

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第102図 20	石剣	(6.8)	(3.6)	(1.9)	(27.0)	白岩 凝灰岩	断面杏仁形(推定)の棒状品。残存する 細縁はにぶい稜。表面には長軸方向、一 部短軸方向の擦痕(調整痕)。図下部の折 損面は表面と同様に風化	SE20床 下	—	PL55 一部残存

- 土器1 (第102図5) 淡い褐色の壺形土器で、粗い条痕文が施される。主軸をN-177°-Wに向けて倒れている。
- 土器2 淡い褐色の壺形土器で、胴径は約45cmである。粗い条痕文が施される。主軸をN-179°-Eに向けて倒れている。
- 土器3 (第102図4・9) 淡い明褐色の壺形土器で、粗い条痕文が施される。主軸をN-174°-Eに向けて倒れている。
- 土器4 淡い褐色の壺形土器で、胴径は約30cmである。粗い条痕文が施される。主軸をN-8°-Eに向けて倒れている。
- 土器5 壺形土器で、残存する高さは約35cmである。粗い条痕文が施される。主軸をN-58°-Wに向けて倒れている。
- 土器6 淡い褐色の壺形土器で、粗い条痕文が施される。ほぼ直立して据えられている。
- 土器7 淡い褐色の壺形土器で、粗い条痕文が施される。主軸をN-177°-Eに向けて倒れている。
- 土器8 (第102図14) 壺形土器で、粗い条痕文が施される。主軸をN-173°-Wに向けて倒れている。
- 土器9 (第102図10) 淡い褐色の壺形土器で、無文である。主軸をN-154°-Wに向けて倒れている。

土器10 (第102図3・8) 明茶褐色の壺形土器で、胴中央部には浅い条痕文が施され、胴下部は無文である。主軸をN-160°-Eに向けて倒れている。

土器11 (第102図1) 淡い褐色の壺形土器で、高さは45～50cmと推測される。主軸をN-151°-Wに向けて倒れている。

土器12 淡い褐色の壺形土器で、条痕文が施される。主軸をN-165°-Eに向けて倒れている。

土器13 (第102図16) 暗褐色の壺形土器で、3条/cmのLR縄文が施される。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。

第118号土坑 (SK118, 第7・103図)

位置 F6b9区, F6b0区, F6c9区, F6c0区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 西部が切られるものの、平面は長軸180cm程度、短軸150cm、長軸の向きはN-84°-Eの楕円形と考えられる。重複関係 第120号土坑に切られている。

遺物出土状況 土器等45点、石器等1点が出土している。うち弥生土器4点(壺)を掲載する(第104図, 第52表)。再葬のため埋納された土器は以下の5点で、これは取り上げていない。

土器1 (第104図1) 明茶褐色の壺形土器で、高さは45～50cmと推測される。胴中央部は3条/cmのLR縄文が施され、下部は無文である。主軸をN-72°-Eに向けて倒れている。

土器2 (第104図2・3・4) 淡い明褐色の壺形土器で、胴径は約35cmである。胴部は3条/cmのLR縄文が施される。主軸をN-13°-Wに向けて倒れている。

土器3 淡い褐色の壺形土器で、胴径は約35cmである。無文でミガキがかかっている。ほぼ直立して据えられている。

土器4 淡い明褐色の壺形土器で、3条/cmのLR縄文が施される。

土器5 壺形土器で、直立していると考えられる。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓である。

第119号土坑 (SK119, 第7・8・103図)

位置 F6b0区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるものの、長軸の向きはN-14°-Eの楕円形と考えられる。重複関係 第157号土坑に切られている。

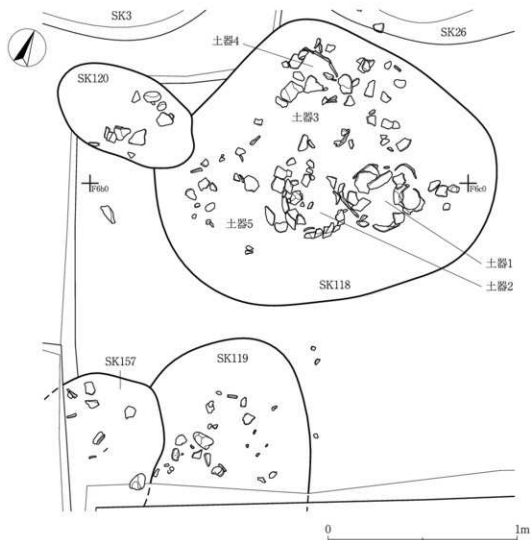
遺物出土状況 土器等31点、石器等3点が出土している。うち縄文土器1点(深鉢)、弥生土器3点(壺2, 甕1)、土製品1点(土偶)を掲載する(第105図, 第53表)。確認された遺物はすべて遺構確認面に散った小片であり、再葬墓のような土器埋納によるものではないと判断した。

所見 覆土はローム小ブロックの含有がやや多く、粘性がやや高く褐色がかっている特徴があり、この付近に土器片がやや集中しているものの、再葬墓のようなまとまった出方ではない。出土遺物から、弥生時代の所産と考えられる。

第157号土坑 (SK157, 第7・103図)

位置 F6b0区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるものの、平面は円形または楕円形を指向するものと考え



第103図 第118～120・157号土坑実測図

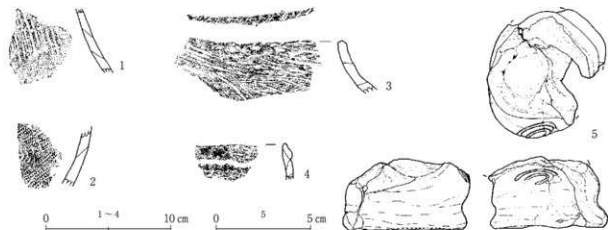


第104図 第118号土坑出土遺物実測図

第52表 第118号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第104図 1	弥生土器	壺	口径～頸部、5%以下	—	薄手。外反。外傾。口縁部外面縄文。頸部外面ミガキ。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	内外面にぶい赤褐色	土器1付近一括	—	PL56土器1
2	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内埋。外傾。外面縄文。一部ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、雲母細粒微量	普通	外面にぶい褐色。内面にぶい橙色	土器2付近一括	—	PL56土器2。外面炭化物付着

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第104図	3	弥生土器	胴部、5%以下	—	内彎、内傾。外面縄文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	内外面にふい橙色	土器2付近一括	—	PL56土器2
4	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	外反気味、外傾。外面縄文、一部ミガキ。外面の楕円形の凹みはヘラ先痕か。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通	外面にふい褐色、内面にふい橙色	土器2付近一括	—	PL56土器2



第105図 第119号土坑出土遺物実測図

第53表 第119号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第105図	1	弥生土器	胴部、5%以下	—	外反、内傾。外面斜位の条痕文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通、焼きやや甘い	サンドイッチ状。外面褐色、内面にふい黄褐色、内部黒色	遺構確認面	—	PL56
2	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面附加条縄文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。外面灰褐色、内面にふい黄褐色、内部褐色	遺構確認面一括	—	PL56
3	弥生土器	甕	口縁部、5%以下	[29前儀]	外反、内傾。端部に鋭いヘラ状施文具によるキザミ。外面右下がりの条痕文。内面ナデ、一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通、焼きムラ	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面にふい黄褐色、内部褐色	遺構確認面	—	PL56同一個体片あり
4	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	薄手。内彎・内傾する胴部からわずかに外反する口縁部。複合口縁。外面ナデ、輪積み痕が残る。内面ナデ、一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	普通	外面にふい橙色・にふい褐色、内面にふい黄褐色	遺構確認面	—	PL56晚期粗製土器。混入

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第105図	5	(6.8)	(6.2)	—	(139.7)	脚部(左脚)。高さ(38)cm。足裏やや上底気味。中央部が膨らむ。粘土塊の上に円柱状の粘土塊を重ね、周囲に粘土板を巻いて成形。外面ナデ。前面太腿部には沈瀬による渦巻文	やや精良。メノウ粒・石英粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面橙色、内部にふい褐色	遺構確認面	2片。SD9出土破片接合	PL56一部残存

えられる。重複関係 第119号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等7点、石器等1点が出土している。うち弥生土器1点(壺)を掲載する(第106図、第54表)。確認された遺物はすべて遺構確認面に散った小片であり、再葬墓のような土器埋納によるものではないと判断した。

所見 出土遺物から弥生時代の所産と考えられるが、詳細は不明である。



第106図 第157号土坑出土遺物実測図

第54表 第157号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第106図	1	弥生土器	脣部5%以下	—	内壘・内傾。上端は外反し、頸部に移行する様相。外面条痕文。条痕は斜位(左傾)のち横位の直線または弧状。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面明赤褐色・橙色。内面にふい黄橙色	遺構確認面	—	PL56

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第20号竪穴住居跡(SI20, 第7・8図)

位置 F6e9区からF6e9区、F6e0区からF6e0区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸340cm、短軸320cm、長軸の向きはN-58°-Eの隅丸長方形である。

重複関係 第147・151号土坑に切られ、第117号土坑を切っている。第20号竪穴住居跡の掘り込み面が浅いため、その床下に、第117号土坑東部が残っている。

土層 サブトレンチを掘削して確認を試みたが、覆土層は確認できなかった。すでに第I B層に取り込まれているものと考ええる。床 確認していない。

竈 東壁やや南寄りに砂質粘土で付設されている。柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等215点、石器等13点が出土している。うち土師器10点(坏4、高台付坏2、高台付碗2、甕2)、縄文土器2点(深鉢1、壺1)、弥生土器4点(壺3、筒形土器1)、石器・石製品2点(石鏃1、石製支脚1)を掲載する(第107・108図、第55表)。これらはすべて遺構確認面からの出土であるが、掘り込みが浅いため、ほぼ底面からの出土と考えられる。

所見 出土遺物から、平安時代10世紀の所産と考えられる。

③時期不明

(i) 土坑

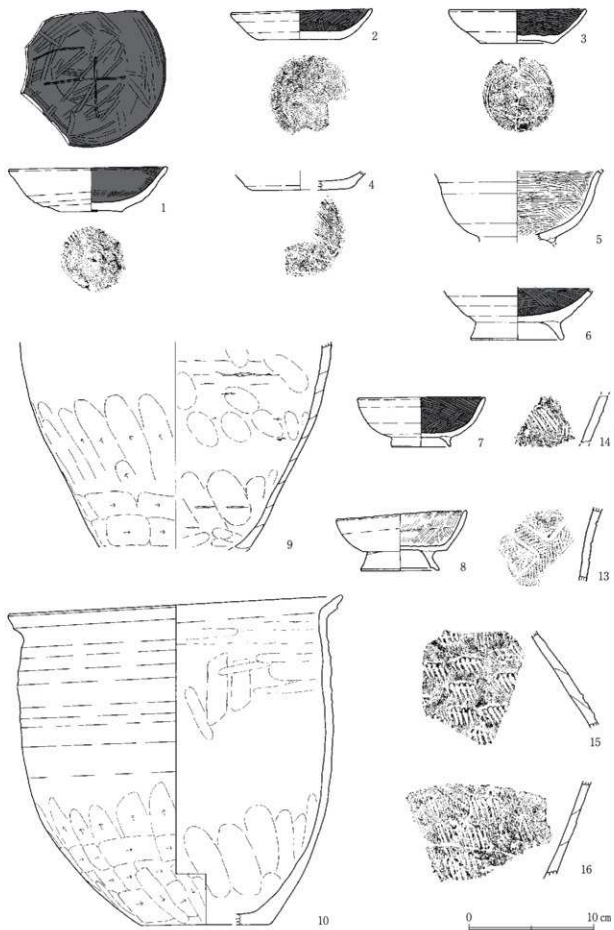
第120号土坑(SK120, 第7・103図)

位置 F6b9区に位置する。第II2層上面で確認できた。

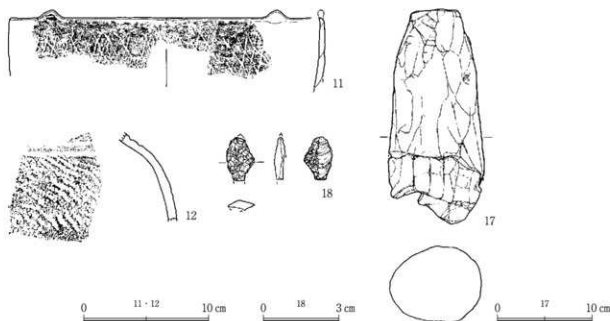
規模と形状 平面は長軸80cm、短軸50cm、長軸の向きはN-80°-Wの楕円形である。

重複関係 第118号土坑を切っている。遺物出土状況 出土していない。

所見 平成18年の調査では認識されていない遺構である。重複関係から、弥生時代以降の所産と考えられるが、詳細は不明である。



第107图 第20号竖穴住居跡出土遺物实测图(1)



第108図 第20号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)

第55表 第20号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第107図	1	土師器	環	口縁～底部 70%	[12.5] 3.6 5.0	平底から内彎・外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反。外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理。ヘア記号状の刻線。底部回転系切り。一部に木目状圧痕	メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・雲母微量	良好	外面明褐色、内面黒色	F6d0、遺構確認面	— PL56
	2	土師器	環	口縁～底部 70%	11.0 2.1～ 2.4 6.6	ロクロナデ成形。平底から内彎気味・外傾して立ち上がり、口縁部に至る。やや浅い。外面ロクロナデ、内面ミガキ・黒色処理。底部回転系切り	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、海綿骨針微量	良好	外面橙色・内面黒色・灰黄褐色	F6e9、甕南袖部、遺構確認面	— PL56 10世紀前半
	3	土師器	環	口縁～底部 80%	10.9 2.8 6.0	ロクロナデ成形。平底から内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。やや浅い。外面ロクロナデ、内面ミガキ・黒色処理。底部回転系切り	メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・雲母微量	やや不良。焼き甘くもろい	サンドイッチ状。外面黒褐色、内面黒色、内部褐灰色	F6e0、甕南袖部、遺構確認面、逆位	18片 PL56
	4	土師器	環	体～底部、25%	(—) [7.6]	ロクロナデ成形。内外面ロクロナデ。底部回転系切り	メノウ粒少量、チャート礫・チャート粒・雲母細粒微量	普通。二次焼成か	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内面灰黄褐色、内部橙色	F6e9、甕内、遺構確認面	2片 PL56 内面炭化物付着
	5	土師器	高台付碗	体部、20%	[13.4] (5.7) [6.0]	ロクロナデ成形後高台貼り付け。体部は内彎、外傾。口縁部でわずかに外反。外面ロクロナデ、内面ミガキ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・雲母細粒微量	やや不良。焼き甘い	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	F6e9、甕内、遺構確認面	3片 PL56
	6	土師器	高台付杯	体部～高台、50%	(—) (4.2) 7.2	ロクロナデ成形後ハの字状に開く高台を貼り付け。外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、泥岩礫、海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色・にぶい褐色。内面ミガキ・黒色処理	F6d0、遺構確認面	— PL56
	7	土師器	高台付碗	口縁～高台、90%	10.1 4.0 4.6	小型。ロクロナデ成形後高台貼り付け。外面ロクロナデ、内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色・橙色。内面黒色・にぶい褐色	F6d0、遺構確認面	6片 PL56 10世紀

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第107図	8	土師器	高台付 口縁～ 高台、 80%	10.1 4.8 6.1	ロクロ成形後ハの字状に開く足高台を貼り付け。外面ロクロナデ。内面ミガキ黒色処理。内面底部でロクロ痕顕著。ミガキで消滅せず。焼成により歪み	メノウ粒少量、チャート粒・雲母微量	普通	外面にふい黄橙色・淡赤褐色。内面黒色。にふい赤褐色	竈内	5片	PL56 10世紀	
9	土師器	甕	体部 10%	— (16.4) [11前後]	兼手。内響気味に外傾して立ち上がる体部。外面上半はナデ。下立はヘラズリ。外面泥澁重布。内面ナデ。輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面橙色。内面明黄褐色	F6e9、竈内、遺構確認面	体部下7片、底部近く3片	PL57 体部下半 と底部近く の破片が 接合しない が、同一個 体。図上 復元	
10	土師器	甕	口縁～ 底部、 30%	[26.3] [24.6 ～ 26.0] [10.2]	平底から体部が内響・外傾して立ち上がり上部でやや内傾。頸部で外反して口縁部に至る。歪みがやや大きい。口縁部二重口縁状。口縁部内外面～外面上半ロクロナデ。下半縦横のヘラズリ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	内外面橙色。一部灰褐色。黒褐色	F6e9、竈内、遺構確認面	口縁～体部3片、体部以下18片	PL57 口縁～体部 以下が接 合しない個 体。図上 復元	
第108図	11	縄文土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%	[24.8] (6.1) —	内響。わずかに外傾。口縁部付近ではほぼ直立。器厚薄い。平縁に小さな山形突起が現状で1か所。口縁部内外面ナデ。胴部外面網目状熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母微量	普通	外面黒褐色。内面にふい橙色・灰黄褐色。内部褐灰色	F6e9、竈内、遺構確認面	4片	PL56 晩期粗製 土器。内 外面の一 部が炭化 物付着。 混入
12	縄文土器	壺	胴部、 5%	— — —	内響。内傾。外面横走沈線2条に縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒微量	普通	内外面にふい赤褐色	F6e9、竈北袖部、遺構確認面	—	PL56 外面・内 面下部炭 化物付着。 混入	
第107図	13	弥生土器	筒形土器	胴部、 10%	— (5.7) —	わずかに外反。外傾。現存中央部で復元径7cm前後。外面磨消縄文手法によるヒトダ状文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外外面にふい黄橙色・黒褐色。内面にふい灰黄褐色・褐灰色。内部褐灰色	F6e0、竈内、遺構確認面	—	PL57 外面の赤色 顔料付着。 混入
14	弥生土器	壺	胴下部、 5% 以下	— — —	内響気味。外傾。外面短条痕文。条痕は斜位（施文方向は右下から左上）。一部垂直（下から上）。条痕長2.4cm。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部褐灰色	F6d0、遺構確認面	—	PL57 内面炭化 物付着。 混入	
15	弥生土器	壺	胴上部、 5% 以下	— — —	内響気味。内傾。外面短条痕文。条痕は斜位（下から上。一部上から下）。条痕長1.4cm。施文単位は7条。施文具幅は2.2cm。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	F6d9、遺構確認面	—	PL57 混入	
16	弥生土器	壺	胴下部、 5% 以下	— — —	内響気味。外傾。外面短条痕文。条痕は斜位（右下から左上）。条痕長2.0cm。施文単位は最大8条（主要なもの4条）。施文具の幅は2cm。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部褐灰色	F6d9、遺構確認面	遺構外から2片接合	PL57 内面炭化 物付着。 混入	

採回 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第108回 17	石製 支脚	(22.9)	(10.1)	(8.1)	(716)	凝灰岩	素材の周囲を粗く削って整形。別に接合しない基部付近の同一個体片があり、本来の長さは28cm以上。大型。全体は碗形に近く頂部は平坦。基部が被熱により脆弱化。頂部付近灰白色、基部付近黄灰色・淡橙色	竈南袖部	脆弱化した基部片を接合	PL57 重量は固定処理後計測
18	石織	(1.7)	1.1	(0.4)	(0.6)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。先端と基部を欠損する有蓋織。裏面には使用痕と思われる先端方向からの大きな割離	覆土中一括	—	PL57

第147号土坑（SK147, 第7図）

位置 F6e9区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径75cmの円形になると考えられる。

重複関係 第20号竈穴住居跡・第117号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から、平安時代以降の所産と考えられるが、詳細は不明である。

第151号土坑（SK151, 第7図）

位置 F6e9区、F6e0区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸80cm、短軸65cm、長軸の向きはN-32°-Wの楕円形である。

重複関係 第20号竈穴住居跡を切っている。遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から、平安時代以降の所産と考えられるが、詳細は不明である。第20号竈穴住居跡の竈を切っているため、覆土にローム中・小ブロックを多量、焼土を中量含む。

B 遺構外出土遺物

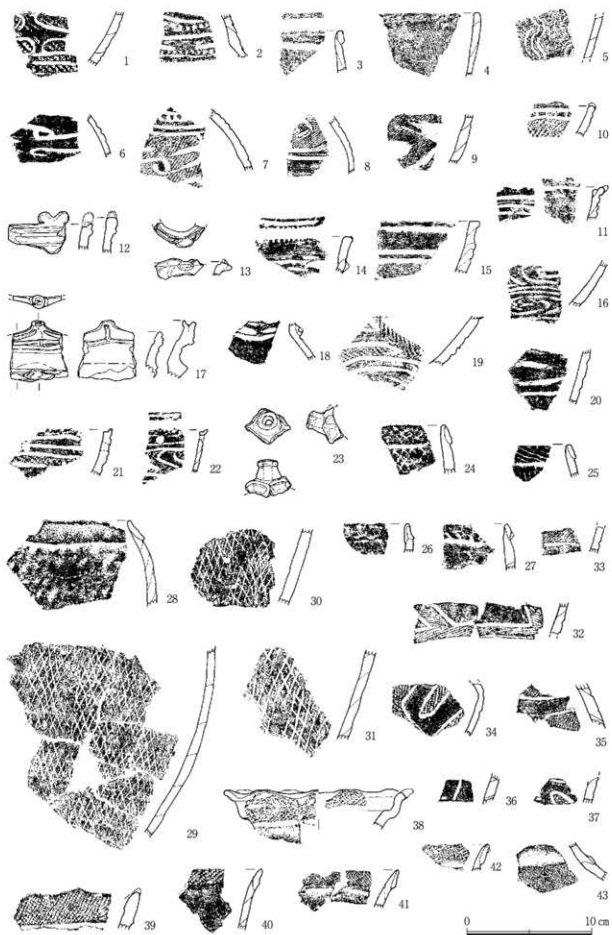
遺構外で確認された遺物について解説する。(第109～112図, 第56表)

遺物出土状況 土器等4,073点、石器等31点が出土している。うち縄文土器33点（深鉢19、鉢4、壺3、浅鉢3、注口土器2、小型壺1、台付鉢1）、弥生土器65点（壺60、小型壺2、鉢2、小型鉢1）、土師器4点（坏2、小型鉢1、羽釜1）、灰釉陶器1点（壺）、土師質土器1点（三足土器）、土製品3点（土器片円盤2、球状土錘1）、石器・石製品7点（石織5、磨石1、石棒1）、鉄製品1点（鉄滓）を掲載する。再葬墓の集中する範囲の中心部であるため、弥生壺の散布が多く見受けられる。再葬墓等の攪乱に由来するものと考えられる。

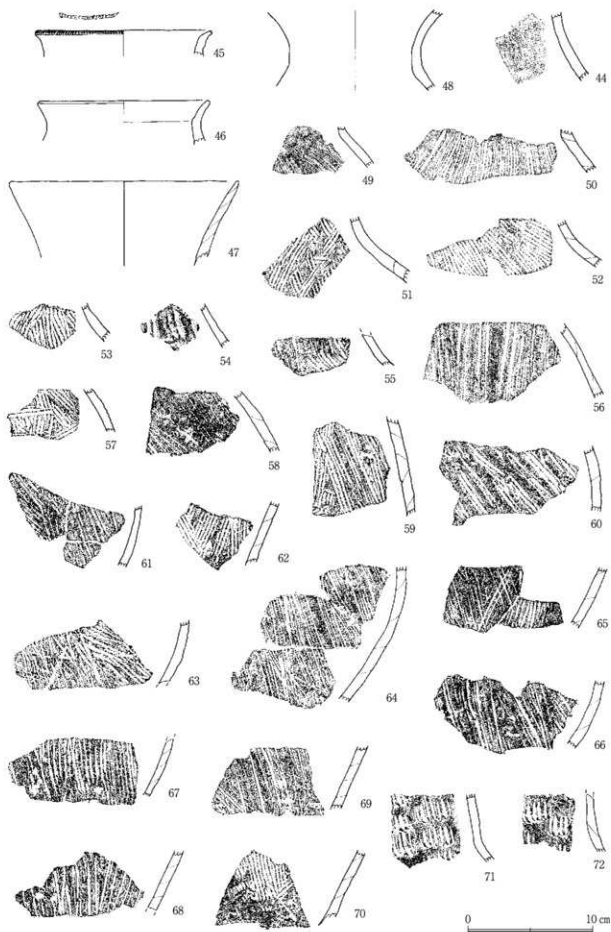
(3) 所見

第1次調査時に再葬墓が確認された第8トレンチ以南の、再葬墓の分布範囲確認を目的とする地区であり、当初想定に違わず、第117・118号土坑の2基の再葬墓が確認された。南側に所在する第17トレンチで再葬墓が確認されなかったため、このD地区付近が再葬墓分布範囲の南限となるものと考えられる。ただし、南限の再葬墓は、人面付壺形土器の出土した第1号土坑であるという状況に変更はない。

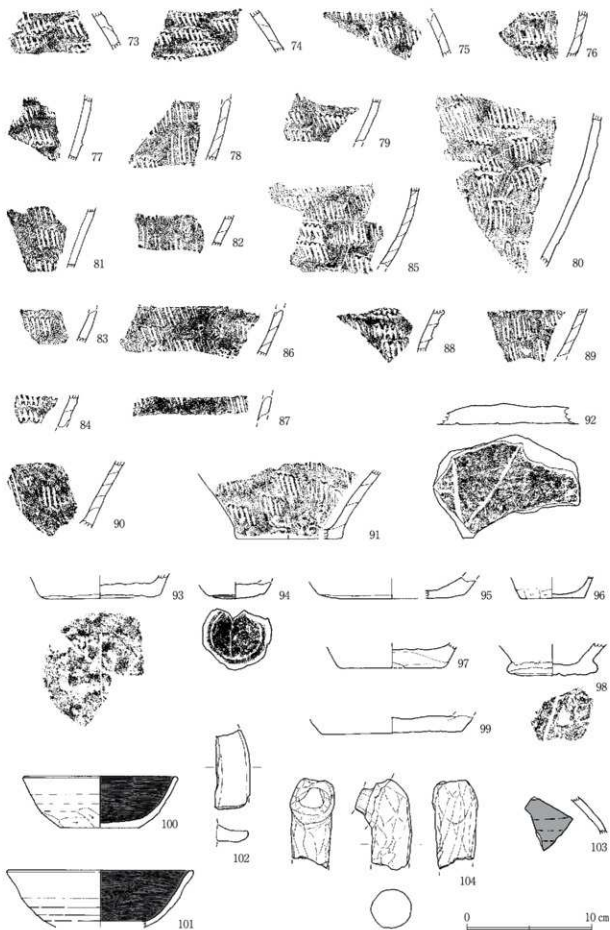
なお、D地区でも平安時代の竈穴住居跡が確認されたことは、これまでの調査によって得られた。低位段丘面上に平安時代の遺構が広がるという所見を裏付ける成果である。



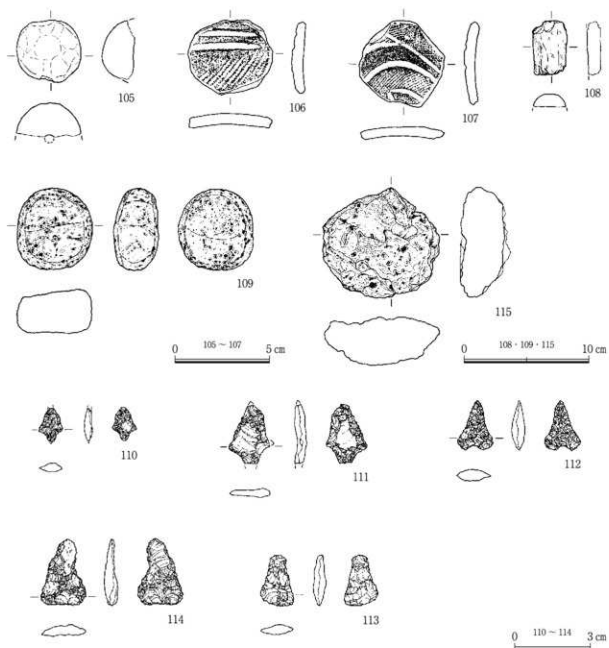
第109图 D地区遗物出土物实测图(1)



第110图 D地区遺構外出土遺物実測図(2)



第111图 D地区遗物出土物实测图(3)



第112図 D地区遺構外出土遺物実測図(4)

第56表 D地区遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第109図 1	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内唇。外唇。外面縦筋縄文を地文に沈線で楕円形区画。区画外を磨り消し、その下位横走沈線。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色・にぶい褐色。内面褐色。器表下にぶい黄褐色。内部黒色	F6c9, I B層	—	PL58 晩期中葉か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第109図											
2	縄文 土器	台鉢	脚台 部、5 %以下	— —	外反気味。内傾。外面4段の横走沈線。2段の連続刺突。内面ナデ。端部は摩耗	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒微量	普通	外面にぶい褐色。内面灰褐色。一部サンドイッチ状。内部黒褐色	F6c9, I B層、ベルト中	—	PL58 晩期中業か
3	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎気味。わずかに内傾。口縁部で外反。複合口縁。端部平出。口縁部外面の端部彫に細かい連続刺突。胴部外面の条線は文様の一部分。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色。内面にぶい赤褐色	F6c0, I B～II層、遺構確認中	—	PL58 晩期粗製土器
4	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[24前後] — —	わずかに内彎。外傾。外面縦位の弧状(波状の一部)か条線文。一部輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色。内面にぶい褐色	F6c0, I層	—	PL58 後期粗製土器
5	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面縦位の波状条線文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐灰色	F6d9, I B層、ベルト中	—	PL58 後期粗製土器
6	縄文 土器	壺 または 注口 土器	肩部、 5%以下	— — —	薄手。精製。内彎。内傾。外面雲形文。ミガキ。内面粗いミガキ	やや精良。メノウ粒・チャート粒・褐色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい赤褐色。内面にぶい褐色。内部褐灰色	F6c9, I B～II層、遺構確認中	—	PL58 晩期
7	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	内彎。内傾。外面上位に横走沈線と連続刺突。その下に磨消縄文手法による雲形文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、雲母・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面褐灰色。内部灰白色。内面にぶい黄褐色	F6c0, I層	—	PL58 晩期中業
8	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	内彎。内傾。上位は外反気味。頸部に連続する様か。外面最大径部や上上に横走沈線。その上位は細かい縄文を地文に磨消縄文により縮文。下位はミガキ。赤色面影。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面赤褐色。赤黒色。内面にぶい赤褐色・黒褐色	F6e0, 遺構確認中	—	PL58 外面赤色 顔料付着
9	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。磨消縄文手法による雲形文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面にぶい赤褐色	F6c0, I層	—	PL58 晩期中業
10	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— — —	内彎。外傾。口縁は平縁に小突起。口縁下に横走沈線2条と2溝間の截痕。胴部外面縄文。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にぶい褐色。内部褐灰色	F6d9, I B層、ベルト中	—	PL58 破断面の 状況から は土器片 同数の可 能性も考 えられる。 晩期 中業
11	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎。外傾する胴部から屈曲して大きく外傾する口縁部。端部には2個単位の突起。外面屈曲部とその下に横走沈線4条。口縁部内面に横走沈線1条。内外面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面褐色。内部黒褐色	F6c9, I層	—	PL58
12	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— — —	外反。わずかに外傾。端部にB突起。外面2条の横走沈線。内外面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面にぶい褐色	F6b0, I層	—	PL58 突起付近 炭化物付 着

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第109図	13	縄文 土器	注口 土器 か	口縁 部、5 %以下	[4.5前 後] (1.2)	外反。外傾。口縁端部に上 方2個と外方へ1個の突起。 上方の突起には斜位の溝。 口縁部下外面縄文が残る。 内面口縁下に横走沈線。内 外面ミガキ	メノウ粒少 量、石英粒、 泥岩粒・海綿 骨針微量	良好	内外面黒褐 色	F6c9、 I層	—	PL58 大淵C2 式
	14	縄文 土器	鉢か	口縁 部、5 %以下	— — —	胴部から段をもって口縁部 に移行。口縁部外反。外傾。 端部に沈線を回し。外傾。 傾に細かいキザミ。胴部上 端外面に突起。地文縄文。 縄文部以外ミガキ。内面彩 色(橙色)か	精良。メノウ 粒・泥岩粒微 量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色。内 面にぶい橙 色。内部黒色	F6e0、 I B層、遺 構確認中	—	PL58 内面一部 炭化物付 着
	15	縄文 土器	鉢	口縁 部、5 %以下	[31~ 32] (4.1)	内彎。外傾。口縁端部平坦。 外面横走する幅広の溝と沈 線2条。内面ナデ	メノウ粒少 量、メノウ礫、 石英粒・泥岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。外面褐灰 褐色。内部灰 褐色	F6d0、 I B層、遺 構確認中	—	PL58
	16	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以 下	— —	わずかに内彎。大きく外傾。 外面沈線による入組文2段。 内面ナデ	メノウ粒中 量、石英粒・ チャート粒・ 黒色砂粒微 量	やや 不良	外面にぶい 黄褐色。褐灰 褐色。内部黒 褐色	F6e9、 I層	—	PL58 大淵C2 式
	17	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	外反。外傾。波状口縁。頂 部に環状の突起。突起内部 に径1mm未満、深さ5mmの 極小孔。外面2段の突起。 沈線5段。各突起下に縄文。 内面波状口縁に対応する逆 T字状の沈線。内外面ミガ キ	メノウ粒少 量、メノウ礫、 石英粒・チャ ート粒・雲母 細粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄色・黄灰色。 内部褐灰色	F6d0、 I層	—	PL58 口縁部突 起に凹 み。種実 圧痕か
	18	縄文 土器	小型 壺	頸~胴 部、5 %	— — —	精製。内径・内傾する胴部 から屈曲してやや外傾する 頸部。頸部内径[5]cm。 屈曲部外面に眼鏡状浮帯文。 外面ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少 量、泥岩粒・ 雲母・海綿骨 針微量	良好	外面褐灰色 から黒褐色。 内面にぶい 褐色	F6e0、 一括	—	PL58 晩期後葉
	19	縄文 土器	浅鉢 (台付 か)	胴部、 5%以 下	— — —	わずかに内彎。大きく外傾。 外面磨消縄文手法による雲 形文。内面ミガキ	メノウ粒少 量、メノウ礫、 泥岩粒・海綿 骨針微量	普通	サンドイッチ 状。外面褐灰 褐色。内面褐灰 褐色。器表下に ぶい橙色。内 部褐灰色	F6b0、 I B層、遺 構確認中	—	PL58
	20	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以 下	— —	わずかに内彎。外傾。外面 幅広で浅い沈線。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・黒色 砂粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面褐灰 褐色。内面明黄 褐色。内部灰 黄褐色	F6c0、 I層	—	PL58 破断面に 植物茎圧 痕
	21	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	内彎。外傾。端部に沈線。 端部外側にキザミ。外面横 走沈線4条。上から3~4 条間に縄文が残る。焼成後 穿孔1孔。補修孔か	メノウ粒少 量、石英粒、 チャート粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 褐色。器表下 にぶい橙色。 内部褐灰色	F6d0、 I B~ II層、遺 構確認中	—	PL58
	22	縄文 土器	鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	薄手。精製。内彎。外傾。 口縁部は受け口状に外方に 屈曲。端部の破損は突起の 欠損か。口縁部下ミガキと 横走沈線。胴部磨消縄文手 法による雲形文。内面ナデ。 口縁部下に円孔1孔。焼成 後穿孔。補修孔か。内面 の円孔左下に穿孔途中の円孔 あり	メノウ粒少 量、石英粒・ 泥岩粒・砂岩 粒微量	普通	外面灰黄褐 色。内面黒褐 色	F6d9、 遺構確 認中	—	PL58 晩期中葉

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第109図	23	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	短く斜め上方向を向く注口部。断面は先端は円形。基部は横長の楕円形。基部から先端部に向かって細くなり、基部はC字状の隆帯として菱形の台座状をなす。注口内径0.7cm	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒・黄色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通。焼けム	内外面にぶい黄褐色・黒褐色。胴部への貼付部褐色	F6c0, I B-II層, 遺構確認中	—	PL58 海綿骨針顕著。晩期中葉
	24	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	内壘気味。わずかに内傾。複合口縁。口縁部・胴部外面網目状隆帯文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・黒色砂粒微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒色	F6b0, I層	—	PL58 晩期粗製土器
	25	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	胴部から口縁部にかけて外反気味。わずかに内傾。複合口縁。端部平坦。口縁部外面斜位の、胴部には縦位の隆帯文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面褐色。内部褐色	F6c0, I B層, 遺構確認中	—	PL58 晩期粗製土器
	26	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	わずかに内壘。わずかに内傾。複合口縁。口縁部外面指頭状。内面ナデ。内面指ナデ。輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色	F6c9, I B-II層, 遺構確認中	—	PL58 海綿骨針顕著。晩期粗製土器
	27	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	わずかに外反。外傾。複合口縁。口縁部外面爪形施文具で脱いキザミ。内面・胴部外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	F6b0, I B層, 遺構確認中	—	PL58 晩期粗製土器
	28	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	薄手。内壘。内傾。複合口縁。内外面ナデ。胴部外面指頭状。輪積み痕が残る。外面褐色塗彩	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にぶい黄褐色・褐色。内面黒褐色	F6b0, I層	—	PL58 晩期粗製土器
	29	縄文土器	深鉢	胴部、10%	(15.1) 内壘。外傾。胴部最大径 [35cm前後]。外面網目状隆帯文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	やや不良。焼き甘い	外面黒褐色。内面褐色。内面にぶい黄褐色。内部にぶい褐色。にぶい褐色	F6c0, I B-II層, 遺構確認中	8片	PL58 晩期粗製土器
	30	縄文土器	深鉢	胴部下、5%以下	内壘気味。外傾。外面網目状隆帯文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好。下半二次焼成	外面褐色。内面褐色	F6c0, I B-II層, 遺構確認中	—	PL58 晩期粗製土器。下半内面炭化物付着
	31	縄文土器	深鉢	胴部下、5%以下	わずかに内壘。外傾。外面網目状隆帯文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	F6d0, I層	—	PL59 晩期粗製土器
	32	弥生土器	鉢または壺	胴部、5%以下	わずかに内壘。外傾。径35cm前後。外面縄文を地文に沈線で区画し縄文帯を磨いて磨り消し。縄文帯は横走と斜行。ヒトデ状文か。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c9, I層	—	PL59 №33同一個体
	33	弥生土器	鉢または壺	胴部、5%以下	内壘気味。外傾。外面縄文を地文に沈線で区画し一部磨り消し。ヒトデ状文の一部か。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c9, I B-II層, 遺構確認中	—	PL59 №32同一個体
	34	弥生土器	小型壺	胴部、5%以下	薄手。内壘・外傾して立ち上がり。屈曲して内傾。外面ヒトデ状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黄褐色。内部褐色	F6c9, I層	—	PL59
	35	弥生土器	小型壺	胴部、5%	わずかに内壘。内傾。外面細かい縄文を細い沈線で区画し一部を磨り消し。ヒトデ状文の類か。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	精良。泥岩礫・メノウ細粒・褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	F6c9, I B-II層, 遺構確認中	—	PL59 №36同一個体

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第109図											
36	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面細かい縄文を細い沈線で区画し一部を磨き消し。ヒトデ状文の類か。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	精良。泥岩礫・メノウ細粒・赤褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	F6c9, I層	—	PL59 No.35と同一個体
37	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	わずかに内彎。外傾か。外面縄文を地文に沈線と磨消で文様構成。ヒトデ状文か。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部黒褐色	F6d0, I B～II層。遺構確認中	—	PL59
38	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	(14.8) (3.1)	外傾する頸部から屈曲して受け口状を呈する。肩部は外反し、波状を呈す。口縁部内外面縄文。無文部ミガキ。内部黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐色。内面黒褐色	F6d0, I B～II層。遺構確認中	2片	PL59
39	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	[34前後]	外傾。大型。複合口縁。波状口縁。外面縄文。内外面に段をもって頸部に連続。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫微量	普通。焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい橙色。内面にぶい橙色・黒褐色。内部褐灰色	F6b0, I層	—	PL59
40	弥生土器	壺	口縁～頸部、5%以下	—	薄手。外反・外傾する頸部から段をもってわずかに内側に屈曲する口縁部。口縁部外面縄文。頸部外面粗いミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色。内部黒色	F6e9, I層	—	PL59
41	弥生土器	壺	口縁～頸部、5%以下	—	外反。外傾。口縁部は複合口縁で平縁。外面縄文。頸部外面・内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9, I層	2片	PL59
42	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	—	外反。外傾。複合口縁。口縁端部連続刺突により小波状。外面縄文。地文類は縄文→刺突。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・褐灰色。内面灰黄褐色。内部褐灰色	F6c9, I層	—	PL59
43	弥生土器	壺	頸～胴部、5%以下	—	境界の外面に粘土縷を貼り付け縷を作る。胴部縄文を施し。頸部ナデ。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩礫・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9, I B層	—	PL59
第110図											
44	弥生土器	壺	頸部、5%以下	—	外反。内傾。胴部外面縄文(拓本下端)。頸部外面ナデ。2か所同一のヘラ状施文具による刺突(意図的かは不明)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好。焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	F6b0, I層	—	PL59 外面植物繊維圧痕。断面Iか所種実圧痕か
45	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	[138] (2.1)	外反。外傾。端部に細かい斜めのキザミ。内外面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好。堅緻	外面褐色。内面にぶい黄褐色・黒褐色	F6c9, II層。ベルト中	—	PL59
46	弥生土器	壺	口縁～胴部、5%以下	[134] (3.4)	内傾する頸部から屈曲して単反・外傾する口縁部。内外面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	内面黒褐色。内外面にぶい黄褐色	F6c9, I B～II層。遺構確認中	—	PL59
47	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	[180] (6.7)	外反。外傾。単純口縁。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒色	F6c9, I層	—	PL59
48	弥生土器	壺	頸部、5%以下	—	内傾する頸部から外反・外傾する頸部。頸部径10.4cm。外面主に縦位のナデ。内面横位のナデ。上位丁寧なナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部・内面一部褐灰色	F6c9, I B～II層。遺構確認中	4片	PL59

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第110図 49	弥生 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	内彎・内傾する肩部から頭部が立ち上がる様相。頭部外面ミガキ。肩部外面斜位の条痕文。施文具の幅は1.2cmで、先端はさざら状。施文方向は右下から左上。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面浅黄褐色。内面に石英粒・チャート粒、内部黒褐色	F6c0、I B層、遺構確認中	—	PL59
50	弥生 土器	壺	頸～肩 部、5%以下	— — —	内彎気味・内傾の肩部から屈曲して外反する頸部。外面斜位・縦位の条痕文。施文具は幅0.8cm前後で先はササ状。施文方向は上から下。一部に施文の始点が見える。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	F6c0、I層	2片、SK119の1片と接合	PL59、SK119に所属
51	弥生 土器	壺	頸～肩 部、5%以下	— —	直線的で内傾する肩部から外反する頸部。外面斜位の条痕文。条痕は明瞭。施文類は右下がり→左下がりが右下がり。施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、高師小僧、赤褐色砂粒、高師小僧由米、石英粒・チャート粒、泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。表下面にぶい橙色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F6b0、I層	—	PL59
52	弥生 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	外反、内傾。外面斜位の条痕文。施文具の幅は1.3cm。条痕の単位は5条。施文方向は右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、泥岩粒・赤褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。外面一部黒褐色。内部黒褐色	F6c9、I層	2片	PL59
53	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— —	外反、内傾。外面縦位・斜位の条痕文。各条が明瞭な条痕。施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色礫・褐色砂粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6b9、I B層、遺構確認中	—	PL59
54	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	わずかに外反、内傾。外面斜位の太い条痕文。施文具の幅は1cm。単位は2条か。内面ナデ	やや砂質。メノウ粒中量、チャート粒・赤褐色砂粒・雲母微量	普通	外面赤褐色。内面にぶい赤褐色	F6b0、I層	—	PL59
55	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— —	外反、内傾。外面条痕文。上位は縦位に近く、下位は右下がりの斜位。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒微量	普通、 焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c9、I B層	—	PL59
56	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内彎、内傾。外面縦位の条痕文。施文具はさざら状。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c0、I層	—	PL59
57	弥生 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	内彎、内傾。外面横位・縦位・斜位のくっきりした条痕文。条痕の単位は4条。施文具の幅は1cm。施文類は横位が最後。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c9、I B～II層、遺構確認中	—	PL59
58	弥生 土器	壺	胴部上 半部、5%以下	— — —	内彎、内傾。外面斜位の条痕文。斜位の施文の間に横位の微かな条痕。施文具の先端はさざら状。内面横位のナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	F6c9、I B層、ベルト中	—	PL59
59	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	わずかに内彎、内傾か。輪積みは下位で外傾。上位で内傾。外面斜位の条痕文。施文具の幅1cm。条痕の単位は4条。施文の方向は下から上と上から下。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F6b0、I B層、遺構確認中	—	PL60

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第110図											
60	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内壁, わずかに内傾。最大径付近か。外面斜位の条痕文。条痕の単位は2条か。施文は下位を下から上へ、内面上位を上から下へ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	F6c9, II層, ベルト中	—	PL60
61	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内壁。外傾。外面斜位の条痕文。条痕が浅く、単位等不明。施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒色	F6c0, I層	3片	PL60
62	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	外反気味。外傾。外面くつきりした斜位の条痕文。条痕の単位は5条。施文の幅は1.3cm。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6c9, II層, ベルト中	—	PL60 海綿骨針やや顕著。内外面植物繊維圧痕か
63	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内壁。外傾。外面斜位の条痕文。施文方向は下から上。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好。焼けムラ。部被熱	外面にぶい黄褐色・黒褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	F6c9, I B層	2片	PL60 外面種実圧痕か
64	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	内壁。外傾。上部は最大径付近。最大径40cm前後か。外面斜位の条痕文。条痕の単位は主要なものの5条。施文の幅1cm。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面灰黄褐色	F6c9, I層	3片	PL60 外面下部に炭化物付着
65	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	わずかに内壁。外傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位は主要なものの4条。施文の幅1.4cm。施文方向は下から上。施文順は左下がり→右下がり。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面明褐色。内部明褐色	F6c9, I層	2片	PL60
66	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内壁。外傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位は主なもの3条。施文は幅1.3cm。施文方向は下から上。内面ナデ。一部輪積み痕が残る	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にぶい黄褐色。内部黒色	F6c0, I B層, II層, 遺構確認中	—	PL60
67	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	やや薄手。内壁。外傾。外面わずかに斜位の条痕文。条痕の単位5条以上。施文方向は上から下。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色・黒褐色。内面灰黄褐色	F6b0, I B層, 遺構確認中	2片	PL60 外面の一部に炭化物付着
68	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位3条。施文の幅1.6cm。施文方向は下から上。一部輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・赤褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面内面灰黄褐色。内部褐色	F6c9, I B層, II層, 遺構確認中	—	PL60 No69と同一体か
69	弥生土器	壺	胴部下平, 5%以下	— — —	直線的。外傾。外面斜位の条痕文。条痕の単位3条。施文の幅1.6cm。施文方向は下から上。一部輪積み痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面内面褐色	F6c9, 遺構確認中, SX9に帰属か	—	PL60
70	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	外反気味。外傾。外面斜位の条痕文。施文の幅1.6cm。条痕の単位は4条か。施文方向は下から上。内面ナデ。工具は刷毛状か	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	F6c9, 遺構確認中, SX9に帰属か	—	PL60
71	弥生土器	壺	頸部, 5%以下	— — —	胴部から緩く屈曲して、わずかに内傾。上端外側に剥離痕。複合口縁か。外面短条痕文。条痕の単位は7条か。長さ1.2~1.8cm。施文具の幅約2.4cm。施文方向は上から下。新旧の条痕が重複する箇所も。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	F6d9, II層, ベルト中	—	PL60 No72と同一体か

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第110図	72	弥生土器	壺	頸部、5%以下	—	外反、わずかに内傾。上端外側に割離痕。複合口縁か。外面短条痕文。条痕の長さは約1.5cm。施文方向は上から下。新旧の条痕が重複する箇所も。内面ナデ	メノウ粒少量、凝灰岩礫・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d0、I層	—	PL60
第111図	73	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	わずかに内彎、内傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は6～7条。施文具の幅2.5cm。施文方向は右半が右半から左上、長さ1.5cm、右半が左上から右下、長さ0.9cm。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通、ムラ	サンドイッチ状。内外面黄褐色・黒色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	F6c9、I B～II層、遺構確認中	—	PL60
	74	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	わずかに内彎、内傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は8条、長さ1.2cm。施文具は2種か。幅3.0cmと3.2cm。施文方向は右下から左上、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好、堅緻	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9、I B～II層、遺構確認中	—	PL60
	75	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	内彎、内傾か。外面斜位の短条痕文。条痕の単位7条、長さ1.5cm。施文具の幅2.7cm。施文方向は右下から左上、内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩礫・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面褐灰色。表面下の方にぶい橙色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c0、I層	2片	PL60
	76	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は8条、長さは1.3cm(短い)。施文具の幅2.8cm。施文方向は左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面褐灰色。表面下の方にぶい橙色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	F6c0、I層	—	PL60 下位粘土継接合部で剥離
	77	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎、外傾か。外面斜位の短条痕文。条痕の単位5条、長さ1.3cm。施文具の幅1.8cm。施文方向は上位で右下から左上とその逆混在。下位で左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d9、I B層、遺構確認中	—	PL60
	78	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位6条、長さ2.5cm(長い)。施文具の幅2.3cm。施文方向は上から下。一部下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d0、I B～II層、遺構確認中	—	PL60 上位粘土継接合部で剥離
	79	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は主要なものは6条、長さ1.3cm(短い)。施文具の幅2.5cm。施文方向は右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d9、I B～II層、遺構確認中	—	PL60 下位粘土継接合部で剥離
	80	弥生土器	壺	胴部下半、5%	—	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は8条。施文具の幅約3cm。施文方向は下位で下から上、上位で右下から左上と左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9、遺構確認中、SX9に帰属か	3片	PL60
	81	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	外反気味。外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位7条、長さ1.6cm。施文具の幅2.8cm。施文方向は右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d0、I層	—	PL61 内面炭化物付着
	82	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面縦位に近い斜位の短条痕文。施文の長さ1.4cm。器表荒れ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好、二次焼成	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	F6d9、I B～II層、遺構確認中	—	PL61

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第111図											
83	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎、外傾か。外面斜位の短条痕文。施文単位は5条以上。施文の長さは1.5cm。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色・表面下にぶい褐色。内面にぶい褐色。内部褐灰色	F6c9、I B～II層、遺構確認中	—	PL61
84	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位7条か、長さ1.0cm(短い)。施文方向左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・赤褐色砂・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内面内褐色。内面にぶい黄褐色。内面褐灰色	F6d0、I B～II層、遺構確認中	—	PL61
85	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位9条、長さ1.7cm。施文具の幅3.2cm。施文方向左～下位右から左上。右上位左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d0、I B～II層、遺構確認中	4片	PL61
86	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。施文単位は8条。条痕の幅約3cmか。条痕の間隔が粗い。施文方向は右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d9、I B層、遺構確認中	2片	PL61 No87と同一個体
87	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の間隔が粗い。施文方向は右下から左上。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d0、I B～II層、遺構確認中	2片	PL61 粘土粒1段分て剥離した状態
88	弥生土器	壺	胴部下、5%以下	— — —	わずかに外反。外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位6条。施文具の幅2.4cm。施文方向右下から左上。上位でその逆。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9、I B～II層、遺構確認中	—	PL61
89	弥生土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎、外傾。外面斜位の短条痕文。条痕の単位は7条、長さ1.8cm。施文具の幅2.8cm。条痕は粗い。施文方向は左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色・表面下にぶい褐色。内面にぶい褐色。内部褐灰色	F6d9、I B～II層、遺構確認中	—	PL61
90	弥生土器	壺	胴下部、5%以下	— — —	下部は底部に連続する様相。底部から外傾して直線的に立ち上がる。外面斜位の短条痕文と斜位の長い条痕文。短条痕文は3条単位。施文具の幅1.1cm。施文方向は左上から右下。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好。二次焼成	サンドイッチ状。外面灰褐色・内面にぶい黄褐色。内面褐灰色	F6d9、I B～II層、遺構確認中	—	PL61 内面炭化物付着
91	弥生土器	壺	胴～底部、5%以下	— (5.4) [8.4]	平底から胴部が外反・外傾して立ち上がる。外面ヘラナデ後、斜位の短条痕文。条痕の単位は5条、長さ1.7cm前後。施文具の幅は1.7cm。施文方向は右下から左上。底部木葉痕。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・灰色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好。一部二次焼成	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。一部灰白色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6c9、遺構確認中、SX9に帰属か	—	PL61 内面炭化物付着・植物繊維圧痕
92	弥生土器か	壺	底部、5%以下	— (11.4)	平底。器厚1.7cm。底部木葉痕。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・石英粒・赤褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰白色。内部褐灰色	F6d0、I層	—	PL61
93	縄文土器か	深鉢か	底部、5%以下	— (1.8) 9.6	上底気味の平底から胴部が外傾して立ち上がる。底部木葉痕。周辺部ヘラケズリ。木葉3枚使用。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、メノウ礫少量、チャート粒・石英粒・泥岩粒微量	普通	外面褐灰色。内面灰黄褐色	F6c9、II層、バルト中	2片	PL61

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第111図											
94	弥生土器か	小型鉢か	底部、5%以下	— (1.3) 4.6	丸底気味の底面の周縁部に沈線1条が巡る。胴部は円盤の周縁部に積上げが顕著。内外面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、灰色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色。内面にぶい赤褐色。内部褐灰色	F6d0, I層	2片	PL61
95	弥生土器か	壺か	底部、5%以下	— (1.6) [11.6]	丸底気味の底部から胴部が外傾して立ち上がる。内外面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、チャート粒少量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面明褐色。内部黒褐色	F6b9, I B層, ベルト中	—	PL61
96	不明(土師器か)	小型鉢か	胴～底部、5%程度か	— (1.7) [5.0]	薄手。平底から胴部が内彎、外傾して立ち上がる。外面ナデ。下端ヘラケズリ。底部(回転ヘラ切り後?)ヘラケズリ。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面赤灰色。内部黒褐色	F6c0, I層	—	PL61 内面炭化物付着
97	縄文土器か	深鉢か	底部、5%以下	— (2.0) [8.0]	平底から外傾する胴部が立ち上がる。底部は粘土板を重ねて成形。胴部外面ナデ。一部ミガキ状。底部ヘラナデ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐灰色。内部灰褐色	F6c0, I層	—	PL61
98	弥生土器	壺	胴～底部、5%以下	— (2.5) [7.0]	平底から胴部が外反・外傾して立ち上がる。底部端は胴部から突出。底部木葉痕。底部中央に凹み。種実等有機物の痕か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	表面暗赤褐色。内面明赤褐色	F6c0, I層	—	PL61
99	弥生土器	壺	底部、5%以下	— (1.3) 11.0	平底。底部は粘土板を重ねて成形。胴部外面下端ヘラケズリ。底部内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微量	良好	内外面橙色	F6e9, II層上面	—	PL61
100	土師器	環	口縁～底部、50%	[120] 4.1 6.2	平底から体部が内彎・外傾して立ち上がり外反気味に口縁部に至る。ロク口成形。体部下位外面ヘラケズリ。底面手持ち、ヘラケズリ。内面ミガキ、黒色処理	やや粗悪。メノウ粒中量、石英粒・チャート粒・石英粒・褐色砂粒	やや不良。焼い	外面にぶい黄褐色。内面黒色	F6b0, I B層, 遺構確認中	4片のうち1片SK157出土	PL61 9～10世紀
101	土師器	環(高台付か)	口縁部～体部、20%	[146] (4.5) —	内彎・外傾する体部から外反する口縁部。ロク口成形。内面丁寧なミガキ、黒色処理	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	外面にぶい黄褐色・橙色。内面黒色	F6c9, 遺構確認中	—	PL61 9～10世紀。SX9に帰属か
102	土師器	羽釜	羽部、5%以下	— — —	釜本体に貼り付けられた羽部。幅2.5cm前後。貼付部から潤離。やや下向きに貼り付けられ、わずかに彎曲してやや上向きになり端部に至る。表面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・褐色砂粒微量	良好	表面にぶい黄褐色。貼付部にぶい橙色	F6d9, I B層	—	PL61 平安後期以降
103	灰輪陶器	壺または瓶か	肩部、5%以下	— — —	内彎。内傾。ロク口成形。外面全面灰輪。輪は刷毛塗り	精良。石英粒・チャート粒微量	良好。堅緻	器胎：灰白色。釉：オリーブ灰色	F6d0, I B層, 遺構確認中	—	PL61 実測は平置き
104	土師質土器	三足土器	脚、5%以下	— — —	鍋本体との接合部を含む脚上部。脚を本体の孔に差し込んで固定し、周囲を補強。鍋の器厚0.9cm。脚の現存長7.1cm。径約3cm。差し込み部分で径1.8～2.7cm。表面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内部褐灰色。鍋部内面・内部黒色	F6d0, II層上面	—	PL62 中世

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第112図	105	球状土鉢	(3.4)	(3.3)	—	(17.2)	球状で縦半分に破損。破損面に貫通孔の痕跡が確認できる	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒微量	普通。焼けムラ	にぶい橙色一部・内部黒褐色	F6b0, I層	—	PL62 一部残存	
	106	土器片円盤	4.4	3.9	—	11.5	縄文土器鉢の胴部を利用し、周囲を折って楕円形に整形。土器は縄文を地文に2条の沈線を施文。沈線間磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒、雲母・海綿骨針微量	良好。焼けムラ	表面にぶい橙色一部・黒褐色・表面灰黄褐色	F6d0, I B層	遺構確認中	—	PL62 完存
	107	土器片円盤	4.5	4.4	—	11.8	縄文土器浅鉢の波状口縁波頂部を利用し、周囲を折って不整形円形に整形。土器は細かい縄文を地文に沈線で区画。一部磨り消し。内面丁寧なミガキ。黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫、褐色砂粒、雲母細粒・海綿骨針微量	良好。一部被熱	サンドイッチ表面。黒色・灰色・白色。内部褐色	F6d0, I B層	遺構確認中	—	PL62 完存。晩期中葉か

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考		
第112図	108	石棒	(4.2)	(2.7)	(1.1)	(19.6)	ホルンフェルス	断面円形に復元できる石棒片。図上味がわずかに太い。軸直交に近い擦痕(調整痕)がわずかにのこる	F6c0, I B-II層	遺構確認中	—	PL62 一部残存
	109	磨石	6.5	5.9	3.5	189.6	多孔質安山岩	やや扁平な礫を利用し、周囲を磨り不整形円盤形に調整。主に鋼線を使用	F6b0, I層	—	PL62 完存	
	110	石礫	(1.3)	0.9	0.3	(0.3)	メノウ	凸基有茎礫。小型。調整はやや粗く大ききの割に厚みがある。表面の一部に素材剥片時の剥離面。先端と茎先端を折損。先端は使用による衝撃剥離か	F6c9, I層	—	PL62 一部欠損	
	111	石礫	(2.3)	(1.6)	0.5	(1.3)	メノウ	凸基有茎礫。縦長の剥片を利用し周縁部に調整剥離。表表面に素材剥片時の剥離面をやや大きく残す。調整は全体に粗く側面観も屈曲	F6d0, I層	—	PL62 一部欠損	
	112	石礫	1.9	1.4	0.5	0.8	メノウ	凹基無茎礫。良質で透明感のある白色の素材を利用。刃部は彎曲。丁寧な調整剥離だが厚みが残る	F6c0, I層	—	PL62 完存	
	113	石礫未成品か	2.0	1.3	0.5	0.9	硬質頁岩	素材礫の表皮に近い剥片を利用。調整は粗い。無茎礫を志向か	F6d0, I層	—	PL62 完存。基部にターブル状物質付着	
	114	石礫未成品	2.6	1.8	0.5	2.0	メノウ	一部に自然面を残す縦長の剥片を利用。打箱を基部として平基無茎礫を志向か。基部側の調整が比較的進捗	F6b0, I層	—	PL62 完存	

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第112図	115	鉄滓	9.3	8.7	4.0	389	鉄、ガラス質、メノウ礫	碗状滓。上面には滓の流れが波状に残る	F6d9, I層	—	PL62

13 表面採集

(1) 調査概要

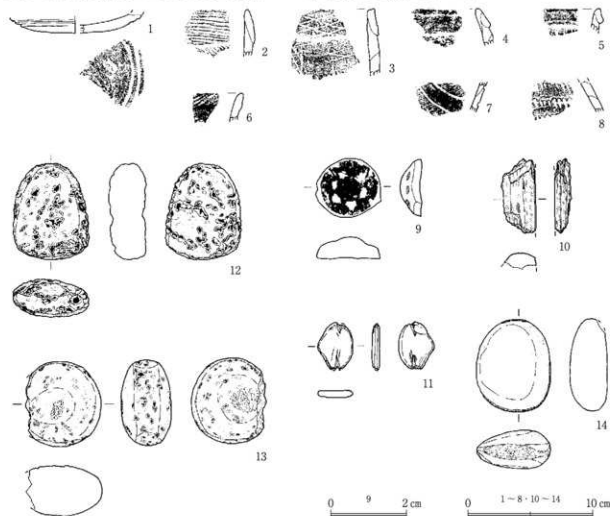
トレンチによる確認調査と同時に、調査区付近の地表面の遺物採集を試みた。

(2) 採集遺物

土器等538点、石器等13点を採集した。うち縄文土器5点（深鉢4、浅鉢1）、弥生土器3点（壺2、小型鉢1）、土製品1点（泥面子）、石器・石製品5点（磨石2、石刀1、石錘1、敲石1）を掲載する。（第113図、第57表）

(3) 所見

再葬墓密集域中心となったトレンチ調査での出土傾向と同様、縄文晩期・弥生の遺物を主に採集した。再葬墓付近での縄文晩期の散布について、裏付けの結果となった。



第113図 表面採集遺物実測図

第57表 表面採集遺物観察表

採回番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第113図 1	縄文土器	浅鉢	底部、5%以下	— (1.4) [85]	縦やかな丸底から胴部が緩やかに立ち上がる。外面底部周囲に沈線を2条めぐらす。内面ミガキ・黒色処理。外面ナデ、底面ヘラケズリのちナデ	メノウ粒少量、チャート海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい橙色。内部褐色	排土中一括	—	PL62 晩期中葉

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第113図	2	縄文土器	口縁部、5%以下	—	内彎気味。外傾気味か。複合口縁。口縁部外面には横糸文の捺糸文。胴部斜位の捺糸文。内面ナデ	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	外面 灰黄褐色。内面 陶灰色	D地区付近	—	PL62 晩期粗製土器
3	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎気味。わずかに内傾か。複合口縁。端部平坦。口縁～胴部外面横位の刷目状捺糸文。内面ヘラナデ	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面 灰黄褐色。内面 灰黄褐色。内部 黒褐色	26T東側掘土中	—	PL62 晩期粗製土器
4	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎。内傾。複合口縁。通常の複合口縁としたのち、さらに内側から粘土を足して端部を作る。端部近くの外面にその輪組み痕が残る。内面・口縁部外面ナデ。胴部外面器表荒れ	メノウ粒少量。メノウ礫・シャモツトカ・石英粒・チャート粒微量	普通。焼けムラ	外面 浅黄橙色。内面 黒褐色。足した粘土部分にぶい赤褐色	埋め戻し後表採	—	PL62
5	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	胴部内彎気味。わずかに外傾か。複合口縁。端部内側に平坦面。胴外面捺糸文か。内面・口縁部外面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	外面 橙色。内面 ぶい橙色	26T東側掘土中	—	PL62 粗製土器
6	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	—	直線的。外傾。外面に縦やかな稜をもち、その上位横文、下位ナデ。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・チャート粒・石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色。内面 ぶい黄褐色。内部 黒褐色	掘土中一括	—	PL62
7	弥生土器	小型鉢または筒形土器	胴部、5%以下	—	内彎気味。外傾。現存部径11cm前後。外面2条の細い弧状沈線で区画する磨滑機文。ヒトデ状文または渦巻文か。内面ミガキ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面 ぶい黄褐色。内部 陶灰色	26T東側掘土中	—	PL62
8	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎気味。内傾か。外面斜位の短条痕文。条痕の長さ0.8cm (短い)。施文方向は下から上。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・チャート粒・褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部 陶灰色	26T東側掘土中	—	PL62

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第113図	9	泥面子 (花)	1.7	1.5	—	やや平たい半球形。厚さ0.6cm。甲部に印刻で6弁の花弁と茎を表現。型作り後、周縁のぼりを削り取る。裏面ナデ。裏面の一部に指紋が残る	精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・褐色細砂粒・雲母細粒微量	良好	ぶい橙色	掘土中一括	—	PL62 近世以降

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第113図	10	石刀	(5.9)	(3.7)	(1.3)	(24.0)	粘板岩	図右側に峰状の平坦面。表面は軸に斜文と一部平行の研磨調整痕。中央部の擦痕は新しい	F68-E1m	—	PL62 一部残存
11	石鎌	(3.7)	2.8	0.6	(9.0)	粘板岩	扁平な不整形円礫を利用。両端部に磨りにより長軸方向の切れ目。その周辺に作業時の擦痕。両端に折損	—	—	PL62 一部欠損	
12	磨石・敲石	7.6	6.0	3.0	179.5	多孔質安山岩	目の粗い扁平な不整形円礫を利用。表表面の一部に磨りによる整形 (または使用) 痕。主に1端 (図下位) を使用。他端もわずかに使用か	掘土中一括	—	PL62 完存	
13	磨石	6.8	(6.0)	4.0	(203)	多孔質安山岩	やや扁平な不整形円礫を利用。周縁を調整し、主に両端部と表表面を磨りに使用。表表面中央部には敲打痕。敲石または台石として使用	F66d	—	PL62 一部欠損	
14	敲石	7.3	5.8	3.0	(173.5)	砂岩	やや扁平な不整形円礫をそのまま利用。両端と一部周縁に敲石としての使用痕。主要な使用は図下端	掘土中一括	—	PL62 一部欠損	

第4節 第26号土坑に係る分析

今次調査においては、再葬墓1基を掘り込んで調査したことは先述のとおりである。本節では、第26号土坑（SK26）調査に伴い実施した自然科学分析について掲載する。なお、分析は全てバリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。

1 花粉分析、微細物分析及び土壌理化学分析

茨城県常陸大宮市に所在する泉坂下遺跡からは、弥生時代中期頃の再葬墓が確認されている。本分析調査では、再葬墓とされる遺構SK26について、献花等、植物の副葬がなされた可能性について検証するために、遺構内から採取された土壌について花粉分析を実施する。合わせて、遺体再葬に伴い植物質食料等が埋納された可能性について検証するため、遺構内土壌の洗い出しによって得られた種子等について同定を実施する。また、遺体が埋納された痕跡を検証するため、遺構内に埋納された土器内、遺構内、比較試料として遺構外から採取された土壌を対象に、各種土壌理化学分析を実施する。

1. 試料

(1) 花粉分析

試料は、SK26覆土から採取された、遺構内土器外のNo.109（南北ベルト サンプル②）、No.123（南北ベルト サンプル⑤）及びSK26に埋納された土器5内土壌下層から採取されたNo.139の3点である。

(2) 微細物分析

試料は、SK26覆土及び土器内の土壌について採取・洗い出しを常陸大宮市教育委員会で行っており、点数は101点（ISS-W No.1～106（No.32,33,49,51,84は欠番））である。試料は全て乾燥した状態で、水洗に使用された篩の粒径別（5mm、3mm、1mm）に袋に入っている。各試料の詳細は、同定結果と共に表2、表3に示す。なお、試料には多量の炭化種実が確認されたため、本分析では炭化種実の種類把握を目的とした抽出同定を実施する。

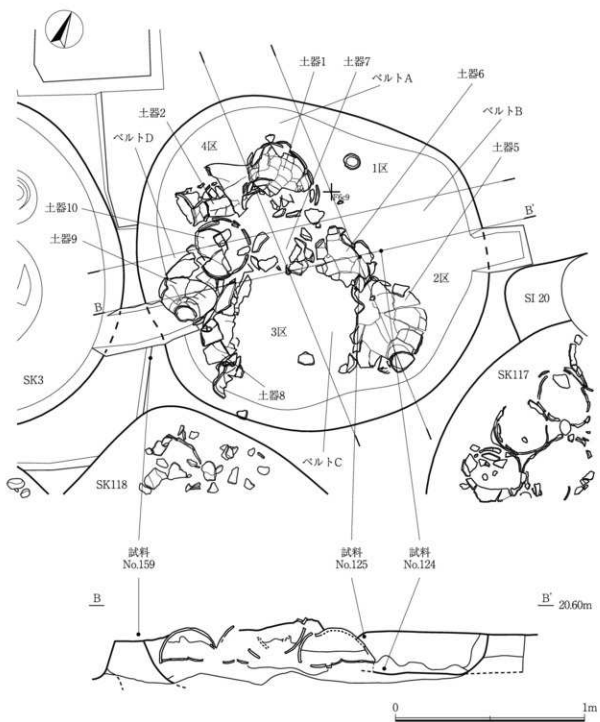
(3) 土壌理化学分析

試料は、遺構外のNo.159、SK26覆土から採取された遺構内土器外の土No.124（サンプルNo.2）、No.125（土サンプルNo.1）、埋納された土器内の土壌から採取されたNo.33（土器10内下層）、No.133（土器7内下層）、No.117（土器2内下層）、No.119（土器8内下層）、No.122（土器9内下層）、No.126（土器5内下層）、No.128（土器1内下層）、No.130（土器6下層）の11点である。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液（臭化亜鉛、比重（2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman（1952,1957）、Faegri and Iversen（1989）



第114図 第26号土坑土壌サンプル等採取位置図

などの花粉形態に関する文献や、高倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

（2）微細物分析

粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実を抽出する。炭化種実の同定は、現生標本および椿坂（1993）、石川（1994）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2012）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表と図版で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフオンで結んで表示する。多量の炭化種実が含まれる試料は、抽出同定個数の上限を30個程度とし、結果表に「+」で示す。また、一部の状態が良好なイネ、コムギを対象として、デジタルノギスで胚乳の長さ、幅、厚さを計測した結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を分類群別に容器に入れ、種実以外の分析残渣は袋に戻して返却する。

（3）土壌理化学分析

本分析では、リン酸、カルシウム、さらにリン酸の由来の検討として、炭素（腐植）の各種成分を対象とし、遺体埋納の痕跡や埋納時の周辺環境を検討することを目的とする。なお、検討に際しては天然賦存量及び遺構外自然堆積層土壌試料との比較を行うこととする。有機炭素はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-パナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法（土壌標準分析・測定法委員会、1986）に従った。

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

有機炭素は、粉砕土試料0.050～0.200gを100ml三角フラスコに正確に秤量し、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

リン酸、カルシウム含量は、粉砕土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

第58表 花粉分析結果

	SK26	SK26	SK26
	No.109	No.123	土器5 下層 No.139
木本花粉			
マツ属	3	1	10
スギ属	-	-	2
コナラ属コナラ亜属	-	-	1
コナラ属アカガシ亜属	-	-	1
イボタノキ属	1	-	-
草本花粉			
イネ科	-	1	-
シダ植物孢子			
シダ植物孢子	-	2	10
合計			
木本花粉	4	1	14
草本花粉	0	1	0
不明花粉	0	2	10
総花粉・孢子(不明を除く)	4	4	24

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を第58表に示す。分析残渣は全ての試料で少ないため、全ての残渣を用いてプレパラートを作成し、検鏡を行った。花粉化石はいずれも少なく、マツ属、スギ属、シダ類孢子が若干見られる程度である。保存状態は良いものと悪いものが混在するが、概して悪い。

(2) 微細物分析

炭化種実同定結果を第59表に、炭化種実出土状況を第60表に、炭化種実各分類群の写真を図版63・64に示す。

全101試料を通じて、炭化種実は、被子植物10分類群（木本のオニグルミ、クリ、ムクロジ、トチノキ、草本のイネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、アサ、マメ科（ダイズ類?））5,189個が抽出・同定された。一方、状態不良のため、疑問符を付した分類群は、クリ?（果皮・子葉）が40個、トチノキ?（種皮・子葉）が27個、不明（堅果類?）が3個の、計70個である。

分析残渣は、堅果片（オニグルミ、クリ、トチノキなど）、炭化材、骨片、土器片、岩片、土粒、焼土?、炭化していない植物片（草本のホタルイ属、イスタデ近似種、エノキグサの種実を含む）、甲虫片などが確認された。炭化していない植物片や甲虫片は、保存状態が極めて良好であることから、混入の可能性が高いため、考察より除外している。

炭化種実の保存状態は、破損や焼き膨れ、発泡等により極めて不良である。炭化種実群は、落葉広葉樹4分類群（オニグルミ、クリ、ムクロジ、トチノキ）5,159個、草本6分類群（イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、アサ、マメ科（ダイズ類?））30個から成る。破片個体が多いものの、圧倒的な落葉広葉樹主体の組成を示す。

栽培種は、イネの胚乳が4個（No.61,95,104）と、オオムギの穎・胚乳が1個（No.101）、胚乳が2個（No.71,78）、オオムギ・コムギの胚乳が4個（No.62,66,74,81）、コムギの胚乳が15個（No.6,8,22,61,62,69,72,73,88,95,99,104）、アサの果実が1個（No.92）と、栽培の可能性のあるヒエ近似種の胚乳が1個（No.24）、マメ科（ダイズ類?）の種子の破片が2個（No.101）の、計30個が確

第59表 微生物分類・炭化種実同定結果

	No.	粒径 (mm)	分類群	部位	状態	個数	備考 計測値(mm)	他に確認された遺物等
ISS-W	1	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	1	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	1	3	クワ?	子葉?	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	1	3	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	1	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	1	1	クワ?	果皮	破片	2		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	1	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	3	クワ?	子葉	破片	1	遺物	炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	3	ムクロジ	種皮	破片	3		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	3	トチノキ	種皮	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	2	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	3	3	オニグルミ	核	破片	17		炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	3	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	4	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	4	3	オニグルミ	核	破片	22		炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	4	3	クワ?	子葉?	破片	3		炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	4	1	オニグルミ	核	破片	22		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	5	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	3	クワ?	子葉	破片	3		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	3	クワ?	果皮	破片	2		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	3	ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	5	1	トチノキ	種皮	破片	4		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	6	3	オニグルミ	核	破片	5		炭素片, 骨片
ISS-W	6	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	6	1	クワ?	果皮	破片	2		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	6	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	6	1	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	6	1	コムギ	胚乳	完形	1	状態不良	
ISS-W	7	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	7	3	オニグルミ	核	破片	11		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	7	3	クワ?	果皮	破片	2		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	7	3	クワ?	果実	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	7	3	クワ?	子葉	破片	2		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	7	1	オニグルミ	核	破片	14		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	8	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	8	3	オニグルミ	核	破片	8		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	8	1	オニグルミ	核	破片	30+		非炭化種実(オニグルミ属)炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	8	1	コムギ	胚乳	破片	1		非炭化種実(コムギ属)炭素片(コムギ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	8	5	トチノキ?	子葉	破片	1		炭素片(オニグルミ主体)炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	9	3	オニグルミ	核	破片	5		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	9	3	クワ?	子葉	破片	3		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	9	1	オニグルミ	核	破片	14+		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	9	1	クワ?	果皮(表皮)	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	10	3	オニグルミ	核	破片	6		炭化材
ISS-W	10	3	不明(堅果類?)	不明	破片	3		炭化材
ISS-W	10	1	オニグルミ	核	破片	6+		非炭化種実(オニグルミ属・イヌタデ近縁種)炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	11	3	オニグルミ	核	破片	6		炭化材
ISS-W	11	3	トチノキ?	子葉?	破片	2		炭化材
ISS-W	11	1	オニグルミ	核	破片	10+		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	12	5	検出されず			-		骨片
ISS-W	12	1	オニグルミ	核	破片	6+		非炭化種実(イヌタデ近縁種)炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	13	3	オニグルミ	核	破片	10		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	13	3	クワ?	子葉	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	13	3	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	13	3	トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	13	1	オニグルミ	核	破片	25		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	14	1	クワ?	果皮	破片	4		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片
ISS-W	14	5	検出されず			-		炭化材
ISS-W	14	3	オニグルミ	核	破片	11		炭化材, 骨片, 土層片? 骨片
ISS-W	14	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片, 土粒
ISS-W	15	5	オニグルミ	核	破片	1		炭化材
ISS-W	15	3	オニグルミ	核	破片	13		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片, 土粒
ISS-W	15	3	クワ?	子葉?	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片, 骨片, 土粒
ISS-W	15	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	15	1	クワ?	果皮(表皮)	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	15	1	クワ?	果皮	破片	1		炭素片 炭化材, 骨片
ISS-W	16	5	オニグルミ	核	破片	2		土層片?
ISS-W	16	3	オニグルミ	核	破片	10		炭化材, 骨片, 骨片, 土粒
ISS-W	16	3	トチノキ?	種皮?	破片	1		炭化材, 骨片, 骨片, 土粒
ISS-W	16	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材, 骨片, 土粒
ISS-W	17	3	オニグルミ	核	破片	17		炭素片 炭化材, 土層片?
ISS-W	17	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材, 骨片, 土粒

		輪径									
	No.	(mm)	分類群	部位	状態	個数	備考 計測値(mm)				他に確認された遺物等
SSS-W	17	1	クワ	扉皮	破片	3					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	18	5	楕出されず			-					骨片
SSS-W	18	3	オニグルミ	核	破片	10					炭化材, 骨片
SSS-W	18	3	クワ?	子葉	破片	2					炭化材, 骨片
SSS-W	18	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	18	1	トチノキ	種皮	破片	3+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	19	5	オニグルミ	核	破片	1					土器片?
SSS-W	19	3	オニグルミ	核	破片	9					炭化材, 骨片
SSS-W	19	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	20	3	オニグルミ	核	破片	28					炭化材, 骨片
SSS-W	20	3	クワ	子葉	破片	4					炭化材, 骨片
SSS-W	20	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	20	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	21	3	オニグルミ	核	破片	4					土器片? 骨片
SSS-W	21	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	21	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	21	1	クワ	扉皮	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	22	5	楕出されず			-					骨片
SSS-W	22	3	オニグルミ	核	破片	7					炭化材, 骨片
SSS-W	22	2	クワ	扉皮	破片	1					炭化材, 骨片
SSS-W	22	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	22	1	クワ	扉皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	22	1	トチノキ	種皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	22	1	コムギ	胚乳(頂部)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	23	5	オニグルミ	核	破片	2					炭化材
SSS-W	23	3	オニグルミ	核	破片	3					炭化材
SSS-W	23	1	オニグルミ	核	破片	30					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	23	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	24	5	オニグルミ	核	破片	12					炭化材, 骨片
SSS-W	24	3	オニグルミ	核	破片	1					炭化材
SSS-W	24	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	24	1	ヒエ返如種	胚乳	定形	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	25	3	オニグルミ	核	破片	39					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	25	3	クワ	子葉	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	25	3	トチノキ?	種皮?	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	25	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	26	3	オニグルミ	核	破片	46					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	26	3	ムクロジ	種皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	26	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	26	1	クワ	扉皮	破片	3					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	26	1	クワ	扉皮	破片	30					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	27	3	オニグルミ	核	破片	10					炭化材, 土器片?
SSS-W	27	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	27	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	27	1	トチノキ	種皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	28	5	クワ	子葉	破片	1					骨片, 土器片?
SSS-W	28	3	オニグルミ	核	破片	16					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	28	3	クワ	子葉	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	28	1	オニグルミ	核	破片	18					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	28	1	トチノキ	種皮	破片	1					炭化材, 土塊
SSS-W	29	3	オニグルミ	核	破片	2					炭化材, 土塊
SSS-W	29	1	オニグルミ	核	破片	23					炭化材, 土器片? 土塊
SSS-W	29	1	クワ	子葉	破片	2					炭化材, 土器片? 土塊
SSS-W	29	1	クワ	扉皮	破片	1					炭化材, 土器片? 土塊
SSS-W	30	3	オニグルミ	核	破片	15					炭化材, 骨片
SSS-W	30	3	ムクロジ	種皮	破片	1					炭化材, 骨片
SSS-W	30	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	30	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	30	1	クワ	扉皮	破片	3					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	30	1	トチノキ	種皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	クワ	扉皮	破片	3					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	クワ	扉皮	破片	3					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	ムクロジ	種皮	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	31	1	トチノキ	種皮	破片	4					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	34	5	楕出されず			-					骨片, 骨片
SSS-W	34	3	オニグルミ	核	破片	9					炭化材, 土器片? 骨片
SSS-W	34	1	オニグルミ	核	破片	30+					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	34	1	クワ	扉皮	破片	2					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	34	1	ムクロジ	種皮	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	35	3	オニグルミ	核	破片	1					炭化材, 土器片
SSS-W	35	1	オニグルミ	核	破片	28					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	35	1	クワ	扉皮(稜点)	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	36	5	トチノキ?	子葉?	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	36	3	オニグルミ	核	破片	14					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	36	3	クワ?	子葉?	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊
SSS-W	36	3	ムクロジ	種皮	破片	1					炭化材, 骨片, 土塊

	No.	規格 (mm)	分類群	部位	状態	個数	備考 計測値(mm)	他に確認された遺物等
ISS-W	36	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	36	1	ク	果殻(骨点)	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	36	1	ク	果殻	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	36	1	ムクロジ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	36	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	37	3	オニグルミ	根	破片	5		炭化材, 骨片
ISS-W	37	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	37	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	38	5	オニグルミ	根	破片	1		
ISS-W	38	3	オニグルミ	根	破片	10		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	3	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	1	ク	果殻	破片	2		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	3	オニグルミ	根	破片	17		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	38	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器?
ISS-W	38	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器?
ISS-W	40	3	オニグルミ	根	破片	5		炭化材, 骨片, 土器?
ISS-W	40	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	41	1	オニグルミ	根	破片	19		炭化材, 骨片, 土器
ISS-W	42	5	焼出されず			-		骨片
ISS-W	42	3	オニグルミ	根	破片	17		炭化材, 骨片
ISS-W	42	3	ク	果殻	破片	1		炭化材, 骨片
ISS-W	42	3	ムクロジ	種子	破片	1		炭化材, 骨片
ISS-W	42	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	42	1	ムクロジ	種子	破片	2		炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	42	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	42	3	オニグルミ	根	破片	2		炭化材, 骨片
ISS-W	42	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	42	1	ク	果殻(骨点)	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	44	3	オニグルミ	根	破片	11		炭化材
ISS-W	44	3	トチノキ	種子	破片	2		炭化材
ISS-W	44	3	トチノキ	子葉?	破片	4		炭化材
ISS-W	44	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	44	1	ク	果殻	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	45	5	焼出されず			-		骨片
ISS-W	45	3	オニグルミ	根	破片	18		炭化材, 骨片
ISS-W	45	3	ク?	子葉?	破片	4		炭化材, 骨片
ISS-W	45	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 土器
ISS-W	45	1	ク	果殻	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 土器
ISS-W	45	1	ムクロジ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 土器
ISS-W	46	5	焼出されず			-		骨片, 土器片
ISS-W	46	3	オニグルミ	根	破片	16		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片(スコリア), 非炭化植物片
ISS-W	46	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化植物(イヌタゴ近似種), 炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	46	1	ク	果殻	破片	1		炭化植物(イヌタゴ近似種), 炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	46	1	ムクロジ	種子	破片	1		炭化植物(イヌタゴ近似種), 炭化材, 骨片, 土器, 焼土?
ISS-W	47	3	オニグルミ	根	破片	15		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	47	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	47	1	ク	果殻	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	47	1	トチノキ	種子	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片
ISS-W	48	5	焼出されず			-		骨片
ISS-W	48	3	オニグルミ	根	破片	11		炭化材, 骨片, 土器片?
ISS-W	48	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	48	1	ク	果殻(骨点)	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	48	1	ク	果殻	破片	7		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	48	1	ムクロジ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	48	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?
ISS-W	50	3	オニグルミ	根	破片	1		
ISS-W	50	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	50	1	ク	果殻	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	52	3	オニグルミ	根	破片	8		骨片, 土器片
ISS-W	52	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	1	ク	果殻(骨点)	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	1	ク	果殻	破片	2		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	3	オニグルミ	根	破片	15		炭化材, 骨片, 土器片?
ISS-W	52	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	1	ク	果殻	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	52	1	ムクロジ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片?, 骨片, 焼土?, 土器
ISS-W	54	5	オニグルミ	根	破片	2		骨片, 土器片
ISS-W	54	3	オニグルミ	根	破片	18		炭化材, 骨片
ISS-W	54	3	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片
ISS-W	54	3	トチノキ	子葉?	破片	1		炭化材, 骨片
ISS-W	54	3	トチノキ	子葉?	破片	7		炭化材, 骨片
ISS-W	54	1	オニグルミ	根	破片	30+		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	54	1	トチノキ	種子	破片	1		炭化材, 骨片, 土器片, 土器
ISS-W	55	5	焼出されず			-		骨片

	No.	輪径 (mm)	分類群	部位	状態	個数	備考 計測値(mm)	他に確認された遺物等
SSS-W	55	3	オニグルミ	核	破片	6		炭化材
SSS-W	55	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	55	1	トチノキ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	56	3	オニグルミ	核	破片	15		炭化材
SSS-W	56	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	57	3	オニグルミ	核	破片	6		炭化材
SSS-W	57	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	57	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	58	3	オニグルミ	核	破片	14		炭化材
SSS-W	58	3	ムクロジ	種皮	破片	2		炭化材
SSS-W	58	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	58	1	ク?	果皮(種子)	破片	1		炭化材
SSS-W	58	1	ク?	果皮	破片	4		炭化材
SSS-W	58	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	59	3	オニグルミ	核	破片	15		炭化材
SSS-W	59	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	60	5	検出されず		破片	3		炭化材
SSS-W	60	3	オニグルミ	核	破片	67		炭化材
SSS-W	60	3	ムクロジ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	60	3	トチノキ	種皮	破片	5		炭化材
SSS-W	60	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	60	1	ク?	果皮	破片	1		炭化材
SSS-W	61	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	61	3	オニグルミ	核	破片	52		炭化材
SSS-W	61	3	ムクロジ	種皮	破片	5		炭化材
SSS-W	61	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	61	1	ク?	果皮	破片	3+		炭化材
SSS-W	61	1	トチノキ	種皮	破片	10+		炭化材
SSS-W	61	1	イモ	胚乳	完形	2	3.08×2.11×1.54	炭化材
SSS-W	61	1	コムギ	胚乳	破片	1		炭化材
SSS-W	62	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	62	3	オニグルミ	核	破片	14		炭化材
SSS-W	62	3	ク?	子葉?	破片	1		炭化材
SSS-W	62	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	62	1	トチノキ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	62	1	オオムギ・コムギ	胚乳	完形	1		炭化材
SSS-W	62	1	コムギ	胚乳	破片	2		炭化材
SSS-W	63	5	オニグルミ	核	破片	45		炭化材
SSS-W	63	5	トチノキ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	63	3	オニグルミ	核	破片	1		炭化材
SSS-W	63	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	63	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	63	1	トチノキ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	64	5	オニグルミ	核	破片	1		炭化材
SSS-W	64	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	64	3	ク?	果皮	破片	1		炭化材
SSS-W	64	3	ク?	子葉?	破片	1		炭化材
SSS-W	64	3	ムクロジ	種皮	破片	2		炭化材
SSS-W	64	3	トチノキ	種皮	破片	5		炭化材
SSS-W	64	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	64	1	ク?	果皮	破片	1		炭化材
SSS-W	64	1	ムクロジ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	64	1	トチノキ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	65	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	65	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	65	3	ク?	子葉?	破片	1		炭化材
SSS-W	65	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	65	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	65	1	トチノキ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	66	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	66	3	オニグルミ	核	破片	100+		炭化材
SSS-W	66	3	ク?	子葉?	破片	4		炭化材
SSS-W	66	3	ク?	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	66	3	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	66	3	オオムギ・コムギ	胚乳	完形	1		炭化材
SSS-W	66	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	66	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	66	1	トチノキ	種皮	破片	1		炭化材
SSS-W	67	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	67	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化材
SSS-W	67	1	ムクロジ	種皮	破片	3		炭化材
SSS-W	68	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	68	3	オニグルミ	核	破片	2		炭化材
SSS-W	68	3	ク?	子葉?	破片	1		炭化材
SSS-W	68	1	オニグルミ	核	破片	1		炭化材
SSS-W	69	5	ク?	子葉	破片	1		炭化材
SSS-W	69	3	オニグルミ	核	破片	11		炭化材
SSS-W	69	3	ク?	子葉	破片	2		炭化材

	No.	種類 (mm)	分類群	部位	状態	個数	備考 計測値(mm)	他に確認された遺物等
SSS-W	69	3	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	3	トチノキ?	子葉?	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭化植実(エ/キ/ツ) 炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	1	クワ	果皮	破片	2+		炭化植実(エ/キ/ツ) 炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	1	ムクロジ	種皮	破片	3		炭化植実(エ/キ/ツ) 炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	1	トチノキ	種皮	破片	2		炭化植実(エ/キ/ツ) 炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	69	1	コムギ	胚乳	完形	1		炭化植実(エ/キ/ツ) 炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	70	3	オニグルミ	核	破片	19		炭素片 炭化材 骨片 土器片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	70	1	クワ	果皮	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土? 植物片
SSS-W	70	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土? 植物片
SSS-W	70	1	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土? 植物片
SSS-W	71	5	オニグルミ	核	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	3	オニグルミ	核	破片	38		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	3	クワ	果皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	3	トチノキ	種皮	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	1	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	71	1	オオムギ	胚乳	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	72	3	オニグルミ	核	破片	11		炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	72	3	クワ	子葉	破片	2		炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	72	3	トチノキ	種皮	破片	1		炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	72	3	コムギ	胚乳	完形	1		炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	72	1	オニグルミ	核	破片	23		炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	72	1	クワ?	子葉?	破片	1		炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	72	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	73	5	検出されず			-		炭化材
SSS-W	73	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 植物片
SSS-W	73	3	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 植物片
SSS-W	73	3	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 植物片
SSS-W	73	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	73	1	ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	73	1	トチノキ	種皮	破片	5		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	73	1	コムギ	胚乳	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	5	検出されず			-		骨片
SSS-W	74	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	クワ?	子葉?	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	トチノキ?	子葉?	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	3	オオムギ・コムギ	胚乳	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	74	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土? 植物片
SSS-W	75	5	オニグルミ	核	破片	1		炭化材 土粒
SSS-W	75	5	クワ	子葉	破片	3		炭化材 土粒
SSS-W	75	3	オニグルミ	核(結合核)	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	75	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	75	3	ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	75	3	トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	75	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	76	5	検出されず			-		磨片
SSS-W	76	3	オニグルミ	核	破片	10		炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒
SSS-W	76	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 磨片 高脚小甕 土粒
SSS-W	76	1	トチノキ	種皮	破片	7		炭素片 炭化材 磨片 高脚小甕 土粒
SSS-W	77	3	オニグルミ	核(結合核)	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 磨片 高脚小甕
SSS-W	77	3	オニグルミ	核	破片	38		炭素片 炭化材 骨片 土器片 磨片 高脚小甕
SSS-W	77	1	オニグルミ	核	破片	33		炭素片 炭化材 土粒
SSS-W	78	5	トチノキ?	子葉?	破片	1		炭化材 骨片
SSS-W	78	3	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土?
SSS-W	78	3	ムクロジ	種皮	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土?
SSS-W	78	3	オオムギ	胚乳	完形	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 磨片 土粒 礫土?
SSS-W	78	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 磨片 土粒
SSS-W	78	1	ムクロジ	種皮	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 磨片 土粒
SSS-W	78	1	トチノキ	種皮	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 磨片 土粒
SSS-W	79	5	トチノキ?	子葉?	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	79	3	オニグルミ	核	破片	10		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	79	1	オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 磨片
SSS-W	79	1	ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 磨片
SSS-W	80	3	オニグルミ	核	破片	5		炭素片 炭化材 磨片
SSS-W	80	1	オニグルミ	核	破片	8		炭化材 磨片 土粒
SSS-W	80	1	クワ	果皮(表皮)	破片	1		炭化材 磨片 土粒
SSS-W	80	1	クワ	果皮	破片	1		炭化材 磨片 土粒
SSS-W	81	3	オニグルミ	核	破片	5		炭素片 炭化材 骨片
SSS-W	81	1	オニグルミ	核	破片	4		炭化材
SSS-W	81	1	クワ	果皮	破片	1		炭化材
SSS-W	81	1	オオムギ・コムギ	胚乳	破片	1		炭化材

	No.	種別 (mm)	分類群	部位	状態	個数	備考・計測値(mm)	他に確認された遺物等
ISS-W	02	5	機出されず		-			土器片
ISS-W	02	3	オニグルミ	椀	破片	19		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	3	ムクロジ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	3	トチノキ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	1	クワ	果皮	破片	1+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	1	ムクロジ	糠皮	破片	3		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	02	1	トチノキ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	03	5	オニグルミ	椀	破片	1		炭化材
ISS-W	03	3	オニグルミ	椀	破片	34		炭化材・土粒
ISS-W	03	3	トチノキ	糠皮	破片	2		炭化材・土粒
ISS-W	03	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・磨片
ISS-W	05	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・磨片・土粒
ISS-W	06	5	クワ	子葉	破片	1		土器片?
ISS-W	06	3	オニグルミ	椀	破片	33		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	06	3	ムクロジ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	06	3	トチノキ?	子葉?	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	06	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	06	1	ムクロジ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	06	1	トチノキ	糠皮	破片	5		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	07	5	ムクロジ	糠皮	破片	1		
ISS-W	07	3	オニグルミ	椀	破片	11		炭素片・炭化材・磨片
ISS-W	07	3	ムクロジ	糠皮	破片	4	1観音点	炭素片・炭化材・磨片
ISS-W	07	3	トチノキ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・磨片
ISS-W	07	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	07	1	クワ	果皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	3	オニグルミ	椀	破片	20		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	3	クワ?	子葉?	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	3	トチノキ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	3	コムギ	胚乳	完整	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・磨片
ISS-W	08	3	オニグルミ	椀	破片	21		炭素片・炭化材・骨片・磨片
ISS-W	08	3	ムクロジ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・磨片
ISS-W	08	3	トチノキ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・磨片
ISS-W	08	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	1	クワ	果皮(青点)	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	08	1	クワ	果皮	破片	3		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	09	1	トチノキ	糠皮	破片	4		炭素片・炭化材・骨片・土器片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	09	5	クワ	果葉	破片	2		炭化材
ISS-W	09	3	オニグルミ	椀	破片	9		炭化材・骨片
ISS-W	09	3	トチノキ	糠皮	破片	1		炭化材・骨片
ISS-W	09	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	09	1	クワ	果皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	09	1	トチノキ	糠皮	破片	3		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	91	5	機出されず		-			土器片?
ISS-W	91	3	オニグルミ	椀	破片	4		土器片?・磨片・土粒
ISS-W	91	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	91	1	トチノキ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	92	5	オニグルミ	椀	破片	1		土器片・磨片
ISS-W	92	3	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片・炭化材・骨片・土器片
ISS-W	92	3	ムクロジ	糠皮	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片
ISS-W	92	3	アサ	果葉	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片
ISS-W	92	1	オニグルミ	椀	破片	30+		非炭化埋藏(イスタダ近知種)炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	92	1	クワ	果皮	破片	1		非炭化埋藏(イスタダ近知種)炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	92	1	トチノキ	糠皮	破片	1		非炭化埋藏(イスタダ近知種)炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	93	5	機出されず		-			土器片
ISS-W	93	3	オニグルミ	椀	破片	18		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	93	1	オニグルミ	椀	破片	24		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	93	1	ムクロジ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	94	5	機出されず		-			骨片・植物片
ISS-W	94	3	オニグルミ	椀	破片	24		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	94	3	クワ	子葉?	破片	2		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	94	3	クワ?	子葉?	破片	4		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	94	1	オニグルミ	椀	破片	20		炭化材・土粒
ISS-W	94	1	トチノキ	糠皮	破片	1		炭化材・土粒
ISS-W	95	5	クワ	子葉	破片	2		炭化材・骨片・土器片?・磨片
ISS-W	95	3	オニグルミ	椀	破片	45		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	95	3	クワ	子葉	破片	3		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	95	3	ムクロジ	糠皮	破片	3		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	95	3	トチノキ	糠皮	破片	1		炭素片・炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒
ISS-W	95	1	オニグルミ	椀	破片	30+		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	95	1	クワ	果皮(青点)	破片	4+		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	95	1	クワ	果皮	破片	6*		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	95	1	トチノキ	糠皮	破片	7+		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	95	1	イモ	胚乳	破片	1		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	95	1	コムギ	胚乳	破片	2		炭素片(多量)炭化材・骨片・土器片?・磨片・土粒・焼土?
ISS-W	96	5	オニグルミ	椀	破片	4		骨片

	No.	種類	部位	状態	個数	備考(計測値(mm))	他に確認された遺物等
SSS-W	95	5クワ?	子葉	破片	1		骨片
SSS-W	95	3オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	95	3クワ	子葉	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	95	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	95	1オニグルミ	核	破片	26		炭素片 炭化材 土器
SSS-W	95	1クワ	果皮(歯点)	破片	2		炭素片 炭化材 土器
SSS-W	95	1クワ	果皮	破片	2		炭素片 炭化材 土器
SSS-W	95	1トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 土器
SSS-W	97	5クワ?	子葉	破片	1		骨片
SSS-W	97	3オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	97	3クワ	子葉	破片	4		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	97	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	97	3トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片?
SSS-W	97	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 甲虫片
SSS-W	97	1ムクロジ	種皮	破片	4		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 甲虫片
SSS-W	97	1トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 甲虫片
SSS-W	98	3オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	98	3クワ	子葉	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	98	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	98	1オニグルミ	核	破片	30		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	98	1ムクロジ	種皮	破片	3+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	98	1トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	99	5検出されず			-		骨片
SSS-W	99	3オニグルミ	核	破片	10		骨片 骨片
SSS-W	99	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物片
SSS-W	99	1クワ	果皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物片
SSS-W	99	1トチノキ	種皮	破片	4		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物片
SSS-W	99	1コムギ	胚乳	完形	1	3.00×2.28×2.29	炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物片
SSS-W	100	5検出されず			-		骨片
SSS-W	100	3オニグルミ	核	破片	20		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	100	3ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	100	3トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	100	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物?
SSS-W	100	1クワ	果皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物?
SSS-W	100	1トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器 植物?
SSS-W	101	5オニグルミ	核	破片	1		
SSS-W	101	5クワ?	子葉	破片	1		
SSS-W	101	3オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3クワ	子葉	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3クワ?	子葉	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3オオムギ	胚乳	完形	1	西端欠損	炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	3マ(粒(イヌ種?))	種子?	破片	2	状態不良	炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器
SSS-W	101	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器?
SSS-W	101	1ムクロジ	種皮	破片	7		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器?
SSS-W	101	1トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器?
SSS-W	102	5オニグルミ	核	破片	1		骨片 土器片
SSS-W	102	5クワ	子葉	破片	1		骨片 土器片
SSS-W	102	3オニグルミ	核	破片	25		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片
SSS-W	102	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片
SSS-W	102	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	102	1クワ	果皮(歯点)	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	102	1ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	103	3オニグルミ	核	破片	15		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	103	3クワ?	子葉	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	103	3トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片
SSS-W	103	1オニグルミ	核	破片	23		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	103	1ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	103	1トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 骨片 土器
SSS-W	104	3オニグルミ	核	破片	45+		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	3クワ	子葉	破片	3		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	3ムクロジ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	3トチノキ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	1オニグルミ	核	破片	30+		非炭化燐酸カルシウム(炭) 炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	1ムクロジ	種皮	破片	2		非炭化燐酸カルシウム(炭) 炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	1トチノキ	種皮	破片	2		非炭化燐酸カルシウム(炭) 炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	1イネ	胚乳	完形	1	磨耗	非炭化燐酸カルシウム(炭) 炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	104	1コムギ	胚乳	破片	1		非炭化燐酸カルシウム(炭) 炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器 植物?
SSS-W	105	3オニグルミ	核	破片	38		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	105	3クワ?	子葉	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	105	1オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	105	1ムクロジ	種皮	破片	2		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	105	1トチノキ	種皮	破片	1		炭素片 炭化材 骨片 土器片? 骨片 土器
SSS-W	106	5クワ	子葉	破片	1		炭化材 骨片
SSS-W	106	3オニグルミ	核	破片	30+		炭素片 炭化材 骨片 土器片 骨片 土器

	粒径	単位	状態	個数	備考(計測値mm)	他に確認された遺物等
RSS-W	106	3(2)	子葉	破片	7	炭素片炭化材,骨片,土層片,遊片,土粒
RSS-W	106	3(ムクロジ)	種子	破片	1	炭素片炭化材,骨片,土層片,遊片,土粒
RSS-W	106	1(オニグルミ)	核	破片	30+	炭素片炭化材,骨片,土層片,遊片,粘土?
RSS-W	106	1(ムクロジ)	種子	破片	2	炭素片炭化材,骨片,土層片,遊片,粘土?
RSS-W	106	1(トナリ)	種子	破片	3	炭素片炭化材,骨片,土層片,遊片,粘土?

注:表書 No.32,33,48,51,84, 多量の炭化残灰を含む試料は、抽出同定個数の上限を30個程度とし、「+」で示す。

第60表 SK26炭化種実出土状況

採取位置	層位	No.	栽培種			栽培?		その他の木本類							合計		
			イネ	オムギ	ムギ	コムギ	アサ	ヒエ近縁類?	オニグルミ	クリ炭皮遺物	クワ炭皮	クワ炭皮	クワ子葉	トナリ		ムクロジ	
土層1内	下層	13-14	-	-	-	-	-	-	76+	-	4	-	1	1	83		
土層1内		37	-	-	-	-	-	-	35+	-	-	-	1	-	36		
土層2内	上層	25	-	-	-	-	-	-	69+	-	-	1	-	-	70		
土層2内	下層	15-26	-	-	-	-	-	-	120+	1	4	-	-	2	127		
土層2内		42-59	-	-	-	-	-	-	77+	1	1	-	-	-	79		
土層5内	口縁部付近	59	-	-	-	-	-	-	36+	-	-	-	-	-	36		
土層5内	上層	83	-	-	-	-	-	-	65+	-	-	-	3	-	67		
土層6内西半部	下層	17-18	-	-	-	-	-	-	87+	-	3	-	3	-	93		
土層6内東半部	下層	16	-	-	-	-	-	-	42+	-	-	-	-	-	42		
土層6内	下層	82	-	-	-	-	-	-	49+	-	1	-	-	4	59		
土層6内		44-80-88	-	-	-	-	-	-	117+	1	3	-	7	3	131		
土層6内	上層	30	-	-	-	-	-	-	45+	1	3	-	2	1	52		
土層6内	下層	19-34	-	-	-	-	-	-	79+	-	2	-	-	-	80		
土層6内		31-54	-	-	-	-	-	-	80+	2	3	-	6	1	92		
土層7内	上層	48	-	-	-	-	-	-	41+	2	7	-	1	1	52		
土層7内	下層	20-47	-	-	-	-	-	-	103+	1	2	-	4	2	112		
土層7内		27-29-85	-	-	-	-	-	-	95+	2	2	-	2	2	103		
土層8内	上層	57	-	-	-	-	-	-	36+	-	-	-	-	-	37		
土層8内	下層	21-58	-	-	-	-	-	-	78+	3	5	-	-	3	89		
土層8内		50-56	-	-	-	-	-	-	76+	-	1	-	-	-	77		
土層9内	上層	39	-	-	-	-	-	-	47+	-	-	-	1	-	48		
土層9内	下層	9-12-36-40	-	-	-	-	-	-	132+	2	1	-	3	1	141		
土層9内		89	-	-	-	-	-	-	51+	1	3	-	5	2	62		
土層10内	上層	38	-	-	-	-	-	-	41+	-	2	-	-	-	44		
土層10内	下層	24-35	-	-	-	1	-	-	72+	1	-	-	-	-	74		
土層10内		53-81-80	-	-	1	-	-	-	93+	-	3	2	-	4	104		
1区-1	2		-	-	-	-	-	-	80+	-	-	-	1	3	84		
1区-2	68		-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3		
1区-3	5		-	-	-	-	-	-	60+	-	-	-	3	4	69		
1区-4	1		-	-	-	-	-	-	80+	-	-	-	-	-	82		
1区-5	78		-	1	-	-	-	-	80+	-	-	-	3	9	73		
1区	95-103		1	-	-	2	-	-	113+	4+	6+	-	5	12+	5	148	
2区-1	102		-	-	-	-	-	-	58+	2	-	-	1	-	62		
2区-2	66		-	-	1	-	-	-	130+	-	-	-	-	1	134		
2区-3	60		-	-	-	-	-	-	87+	-	1	-	-	5	108		
2区-4	3		-	-	-	-	-	-	47+	-	-	-	-	-	47		
2区-5	73		-	-	-	1	-	-	60+	-	-	-	7	3	71		
2区	100		-	-	-	-	-	-	50+	-	1	-	2	2	56		
3区-1	104		1	-	-	1	-	-	75+	-	-	-	3	4	87		
3区-2	81		2	-	-	1	-	-	82+	-	3+	-	10+	5	103		
3区-3	64		-	-	-	-	-	-	81+	-	2	-	8	5	76		
3区-4	83		-	-	-	-	-	-	76+	-	-	-	2	1	79		
3区-5	98		-	-	-	-	-	-	60+	-	-	-	9	1	74		
3区-6	62		-	-	1	2	-	-	44+	-	-	-	3	-	50		
3区-7	89		-	-	-	1	-	-	41+	-	2	-	2	4	53		
3区	上層	97	-	-	-	-	-	-	60+	-	-	-	4	3	70		
3区	下層	105	-	-	-	-	-	-	68+	-	-	-	1	2	71		
3区	91-99-108		-	-	-	1	-	-	134+	-	2	-	8	8	3	158	
4区-1	4		-	-	-	-	-	-	44	-	-	-	-	-	44		
4区-2	8		-	-	-	1	-	-	36+	-	-	-	-	-	37		
4区-3	7		-	-	-	-	-	-	25	-	2	1	2	-	30		
4区-4	6		-	-	-	1	-	-	35+	-	2	-	2	1	41		
4区	71-77-88-94-98-101		-	2	-	2	-	-	354+	3	4	-	6	12	380		
ベルトA(4区)	72		-	-	-	1	-	-	34	-	-	-	2	1	39		
ベルトA(サンブル①)	65		-	-	-	-	-	-	60+	-	-	-	3	1	64		
ベルトA(サンブル②)	70		-	-	-	-	-	-	49+	-	1	-	2	1	53		
ベルトA	83		-	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	43		
ベルトB(1区)	67		-	-	-	-	-	-	60+	-	-	-	-	-	63		
ベルトB	92		-	-	-	-	1	-	81+	-	1	-	1	2	86		
ベルトC(3区)	75		-	-	-	-	-	-	62+	-	-	-	3	2	69		
ベルトC	79		-	-	-	-	-	-	40+	-	-	-	-	-	41		
ベルトC(溝端)	87		-	-	-	-	-	-	41+	-	1	-	2	5	48		
ベルトD	74		-	-	1	-	-	-	81+	-	-	-	-	1	84		
土層7と土層7の間	28-52		-	-	-	-	-	-	73+	1	2	-	2	2	80		
土層6の下層	23		-	-	-	-	-	-	35	1	-	-	-	-	36		
3層東部	3層	78	-	-	-	-	-	-	40+	-	-	-	-	7	47		
土坑内一括	22-41-42-45-46		-	-	-	1	-	-	197+	-	7	-	3	5	213		
合計			4	3	4	15	1	1	2	4690+	28+	87+	3	62	165+	124	5189

第61表 SK26土壌理化学分析結果

試料名		土色	土性	有機炭素 C (%)	腐植 (%)	全リン酸 P2O5 (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
土器内	No.33 土器10内下層	10YR2/1 黒	CL	3.48	6.00	12.90	8.22
	No.113 土器7内下層	10YR2/1 黒	CL	4.67	8.05	17.10	10.70
	No.117 土器2内下層	10YR2/1 黒	CL	4.13	7.12	10.70	8.18
	No.119 土器8内下層	10YR2/2 黒褐	LjC	3.83	6.60	10.70	7.78
	No.122 土器9内下層	10YR3/1 黒褐	CL	3.85	6.64	10.20	7.60
	No.126 土器5内下層	10YR3/1 黒褐	CL	4.06	7.00	12.00	7.88
	No.128 土器1内下層	10YR3/1 黒褐	CL	4.65	8.02	15.80	8.87
	No.130 土器6内下層	10YR3/1 黒褐	CL	3.88	6.65	11.70	8.09
遺構内 土器外	No.124	10YR2/2 黒褐	LjC	3.60	6.21	10.20	6.57
遺構外	No.125	10YR2/1 黒	CL	4.91	8.46	12.50	8.72
遺構外	No.159	10YR2/1 黒	CL	4.31	7.43	9.62	7.61

備考

(1) 土性: 土壌調査ハンドブック改訂版(ペドロジー学会編, 1997)の野外土性による。

CL…堆填土(粘土15~25%、シルト20~45%、砂3~65%)

LjC…軽填土(粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%)

(2) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。

認められ、概ね土器内を除く位置より出土している(第60表)。

栽培種と栽培の可能性を除いた分類群は、全て落葉広葉樹から成り、圧倒的な堅果類主体の組成を示す。特に、全試料よりオニグルミの核の破片が検出され、総計は4,690個よりも多く、うち3個に縫合線が残存する状態が確認された(No.74,75,77)。その他に、クリの果皮(着点)の破片が28個、果皮の破片が87個、果実(果皮・子葉)の破片が3個、子葉の破片が62個と、トチノキの種皮の破片が165個、ムクロジの種皮の破片が124個確認された。なお、これらの木本種実の出土位置に大差は認められない。

(3) 土壌理化学分析

土壌理化学分析結果を第61表に示す。野外土性(ペドロジー学会編, 1997)は、試料No.119,124はLjC(軽填土)、他の試料はCL(堆填土)である。土色は、10YR2/1黒~10YR3/1黒褐と全体的に黒色味に富む土壌である。腐植含量は遺構外試料のNo.159で7.43%と多い。遺構外試料より多く腐植を含有している試料は土器内試料No.113, No.128、遺構内土器外試料No.125で約8.0-8.5%保持する。他の試料は約6.0-7.1%であり、各試料に大きな差異はなく、腐植に富む土壌である。リン酸含量は遺構外試料のNo.159で9.62mg/gと多い。しかし、他の試料では10mg/gを超えるリン酸含量を保持し、中でも土器内試料No.113, No.128では17.1mg/g、15.8mg/gと特に多いリン酸含量である。カルシウム含量は遺構外試料のNo.159で7.61mg/gであり、これよりカルシウム含量の少ない試料は、遺構内土器外試料No.124の6.57mg/gのみであり、他の試料は約7.6-10.7mg/gと遺構外試料よりやや多い含有量である。

4. 考察

(1) 再葬時の植物副葬についての検討

SK26における遺体再葬時に、献花等の形で植物が副葬された可能性について検討するために花粉分析を実施した。分析の結果、花粉化石がほとんど検出されなかったため、献花等の可能性について言及することはできない。花粉化石は好気的環境下による風化に弱い(中村, 1967など)。地下水位が高い場所や、井戸など帯水層まで掘り抜いた場合など、遺構内に水が常時貯まるような状況であれば、花粉化石が残存する可能性がある。今回の遺構の形状や立地から考えると好気的環境下であった可能性が高く、花粉化石が残らなかったと考えられる。花粉化石で検出される種

類は、保存の良いものや悪いものが混在するほか、花粉生産量の多い種類や、保存が悪くても同定可能な種類に限られる。このことから、擾乱によって後代に花粉化石が混入したり、風化に強い種類が選択的に残った可能性がある。従って、今回検出された花粉化石が献花等による植物の副葬によるものであるとは言えない。

SK26の土器内および各区・ベルト・層位より得られた炭化種実群は、落葉広葉樹4分類群（オニグルミ、クリ、ムクロジ、トチノキ）5,159個、草本6分類群（イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、アサ、マメ科（ダイズ類?））30個が確認された。破片個体が多いものの、圧倒的な落葉広葉樹主体の組成を示す。

栽培種を除いた木本類は全て落葉広葉樹からなる。高木になる河畔林要素のオニグルミ、トチノキと、二次林要素のクリ、丘陵や山地に生育するムクロジが確認された。これらは堅く残りやすいことが原因と思われるが、これらが周囲に生育したと思われる。また、核が最も多く出土したオニグルミと、果皮・子葉が出土したクリは、果実内部の子葉が食用可能で、種皮が出土したトチノキは、あく抜きすることで種子内部の子葉が食用可能となる。これらの堅果類は、周辺の森林から採取し、利用していたと推測される。さらに、堅果類の出土部位は、クリを除く大半が食用にならない果皮や種皮の破片で、自然に割れた可能性が低いオニグルミの縫合線が残る核片も確認されたことから、子葉を取り出した後の残滓に由来する可能性も指摘される。その他、ムクロジの果実はサボニンを含むため洗濯等に利用可能で、種子は油脂を多く含むため食用可能であるが、現在のムクロジの分布は、茨城県・新潟県以南とされ（佐竹ほか1989）、関東地方における栽植以外の自生は少ない。今回、本遺跡より確認された炭化種子は、過去におけるムクロジの分布を示す貴重な資料である。これらの内、オニグルミ、クリ、トチノキ等は縄文時代に食物として利用されていた種類として知られる。これらの種実が破片の状態で、弥生時代中期の再葬墓内から多数検出されたことについては、再葬の際に周囲の縄文時代遺物包含層に含まれていたものが混入した可能性が考えられる。この点については今後土坑外の土壌について微細物分析を実施し、今回の結果と比較するなどの検討が必要と考えられる。

栽培種は、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、繊維植物のアサと、栽培の可能性のある雑穀類のヒエ近似種、豆類のマメ科（ダイズ類?）が検出された。栽培種の分布状況の特徴として、土器内の土壌からはほとんど確認されない一方で、土器外の土壌では1区～4区までまばらに確認される点があげられる。もし、遺体再葬時に供献のような形でこれらの種実が副葬されたとしたら、分布の偏りが見られるはずであるが、今回の結果からは確認できない。

以上のように、本分析調査の結果から遺体再葬時における植物質食料の副葬について言及することはできないが、イネ、コムギ、オオムギについては完形で、状態が良い試料も確認できるため、これらの栽培種は再葬墓と同じ時代に利用されていた植物である可能性が示唆される。

（2）遺体埋納痕跡の検討

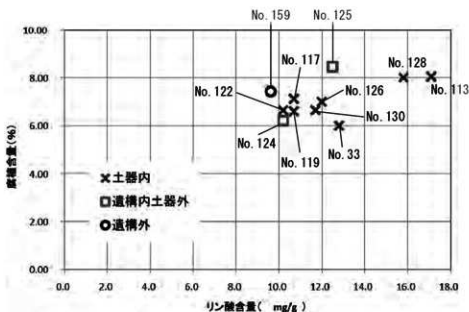
リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成することがある。特に活性アルミニウムの多い火山灰土では、非火山性の土壌や沖積低地堆積物などに比べればリン酸の固定力が高いため、火山灰土に立地した遺跡での生物起源残留物の痕跡確認にリン酸含量は有効なことがある。

土壌中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例が

あるが (Bowen,1983;Bolt・Bruggenwert,1980;川崎ほか,1991;天野ほか,1991)。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度である。また、人為的な影響 (化学肥料の施用など)を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/g (川崎ほか,1991) という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50mg/g (藤貫,1979) といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壌中に固定され難い性質による。これら天然賦存量は、遺体の痕跡を明確に判断できる目安として重要ではあるが、遺体が土壌中で分解した後、その成分が時間経過とともに徐々に系外へと流亡し、その結果含量が天然賦存量の範囲となってしまうことも考えられ、天然賦存量以下だからといって遺体埋納を全て否定するものではない。

今回の分析調査では、全試料でリン酸含量の天然賦存量である3.0mg/gを大きく超える値を保持したが、カルシウムの賦存量である50mg/gを超える試料は認められない。比較対照試料として採取された遺構外自然堆積層土壌試料No.159では、リン酸含量が有に天然賦存量を超える保持量を示したことから、耕作や施肥等の後代人間活動による影響も考えられる。しかし、SK26から採取された、土器内・遺構内土器外試料であるNo.33,113,117,119,126,128,130,125では、リン酸含量が比較試料より1mg/g以上多く保持されており、また、第115図に示したように他の2試料においても、遺構外試料に比べ、腐植が少なくリン酸が多い傾向を示しており、植物遺体由来以外のリン酸が含まれていることを示す。また、上述したようにカルシウム含量は流亡しやすい元素であり、リン酸との比例関係は見出せないが、試料No.124を除く試料で遺構外試料より多く保持されている。

上述のように、土器内・遺構内土器外試料においてリン酸が多く保持されたという本分析調査の結果は、SK26における遺体埋納の痕跡を示している可能性が示唆される。また、地山のリン酸保持量が多い点については、現地発掘調査の所見、土地利用履歴等を含めて検討する必要がある。



第115図 SK26採取試料における腐植含量とリン酸含量の相関

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信,1991,中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量,農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発,28-36.
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M,1980,土壌の化学,岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,学会出版センター,309p.
- Bowen,H.J.M,1983,環境無機化学-元素の循環と生化学,浅見輝男・茅野充男訳,博友社,297p.
- 土壌標準分析・測定法委員会編,1986,土壌標準分析・測定法,博友社,354p.
- Erdtman G.,1952,Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I) . Almqvist & Wiksells,539p.
- Erdtman G.,1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II) ,147p.
- Feagri K. and Iversen Johs.,1989,Textbook of Pollen Analysis.The Blackburn Press,328p.
- 藤貫 正,1979,カルシウム,地質調査所化学分析法,52,57-61.
- 藤木利之・小澤智生,2007,琉球列島産植物花粉図鑑,アクアコーラル企画,155p.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 川崎 弘・吉田 滯・井上恒久,1991,九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量,農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発,23-27.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑,北海道大学出版会,824p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2010,日本植物種子図鑑 (2010年改訂版) .東北大学出版会,678p.
- 中村 純,1967,花粉分析,古今書院,232p.
- 中村 純,1980,日本産花粉の標徴 I II (図版) .大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.
- ベドロジー学会編,1997,土壌調査ハンドブック改訂版,博友社,169p.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態,大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2012,ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実-形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種-,誠文堂新光社,272p.
- 佐竹義輔・原 寛・亙野俊次・富成忠夫編,1989,日本の野生植物 木本Ⅱ,平凡社,305p.
- 椿坂恭代,1993,アワ・ヒエ・キビの同定,吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」,261-281.

2 弥生土器の圧痕分析

第26号土坑出土の土器10には、初のように見える圧痕が4箇所観察された。この圧痕を対象として、マイクロスコープ観察およびレプリカ作成観察を実施し、圧痕の由来について検討する。

また、第1次調査において第4号性格不明遺構（SX4、第2次調査で第9号溝跡に改称するが、混同を避けるため旧称のまま用いる。）から出土した弥生土器（No. 4）にも同様の圧痕があり、参考資料として合わせて分析した。

1. 試料

試料は、弥生土器2点（SX4 No. 4とSK26土器10）に確認された圧痕計5箇所である。SX4 No.4では土器底面に確認される圧痕1箇所を対象とする（図版65-1,2）。SK26土器10では、土器外面に確認される圧痕2箇所（外面1, 2）、土器内面に確認される圧痕2箇所（内面1, 2）の、計4箇所を対象とする（図版66）。

SX4 No. 4の圧痕については、マイクロスコープ観察、深度合成・3D合成処理、レプリカ作成観察を実施する。SK26土器10は、土器接合後の状態であることから、圧痕4箇所のマイクロスコープ観察、レプリカ作成観察を実施する。

2. 分析方法

土器に確認された圧痕を、肉眼およびマイクロスコープ（株式会社キーエンス製：VHX-1000）で観察する。圧痕レプリカは、土器を破壊しないように細心の注意を払いながら、シリコン樹脂（株式会社ニッシン製：JMシリコン インジェクションタイプ、レギュラータイプ）を使用して作成する。圧痕レプリカを双眼実体顕微鏡やマイクロスコープで観察するとともに、金を蒸着したレプリカについて走査型電子顕微鏡（SEM）（日本電子株式会社製：JCM5700）で観察し、圧痕の由来について検討する。

3. 結果

（1）SX4 No. 4（図版65）

圧痕を形成する物質は、イネと考えられるが、部位が穎（初）であるか胚乳（米）であるかの区別が困難であった。圧痕レプリカは、長さ5.4mm、幅3.2mm、厚さ（深さ）1.1mmのやや偏平な長楕円体を呈す。表面は土器胎土表面に確認される鉱物を反映しているため、粗面・不明瞭である。圧痕およびレプリカのマイクロスコープ深度合成、3D合成を実施した結果、イネの表面にみられる2本の縦隆条が確認された（図版65-3～6）。ただし、圧痕レプリカの形状および表面模様の観察では、穎か胚乳かの区別ができなかった。

（2）SK26土器10

・外面1（図版68-1, 2）

圧痕を形成する物質は、イネの穎（初）の可能性がある。圧痕レプリカは、長さ6.3mm、幅3.5mm、厚さ（深さ）1.6mmのやや偏平な長楕円体を呈す。表面は粗面のため不明瞭である。一端がやや尖り、2裂する状態が確認され（図版68-2上端）、イネの穎（稲初）を構成する外穎（護穎と言う場合もある）と内穎が融合する部分（頂部）の可能性もある。ただし、表面模様が不明瞭であるため、可能性の指摘にとどめる。

・外面2 (図版67)

圧痕を形成する物質は、イネの穎(初)に同定された。圧痕レプリカは、長さ8.0mm、幅3.6mm、厚さ(深さ)2.3mmのやや扁平な長楕円体を呈す。基部には長さ1.0mmの斜切円柱形の果実序柄(小穂軸)と1対の護穎がある。また、果実序柄(小穂軸)の基部から伸びる小枝梗が長さ0.9mmを測り、中空であることも確認された(図版67-1.2.5)。基部の上には外穎(護穎と言う場合もある)と内穎があり、外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合して稲穂を構成する。果皮表面には微細な顆粒状突起が縦列し、内穎基部付近で顕著である(図版67-4.5)。

・内面1 (図版68-3.4)

圧痕を形成する物質は、木材であった。圧痕レプリカは、長さ4.8mm、幅2.0mm、厚さ(深さ)1.1mmの直方体を呈す。表面には木材組織が確認され、特に最大辺で顕著である点を根拠とした(図版68-4)。

・内面2 (図版68-5.6)

圧痕を形成する物質は、種類、部位ともに不明であった。レプリカ圧痕は、長さ4.7mm、幅2.7mm、厚さ(深さ)1.4mmの歪な倒卵体を呈し、一端がやや突出する。表面は粗面で不明瞭であった。

4. 考察

土器に確認されたレプリカ作成観察の結果、SK26土器10の外面2は、栽培種のイネの穎(稲初)に同定された。また、SX4 No. 4はイネの穎か胚乳と考えられ、SK26土器10の外面1は、イネの穎の可能性が指摘された。一方、SK26土器10の内面1は木材で、内面2は不明であった。

特に、SK26土器10の外面2に確認された稲穂痕は明瞭で、果実序柄(小穂軸)の基部から伸びる小枝梗が中空である状態も確認された。東京都田園調布南遺跡の弥生時代後期の土器圧痕に確認された、内穎や外穎、護穎、芒、穎表面の顆粒状配列が明瞭な稲穂痕(丑野・新里,1992)に匹敵する良好な保存状態と言える。

泉坂下遺跡では、弥生時代の再葬墓の土器より、コメ(イネ胚乳)、コムギなどの炭化穀粒が確認されている(鈴木編,2011)。また、弥生時代中期のSK26からも、炭化したイネの胚乳がオオムギ、コムギ、ヒエ近似種、アサ、マメ科(ダイズ類?)などの炭化穀粒とともに確認されている。本分析調査において、土器製作時における稲穂の存在が指摘されたことは、このような過去の分析結果とも調和するものであり、イネは当時の泉坂下遺跡周辺域で利用された植物質食糧と示唆される。

今回の調査結果を通じて、他の出土土器にもイネなどの穀粒圧痕が存在する可能性が充分考えられる。今後の精査が望まれる。

引用文献

鈴木素行編,2011,茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡,常陸大宮市教育委員会,125p.

丑野 毅・新里 康,1992,土器に残された圧痕の観察,田園調布南2 都立田園調布高校内埋蔵文化財発掘調査報告書,都立学校遺跡調査会,176-205.

3 土器附着炭化物の放射性炭素年代測定

茨城県常陸大宮市に所在する泉坂下遺跡からは、弥生時代中期頃の再葬墓が確認されている。本分析調査では、再葬墓とされる遺構であるSK26から出土した弥生土器に附着する炭化物について、放射性炭素年代測定を実施し、遺構および遺物の年代について検討する。

1. 試料

試料は、再葬墓とされる遺構SK26から検出された弥生土器に附着した炭化物である。土器は全て個体資料であり、器種は壺5点（土器2、土器6、土器7、土器8、土器10）である。

2. 分析方法

分析試料はAMS法で実施する。資料は弊社技師1名が市整理作業室で採取した。土器附着炭化物はいずれも煤状に薄く附着している程度であり、カッターナイフ等を用いて、必要最低限の試料（10mg程度）採取を行った。

前処理は、塩酸や水酸化ナトリウムを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する。（酸-アルカリ-酸処理：AAA処理）。その後超純水で中性になるまで洗浄し、乾燥させる。本来のアルカリ処理は、0.001M～1Mまで段階的に濃度を上げるが、今回の試料は、いずれも炭素量が少なく、高濃度の水酸化ナトリウムでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された。このため、薄い濃度の水酸化ナトリウムの状態で処理を終える（AaAと記す）。

精製された試料を燃焼してCO₂を発生させ、真空ラインで精製する。鉄を触媒とし、水素で還元してグラファイトを生成する。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を用いて、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）を測定する。AMS測定時に、標準試料とバックグラウンド試料の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウェアは、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1、較正曲線はIntcal13（Reimer et al, 2013）である。

3. 結果

結果を第62表に示す。炭素含量は土器2で34%、土器6で3%、土器7で4%、土器8で26%、土器10で3%である。同位体補正を行った年代値は、土器2で2,230 ± 20BP、土器6で2,820 ± 30BP、土器7で2,890 ± 20BP、土器8で2,280 ± 20BP、土器10で2,200 ± 20BPである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの

半減期5,730±40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪(年輪は細胞壁のみなので、形成当時の¹⁴C年代を反映している)等を用いて作られており、最新のものは2013年に発表されたIntcal13(Reimer et al.2013)である。2σの値でみると、土器2で2,330～2,150calBP、土器6で3,000～2,850calBP、土器7で3,140～2,930calBP、土器8で2,350～2,180calBP、土器10で2,310～2,150calBPである。暦年較正の中央値は、土器2でcalBC280、土器6でcalBC970、土器7でcalBC1,060、土器8でcalBC380、土器10でcalBC290である。

暦年較正值でみると、土器2・8・10は紀元前3～4世紀の値を示す。一方で、土器6・7は紀元前10～11世紀の値を示し、年代値が2つに分かれているようにみえる。しかしながら、炭素含量が比較的多い試料はいずれも前者であることから、遺構の年代は紀元前3～4世紀である可能性が高い。土器6、土器7について、年代値が古くなった要因としては、炭素含量が低く、素地由来の炭素の割合が高いなどの可能性が考えられる。

第62表 放射性炭素年代測定結果

遺構	番号	性状	処理方法	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
SK26	土器2	土器付着炭化物 (炭素含量34%)	AaA	2,230±20	-24.25±0.26	2,210±20	IAAA-151617
SK26	土器6	土器付着炭化物 (炭素含量3%)	AaA	2,820±30	-27.03±0.25	2,850±30	IAAA-151618
SK26	土器7	土器付着炭化物 (炭素含量4%)	AaA	2,890±20	-22.95±0.25	2,850±30	IAAA-151619
SK26	土器8	土器付着炭化物 (炭素含量26%)	AaA	2,280±20	-20.97±0.27	2,220±20	IAAA-151620
SK26	土器10	土器付着炭化物 (炭素含量3%)	AaA	2,200±20	-25.91±0.23	2,210±20	IAAA-151621

1)年代値の算出には、Libbyの半減期568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基準として何年前であることを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

4)IAAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAはアルカリ処理を定法の濃度(1N)に達する前に止めた試料を示す。

第63表 暦年較正結果

試料	補正年代 (BP)	暦年較正年代					中央値	Code No.
		年代値		相対比				
SK26 土器2	2,225±24	σ	cal BC 362 - cal BC 352	cal BP 2,311 - 2,301	0.108	cal BC 276	IAAA-151617	
			cal BC 298 - cal BC 228	cal BP 2,247 - 2,177				0.780
			cal BC 222 - cal BC 211	cal BP 2,171 - 2,160				0.112
SK26 土器6	2,818±28	σ	cal BC 378 - cal BC 341	cal BP 2,327 - 2,290	0.178	cal BC 970	IAAA-151618	
			cal BC 326 - cal BC 204	cal BP 2,275 - 2,153				0.822
			cal BC 1,003 - cal BC 930	cal BP 2,952 - 2,879				1.000
SK26 土器7	2,885±25	σ	cal BC 1,046 - cal BC 905	cal BP 2,995 - 2,854	1.000	cal BC1064	IAAA-151619	
			cal BC 1,109 - cal BC 1,098	cal BP 3,058 - 3,047				0.129
			cal BC 1,089 - cal BC 1,019	cal BP 3,038 - 2,968				0.871
SK26 土器8	2,284±24	σ	cal BC 1,190 - cal BC 1,178	cal BP 3,139 - 3,127	0.015	cal BC 376	IAAA-151620	
			cal BC 1,158 - cal BC 1,146	cal BP 3,107 - 3,095				0.015
			cal BC 1,129 - cal BC 979	cal BP 3,078 - 2,928				0.970
SK26 土器10	2,195±23	σ	cal BC 396 - cal BC 364	cal BP 2,245 - 2,213	1.000	cal BC 293	IAAA-151621	
			cal BC 400 - cal BC 357	cal BP 2,249 - 2,206				0.785
			cal BC 285 - cal BC 235	cal BP 2,234 - 2,184				0.215
SK26 土器10	2,195±23	σ	cal BC 354 - cal BC 291	cal BP 2,303 - 2,240	0.693	cal BC 293	IAAA-151621	
			cal BC 231 - cal BC 203	cal BP 2,180 - 2,152				0.307
			cal BC 360 - cal BC 268	cal BP 2,309 - 2,217				0.613
			cal BC 265 - cal BC 196	cal BP 2,214 - 2,145	0.387			

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用

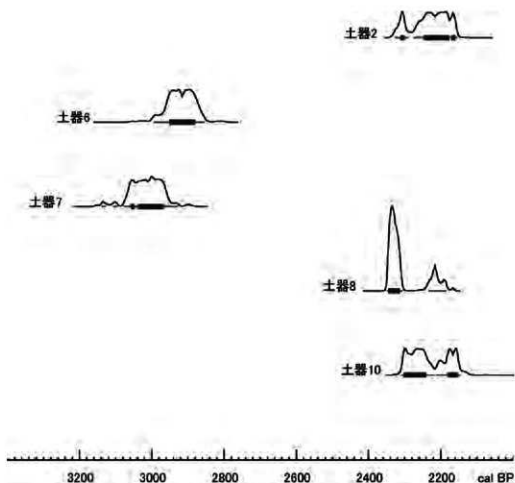
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である

5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

6)中央値は、確率分布面の面積が二分される値を年代値に換算したものである。



第116図 暦年較正結果

上述のように、本分析調査では再葬墓とされる遺構SK26の年代について、紀元前3～4世紀である可能性が示された。この結果は、SK26を弥生時代中期頃とする発掘調査所見と概ね矛盾しない。土器6・7で年代値が古くなった要因として、素地由来の炭素の影響について言及したが、今後は、出土状況、遺物の型式から考えられる年代観等を含め、検討する必要がある。

引用文献

- Reimer J Paula • Bard Edouard • Bayliss Alex • Beck J Warren • Blackwell G Paul • Ramsey Bronk Christopher • Buck E Caitlin • Cheng Hai • Edwards R Lawrence • Friedrich Michael • Grootes M Pieter • Guilderson P Thomas • Hafliadason Hafliði • Hajdas Irka • Hatté Christine • Heaton J Timothy • Hoffmann Dirk L • Hogg G Alan • Hughen A Konrad • Kaiser K Felix • Kromer Bernd • Manning W Sturt • Niu Mu • Reimer W Ron • Richards A David • Scott E Marian • Southon R John • Staff A Richard • Turney S M Christian • Plicht van der Johannes, 2013. Intcal13 and Marine13 Radiocarbon age Calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.
- Stuiver Minze and Polach A Henry, 1977. Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

第4章 総括

泉坂下遺跡では、平成18年の調査の際に7基の土坑から人面付壺形土器をはじめとする弥生土器や玉類が出土し、弥生時代中期の再葬墓が所在することが確認された。とはいえ、調査が行われたのは36mにすぎず、遺跡の適切な保護、保存、活用を図っていくためには、さらなる性格及び範囲の確認が必要であるため、平成24年度から確認調査を実施している。第1・2次調査においては、様々な成果が得られたものの、同時に課題も多く残されていた。

以下、今次調査の成果を踏まえ、これまで明らかになった点に考察を加えて総括する。

1 遺構分布状況(第117図, 第64表)

(1) 弥生時代

第2次調査までは、第60号土坑を北限、第1号土坑を南限とする南北幅約15m、第2・5号土坑を西限、第23号土坑を東限とする東西幅約10mの範囲で再葬墓が集中して、その西側に土器棺墓が疎に分布するものと考えてきた。

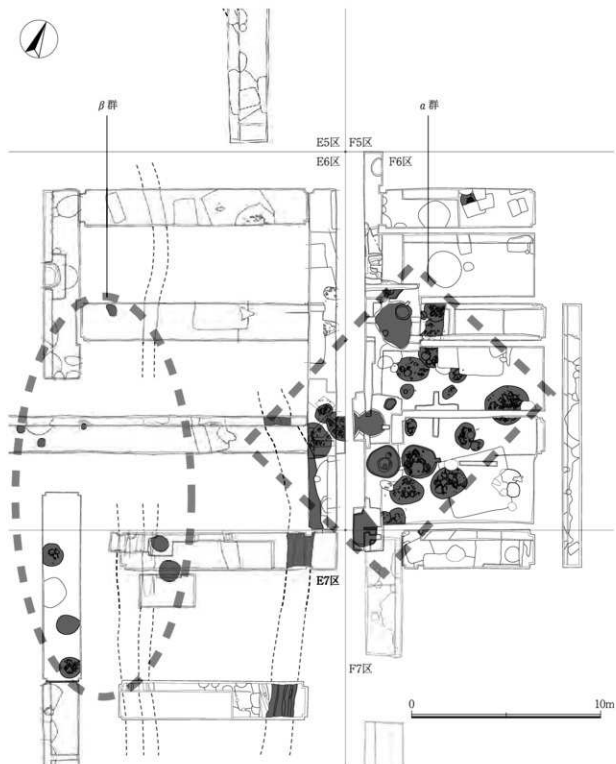
今次調査において、C・D地区と呼称した範囲からも新たな再葬墓が確認されたことについては、概ね想定通りであった。しかし、第5号土坑西側から、第152・153号土坑が確認されたことで、再葬墓の集中域については、これまでより範囲が西へ広がることとなった。さらに、第10トレンチ1・2区からは第108・110号土坑が確認され、土器棺墓が疎に分布すると考えていた範囲に、再葬墓の分布も見られることが判明した。こちらの分布範囲は十分に捉えておらず、これを確認していくことが第4次調査の課題として浮上した。

このように泉坂下遺跡では、これら弥生再葬墓群が、2群所在する状況である。第1・8・15トレンチ及びその周辺の再葬墓等が最も密に分布する範囲を α 群、第4・10トレンチ等、再葬墓等が疎に分布する範囲を β 群と、便宜的に名付けて整理した。 α 群は、長軸約13m、短軸約10m、主軸方向N-20°-Eの、いびつではあるが概ね長方形の範囲に納まり、北東端に第23号土坑、南東端に第1号土坑、南西端に第153号土坑、北西端に第6号土坑が所在する。

ここまでの調査で、弥生土器の埋納は、33基の土坑に計144点が確認されている。このうち、再葬墓と確実に呼べるものは21基、これらへの埋納土器は計132点が確認されている。また、土器棺墓と考えられるものは7基、これらへの埋納土器は計7点が確認されている。残る5基は、一次葬墓の可能性のある第9号土坑、再葬墓の可能性のあるものの判然としない第67・81・83号土坑及び第1号性格不明遺構である。

21基の再葬墓のうち、平成18年の調査で6基、今次調査で1基が遺構を掘り込んでの調査をされている。その結果、平成18年の調査では地権者が採集していた土器Kを含めて44点(人面付壺1, 壺43)、今次調査では第26号土坑の調査によって8点(壺)の埋納土器が取り上げられた。加えて平成18年の調査では、第9号土坑から1点(壺)、第1号性格不明遺構から4点(壺2, 甕2)を取り上げた。従って、これまでに確認できた計144点の埋納土器のうち、57点が取り上げられ、87点が埋没保存されている状況である。

再葬墓21基と埋納土器計132点は、 α 群の19基計126点、 β 群の2基計6点に分けられ、 β 群の範囲の限界が掴めていない現在の段階でも、その規模の差は明白である。今次調査で掘り込んだ第26号土坑は、 α 群に属する。また、土器棺墓7基と埋納土器計7点は、 α 群の3基計3点、 β



第117図 弥生時代遺構分布状況

群の3基計3点、その他の1基1点に分けられ、 β 群における土器棺墓比率の高さが目立つ。 α 群北方で単独で確認された第136号土坑については、 $\alpha \cdot \beta$ 群には含めず、その他という扱いをする。

なお、 α 群に属する第153号土坑が、第9号溝跡に切られている状況を確認できたことは、第9号溝跡と再葬墓群の時期関係を考えるうえで、重要な成果である。第9号溝跡は、第1次調査から今次調査まで継続して調査対象となっている遺構で、その出土遺物の中で最も新しいものは弥生土器（十王台式）であったため、その廃絶時期は弥生時代後期と考えている。 α 群の再葬墓

第16-4表 泉坂下遺跡再葬墓等一覽表

※ 器高の () は残存値、[] は推定値を表す

遺構番号	トレンチ	調査	確認できた 埋納土器	器種	主軸方向	器高 (cm)	口縁部	頸部	胴部		底面	備考	
									口縁部	頸部			胴部
SK1	1トレ	平成18	4点	土器1	人形付壺	南東	777	平縁、複合口縁	条痕文	条痕文	条痕文	木業痕	取り上げ
				土器2	壺	南東	454	平縁、複合口縁	散位短条痕文	散位短条痕文	散位短条痕文	木業痕	取り上げ
				土器3	壺	南南東	339	散流状、単純口縁	条痕文	条痕文	条痕文	木業痕	取り上げ
				土器4	壺	南南東	325	平縁、単純口縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器1	壺	南	(47.0)	—	—	—	—	無文	取り上げ
				土器2	壺	東南東	433	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器3	壺	南南東	496	平縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
SK2	1トレ	平成18	14点	土器4	壺	南東	454	平縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器5	壺	南東	529	平縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器6	壺	南西	(46.8)	流状	散位短条痕文、その上下は無文	散位短条痕文	散位短条痕文	木業痕	取り上げ
				土器7	壺	西南西	(55.8)	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	—	取り上げ
				土器8	壺	南南西	(44.1)	—	無文	無文	無文	—	取り上げ
				土器9	壺	南南西	44.2	平縁	無文	無文	無文	無文	取り上げ
				土器10	壺	南南西	55.0	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
SK3	1トレ	平成18	8点	土器11	壺	南南東	(32.3)	—	—	—	—	—	取り上げ
				土器12	壺	南南西	41.2	流状	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器13	壺	北北東	529	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器14	壺	東南東	39.1	平縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器K	壺	—	41.7	流状	条痕文	条痕文	条痕文	木業痕	取り上げ
				土器1	壺	北北西	33.2	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	木業痕	取り上げ
				土器2	壺	南東	(36.8)	流状、単純口縁	条痕文	条痕文	条痕文	—	取り上げ
SK3	1トレ	平成18	8点	土器3	壺	北西	(30.0)	平縁、複合口縁	無文	無文	無文	—	取り上げ
				土器4	壺	南	43.6	平縁、複合口縁	無文	無文	条痕文	木業痕	取り上げ
				土器5	壺	—	(15.4)	—	無文	無文	条痕文	—	取り上げ
				土器6	壺	東南東	45.6	平縁、複合口縁	無文	無文	条痕文	不明	取り上げ
				土器7	壺	直立	(19.8)	—	—	—	条痕文	木業痕	取り上げ

選購番号	トレンチ	調査	確認できた埋納土器	器種	主軸方向	器高 (cm)	口縁部	頸部	底部		備考		
									口縁	底面			
SK4	1トレ	平成18	8点	土器1	竪	西	735	平縁、複合口縁	無文	上部：帯状の単節縄文L.Rのヒト字文、下部：条痕文	底面	取り上げ	
				土器2	竪	直立	(262)	—	—	著しい上げ底	木業痕	取り上げ	
				土器3	竪	直立	446	平縁、複合口縁	無文	条痕文	やや凸面の平底	木業痕	取り上げ
				土器4	竪	直立	609	平縁、単純口縁	条痕文	条痕文	平底	木業痕	取り上げ
				土器5	竪	直立	582	平縁、複合口縁	無文	条痕文	上げ底	木業痕	取り上げ
				土器6	竪	直立	537	平縁、複合口縁	条痕文	条痕文	平底	縄代痕	取り上げ
				土器7	竪	南東	(228)	—	—	上部～中央部：磨消の単節縄文L.Rのヒト字文、下部：単節縄文L.R	やや上げ底	木業痕	取り上げ
				土器8	竪	西	221	平縁、単純口縁	無文	無文	上げ底	木業痕	取り上げ
SK5	1・4・5トレ	平成18・第1次・第2次・第3次	13点	土器1	竪	南南東	556	平縁、複合口縁	無文、上部：無文、中央部～下部：縦位短条痕文	縦位短条痕文	平底	木業痕	取り上げ
				土器2	竪	南南東	395	平縁、複合口縁	無文	単節縄文L.R、一部磨消文	平底	布目痕	取り上げ
				土器3	竪	南東	533	波状、複合口縁	無文	条痕文	平底	縄代痕	取り上げ
				土器4	竪	南東	(529)	—	—	無文	上げ底	木業痕	取り上げ
				土器5	竪	南南東	479	平縁	無文	条痕文	上げ底	木業痕	取り上げ
				土器6	竪	南南東	(239)	—	—	無文	平底	木業痕	取り上げ
				土器7	竪	南東	[300～350]	—	—	無文	上げ底	木業痕	取り上げ
				土器8	竪	南南東	[300～350]	—	—	無文	平底	木業痕	取り上げ
				土器9	竪	南東	[600]	単純口縁	無文	単節縄文L.R	—	—	—
				土器10	竪	南南東	—	波状、複合口縁	無文	単節縄文L.R	—	—	—
				土器11	竪	南南東	—	複合口縁	無文	L.R+R縄文	—	—	—
				土器12	竪	南東	—	—	無文	単節縄文L.Rに磨消縄文と沈痕	—	—	—
SK6	1トレ	平成18	3点	土器1	竪	東南東	391	平縁、複合口縁	条痕文	条痕文	平底	取り上げ、滑石製玉6点含	
				土器2	竪	東	(536)	—	無文	縦位短条痕文	(別個体) 平底	取り上げ	
				土器3	竪	東	440	平縁、複合口縁	無文	帯状の単節縄文L.Rの磨消文	上げ底	木業痕	取り上げ
				土器1	竪	直立	(122)	—	無文	単節縄文L.R	平底	不明	取り上げ
				土器1	竪	北東	—	—	—	—	—	—	—
				土器1	竪	北東	—	—	無文	縄文	—	—	—
SK21	4トレ	第1次	1点	竪	—	—	—	附加系縄文	—	—			

選購番号	トレナチ	調査	確認できた 埋納土器	器種	主軸方向	器高 (cm)	口縁部	頸部	胴部		備考				
									条痕文	底面					
SK23	8トレ C地区	第1, 3次	15点	土器1	竪	竪立	—	—	—	条痕文	—				
				土器2	竪	竪立	—	—	—	無文	—	—			
				土器3	竪	南	—	—	—	—	L,R横文	—			
				土器4	竪	南	—	—	—	—	条痕文	—			
				土器5	竪	南	—	—	—	—	横文L,R	—			
				土器6	竪	竪立	—	—	—	—	条痕文	—			
				土器7	竪	竪立	—	—	—	—	条痕文	—			
				土器8	竪	東南東	[300]	—	—	—	中央部:横文L,R,下部:条痕文	—	無文		
				土器9	竪	北	—	—	—	—	—	—	—		
				土器10	竪	竪立	—	—	—	—	条痕文	—	—		
				土器11	竪	南東	—	—	—	—	条痕文	—	—		
				土器12	竪	竪立	—	—	—	—	条痕文	—	—		
				土器13	竪	東南東	—	—	—	—	条痕文	—	—		
				土器14	竪	東南東	[500~550]	—	—	—	上部:条痕文,下部:無文	—	—		
				土器15	竪	竪立	—	—	—	—	条痕文	—	—		
SK24	8トレ	第1, 3次	3点	土器1	竪	西南西	[450]	—	—	条痕文	—	無文			
				土器3	竪	南西	—	—	—	—	—	—			
				土器4	竪	西	—	—	—	—	条痕文	—	—		
				土器1	竪	北西	—	—	—	—	条痕文	—	—		
SK25	8トレ	第1, 3次	2点	土器1	竪	西北西	[400~450]	—	—	条痕文	—	—			
				土器2	竪	南	500	波状,複合口縁	無文	—	条痕文	—	木葉痕か取り上げ		
SK26	8トレ	第1, 3次	8点	土器2	竪	南西	420	平縁	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ		
				土器5	竪	南東	496	波状	条痕文	—	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ
				土器6	竪	南東	468	波状,複合口縁	無文	—	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ
				土器7	竪	南	452	波状	条痕文	—	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ
				土器8	竪	南	688	小波状,複合口縁	突部彫付,条痕文	—	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ
				土器9	竪	南	(411)	—	無文	—	条痕文	—	平底	木葉痕	取り上げ
				土器10	竪	南	(385)	—	—	—	単部横文L,R	—	平底	無文	—
SK30	8トレ	第1, 3次	1点	土器1	竪	東北東	—	—	—	—	—	—			
SK59	15トレ	第2, 3次	1点	土器1	竪	南東	—	—	—	—	—	—			

遺構番号	トレンチ	調査	埋納土器	器種	主軸方向	器高 (cm)	口縁部	頸部	胴部		備考	
									形状	底面		
SK60	15トレンチ	第2・3次	土器1	壺	北東	[500~550]	—	方形常備文	上部：渦文、下部：単節縄文L R	—	—	
			土器2	壺	北東	[400~500]	—	無文	単節縄文L R	—	—	
			土器3	壺	東南東	[450~500]	—	条痕文	条痕文	—	—	—
			土器4	壺	直立	[350~380]	—	無文	無文	条痕文	—	—
SK61	15トレンチ	第2・3次	土器1	壺	南	[700]	—	縄文	上部：磨消縄文のヒトデ文、下部：条痕文	—	—	
			土器2	壺	—	—	—	—	単節縄文L R	—	—	
			土器3	不明	—	—	—	—	—	—	—	—
SK67	14トレンチ	第2次	—	—	—	—	磨消縄文のヒトデ文	磨消縄文のヒトデ文	—	木葉痕		
SK81	18トレンチ	第2次	—	—	—	—	—	磨消縄文による縄文帯	—	—		
SK83	18トレンチ	第2次	—	—	—	—	—	—	—	—		
SK108	10トレンチ	第3次	土器1	壺	—	—	—	無文	中央部：L R縄文、下部：磨消縄文	—	—	
			土器2	壺	—	—	—	無文	無文	—	—	
			土器3	壺	—	—	—	無文	無文	上部：縄文L R、下部：条痕文	—	—
SK110	10トレンチ	第3次	土器1	壺	南南西	—	—	—	L R + R R 縄文	—	—	
			土器2	壺	北西	—	—	—	—	—	—	
			土器3	壺	西北西	[450~500]	—	—	—	条痕文	—	—
SK113	C地区	第3次	土器1	壺	南南西	[400]	—	—	条痕文	—	—	
			土器2	壺	南南西	[460]	—	—	—	粗い縦ナデ	—	—
			土器1	壺	南南東	[450]	—	—	—	上部：結節文3列、中央部～下部：L R + R 縄文	—	—
SK114	C地区	第3次	土器2	壺	南南西	[330~350]	—	—	上部：結節文、中央部～下部：条痕文	—	—	
			土器3	壺	—	[550]	—	—	条痕文	—	—	
			土器4	壺	西北西	—	—	—	—	—	—	
			土器5	壺	—	—	—	—	—	—	—	
			土器6	壺	—	—	—	—	—	—	—	
SK115	C地区	第3次	土器1	壺	東北東	[550]	—	—	中央部：縄文L R、下部：条痕文	—	—	
			土器2	壺	南東	[400]	—	—	条痕文	—	—	
			土器3	壺	南南西	[280]	—	—	無文	—	—	
			土器4	壺	—	—	—	—	—	—	—	
			土器5	壺	—	—	—	—	—	上部：カナムグク同脈文、下部：無文	—	—
SK116	C地区	第3次	土器1	壺	直立	[120]	—	—	下部：網目状器文	—	—	

遺構番号	トレンチ	調査	確認できた埋納土器	器種	主軸方向	器高 (cm)	口縁部	頸部	胴部		備考				
									底部	底面					
SK117	D地区	第3次	13点	土器1	竈	—	—	—	—	条直文	—	—			
				土器2	甕	南	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器3	甕	南	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器4	甕	北	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器5	甕	西北西	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器6	甕	直立	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器7	甕	南	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
				土器8	甕	南	—	—	—	—	—	無文	—	—	
				土器9	甕	南南西	—	—	—	—	—	中央部：条直文、下部：無文	—	—	
				土器10	甕	南南東	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器11	甕	南南西	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器12	甕	南南東	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器13	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK118	D地区	第3次	5点	土器1	甕	東北東	—	—	—	—	—	—			
				土器2	甕	北北西	[450 ~ 500]	—	—	—	中央部：縄文L R、下部：無文	—	—		
				土器3	甕	—	—	—	—	—	—	—	—		
				土器4	甕	—	—	—	—	—	—	無文	—	—	
SK136	24トレ	第3次	1点	土器1	甕	直立	—	—	—	—	—	—			
				土器2	甕	南東	—	—	—	—	—	下部：L R R RまたはL R + 2 R 縄文	—	無文	
SK152	25トレ	第3次	2点	土器1	甕	東	—	—	—	—	—	—			
				土器2	甕	東	—	—	—	—	—	条直文	—	—	
SK153	25トレ	第3次	8点	土器1	甕	東	—	—	—	—	—	—	—		
				土器2	甕	東	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器3	甕	東	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器4	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器5	甕	東南東	—	—	—	—	—	—	条直文	—	—
				土器6	甕	—	—	—	—	—	—	—	条直文L R	—	—
				土器7	甕	北北東	—	—	—	—	—	—	条直文L R	—	—
				土器8	甕	北東	—	—	—	—	—	—	条直文L R	—	—
SX1	1トレ	第1次	4点	土器1	甕	東	(37.7)	複合口縁か	—	—	—	—	—		
				土器2	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器3	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				土器4	甕	東	(33.7)	平縁、単純口縁	—	—	—	—	—	—	

で、第9号溝跡との重複が確認できるのは第153号土坑だけだが、位置関係からすると、第9号溝跡の構築によって再葬墓が何基か失われた可能性はある。なお、第19号トレンチで確認されたことによって、第9号溝跡は、等高線に沿って曲がるのではなく、走向を少しずつ変化させながら南北に長く伸びることが判明した。

また、現在の泉坂下遺跡は水田として利用されていたため、現地表面から20cm前後までは攪乱が及んでいるが、それ以下の層は概ね良好な状態で残されている。埋納土器に攪乱が達している再葬墓も多いが、全体として保存状態は良好と言える。

(2) その他の時代

今次調査では、再葬墓の全体像の把握が目的であるため、これまでの調査成果に基づき、再葬墓の集中域を面的に調査し、前述のとおり結果が得られた。その一方、他の時代の遺構も多く確認された。

第10号トレンチ1・2区では、縄文時代晩期の遺構と考えられる第123号土坑が、β群に属する第108・109号土坑と並んで確認された。これまでの調査で、泉坂下遺跡の立地する低位段丘東寄り、舌状の先端に近い範囲には弥生時代中期、低位段丘西寄り、舌状の根本に近い範囲には縄文時代晩期の遺物の散布が濃い傾向があることが判っている。第10号トレンチ1・2区は低位段丘のほぼ中央に位置しており、これらの時代の遺物散布の重複する範囲でもある。

また、再葬墓α群との関係で注意すべきは、平安時代の竪穴住居跡である。今次調査では8軒の竪穴住居跡が調査対象となり、うち3軒でα群の再葬墓等との重複関係が確認された。まず、C地区の第21号竪穴住居跡は、第113号土坑を切る。また、第24号トレンチの第24号竪穴住居跡は、第136号土坑を切っていると推測されるが、掘り込み面が浅く、現代の耕作により床面等が失われているため、直接の切り合いは確認できなかった。しかし、状況から、第136号土坑の埋納土器は、住居跡の掘り込み面より下方にあったため攪乱を免れたと考えられる。さらに、D地区に所在する第20号竪穴住居跡は、第117号土坑を平面で6～7割程度切っはいるが、掘り込みは浅く、住居跡の掘り込み面下に第117号土坑が残存している。

今次調査では、遺構の保存を念頭に置いているため、原則として遺構の掘り込みはしておらず、それは平安時代の竪穴住居跡も例外ではない。従って、これら未掘の遺構の下に、未発見の再葬墓等が所在している可能性は十分にある。

このほか、調査区域一帯には時期不明の土坑が多く確認されているが、これらは後世の土地利用の影響である。

2 第26号土坑

今次調査では、サンプルとして再葬墓を1基だけ掘り込んで調査した。その対象は、協議の結果、保存状態の良い第26号土坑を選んだ。泉坂下遺跡での再葬墓の調査は、平成18年調査時の6基（第1号性格不明遺構を含めない）に続き、7基目となる。

(1) 概要 (第65表)

第26号土坑はF6b8区、F6c8区、F6b9区、F6c9区に跨って所在する。これは再葬墓α群の中央からやや南西寄りとなる。平面は長軸190cm、短軸170cm、長軸の方位はN-71°-Wの不整な楕円形である。壁高は確認面から最大高26cmを測り、外傾して立ち上がっている。底面は概ね平坦である。覆土の多くを占める層は黒褐色(7.5YR2/1)で、黄褐色ローム(10

第65表 泉坂下遺跡調査済再葬墓規模等比較

調査	第3次	平成18年					
		SK 1	SK 2	SK 3	SK 4	SK 5	SK 6
遺構番号	SK26						
長軸 (m)	1.90	1.95	2.27	1.47	[1.50]	1.85	[1.20]
短軸 (m)	1.70	1.45	1.87	1.25	[1.50]	1.70	[0.80]
壁高 (m)	0.26	0.24	0.20	0.16	0.14	0.25	0.18
埋納土器数	8	4	14	8	8	13	3
時期	泉坂下Ⅰ期	泉坂下Ⅱ期	泉坂下Ⅰ期	泉坂下Ⅰ期	泉坂下Ⅰ期	泉坂下Ⅱ期	泉坂下Ⅱ期

※推定値は []

YR 8 / 6) 粒子を少量含み、粘性はやや強い。南部に径60cmの円形の攪乱がある。埋納されていた壺形土器は8点が確認されている。

また、平成18年調査の際の、縦短条痕文の有無による時期差という視点に倣うと〔鈴木素 2011〕、第26号土坑は新しい方の泉坂下Ⅱ期には含まれず、土器8のような古い特徴を持つ土器も埋納されていることから、泉坂下遺跡の再葬墓の中では古い方の所産と考えられる。

(2) 埋納土器 (第118図)

埋納されていた壺形土器は8点が確認されている。ただし、第26号土坑は南部に径60cmの円形の攪乱があり、これによって埋納土器数点が失われたことは確実な状況である。

なお、泉坂下遺跡が再葬墓として注目されるようになったきっかけは、地権者が土器Kを土中から掘り上げたことであるが、その後、この土器Kは平成18年の調査の際に地権者の記憶を頼りとして、第3号土坑にある攪乱部から抜き取られたものと判断された経緯がある。万一のため、第26号土坑の覆土中の土器片はすべて土器Kと照合したが、同一個体と考えられる土器は見つからなかった。

①器高 (第66表)

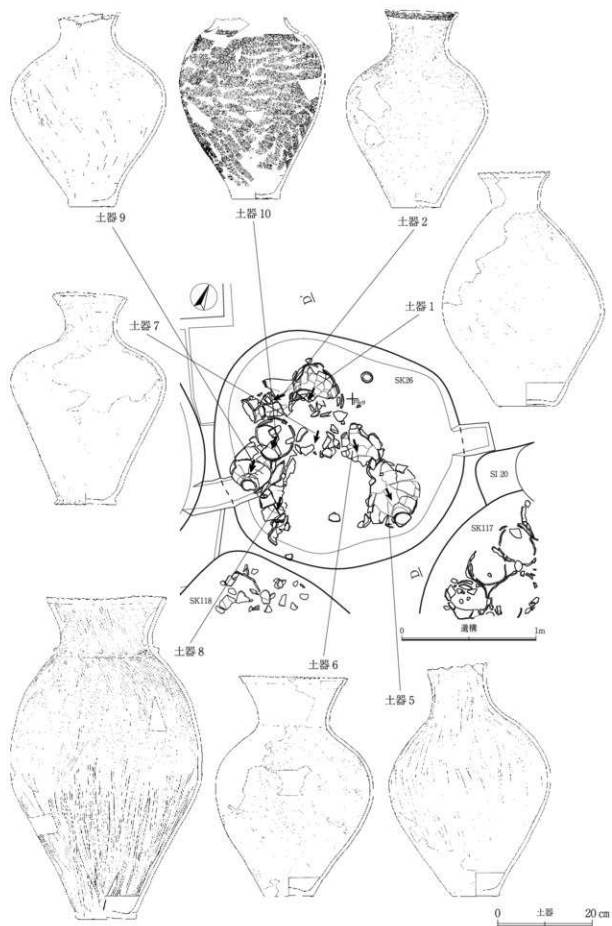
平成18年調査の際、器高が計測できた29点の埋納土器を、器高で分類しているため〔鈴木素 2011〕、これに倣う。〔泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—〕(鈴木素, 2011) から引用・改訂し、第26号土坑の埋納土器8点を分類して加えたものが第66表である。

土器9・10は残存値であるが、いずれも口縁部を欠くのみであり、第26号土坑の埋納土器は、1点は超大型、7点は大型に分類できると考える。よって、平成18年調査で認められた分布傾向に整合する。また、第1号土坑の人面付壺形土器が最大という状況にも変更はない。

なお、このほかに今次調査までで、確認面までの観察で捉えられた埋納土器は計87点あり、そのうち器高を推定できた埋納土器は計23点ある。これらを超大型1点、大型16点、中型4点、小型2点に分類することは可能であるが、確認面までの調査で、土坑により推定値の掴みやすさに差があるため、参考に留めたい。

②胴部の形態と文様 (第67表)

平成18年調査の際、胴部長に対する胴部最大径の比率(「比率A」とする)、胴部長に対する胴



第118図 第26号土坑埋納土器

第66表 器高による埋納土器分類

分類	器高の範囲 (cm)	平成18年 調査時 個体数	SK26 (第3次調査)		
			個体数	該当個体	左記の器高 (cm)
超大型	68～78	2	1	土器8	68.8
大型	38～62	23	7	土器1 土器2 土器5 土器6 土器7 土器9 土器10	50.0 42.0 49.6 46.8 45.2 (41.1) (38.5)
中型	32～34	3	0	-	-
小型	22～24	1	0	-	-

※残存値は()

部最大径までの高さの比率（「比率B」とする）の2つを指標として胴部形態を検討しており、数値の接近した20点の埋納土器を6類型として抽出しているため〔鈴木素2011〕、これに倣う。第26号土坑の埋納土器8点は、胴部長、胴部最大径、胴部最大径までの高さが計測可能だったため、以下の数値が算出できた。

土器1 比率A0.83 比率B0.48 土器2 比率A0.92 比率B0.65
土器5 比率A0.90 比率B0.63 土器6 比率A0.92 比率B0.60
土器7 比率A0.94 比率B0.77 土器8 比率A0.73 比率B0.84
土器9 比率A0.96 比率B0.68 土器10 比率A0.88 比率B0.71

〔泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—〕（鈴木素、2011）から引用・改訂し、第26号土坑の埋納土器を分類して加えたものが第67表である。第26号土坑の埋納土器については、±0.03までの範囲を近似値として分類する。

半数の4点の土器が6類型の近似値を示し、平成18年の調査で確認された土器の胴部形態類型によって分類可能である。その一方、6類型に当てはまらない土器が4点ある。平成18年調査で確認された埋納土器は、比率A0.67～1.14、比率B0.55～0.78の範囲に分布しており、第26号土坑の土器2・6はこの分布域内に納まる。この分布域に納まらない2点は、いずれも比率Bが分布域から外れており、土器1は分布域を下方に外れて下膨れの形態、土器8は分布域を上方に外れて肩張りのような形態を示す。

また、泉坂下遺跡の再葬墓埋納土器の胴部文様は、大きく縄文、条痕文、無文に分けることができる〔鈴木素2011〕。第26号土坑の埋納土器8点の胴部文様は、土器10が縄文（単節縄文LR）で、ほかの7点は条痕文である。胴部形態の類型と文様の対応については、平成18年の調査の際に胴部形態A・D・Eが条痕文のみ、胴部形態Fが縄文のみ、胴部形態Bは条痕文が多く、胴部形態Cは縄文の方が多という結果が得られており〔鈴木素2011〕、胴部形態Cに分類される土器10は縄文、これ以外は条痕文という状況は、これまでの傾向に整合する。

第67表 胴部形態による埋納土器類型

分類	胴部比率の範囲 (平成18年調査時)	平成18年 調査時 土器数	SK26(第3次調査)で 近似値を示した土器	
			土器数	個体
胴部形態A	比率A 0.67 比率B 0.60～0.61	2	0	-
胴部形態B	比率A 0.73～0.77 比率B 0.66～0.70	7	0	-
胴部形態C	比率A 0.84～0.86 比率B 0.68～0.70	5	1	土器10 比率A0.88 比率B0.71
胴部形態D	比率A 0.85～0.87 比率B 0.61～0.62	2	1	土器5 比率A0.90 比率B0.63
胴部形態E	比率A 0.91～0.92 比率B 0.74～0.75	2	1	土器7 比率A0.94 比率B0.77
胴部形態F	比率A 0.98～1.00 比率B 0.68～0.69	2	1	土器9 比率A0.96 比率B0.68

③底面痕跡

平成18年の調査では、土器底面は泉坂下Ⅰ期では木葉痕を主とし、網代痕が混じり、泉坂下Ⅱ期になると木葉痕を主としつつも、網代痕のほかに布目痕も混じり出すという傾向が固めていた〔鈴木素2011〕。第26号土坑の埋納土器8点の底面痕跡は、土器10が無文で、ほかの7点は木葉痕と考えられる。第26号土坑は、縦位短条痕文を含まず、泉坂下Ⅰ期に属する可能性が高いため、これまでの傾向に整合するものである。

(3)年代測定

埋納土器8点のうち、採取可能な5点の土器付着炭化物によって、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、土器2・8・10の3点から、紀元前3～4世紀を示す数値が得られた。

なお、平成18年の調査の際にも年代測定は行われている。第3号土坑土器4・第2号土坑土器2の2点を対象として、「再葬された時期は、さかのぼったとしても、紀元前2世紀以降」という結果が得られている〔鈴木素2011〕。

第3・4・26号土坑は、いずれもa群に位置し、泉坂下Ⅰ期に属している再葬墓である。にも拘わらず、測定結果にこれだけの差が生じており、今後はさらにサンプル数を増やした年代測定を実施し、検証していく必要がある。

3 再葬墓に係る考察

(1)再葬墓構築時期の周辺環境

今次調査では、第26号土坑覆土のサンプルを花粉分析し、また、残る覆土の水洗選別により確認された炭化種実の同定を行った。

まず、花粉については、選択的に残った可能性があるマツ属、スギ属、シダ類胞子の花粉化石が若干見られた程度で、十分な成果は得られなかった。確認された花粉化石はいずれも遺存状態

が悪く、泉坂下遺跡の土中が好気的環境下にあることで、これらを残りにくくさせているものと考えられる。その一方で炭化種実については、多くの成果が得られた。オニグルミ、クリ、ムクロジ、トチノキといった落葉広葉樹が、確認された炭化種実の大半を占めており、特にオニグルミ、トチノキといった河畔林を形成する木本類は、久慈川右岸の低位段丘上という泉坂下遺跡の立地環境をよく反映している。ただし、泉坂下遺跡の第Ⅱ層は縄文の遺物包含層であり、これに含まれていたものが混入した可能性は十分にあるため、注意が必要である。さらに、イネ、オオムギ、コムギ等といった栽培種の炭化種実も確認されている。これらは平成18年の調査でも確認されており〔鈴木素2011〕、再葬墓が構築された時期に、周辺で日常的な栽培が行われていた可能性が窺われる。

このほか、第26号土坑土器10からは4箇所の種実等の圧痕が確認されており、分析の結果、うち2箇所がイネと同定されている。これらの結果は、再葬墓が構築された時期の周辺環境考証の一助となるだろう。

(2) 再葬墓群の形成 (第68表)

今次調査までに確認された再葬墓等を埋納土器数別にまとめたものが第68表である。同時に、現時点で確認されている埋納土器数による再葬墓等の分類を便宜的に行った。確認されている埋納土器数の平均値は約5点であるため、埋納土器が4～6点の再葬墓を中型、7点以上のものを大型、2～3点のものを小型とし、1点のものを土器棺墓として分類した。これに、平成18年の調査の際に行われた、縦位短条痕文の有無による時期差〔鈴木素2011〕に倣い、泉坂下Ⅰ期と泉坂下Ⅱ期の区分を加えた。無論、各遺構の埋納土器数はさらに増える可能性があり、それに伴い縦位短条痕文の土器が確認される可能性がある。あるいは、泉坂下Ⅱ期の遺構であっても偶々縦位短条痕文を含まなかった可能性もある。あくまで現時点で把握できている状況からということに

第68表 再葬墓等埋納土器数別一覧

確認できた埋納土器数	種別	遺構番号			
		α群		β群	その他
		泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅱ期	泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅰ期 (または不明)
15	大型 再葬墓	SK23	—	—	—
14		SK 2	—	—	—
13		SK117	SK 5	—	—
8		SK 3・4・26・153	—	—	—
6	中型 再葬墓	SK114	—	—	—
5		SK115・118	—	—	—
4		SK60, SX 1	SK 1	—	—
3	小型 再葬墓	SK24・61	SK 6	SK108・110	—
2		SK25・113・152	—	—	—
1	土器棺墓	SK30・59・116	—	SK19・20・21	SK136
不明	—	—	—	SK67・81・83	—

留意しなくてはならないが、一応の傾向を導くことができる。

それは、 α 群には泉坂下Ⅰ期と泉坂下Ⅱ期が混在するのに対し、 β 群には泉坂下Ⅱ期が含まれていないという点である。単純に見れば、泉坂下Ⅰ期には α 群と β 群の2区域に再葬墓が構築されていたが、泉坂下Ⅱ期にはそれらが α 群の1区域に集約されたか、あるいは β 群が存続されなかったと考えることができる。ただし、 α 群の泉坂下Ⅰ式と、 β 群の泉坂下Ⅰ式の時期関係も不明なため、場合によっては α ・ β の2群ではなく、3群以上に分けられる可能性もある。これを検証するためには全遺構を掘削する必要があるが、確認調査の趣旨からしてそれは不可能である。

(3) 再葬のプロセス

再葬とは、遺体を一旦土葬（一次葬）し、骨化した後に掘り上げ、骨を土器に納めて再び埋納（再葬）するというプロセスを踏むものと一般に考えられている。そのプロセスについて、泉坂下遺跡で今次調査までに得られた知見に基づき、埋納手順に沿って考察する。

①骨化の手段（第119図）

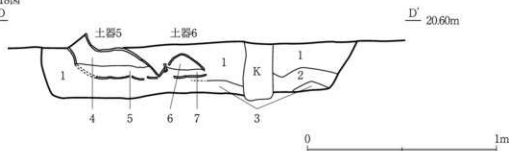
今次調査では、第26号土坑で8点の壺形土器の埋納が確認されている。この埋納土器内の土層堆積状況を観察したところ、8点すべてで上下2層に分層できた。これは、土器内に空洞を有したまま埋納され、埋没後に土坑の覆土が流入したためと考えられる。8点の土器のうち、土器1・2・5・6・8・10は土層にローム小ブロックを少～極少量含んでいるが、第26号土坑の覆土には、黄褐色ローム（10YR 8/6）が粒子状に少量含まれてはいるものの、ブロック状を呈してはいない。土器は原位置がほぼ保たれており、動植物の攪乱等もなく後世の混入も考えにくい状況であるため、埋納土器内土層にロームがブロック状で所在するのであれば、埋納以前にその由来を求めることとなる。平成18年調査の際には、土器内のロームブロックは、一次葬墓から掘り上げた骨に付着して、再葬時に骨とともに土器内に入ったと考察している。ロームの付着したままの骨を土器に入れて埋納し、その骨が腐食する前に土壌が流入して、骨に付着したロームの原位置を残して堆積したため、ブロック状に土層中に残ったという考えである〔鈴木素2011〕。ロームが付着したままの骨を土器に入れたという状況は、泉坂下遺跡では、土葬によって骨化したと考えられる根拠であり、煮るような、あるいは風葬のような骨化行為を否定する根拠でもある。また、泉坂下遺跡では焼人骨は確認されていない。

②一次葬墓

平成18年調査時には、再葬墓等7基が確認されたのと合わせて、直径0.7～1.0mの略円形の土坑が3基（第7～9号土坑）確認され、状況から一次葬墓と推定された〔鈴木素2011〕。

今次調査までに、泉坂下遺跡では大小合わせて33基の土坑に、計144点の弥生土器が埋納されていたことが確認されている。トレンチ調査の性格上、未調査の部分も多く、実際の埋納土器数がこれよりも多いことは確実な状況である。埋納土器全点が骨蔵器とは限らないが、1点の土器に1人分の人骨を納めて再葬したと考え、泉坂下遺跡には百数十人分の遺骨が葬られた計算になる。しかし、今次までの調査で確認された土坑は159基あるものの、ここから再葬墓等や中世墓塚14基ほか性格の明らかなものを除くと、残りは100基程度である。さらに、廃絶時期が弥生時代である可能性を否定されず、かつ成人に限らずとも遺体を土葬可能な規模の土坑を抽出しようとする10基にも満たない。トレンチ調査のため、まだ見つからない土坑も多くあるは

第118図
D



土層解説

- 1 黒褐色 (7.5YR 2/1) 黄褐色ローム (10YR 8/6) 粒子少量、粘性やや強
 2 黒褐色 (7.5YR 2/1) 黄褐色ローム (10YR 8/6) 粒子多量
 3 黄褐色ローム (10YR 8/6) 黒褐色 (7.5YR 2/1) 土多量、1・2層と比較すると締まり強。土坑周囲より中央部が高いため、埋納土器を据えるための置き土と考えられる
 4 褐色 (10YR 3/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、N t - S 極少量、炭化物粒子極少量、焼土粒子極少量、白色骨粉極少量、締まり弱、粘性弱
 5 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、N t - S 極少量、締まりやや弱、粘性中。5層より黒味が強く、有機質が強い
 6 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、N t - S 極少量、N t - I 極少量、締まり中、粘性弱
 7 黒褐色 (10YR 3/2) ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量、N t - S 極少量、N t - I 極少量、締まり中、粘性やや弱

第119図 第26号土坑土器内土壌堆積状況

ずだが、いかにもバランスが悪い。ここまでの調査結果からすると、泉坂下遺跡に再葬された人々の一次葬墓が、必ずしも泉坂下遺跡内に所在するものではないと考えたほうが自然である。

なお、他所の土地で掘り起した骨を泉坂下遺跡へ持ち込むためには、やはり壺形土器に入れて運搬したほうが容易であろう。多様な製作技術による、あるいは時期のずれた壺形土器が一つの再葬墓に埋納されていることも、それにより説明される。

③洗骨はあったか (第119図)

平成18年調査の際、ロームブロックが付着したまま骨を土器内に納めたのであれば、再葬の過程で洗骨のような行為は行われていなかったと考察されていて〔鈴木素2011〕、今次調査の第26号土坑でも同様の結果が得られた。洗骨は、日本では沖縄等の南西諸島、また中国等のアジア諸国のほか、世界各地にあった風習で、土葬や風葬等で骨化させた後、洗って改葬する葬法である。一次葬の時点では死者は穢れていて、洗うことで死者は清められるというのが、洗骨改葬に係る概ね共通した考え方である〔藤2001〕。弥生の再葬とよく比較される洗骨改葬であるが、泉坂下遺跡での再葬においては、骨を洗うような行為はなかったと考えられる。

④土器に骨は入っていたか

泉坂下遺跡で出土する骨片は、被熱して灰色から白色に変色した小破片のみで、ほとんどが獣骨であり、人骨と同定できるものは見つからない〔鈴木素2011〕。

そこで、今次調査では第26号土坑の土器内土壌について、リン酸、カルシウム等の成分分析を

実施した。その結果、土器内、土器外遺構内、遺構外の全サンプルでリン酸は天然賦存量より多く検出されたものの、カルシウムは天然賦存量を超えるサンプルはなかった。カルシウムは流亡しやすいため致し方ないが、リン酸が多く検出されたことは、人骨の埋納を示す可能性はあるが、遺構外のサンプルも同様に検出されており、農地として使用されてきた泉坂下遺跡の現況を考えると、一概に結論付けるのは難しい。

⑤再葬に用いる堅穴

今次調査までに泉坂下遺跡では、第26号土坑を含めて7基の再葬墓が掘り込んで調査されている。これらの成果から窺える再葬用の堅穴の形状について考える。

これまでに調査した7基の平面形は、大小の違いはあるが概ね楕円形や略円形等を呈しており、その他、確認のみに留めた14基も同様の傾向を示す。ほとんどが埋納土器の総容積に合わせた規模で掘削されており、埋納土器の総量を意識した掘り方とも考えられる。ただし、第1号土坑のような例外もあるため、土器の埋納されない空間の調査は今後の課題として残った〔鈴木素2011〕。

また、調査した7基の底面はほぼ平坦である。底面に傾きや凹凸があれば不安定な壺形土器を並べるのは難しくなるため、土器を並べることを意識したものと考えられる。壁は外傾しているが傾きは概ね60°～90°の範囲に納まり、遺構断面は長方形に近い逆台形を呈する。さらに、確認できる壁高は26～14cmである。再葬墓a群付近は、地表面から25～20cm程度まで耕作による攪乱を受けた第I層・第IB層が分布し、現代の耕作に伴い若干削平されている。それらを考慮すると、堅穴の掘削時の深さは、70～50cmの範囲に納まるものと考えられる。これは、大型の壺形土器を並べて埋納するには、手頃な深さといえるだろう。これらの状況から、土器の埋納を目的とした、はっきりした設計思想が伝わってくる。

なお、再葬のための堅穴の深さが70～50cmと考えると、これを再葬前に一次葬墓として使用するには、小児用としてはまだしも、成人用としては少々不足な感を否めない。

⑥副葬品等

平成18年調査では、埋納土器内土壌を水洗選別したところ、第6号土坑の土器1内から、副葬品と考えられる滑石製玉6点が出土した〔鈴木素2011〕。

今次調査では、第26号土坑について、分析用サンプルを除き、土器内土壌と遺構覆土の水洗選別を実施したが、副葬品と考えられる遺物は確認できなかった。また、水洗選別により抽出された炭化種実について同定を行ったところ、オニグルミ等食用の木本類やイネ等の栽培種が確認されているものの、分布状況等から、周辺土壌からの混入の可能性が高く、副葬の可能性を言及することはできなかった。また、第26号土坑の覆土からも、被熱した骨片が出土しているが、これも縄文の包含層である周辺土壌からの混入の可能性が高く、副葬と判断できるような出土ではなかった。さらに、シャニダール洞窟のネアンデルタール人のような事例も考えて、土壌の花粉分析も行ったものの、泉坂下遺跡の立地環境等の要因から保存状態が悪く、献花等についても言及できなかった。土製品・石製品等の副葬、食物の供膳、別れ花の3種類のアプローチを試みたが、第26号土坑ではいずれも成果を得ることはできなかった。

⑦埋納の据え置き方 (第120・121図, 第69・70表)

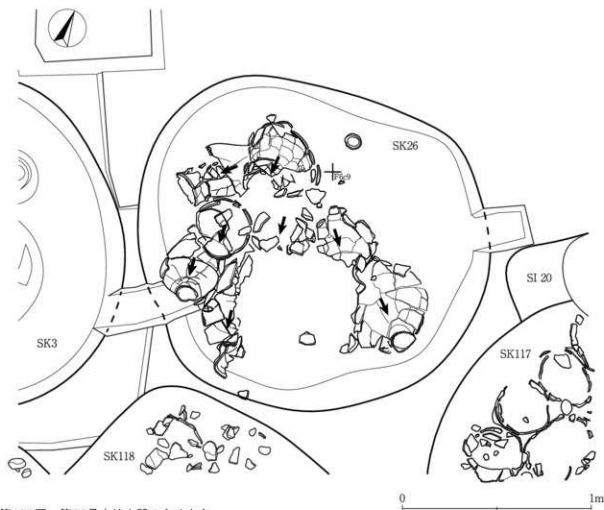
土器埋納の際の据え置き方には、大きく分けて2種類の方法がある。土器を直立させて並べる方法と、土器を横転あるいは傾けて並べる方法である。

前者は、第4・23号土坑にまとまって見られる方法である。第4号土坑では埋納された8点のうち5点、第23号土坑では15点のうち7点が直立して据え置かれており、いずれも横転した土器を伴って埋納されている。このほかに直立して埋納されたと考えられる土器は第3・60・117・118号土坑にも各1点が見られ、第116号土坑のように土器棺墓でも見られる。

この他、大多数の土器の据え置き方は、後者に属する。第26号土坑で確認された8点の埋納土器は全て斜めに倒れていて、東西3列の配列が考えられる。2・3番目の列の土器はその頸部を、それぞれ南側の列の土器の胴下部～底部に立てかけて並べられている。この並べ方を行った理由は窺い知れないが、壺形土器の頸部と胴下部を重ね合わせることで再葬用の堅穴の底面積を減らし、結果として掘削土量を少なくする効果はあるだろう。

横転あるいは傾けて埋納された土器は、主軸を様々な方位に向けて据え置かれている。当遺跡の再葬墓等で、向けた方位が確認できる埋納土器106点を16方位で分類すると、第69表のとおりとなる。概観すると、東から南南西にかけての方位に集中しており、泉坂下Ⅰ期では向いていない方位がないが、泉坂下Ⅱ期では、東から南南東にかけての方位のみに限定される。

また、土器の向く方位は、一土坑内でも多様なケースの方が多い。そこで、土坑単位の傾向を掴むため、土坑内の過半数の土器が向く方位を4方位に区分して傾向を導くこととした。



第120図 第26号土坑土器の向く方向

第69表 埋納土器指向別一覧

方位	埋納土器数	α群		β群	その他
		泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅱ期	泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅰ期 (または不明)
北	2	2	0	0	0
北北東	2	2	0	0	0
北東	4	3	0	1	0
東北東	4	3	0	1	0
東	8	6	2	0	0
東南東	10	9	1	0	0
南東	17	9	7	0	1
南南東	15	5	10	0	0
南	16	16	0	0	0
南南西	10	9	0	1	0
南西	4	4	0	0	0
西南西	2	2	0	0	0
西	3	3	0	0	0
西北西	4	3	0	1	0
北西	3	2	0	1	0
北北西	2	2	0	0	0
(参考) 直立	17	17	0	0	0

すると、示す傾向は概ね以下の4種類に分類できる。

- (i) 過半数の土器が、概ね南方向(南東～南西)に向く
- (ii) 過半数の土器が、概ね東方向(北東～南東)に向く
- (iii) 過半数の土器が、概ね西方向(南西～北西)に向く
- (iv) その他

(i)に属する遺構は9基あり、α群に属する大型～小型の再葬墓が主である。泉坂下Ⅱ期の3基のうち、2基がここに属する。(ii)に属する遺構は10基あるが、うち4基は土器棺墓である。土器棺墓は全体で7基確認されているが、うち4基がここに属する。(iii)に属する遺構は3基あり、すべて小型の再葬墓で、ここに泉坂下Ⅱ期のものは含まれない。(iv)に属する遺構は5基あり、うち第4・23号土坑は直立させた土器が最多となる再葬墓、第116号土坑は直立させた土器棺墓、また、第3・118号土坑は明確な傾向を掴むことができなかったものである。なお、第9号土坑は、この分類に加えていない。ここまでで、次の2つの傾向が見える。

まず、泉坂下Ⅰ期には向く方位は多様だったものが、泉坂下Ⅱ期には土坑ごとの指向が明確になった点である。平成18年調査の際もこの傾向は指摘されており、泉坂下Ⅱ期の第1・5号土坑は南東から南南東、6号土坑は東から東南東を向くというように、泉坂下Ⅰ期よりも、土器の方

第70表 再葬墓等土器の向く傾向別一覧

	再葬墓等の数	a群		β群	その他
		泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅱ期	泉坂下Ⅰ期 (または不明)	泉坂下Ⅰ期 (または不明)
(i) 南方向	9	SK 2・26・61・113・ 114・117	SK 1・5	—	SK136
(ii) 東方向	10	SK30・59・60・115・ 152・153, SX 1	SK 6	SK19・20	—
(iii) 西方向	3	SK24・25	—	SK110	—
(iv) その他	5	SK 3・4・23・116・ 118	—	—	—
不明	5	—	—	SK21・67・81・83・ 108	—

向に土坑ごとの統一性が認められる〔鈴木素2011〕。

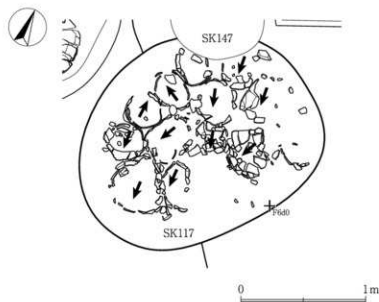
次に、土器棺墓は、概ね東方向（北東～南東）に向く傾向があることである。7基のうち4基が概ね東方向に向けられていて、これはa・β群に共通して見られる傾向である。なお、残る3基のうち第116号土坑は直立、第21号土坑は傾き不明で、第136号土坑はN-136°-Eと南東を向くが、4方位の区分では南方向に分類したものである。

泉坂下遺跡の立地する低位段丘は、東側を久慈川が南流し、西側には比高差30mほどの那珂台地がある。この低位段丘は、台地からの湧水によって切断されながら、南東に大きく展開する。この状況から、南や東の方位に何らかの意味があったのであろう。

また、帰属土坑の示す傾向から外れる土器にも、持つ意味があったものとする。上記で(i)～(iii)に分類した再葬墓の中には、これに該当しない方位を向く土器を含むものがある。(i)

に属する泉坂下Ⅰ期の第2号土坑では14点の土器のうち、13点が東南東から南西の範囲を向く中、土器13だけは北北東を向く。第2号土坑では南から北への順で土器が並べられており、土器13は作業の終盤に置かれたようである。

また、泉坂下Ⅰ期の第117号土坑では13点の土器のうち、9点が南南東から南南西を向く中、1点が北、もう1点が西北西を向く。この向きの異なる2点は、並べられた土器の北西端に隣り合って位置しており、第117号土坑が南か

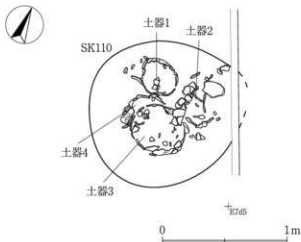


第121図 第117号土坑土器の向く方向

ら北への順で土器が並べられたとすると、やはり終盤に置かれたものということになる。堅穴の底面に、丁寧に向きを揃えて土器を並べる作業の終盤に、異なる向きに土器が置かれたことは、何かしら意図的なものがあるのだろう。

⑧埋納土器の蓋 (第122図)

据え置いた壺形土器には、蓋がされていたものと考えられる。平成18年の調査時にもすでにこの点は検証されており、土器内に土壌の流入が見られない土器が第4号土坑にあることなどから、布のような有機物で口縁が塞がれていたことを想定している〔鈴木素2011〕。



第122図 第110号土坑実測図

今次調査では、土坑内の埋納土器が原位置を保った状態で残されていて、他土器の口縁を塞ぐよう配置された土器が確認されている。第24号土坑土器2・5、第110号土坑土器4がそれであり、これらは蓋と考える。蓋がされたことによって、埋納から一定期間は土器内に空洞が残されていて、有機物の蓋が腐食するか、土器の蓋がずれるかして土器内に土壌が流入し、上下2層に自然堆積していったものと考えられる。

⑨埋戻し (第119図)

第26号土坑の覆土は主に2層からなり、黒褐色(7.5Y R 2/1)土に黄褐色ローム(10Y R 8/6)粒子を少量含む層が大半を占め、その下に黒褐色(同)土に黄褐色ローム(同)粒子を多量含む層があり、人為堆積と考えられる。その一方で、埋納土器内の土層は上下2層、明瞭に分層できる自然堆積で、先述のとおり、埋納から一定期間、土器内に空洞があったことを示すものと考えられる。この状況から、土器内に流入するに足る土量が、蓋の機能喪失よりも前に土器外に堆積していたものと考えられる。また、第26号土坑では、8点の埋納土器は斜めに倒れて南向きの扇状に並べられていて、東西3列の配列で、最も南の列の土器が倒れて置かれ、その土器の胴下部～底部に2列目の土器が立てかけられて並べられ、3列目の土器は2列目の土器に同様に立てかけられて並べられている。このように複雑で不安定な姿勢を保ったまま土器は埋められており、土器が据え置き後、放置されたとは考えにくい。

これらの状況から、壺形土器は丁寧に並べられて後、あまり時間を置かず、一度に土を掛けられて埋められたと考える。一土坑で確認されている埋納土器数の最多は、第23号土坑の15点である。これだけの土器を埋納する作業は、相応の多人数が必要であろう。

また、埋納から一定期間、土器内に空洞があったということは、埋納時に踏み抜くなどして土器が潰されなかったということでもある。このため、土器の埋納の際、踏み固めのような過度な加圧はされなかった可能性が高いと考える。

⑩土器の埋納されない空間 (第118図)

第26号土坑では、西から東への順に土器を並べて置いた結果として、埋納土器8点の北東側に、

土器の置かれなかった空間が残っている。この空間は、最も幅の広がる部分で約50cmあり、土器の据え置き作業足場としては十分である。

平成18年調査の際にも、第1号土坑等に土器の埋納されない空間があった。この空間は、土器の据え置き手順からすると作業足場と見るには矛盾しており、何らかの有機物が先に置かれ、それを避けて土器を並べた可能性が指摘されている〔鈴木基2011〕。この空間の調査は、今後の課題として残されていたものである。

第26号土坑に残された空間は、第1・3号土坑とは様相が異なるものの、念のため、覆土サンプル（試料No124・125）のリン酸、カルシウム等の成分分析を行い、残る土壌（1・2区）の水選別により確認された微細物の分析を実施したが、特定の傾向を示す結果は得られなかった。

①塚（第117図，第71表）

今次調査までに確認された弥生時代の再葬墓等のうち、土坑同士の重複関係が確認されたのは、第71表のとりの5例である。いずれも遺構密度の高いα群に所在する。5例のうち3例は、縦位短条痕文による時期差を確認できない。時期差の確認できる2例のうち、第4・5号土坑の例は、8点以上を埋納する大型再葬墓同士が重複する唯一の例である。

サンプル数が少ないため検証が難しいが、泉坂下遺跡で大型に分類された再葬墓は8基確認されており、すべてα群に集中している。にも拘わらず、それらの間隔は、第3・26号土坑間や第26・117号土坑間で十数cmまで迫るものの、第4・5号土坑の例以外に重複する例はない。また、第4・5号土坑の重複も、略円形の一部を掠めるような切り合いで、決して大きいものではない。また、大型でない再葬墓や土器棺墓の重複も、遺構の平面形が略円形とすると、一部を掠めるような切り合いで、中心点を切る例はない。

このような状況から、再葬後に地表面に何らかの目印が残された可能性が高い。目印に拠ることで、すでに再葬を行った位置を避けて新たな再葬墓を構築することが可能となるからである。その目印として最も可能性が高いものは、塚である。その根拠として、再葬後の残土量がある。以下の計算で再葬後の残土量を算出する。

平面は楕円形で長軸1.90m、短軸1.70m、確認面からの深さは0.26mという、第26号土坑程度の再葬墓を構築するケースを検討する。まず、第26号土坑の面積は以下で求める。

$$\begin{aligned} & (\text{半径}1) 0.95\text{m} \times (\text{半径}2) 0.85\text{m} \times (\text{円周率}) 3.14 \\ & = 2.53555\text{m}^2 \approx 2.54\text{m}^2 \cdots (\text{第26号土坑面積}) \end{aligned}$$

これに、壁の傾きは急であるので、単純に深さを掛けておよその容積を求める。

第71表 再葬墓等重複関係一覧

新		旧	
遺構番号（時期分類）	埋納土器数（規模分類）	遺構番号（時期分類）	埋納土器数（規模分類）
SK5（泉坂下Ⅱ期）	13（大型再葬墓）	SK4（泉坂下Ⅰ期）	8（大型再葬墓）
SK5（泉坂下Ⅱ期）	13（大型再葬墓）	SK152（泉坂下Ⅰ期）	2（小型再葬墓）
SK59（泉坂下Ⅰ期）	1（土器棺墓）	SK60（泉坂下Ⅰ期）	4（中型再葬墓）
SK114（泉坂下Ⅰ期）	6（中型再葬墓）	SK115（泉坂下Ⅰ期）	5（中型再葬墓）
SK24（泉坂下Ⅰ期）	3（小型再葬墓）	SK30（泉坂下Ⅰ期）	1（土器棺墓）

(面積) $2.54\text{m}^2 \times (\text{深さ}) 0.26\text{m} = 0.6604\text{m}^3 \approx 0.66\text{m}^3$ … (第26号土坑容積)

0.66 m^3 が第26号土坑の地山土量であるが、これをほぐした土量を算出するため、変化率を掛ける。国土交通省の示す土量変化率の標準では、普通土は「ほぐした土量 (m³) / 地山の土量 (m³) = 1.20」であるため、これを用いる。

(容積) $0.66\text{m}^3 \times 1.20 = 0.792\text{m}^3 \approx 0.79\text{m}^3$ … (第26号土坑のほぐした土量)

これに埋納土器8点の容積を加えることで、土器埋納後に余る土量が算出できる。土器の正確な容積を求めることは難しいため、概算で計上する。平均で高さ約40cm 最大径30cmの壺形土器8点が埋納されたと仮定して概算する。

(半径) $0.15\text{m} \times (\text{半径}) 0.15 \times (\text{円周率}) 3.14 \times (\text{高さ}) 0.4\text{m} \times 0.5 \times 8\text{点}$
 $= 0.11304\text{m}^3 \approx 0.11\text{m}^3$ … (埋納土器8点の容積)

(第26号土坑のほぐした土量) $0.79\text{m}^3 + (\text{埋納土器8点の容積}) 0.11\text{m}^3$
 $- (\text{第26号土坑容積}) 0.66\text{m}^3 = 0.24\text{m}^3$ … (埋納後残土量)

先述のとおり、埋納の際に相当な加圧は行われなかった可能性は高く。加圧を考えなければ、約0.24 m^3 の土が埋納後に計算上余ることになる。この土量は、第26号土坑の面積2.54 m^2 上に円錐状に堆積すると、高さ約0.28mを構築可能な量である。ここまで、旧地表面から確認面までの深さを無視して計算しており、これを加えれば、残土量はさらに増えることになる。計算上は、残土を盛るだけで塚を築くことは容易である。

第117図のとおり、大小の再葬墓等が密集した泉坂下遺跡では、再葬墓が営まれた時期には、魏志倭人伝の「封土作家」ではないが、大小のいわゆる「土饅頭」が並んだ風景が想像できる。なお、その他、再葬墓の地表面に何かがあった可能性については、検証できていない。

⑫葬送儀礼

骨葬とは、あらかじめ遺体の火葬を済ませ、その後、骨を前にして葬儀を行う方法である。遺体を前に葬儀を行って、その後、火葬する遺体葬と対になるものである。現代の東北地方等で行われている骨葬は、土葬から火葬へと葬法が移行していく昭和期に定着した新しい習俗と言われている。骨葬が行われるようになった理由としては、時間短縮等の利便性、遺体の腐敗といった衛生面、遺体への死穢観念等が挙げられている [鈴木君2009]。いずれにしても、あらかじめ火葬し、骨上げを済ませておくことで、葬儀スケジュールに余裕が生まれ、弔いの十分な準備ができるようになるという。雪国等、急に親族が集まるのが難しい状況下においては、合理的な方法である。その他、遺体を前にした密葬を近親者のみで行い、火葬・骨上げ後、日を改め、参列者を集めて催される「偲ぶ会」や「お別れ会」も、骨葬の一形態である。

この分類に当てはめて弥生再葬を考えてみると、先に骨化して行う再葬は、骨葬ということになる。また、土葬による一次葬を遺体葬と見るか、後の再葬のための骨化手段と見るかによって、考察の向きは大いに変わるが、平成18年調査で一次葬墓の第8・9号土坑を掘り込み、第9号土坑で副葬品と考えられる小型壺形土器が底面に直立して据えられている状況を確認している [鈴木君2011] ため、一次葬は、相応の葬儀が行われた遺体葬だと考えられる。

あらかじめ一次葬で骨化した再葬は、遺体の腐敗という時間的制約を受ける一次葬に比べて、十分な準備をもってその日に臨むことができたものと考えられる。しかし、再葬の際にどのような葬儀が行われていたかということについて、泉坂下遺跡では検証できていない。

この観点から見ると、泉坂下遺跡での弥生再葬は、現代の東北地方等の骨葬や、先に触れた南

西諸島等での洗骨改葬とも、同様の構造を呈する葬法であることが判る。

4 まとめ

第3次調査では、再葬墓集中域を面的に広げて調査し、これで、再葬墓の分布域は概ね把握できたかに思われた。しかし、第10トレンチ1・2区で新たな再葬墓が確認され、2群をなすことが判明すると、さらなる調査の必要性が生じた。これまでに知られていた再葬墓密集域の α 群の範囲は把握できたものの、新たに確認された β 群の範囲把握が第4次調査の最重要課題として浮上したのである。さらに、第5・152・153号土坑の確認によって、第1次調査時の結果に不安が生じた。確認レベルについて、再度検証する必要があると考える。再葬墓については、 α 群と β 群の比較とも合わせて、泉坂下I期と泉坂下II期の検証も必要である。そのため、放射性炭素年代測定等の手段を用い、より多くのサンプルを対象とした比較検討が必要である。

また、第9号溝跡の廃絶時期については、ここまでの調査結果から、弥生時代後期と考えている。しかし、もっと材料を描えておくべきであり、少なくとも、平安時代の堅穴住居跡との重複関係は確実に抑えておく必要があると考える。よって、第4次調査で明確な新旧関係を捉えることが、残された課題である。また、これ以上溝跡を掘削せず、レーダー探査等、他の手段を用いて検証することも視野に入れ、できるだけ遺跡の保存に配慮した調査方法を探っていくことが必要と考える。

そして何より、再葬墓を作った人たちの生活の痕跡、弥生再葬墓と縄文晩期との関連という、弥生再葬墓研究の2つの課題にまだ手が届いていない。泉坂下遺跡では、再葬墓の時代の集落跡は確認できず、今後は遺跡周辺のより広い範囲も注視していくことが求められる。さらに、泉坂下遺跡では、大洞C1・C2式を主とした縄文晩期の遺物が広く散布しており、その分布範囲は、再葬墓の分布範囲と一部重なる。これらの縄文晩期の遺構・遺物の検証は、再葬墓研究の課題へとつながる重要事項である。良いサンプルを見つければ、ぜひとも放射性炭素年代測定等を実施したい。

第4次調査は、一連の確認調査事業の総括に位置付けられているが、残した課題も多く、これらの解決に向けて万全を期したい。

【引用・参考文献】

- 石川日出志『茨城県北原遺跡再葬墓の研究』明治大学人文科学研究部紀要第54冊 平成16（2004）年3月
石川日出志『再葬墓—研究の課題—』ニューサイエンス社 考古学ジャーナル平成元（1989）年3月号
石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書 平成22（2010）年10月
茨城県立歴史館史料部『茨城の縄文土器』茨城県立歴史館史料叢書9 平成18（2006）年3月
大宮町史編さん委員会『大宮町史』大宮町 昭和52（1977）年3月
後藤俊一、萩野谷悟、中林香澄『茨城県常陸大宮市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査報告』常陸大宮市教育委員会 平成25（2013）年7月
後藤俊一、萩野谷悟、中林香澄『茨城県常陸大宮市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 泉坂下遺跡Ⅲ 保存整備事業に伴う第2次確認調査報告』常陸大宮市教育委員会 平成26（2014）年7月
蔡文高『日中洗骨改葬の比較研究』国立歴史民俗博物館研究報告第91集 平成13（2001）年3月
設楽博己『縄文社会と弥生社会』歌文社 平成26（2014）年5月
設楽博己『農耕文化複合と弥生文化』国立歴史民俗博物館研究報告第185集 平成26（2014）年2月

- 鈴木岩弓「葬儀社アンケートから見た東北地方の葬送文化」『東北文化シンポジウム 死を見つめる心 現代東北の葬送文化資料』平成21（2009）年11月
- 鈴木素行「本覚遺跡の研究—関東地方東部における縄文時代晩期の石椁製作について—」鈴木素行 平成17（2005）年3月
- 鈴木素行「泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—」鈴木素行 平成23（2011）年8月
- 竹田裕子「東日本における弥生時代墓制の研究—再葬墓を中心に—」『地域政策科学』第3号福島大学地域政策科学研究科 平成19（2007）年3月
- 橋爪大三郎『はじめての構造主義』講談社現代新書 昭和63（1988）年5月
- 春成秀爾「弥生時代の再葬制」国立歴史民俗博物館研究報告第49集 平成5（1993）年3月
- 町泰樹「与論島の洗骨儀礼に関する事例報告」『地域政策科学』第10号鹿児島大学地域政策科学研究科 平成25（2013）年3月



調査区全景 (1) (南から)



調査区全景 (2) (鉛直、上が北)



調査区全景 (3) (南西から)



調査区全景 (4) (西から)



調査区全景 (5) (北から)

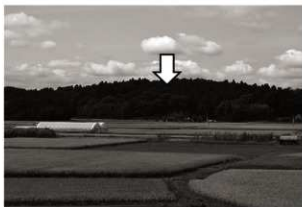
図版 2



調査区全景 (6) (北東から)



調査区全景 (7) (南東から)



遠景 (1) (東から)



遠景 (2) (北東から)



SK23確認状況 (北東から)



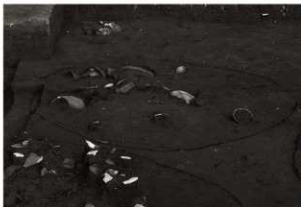
遠景 (3) (南東から)



第8トレンチサブトレンチ東壁セクション (西から)



SK26確認状況 (1) (南から)



SK26確認状況 (2) ベルト除去後 (南から)



SK26確認状況 (3) (南東から)



SK26セクション (1) B-B' (南から)



SK26セクション (2) B-B' 西部拡大 (南西から)



SK26セクション (3) B-B' 東部拡大 (南から)



SK26セクション (4) A-A' (西から)



SK26セクション (5) C-C' 東部拡大 (北から)



SK26セクションベルト除去後 (1) (東から)



SK26セクション (6) D-D' (北東から)



SK26セクションベルト除去後 (2) (西から)



SK26土器2内土層堆積状況(南西から)



SK26土器5内土層堆積状況(東から)



SK26土器6内土層堆積状況(南から)



SK26土器7(右)・9(左)内土層堆積状況(南から)



SK26土器8内土層堆積状況(東から)



SK26土器9内土層確認状況(南から)



SK26土器10内土層堆積状況(北から)



SK26土器上半部除去後(1)(北から)



SK26土器上半部除去後 (2) (南から)



SK26土器1上半部除去後 (北から)



SK26土器2上半部除去後 (北から)



SK26土器5上半部除去後 (東から)



SK26土器7上半部除去後 (北から)



SK26土器8上半部除去後（東から）



SK26土器9上半部除去後（北西から）



SK26土器10上半部除去後（北から）



SK26攪乱部セクション（西から）



SK26攪乱部調査状況（西から）



SK26完掘状況（1）（南東から）



SK26完掘状況（2）攪乱部拡大（北から）



第10トレンチ1・2区全景（1）（北から）